# 天国の道
# イルミハール

フセイン・ヒルミ・ウシュク編

ハキーカトゥ出版第　号

# ミフターフルジュンナ

**（MIFTAH-UL-JANNA）**

ウェイ・トゥ・パラダイス・ブックレット）

筆者

ムハンマド・ビン・クトゥブ・ウド・ディン・イズニキ

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

加筆

フセイン・ヒルミ・イシク

英語版

ハキーカトゥ出版

第 版

**ハキーカトゥ出版**

イスタンブール県ファーティフ市ダルシャファカ通り，５３号

郵便番号34083

電話　0212－523-4556　ファックス　0212－523-3693

http://www.hakikatkitabevi.com

メールアドレス　bilgi@hakikatkitabevi.com.tr

2023年3月

# 天国の道　イルミハール
## 前書き

アッラーは、人々が現世と来世で幸福となるようにであり、穏やかさ快適さと安らぎの中にいられるように、また心を一つにし、兄弟のように生きることができるように、そしてしもべとしての務めをどのように果たす行うかを教えるために、預言者たち（アッラーの平安がありますように）を遣わさられました。（アッラーの平安がありますように）人々の中であらゆる観点において、人々の中であら最も優れているているこの選ばれた預言者ら人たちを通して、しもべたちに最良の生き方を教えられました。預言者たちのうち（アッラーの平安がありますように)のうち、最後にして最高の最も優れ、そして最後の存在である預言者ムハンマドは、全世界における世界の全ての場所で、そして最後の審判の日までに存在した訪れる全ての人々の為の預言者であることが伝えられました。アッラーは、預言者さまを深く愛されました。そして、深く愛されるこの預言者さまにに天使を通して23年をかけて送られた**「クルアーン」**という名の偉大な書物で、命令と禁止事項を教えられました。クルアーンはアラビア語であり、非常に繊細なる細やかな知識と、人々が思いもよらないような内容を教えるものであり、預言者ムハンマドは、この書物の全て、最初から最後までを教友たちに教えられました。彼は、**「クルアーンを、私が解き明かした形とは異なる形で解き明かす者は、不信心者となる」**と言われました。イスラームの学者たち(アッラーの慈悲がありますように)は、預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）がなされた解釈を教友たちから聞き、皆が理解できるように解説を行い、タフスィシール(クルアーンの解釈本)を書きました。これらの学者を、スンナ派の学者と呼びます。スンナ派の学者たち(アッラーの慈悲がありますように)が、クルアーンの解釈及び預言者ムハンマド(アッラーの祝福と平安がありますように)の**「聖ハディース」**と呼ばれる言動を

まとめた宗教書を、「**イルミハール**」と呼びます。アッラーがクルアーンで教えられた「**イスラームの知識**」を、正しく適切な形で学びたい人は、これらのイルミハールの書物を読むべきです。

ここで私たちが上梓する「**天国の道**」というイルミハールの原名は、「**ミフタフル・ジャンナ**」、すなわち天国の扉の鍵と言いますです。ヒジュラ歴885年（西暦1480年）にエディルネで亡くなったムハンマド・ビン・クトゥブッディーニ・イズニキ（アッラーの慈悲がありますように）が書いたものです。

優れたイスラーム学者のサイード・アブドゥルハキーム師（アッラーの慈悲がありますように）は、「**ミフタフル・ジャンナ**」のイルミハールの著者は誠実な人であり、この書物は読む者に有益である）、と語りましたっています。このためにこの本を出版したのは、そのような理由によるためです致します。括弧の中に書かれたいくつかの場所でなされていた解説は括弧の中に入れられました。諸これらの解釈は、他の文献から選び、ばれ、加えられたものですが、。これらのうちどれも、どれひとつも個人的な考えではありません。アッラーが私たち皆を、静かにこっそりと潜むんでいるイスラームの敵たち、そしてイスラームの騙り名を名乗り、宗教家を欺く逸脱者たち、宗派に属さない者たちや、宗教改革者の罠に落ちて分裂してしまうことから守られますように。私たち皆を敬愛する預言者さま（アッラーの祝福と平安がありますように）の道、足跡をたどる「**スンナ派**」において一体化させてくださいますように。互いを愛しあい、助け合うことがかないますように。アーミーン。

人が何かを行う際、まず心に思いが訪れ、ます。それを行うことを望みます。この望みをニーヤ（**意志**）と呼びます。そうして、この行動の仕事を行う為に各器官に命令を出します。命令を出すことをカスド（**意図**）と呼びます。人の器官が働くことはケスブと言い、ます。心が行う行為を「**性格**」1}と呼びます。心には、6つの場所から訪れるものがあります。まず、アッラーからもたらされるものを「**啓示**」と呼びます。啓示とは、預言者たちの心にのみ訪れるものですます。天使たちがもたらすものを「**イルハム**」と呼びます。イルハムは、預言者た

ち（アッラーの祝福と平安がありますように）や誠実なムスリムたちの心に訪れます。誠実なムスリムたちが与えるものを、「**忠言**」と呼びます。啓示、イルハム、忠言は、常に良いものであり、有益です。それから、シャイターンからもたらされるものを「**疑念**」、人の我欲からもたらされるものを「**欲望**」、悪い友が植え付けるものを「**誘惑**」と呼びます。忠言は全ての人に与えられます。疑念やは欲望はが、不信心者や罪のびとであるムスリムの心にもたらさるものであり、れます。どちらも害悪です。アッラーが満足され、気にいられるものを「**善**」、気に入られないものを「**悪**」と呼びます。アッラーは非常に慈悲深いお方である為、「**クルアーン**」で善悪の識別について「**クルアーン**」で教えられました。そうして、善を行うことを命じられ、悪を禁じられました。この命令や禁止事項を、「**イスラームの規則**」と呼びます。心は、善良な友の忠言中元や知恵に従い、イスラームの規則を守ることでれば、心は輝きを得て、清められます。現世と来世で、幸福と安らぎに至ります。イスラームの規則に従わず、悪い人々、罪びとたちの人を誘惑するような、欺く言葉や文章、に、そして我欲や、シャイターンに従うような人間のい、イスラームの規則に従わない心は、黒くなり、損なわれます。明るく清らかな心は、イスラームの規則に従うことを好みます。アッラーは非常に慈悲深く、あらゆる場所世界各地で生まれる子供たちの心を清い状態で創造されます。成長するに従い、後に彼らの親や悪い友人ら友達はによって心をそれらは暗くさせされ、自分たちと同じようにしてしまうするのです。

# 天国の道　イルミハール

**アルハムドゥリッラーヒッラズィー　ジャーラナー　三ナッターリビーナ　ワリル　イルミ　ミナッラーグビーナ　ワッサラートゥ　ワッサラーム　アラー　ムハンマディニッラズィー　アルサラフ　ラフマタン　リル　アーラミーナ　ワ　アラー　アーリヒー　ワ　アスハービヒ　アジュマーイン。**

## イスラーム
## アッラーは存在し、唯一である

（アッラーは全ての存在を創造されました。それまでは、あらゆるものが無でした。ただアッラーが存在されていました。アッラーは、時代を超えて常に存在されます。後から存在するようになったのではないのです。たとえ以前に存在しなかったのであれば、アッラーを存在に至らせた、ある巨大な力の存在が必要になります。無から存在しないものを創造する力がなければ、そのものは常に無であり、存在しないからです。それを存在させる力の主が常に存在していたのであれば、アッラーが、この力の主である無限の存在であることがわかりますなのです。もし、この創造する力の持ち主も後から存在するようになったとするなら、その存在を存在させた何かが存在することもが必要となります。このように、創造させた存在が無数に必要となります。これは、創造者に始まりがないことを意味します。最初の創造者が存在しないということは、それを創造させた存在もいないことを意味します。創造者が存在しなければいと、無から創造されたこの私たちのが見ている、聞きすいている物質界も、不可視である物質と魂の世界も、存在してはいけなくなるのです。物質や魂は存在しています。そのため、るのであり、これらの唯一無二の創造主が存在すること、時代を超えて常に存在することが必要となるのです。

アッラーは、全てを構成する物質である単純な物体と、そして魂や天使たちを先に創造されました。単純な物体は、現在では原子素粒子と呼ばれるものですます。今日、105種類の原

子素粒子が存在することが知られています。アッラーは、全ての物質、物体を、この105種類の原子素粒子から創造され、常に創造されています。鉄、硫黄、炭素、酸素ガス、塩素ガスは、すべて原子要素です。アッラーはこれらの原子素粒子を何百万年前に創造されたのかは伝えられませんでした。1}ここから生じる大地、天、生命も、いつ創造され始めたのか、教えられませんでした。生命声明を持つもの、持たないものに、その全てに一定の寿命があります。時が来るとて創造がなされ、ず。寿命が終わると無となります。何かを無から創造されたように、何かから徐々に、もしくは突然別のものを創造されたり、または一つ目のものが無となり、再びり、新しいものが存在し始めたりします。

アッラーは最初の人間を、生命を持たない物質と魂から創造されました。それ以前には人間は存在していませんでした。動物、植物、ジン、天使たちは、この最初の人間よりも先に創造されました。最初の人間の名はアーダム（彼の上に平安あれ）でした。彼から、ハウワー（イヴ）ハッワという名の女性も創造されました。全ての人々はこの二人から生じました。動物たちも、それぞれの種から繁栄していきました。生命を持つ、持たない全てのものが、常に変化しているのを私たちは目にするのですします。元から々存在する者は、決して変化しません。物理的な現象では、物質の状態や形状は変化します。化学反応ではその本質や構造が変化します。物質が無亡くなり、別の物質が生じます。核反応においては素粒子も無となり、エネルギーに変わります。あらゆるものが互いから生じることは、無限であることからのものではありません。無から創造された最初の物質が生じることが必要となるのです。なぜなら無限とは、始まりがないことをも意味するからです。

イスラームの敵たちは、ムスリムの子供たちを欺くため、科学者という形をとります。人間はサルから創造されたと教えます。ダーウィンという名のイギリスの博士が、こう言いったのだ、と教えます。彼らは嘘を話しているのです。ダーウィンはそのようなことを訴えてはいないのです。生物の、生きるための奮闘について説明しているのです。**「種の起源」**という名の書物で、生物が環境に適応し、そのために小さな変化を遂げることが書かれています。一つの種が、別の種に変わるとは言っていないのです。イギリスの科学協会が1980年にサルフォードで行った会合で、スワンシー大学で教えるジョン・ドゥラン

ト博士は、このように語りました。「人間の起源に関するダーウィンの見解は、現代の伝説となっています。 この伝説は、私たちの科学的および社会的発展に害しか与えていません。進化論は、科学的研究を破壊しました。それは、発展の遅れ、不必要な議論、そして主に科学の悪用につながりました。今、ダーウィンの理論はその継ぎ目で破裂し、後には狼狽と歪んだ思想思考とがを後に残りしました。」と語りました。同国人についてのデュラント博士のこれらの言葉は、科学の名の下にダーウィニストに与えられた最も興味深い答えの1つです。今日、進化論が異なる文化レベルの人々に説明されているようとする主な理由は、イデオロギーです。科学的なものではありません。つまりこの理論は、物質主義哲学を教え込むためのツールとして使用されているのですます。 人がは猿から進化したという声明は、学術的な言葉ではありません。 科学的な言葉でさえもも全くありません。ダーウィンの言葉でもありません。それらは、科学と科学を知らないに気づいていないイスラームの敵によるの無知な敵の嘘です。学者であれ科学者であれ、このような無知でばかげた言葉を言うことはできません。大学の卒業証書を持つ人であってもが、快楽や娯楽にふけり、専門の学術分野で研究を行わず、学んだことを忘れたとしたら、彼は学者でも科学者でもありえません。イスラームと敵対し、偽りや誤った言葉、文章を学術や、科学の皮を被った偽り、誤った言葉をとして広めることはようとするなら、信者たちにとっての有害で卑小な背信の病原ウイルスとなります。その者どもは、彼の卒業証書、彼の経歴、彼の立場をは見せびらかし、若者を狩る罠とになるでしょう。科学や学問であるかのように嘘や中傷を広める偽物の科学者は、**「偏見ある科学者」**と呼ばれます。こういった偏見ある科学者に、だまされるべきではありません。

　アッラーは、人々が世界で平和と安らぎの中で生活し、これからも永遠の平和を成就することを望んでおられます。このために、アッラーは平和をもたらす引き起こす有益な事柄を命じられたのです。そして、厄災災害を引き起こす有害なものを禁止されました。宗教的、非宗教的、信者か否か信じているかどうかにかかわらず、故意または無意識かを問わず、イスラームの規則、すなわちアッラーの命令と禁止事項に従う限り、誰もが世界の平和と安らぎの中で生きるのですます。それは、よく効く効果的な薬を使う人が皆、苦痛や痛みから救われることと同じです。多くの非宗教的で不信心な人々や国家が彼らの多

くの仕事において成功しているという事実は、彼らがクルアーンの原則規則に従って努力しているからなのです。クルアーンを遵守することによって来世での永遠の平和を達成するためには、それを信じて遵守する必要があります。1}

アッラーが第一に命令されていることのは、**「信仰です」です。**アッラーが第一に禁じられていることは、**「教えを否定すること」**です。信仰とは、ムハンマドがアッラーの最後の預言者であると信じることを意味します。アッラーは、天使を通じて、アラビア語でその命令と禁止を与えられました**（啓示）「啓示」。**すなわち天使を通してそれを伝えられました。そして預言者は、彼はその啓示のすべてを人々に伝えられたのです。アッラーがアラビア語で天使を通して伝えられたものは、「**クルアーン**」と呼ばれます。クルアーンの全文体が書かれた書物をムスハフ（「**書冊**）」と呼びます。クルアーンは、預言者ムハンマドの言葉ではありません。 アッラーの言葉です。 人間にはそのような言葉を語ることはできません。クルアーンに載っていること記載されていること全てが、「**イスラーム**」と呼ばれます。 それら全てを心から信じる人を、「**信者**」、「**イスラーム教徒**」と呼びます。その一つでも気に入らなければいことは不信心であり、すなわち「**否定**」、アッラーの敵となることです。最後の審判が起こることの日、ジンや天使の存在や、預言者アーダムがすべての人々の父であり、またあること、最初の預言者であることを信じることは、ただ心によってでのみなされます。これらを「**信仰**」「**信条**」「**信心**」の知識と呼びます。体と心で行うべきことわれ、避けられるべきことは、、信仰したうえで行われ、または避けられるべきです。 これらは「**イスラームの規則」と呼ばれます。それらの**の知識それらを信じることも「信仰」とになります。これらを行うこと、もしくは避けることは、「**イバーダ（崇拝行為）**」です。意志を持ってイスラームの規則に従うことを、「**イバーダ」を行う**」、と言います。アッラーの命令と禁止事項を、「**イスラームの規則**」と及び「**神の規則**」と呼びます。命令されたことを「**ファルド（義務）**」、禁じられたことを「**ハラーム（禁止事項）**」と呼びます。イバーダや、義務であることを信じない者、重きをおかない行うものは「**不信心者**」（アッラーの敵）となります。これらを信じていながら行わない人は、不信心者にはなりません。彼らは「**ファースク（罪びと）**」と呼ばれます。イスラームの知識を信仰し、できる限り実行する人を「**誠実なム**

スリム（善良な人）」と呼びます。アッラーのご満悦と愛情を得るためにイスラームに従い、指導者を愛するムスリムを「**誠実な人（善良な人）**」と呼びます1}。アッラーのご満悦と愛情を獲得した人を、「**アーリフ**」もしくは「**ワリー（聖人）**」と呼びます。他者がアッラーの愛情を獲得するための媒介となるワリーのことを、「**ムルシド**」と呼びます。この神聖な、選ばれた人々全てを「**サードゥク**」と呼びます。これら全ては誠実な人々です。誠実な信者は、決して地獄に行くことは決してありません。不信心者は必ず地獄に行きます。地獄から出ることはなく、無限の罰を受けます。不信心者が信仰すれば、全ての罪が即座すぐに許されます。ファースクが悔悟し、イバーダを行い始めれば、地獄に行くことはなく、誠実な信者のようにまっすぐ天国に行くでしょう。悔悟しない場合はければ、とりなしによって、もしくは理由なく許されて、まっすぐ天国に行く人もいますしか、地獄でその罪の分だけ焼かれてから、天国に行く人もいますでしょう。

　クルアーンは、当時の人々によって話されたアラビア語の文法に適った形で下され、詩の形をしています。つまり、詩のように整っています。そしてそれは、アラビア語の繊細さに満ちています。ベディァア、ベヤーン、マーニー、バラーガットの各規則の最も細やかな部分も満たしていますにもかなっています。このため、理解することが非常に困難です。アラビア語の繊細さを知らない人は、たとえアラビア語を読み書きしていても、クルアーンをよく理解することはできません。これらの細やかな部分を知っている人でさえ理解できないので、そのためきず、預言者ムハンマドが多くの箇所場所について解釈を行ったのです。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）のこれらの解釈を「**聖ハディース**」と呼びます。教友たち（アッラーの慈悲がありますように）は預言者ムハンマドの話を聞いて学び、若者たちにそれを教えました。時の経過と共に人々の心が穢れていき、特に新しく入信した人々は、クルアーンから、自分の不十分な知識や狭い見解で意味を見出そうとしたのです。預言者ムハンマドが教えられたこととはに異なる一致しない事柄を読み取ろうとしたのです。イスラームの敵たちもこの分裂を扇動し、これによって72種類もの誤った信仰が生じてしまいましたたのです。これらの誤った信仰を持つムスリムを、「**ビドゥアの民**」もしくは「**逸脱の民**」と呼びます。７２のビドゥアの宗派に属する人はの全ては、全員必ず地

獄に行きますが、信者であるためにそこに永遠にとどまることはありません。そこから出て、いずれ天国に行くでしょう。信条がクルアーンとハディースにで明白に記されている知識に適っていない信条を持つのであれば、その信仰新恋は損なわれます。これを「**ムルヒド**」と呼びます。ムルヒドは、自らをムスリムだと思っています。

　信条の知識、すなわち信じるべき宗教知識について、教友（アッラーの慈悲がありますように）から正しく学び、本に書いたイスラーム学者（アッラーの慈悲がありますように）を「**スンナ派**」の学者と呼びます。（アッラーの慈悲がありますように）彼らは、四つの法学派のうちのどれか一つにおいて、イジュティハードの位階に達している学者です。これらの学者は、クルアーンの意味を自分の理性や見解で理解しようとしたりせず。ただ教友から学んだことを信じてきました。自分たちが話したことを信じるのではなく、預言者ムハンマドの教えた正しい道を広めました。オスマン朝はイスラームを奉じムスリムであり、スンナ派の信条に従っていました。

　上記のことから理解され、また重要貴重な多くの書物でも書かれているように、現世と来世での滅亡から救われ、幸福に生きるためには、次のことが必要です。まず、スンナ派の学者たち（アッラーの慈悲がありますように）が教えているように信仰すること、すなわち学び、それらすべてを信じることが必要です。スンナ派の信条に 属さない人は。「**ビドゥアの民**」、すなわち逸脱したムスリムとなります。もしくは「**ムルヒド**」すなわち不信心者となります。信仰、つまり信条が正しいムスリムにとっての二つ目の務めは、誠実であることです。すなわち、アッラーのご満悦、愛情を得ることです。このために、体や心によってなされるべき、もしくは避けることが命じられているイスラームの知識を学び、これらに従って生きることが必要です。つまり、イバーダを行うことが必要です。スンナ派の学者たち（アッラーの慈悲がありますように）は、イバーダについて解釈を行う際に4つに分かれたため、４つの「**法学派**」が生じました。その違いは小さく少なく、重要ではない点においてであり、信仰においては一致している為、互いを愛して、認め合います。すべてのムスリムは、この４つの法学派のどれかに従ってイバーダを行う必要があります。この４つの法学派のうちのどれにも属さない人は、スンナ派から離脱したことになります。これは、なることは、タフタヴィーの「**ドゥッル**

・**ウル・ムフタール**」の注釈において書かれていることでます。

　戦争で捕虜になった不信心者、もしくは平時においても、不信心者が「私は入信した」というなら、それは信頼されます。しかし、彼はが**「信仰の　つの条件」**をすぐに学び、信じることが必要となります。それから、ファルドとハラームの順でを、順に、可能な際に学ぶこと、そして学んだことに従うことが必要です。学ぶことなく、ばず学んだことの一つにすら重きをおかずに、実行しないのであれば、アッラーの教えに重きをおいていないことになります。そのため、、その信仰は失われます。このように信仰が失われた人を、「**ムルタド**」と呼びます。ムルタドが宗教学者のように見せかけてムスリムたちを欺くのであれば、彼は「**ズンドゥク**」と呼ばれます。ズンドゥクや彼らの嘘に騙されてはいけません。人が、現世での利益に騙されず、イスラームを見出し、知ることなく、イスラームの教えを知ることなく成熟した場合、その人はムルタドと見なされます。これは、ることが「**シヤル・カビール・シャルフ**」の翻訳本の116ページ及び「**ドゥッル・ウル・ムフタール**」の不信心者の婚姻の項目の最後で書かれています。そこでは、「**ドゥッル・ウル・ムフタール**」の、不信心者の婚姻の最後では次のように書かれています。婚姻しているムスリムの女子が成熟した段階でイスラームを知らなければ、その婚姻は無効となるとされています。（「つまり、ムルタドとなります）。」アッラーの特性を彼女に教える必要があるのですります。彼女も、それをそれを繰り返し、それを信じたと繰り返し言いう必要があります。イブニ・アービディーン（アッラーの慈悲がありますように）は、このことを解釈する際に次のように語っています。「女子は幼いころの女子は、両親に従ったってムスリムです。成熟した後た時には、両親の教えに従う、ということは継続かしなくなります。イスラームを知らずに成熟した場合、ムルタドとなります。信仰するべきことを聞いてもき、信仰しなかった人は、信仰告白の言葉を唱えても、すなわち「**ラーイラーハ・イッラッラー・ムハンマドゥン・ラスールッラー**」と言っても、ムスリムにはなりません。「アーマントゥ・ビッラーヒ」に含まれる6つの事柄を信じ、アッラーの命令と禁止事項を受け入れたという人は、ムスリムとなります。」つまり、ここから読み取れることは、ムスリムは皆、子どもたちに「アーマントゥ　ビッラーヒ　ワ　マラーイカティヒ　ワ　クトゥビヒ

ワラスーリヒ　ワル　ヤウミル　アーヒリ　ワビル　カダル　ハイリヒ　ワシャッリヒ　ミナッラーヒ　タアーラー　ワルバウ　スバウデル　メヴトゥ　ハックン　アシュハド・アン・ラー・イラーハ・イッラッラー・ワ　アシュハド　アンナ　ムハンマダン　アブドゥフ　ワ　ラスールフ」という言葉を暗唱させ、その意味を正しく教えるべきであるということです。子供が、この6つの事柄とイスラームの命令や禁止事項を学ばず、「信仰した」と言わないのであれば、成熟した時にはムスリムとにはならず、、ムルタドとになります。この6つの事柄については、**「皆に必要である信仰」**という本で詳しく書かれています。ムスリムは皆この本を読み、子どもたちに読ませ、信仰を強めさせ、また知人も知っている人たちが皆読むように努め力するべきです。子供たちがムルタドとならないよう、細心の非常に注意を払うべきです。子供達には、彼らにまだ小さいうちから、信仰、イスラーム、ウドゥー、グスル、礼拝を教えるべきです。両親の最初の務めは、子どもたちをムスリムとして育てることなのです。

**「デュラル・ワ・グラル」**では次のように語られています。「ムルタドである男子には、ムスリムになるように言いますにと言われます。疑問を持っている点についてが説明しされます。彼が時間1}を求めるのであればなら、33日間閉じ込めますられます。そこで悔悟をすれば受け入れられますが、。悔悟しない場合ければ、判事によってり処刑されます。ムルタドである女性は処刑されませんが、。入信するまで閉じ込められます。イスラーム国家の外に逃げた場合は、女奴隷になることはありません。人質となれば奴隷とされることもあります。ムルタドになれば、婚姻は取り消されます。財産への所有権がなくなります。再びムスリムとなれば、改めて所有することができようになります。死んだ場合、もしくはイスラーム国家の外に逃げた場合、（あるいは、国外でムルタドになった場合）ムスリムの遺産相続人でありい続けます。（相続人がいなければ、財務省のうち権利を持つ者のものになります）。ムルタドは、ムルタドの相続人になることはできません。ムルタドである間に稼いだものに、は所有権は生じません。ムスリムに分配されます。商売や賃貸の契約、贈り物をすることは無効となります。再びムスリムになれば、有効となります。以前のイバーダのカダーを行うことはできません。ただ、再び巡礼を行うことが必要となります。」信仰の次に学ぶべきことは、ウドゥーの行い

方、グスルの行い方、礼拝です。

信仰の6つの条件は、アッラーの存在、唯一であること、その特性を信じること、天使たち、預言者たち、聖典、来世に起こる全てのこと、運命を信じることです。この後でこれらについて詳しく説明します。

要するに、心と体の全てでイスラームの命令と禁止事項に従うべきであり、心は不注意さから遠ざかっているべきなのです。心が覚醒していない人（すなわち、アッラーの存在、偉大さ、天国の恵み、地獄の炎の恐ろしさに思いを寄せられない、考えられない人）が、その体でイスラームに従うことは困難です。フィクフ学者は、ファトワを出します。1}これらを行うことを容易にするのは、アッラーに従う人々の務めです。体がイスラームに喜んで、容易に従う為には、心が清らかであることが必要です。しかし、ただ心が清らかであること、徳が立派であることにのみ重きを置き、体がイスラームに従うことに重きを置かない人は、「**ムルヒド**」です。我欲の輝きによってが輝くことで生じる、「幽玄界からの知識を得てる、病人にドゥアーを唱え、息を吹きかけ、回復させる」といった超常現象的なことは成功は「**イスティジュラージュ**」と呼ばれ、彼自身と彼に従う人々を地獄へと引きずり込みます。心が清く、我欲がが従順である人の場合ことのサインは、その肉体も喜んでイスラームに従いますうことです。感覚器官や体をイスラームに従わせることができない人が、「私の心は清い。あなたは心を見ればいい」と話すのは、無意味なことのです。このように話すことで、自分や周囲を欺いているのくのです。

## 信仰のあり方

スンナ派の学者たちは、信仰の条件は６つであるとしています。

**アーマントゥ・ビッラーヒ：**私はアッラーの偉大ある存在と唯一性を信じ、信仰しました。崇高なるアッラーは存在し、また唯一であられます。

並びうるもの、類する者は存在しません。

空間の制限を受けません（「何らかの場所におられるわけではありません）。」

完全であるという特性を備えられます。完全であるという特性があるのです。

不十分であるという特性はありません。アッラーには存在しません。

完全であるという特性は、崇高なるアッラーに存在します。不十分であるという特性は私たちにあります。

私たちに存在する不十分さという特性は、手がないこと、足がないこと、目がないこと、病気、健康、飲み食いや、これらに類似する多くの事柄です。

崇高なるアッラーに存在する特性は、天と地、空気中、水中、地上、そして土の中で生きる各種の被造物を創造されること、私たちの理性で理解し、（また私たちの無力さのせいで）その多くを理解できない、多くの被造物をあらゆる瞬間で存在させ続け、それら全ての被造物に糧を与えられること、そしてその他の完全性といったものです。絶対的な力の持ち主であられます。全ての被造物は、崇高なるアッラーの完全性の産物です。崇高なるアッラーについて、私たちが知ることがワージブであるナフシヤーの特性は２２あります。さらに２２の、それと対になる特性があります。

ワージブとは、必要であるという意味です。これらの特性は、崇高なるアッラーにのみ存在します。対となる特性は存在しません。対とは、ワージブの対義語です。存在しえないという意味です。

崇高なるアッラーについて、私たちが知ることがワージブである、特性は一つの特性がありますです。それは「**ヴジュー**

ド」、すなわち存在するという意味です。

崇高なるアッラーが存在することの伝承による根拠は、アッラーの「**インナーニ・アナッラーフ**」神聖な言葉であるクルアーンの言葉「**インナーニ・アナッラーフ**」です。論理的な証拠は、諸世界を創造された（無から存在させられた）創造者が必ず存在するという点です。存在しないことは、逆である状態です。ナフシヤーの特性とは、その存在が存在しないことが想像できない、考えられないという意味です。

## ザーティヤの特性（アッラーの特有の特性）

崇高なるアッラーについて、私たちが知ることがワージブであるザーティヤの特性は５つです。これらは、「ウルーヒーヤの特性」と呼ばれます。

1. **クダム**：崇高なるアッラーの存在には始まりがないこと

2. **バカー**：崇高なるアッラーの存在には終わりがないこと。これは「を存在が必須であること」と呼びます。伝えられている証拠は、クルアーンにおけるアッラーの、鉄章の第33節です。論理的な証拠は、存在に始まりや終わりがあれば、後から存在したことになり、無力ではかないものとなります。これは論理的な証拠です。無力ではかないものに、他者の想像はできないのです。崇高なるアッラーとは逆の状態となるのです。

3. **クヤーム・ビ・ナフシフィ**：崇高なるアッラーがその本質で、特性で、そして行いにおいて、誰も必要とはされていないことです。伝えられている証拠は、ムハンマド章の最後の節です。論理的な証拠としては、論理的な証拠は、この特性がアッラーに存在しなければ、無力ではかない存在となっていたということです。無力ではかないことは、崇高なるアッラーとは逆の状態です。

4. **ムハーラファトゥン・リル・ハヴァーディス**：崇高なるアッラーがその本質で、そして特性で、誰にも似ておられないことです。伝えられている証拠は、相談章第11節です。論理的な証拠は、アッラーにそれが存在しないのであれば、無力ではかない存在となっていたということです。無力ではかないことは、崇高なるアッラーとは逆の状態です。

5. **ワフダーニヤ**：崇高なるアッラーが、その本質で、特性で、そして行いにおいて同等のもの、同じことを行っているもの存在しないという意味です。伝えられている証拠は、イフラース章の第1節です。論理的な証拠は、もし同じことを行っているような存在があれば、世界がめちゃくちゃになり、滅亡してしまうということからです。片方が創造を望み、もう片方が

創造しないことを望むということがあるでしょうんだりしていたでしょう。（学者たちの多くによれば、**「ヴジュード」**すなわち存在することもまた、一つの特性統制です。これにより、**「ザーティヤの特性」**は６つになります（**「インナーニ・アナッラーフ）」**）。**「インナーニ・アナッラーフ」**

## スブーティの特性

崇高なるアッラーについて、私たちが知ることがワージブであるスブーティの特性は８つです。ハヤートゥ、イルム、サミイ、バサル、イラーダ、クドゥラ、カラーム、タクヴィンです。

これらの特性の意味は次のようなものです。

1. **ハヤートゥ：**崇高なるアッラーが生きていることです。伝えられている証拠は、雌牛章の第255節の冒頭です。論理的な証拠としては、崇高なるアッラーが生命を持っていなければ、創造がなされることはなかったということです。

2. **イルム：**崇高なるアッラーが全てご存じであるということです。伝えられている証拠は、集合章第22節です。論理的な証拠は、崇高なるアッラーがご存じでなければ、無力ではかない存在となっていたということです。無力ではかない存在であることは、アッラーに関しては逆の状態です。

3. **サミイ：**アッラーが聞かれることです。伝えられている証拠は、夜の旅章第1節です。論理的な証拠は、聞かれることがなければアッラーが無力ではかない存在となっていたということです。無力ではかない存在であることは、アッラーに関しては逆の状態です。

4. **バサル：**アッラーがご覧になることです。伝えられている証拠は、夜の旅章の第1節です。論理的な証拠は、見ることがなければ、アッラーが無力ではかない存在となっていたということです。無力ではかない存在であることは、アッラーに関しては逆の状態です。

5. **イラーダ：**崇高なるアッラーが望まれることです。アッラーが望まれたことは実現します。アッラーが望まれなければ、何も起こりません。被造物を求められ、創造されたのです。伝えられている証拠は、イブラーヒム章第27節です。論理的な証拠は、望むことがなければ、アッラーが無力ではかない存在となっていたということです。無力ではかない存在であることは、アッラーに関しては逆の状態です。

6. **クドゥラ：**崇高なるアッラーの力が全てに対して十分であることです。伝えられている証拠は、イムラーン家章第165

節です。論理的な証拠は、もし力がすべてに対して十分でなければ、アッラーが無力ではかない存在となっていたということです。無力ではかない存在であることは、アッラーに関しては逆の状態です。

7. **カラーム：**崇高なるアッラーが語られることです。伝えられている証拠は、婦人章の164節です。論理的な証拠は、もし語ることがなければ、アッラーが無力ではかない存在となっていたということです。無力ではかない存在であることは、アッラーに関しては逆の状態です。

8. **タクヴィン：**崇高なるアッラーは創造主であり、創造者であられます。全てを創造され、無から有とされたのはそのお方です。他の創造者は存在しません。伝えられている証拠は、集団章の第62節です。論理的な証拠は、地と天には驚くべき被造物が存在し、その全てを創造されたのがアッラーであることです。アッラー以外の何者かについて「創造した」ということは、教えの否定になります。人は何も創造できません。

崇高なるアッラーについて、私たちが知ることがワージブであるマーナウィーヤの特性は8つあります。ハイユム、アリームン、サミーウン、バシールン、ムリードゥン、カディールン、ムタッカリムーン、ムワッキヌーンです。これらの神聖なる特性の意味は次の通りです。

**ハイユム：**崇高なるアッラーは生命を持つお方です。

**サミーウン：**崇高なるアッラーは、全てを聴かれるお方です。

**バシールン：**崇高なるアッラーは、全てをご覧になるお方です。

**ムリードゥーン：**崇高なるアッラーは、全てをお望みになるお方です。

**アリームン：**崇高なるアッラーは、無限の知識で全知であるお方です。

**カディールン：**崇高なるアッラーは、無限の力によりその力が全てに対して十分であるお方です。

**ムタッカリムーン：**崇高なるアッラーは、無限の言葉で語られるお方です。

**ムワッキヌーン：**アッラーは全てを創造されるお方です。アッラーに関して逆である特性とは、これらの逆である特性です。

**ワ　マラーイカティヒ：**私は崇高なるアッラーの天使たちを信じ、信仰しました。崇高なるアッラーの側には、天使たちが

います。アッラーは、彼らを光から創造されました。彼らは物質です。（ここでの物質とは、物理の本で書かれているような意味での物質ではありません）。彼らは食べること、飲むことはありません。彼らに男女の別はありません。天から地に降り、地から天に昇ります。姿を変えることができます。彼らは瞬きするほどの間ですら、アッラーに反抗することはありません。私たちのように罪を犯すことはありません。彼らの中には、天国で高い位階に行く者や、預言者たちがいます。

天使たちのうち最も崇高なのは、ジブラーイール、ミカーイール、イスラーフィール、アズライール（アッラーの平安がありますように）であり、この四人は天使たちの中での預言者です。崇高なるアッラーは彼らそれぞれに任務を与えられました。最後の審判まで、その任務を行います。

**ワ　クトゥビヒ：**崇高なるアッラーの啓典を信じ、信仰しました。

崇高なるアッラーには、啓典があります。クルアーンで伝えられているのは１０４の書物です。そのうちの100は小さなものです。それらは「スフハ」と呼ばれます。あとの4つは大きなものです。**タウラ―ト　トーラー**は預言者ムーサー（アッラーの平安がありますように）に、**ザブール　詩編**は預言者ダーウードに、（アッラーの平安がありますように）に、**インジール　聖書**は預言者イーサーに（アッラーの平安がありますように）に、**クルアーン**は私たちの預言者ムハンマド（アッラーの平安がありますように）に下されました。今日、ユダヤ教徒やキリスト教徒が読んでいる「**タウラ―ト**」や「**インジール**」に関しては、「**返答不可1}**」という本で詳しく説明がされています。

100のスフハのうち10ページは、預言者アーダム（アッラーの平安がありますように）に、50ページは預言者シート（アッラーの平安がありますように）、に、30ページは預言者イドリース（アッラーの平安がありますように）、に、10ページは預言者イブラーヒーム（アッラーの平安がありますように）、に下されました。これらの全てはを、ジブラーイール（アッラーの平安がありますように）が下しました。これら全ての最後に、崇高なるクルアーンが下されました。クルアーンの啓示は少しずつ、23年をかけて完了しました。その定めるところは最後の審判の日まで有効です。無効となること、置き換えられること、人によって変更されることはありませんから守られています。

**ワ　ルスーリヒ：**崇高なエルアッラーの預言者たち（アッラーの祝福と平安がありますように）を信じ、信仰しました。

アッラーには預言者たちが（アッラーの平安がありますように）がいます。預言者たちは皆、人間です。最初が預言者アーダム（アッラーの平安がありますように）、最後は預言者ムハンマド・ムスタファ（アッラーの祝福と平安がありますように）です。この二人の間に、多くの預言者（アッラーの祝福と平安がありますように）が現れました。（アッラーの祝福と平安がありますように）その数はアッラーのみがご存じです。

預言者たち（アッラーの祝福と平安がありますように）について、私たちが知ることがワージブである特性は5つです。誠実、信託、布教、高潔さ、知性です。

**誠実：**預言者たち（アッラーの祝福と平安がありますように）は、その言葉に誠実です。全ての言葉が正しいのです。

**信託：**彼らは信託を裏切りません。

**布教：**彼らは崇高なるアッラーの命令と禁止事項の全てを知り、そのウンマに教え、伝えます。

**高潔さ：**彼らは、大小を問わず全ての罪から遠ざかっています。決して罪を犯すことはありません。人々のうち、全く純粋無垢であるのはただ預言者たち（アッラーの祝福と平安がありますように）です。（アッラーの祝福と平安がありますように）（彼ら以外の人間を純粋無垢であるという人はシーア派です）。

**知性：**全ての預言者たち（アッラーの祝福と平安がありますように）は、他の人々よりも優れた知性を持ちます。

預言者たち（アッラーの祝福と平安がありますように）に許されている特性は５つです。彼らは食べ、飲み。病気になり、死にます。世界を変えます。この世界に愛着を抱くことはありません。

崇高なるクルアーンでその誉れある名が伝えられているのは28人の預言者です。それらを知ることは、皆にとってワージブと言われています。

**預言者たちの名**（アッラーの祝福と平安がありますように）**：**

アーダム、イドリース、ヌーフ、シス（シート）、フード、ルート、イブラーヒム、イスマーイール、イスハーク、ヤークブ、ユースフ、シュアイブ、ムーサー、ハールーン、ダーウード、スライマーン、ユーヌス、イルヤス、エルヤサ、ズルキフル、アイユーブ、ザカリーヤー、ヤフヤー、イーサー、ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）。ウザイル、ロクマーン、ズルカルナインの3人については論争がなされています。彼らやフドルについては、預言者であるという人と

聖人であるという人がいます。「マクトゥバート・マースミーヤや」第2巻の第36の手紙では、フドルが預言者であることを伝える知らせが強力なものであることが書かれています。第182の手紙では、フドル（アッラーの祝福と平安がありますように）が人間の姿で現れること、いくつかの仕事を行うことは、彼が生きていることを示さないとされています。アッラーは、彼や多くの預言者たち、聖人たちの魂が人の姿を取ることを許されたのです。彼らを目にすることは、彼らが生きていることを意味しない、と書かれています。

そして必要なことは、「私は最初の預言者アーダム（アッラーの祝福と平安がありますように）の血統であり、最後の預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）の宗教とそのウンマに属します、アルハムドゥリッラー」ということです。ワッハーブ派は、預言者アーダムが預言者であることを信じません。その上そのため、かつムスリムを多神教徒と呼んだ為に、彼らはカーフィルとなったのです。

**ワル・ヤウミル・アーヒリ：**私は審判の日を信じ、信仰します。なぜならアッラーが教えておられるからです。審判の日は、墓から起き上がるところから始まります。天国や地獄に行くまで、続きます。私たち皆が死に、再び生まれることが必要です。天国と地獄、秤やスラート橋、集合、分散（天国と地獄に分かれていくこと）、墓場での罰、そしてムンカルとナクルという名の二人の天使が墓で質問をすることは、真実であり、成就します。

**ワ・ビル・カダル・ハイリヒ・ワ・シャッリヒ・ミナッラーヒ・タアーラー：**良いことも悪いことも、起こったこともこれから起こることも、全て、崇高なるアッラーが予めご存じです。ありアッラーが、望まれ、時が来て創造されたこと、保護された銘板に書かれたことによって生じていることを信じ、信仰します。私の心に何の疑念もありません。

**アシュハド・アン・ラー・イラーハ・イッラッラー・ワ・アシュハド・アンナ・ムハンマダン・アブドゥフー・ワ・ラスールフ**

さらに、信条において私が取る道は「**スンナ派**」です。私はこの法学派に従います。このほかの72の宗派の信仰は誤りであり、損なわれたものです。彼らは地獄に行くことになります。

（教友（アッラーのお喜びがありますように）の全てを愛する人を、**スンナ派**と呼びます。教友の全ては学者であり、公平な人々でした。人々の主であるお方（アッラーの祝福と平安がありますように）の説話を聴き、奉仕を行っていました。そ

して彼を支えたのです。僅かに最も少ない回数だけ説話に参加した人ですら、教友ではない最も位階の高い聖人よりも崇高なのです。イスラームの太陽であり、アッラーの愛されるお方の説話に参加し、支持していた人々の在り方、その神聖な息遣いやまなざしの影響によって生じる成熟さというものは、その御前にて、その親密さに至ることのできない人々には恵まれないものです。教友の全て（アッラーのお喜びがありますように）は、（アッラーのお喜びがありますように）は最初の説話勉強会で、自分自身たちの我欲に従うことから救われたのです。彼ら全てを愛することを命じられています。**「シラートゥル・イスラーム」**というの本の冒頭では、「教友たち（アッラーのお喜びがありますように）の全てについて、可能な限り良いことを話しなさい、決して彼らの誰かについて批判を述べてはいけない」と書かれています。72の宗派については、一部のものは急進派になり、過激になりました。一部のものは推論に陥りはまり、正しい結論に至りませんでした。一部のものは理屈を過信し、一部のものは哲学や古代ギリシア哲学者に欺かれました。これにより、イスラームの教えには含まれない、さらには禁じられていることを行いました。ビドゥアに包まれてしまいました。スンナを、つまりイスラームを放棄しました。アブー・バクル・スッドゥークや聖ウマルのように（アッラーのお喜びがありますように）のように、教友たちのイジュマーによって最も崇高な人々、さらに預言者ムハンマド（アッラーの平安がありますように）を受け入れようとしない人々がは出現しました。預言者ムハンマドのミラージュで、肉体と魂が一緒に運ばれたことを否定する人々が増えました。

　驚くべきことに、今日ではイスラーム学者として知られるものの、しかし72の宗派のうちで最も有害なものが、「イスマイリーア」を名乗って活動している宗派です話しているのが見られます。預言者ムハンマド（アッラーの平安がありますように）の両親がカーフィルであること、預言者ムハンマド（アッラーの平安がありますように）が預言者として布教を始める前に偶像に犠牲をささげていたことを述べ、証明としてシーア派の書物を示すのですし。、こういった破壊的な多くの文章で純粋無垢な若者を欺き、毒しようとしているのです。このようなに、破壊主義者の意図はが、イスラームの教えを弱体化すること、若者の信仰を奪うこと、彼らを教えへの否定で穢すことであることであるのは、明白に理解できます。ハディースにおいてでは、**「クルアーンに、自分の理性で意味を持たせようとする者はカーフィルとなる」**とされています。宗教学者たちは徳を備えていました。注意深く話し、書いていました。誤ったことを言わないようにしようと、非常によく考えていました。適

当に話すこと, イスラームを、その **つの文献を**参照せずに**参考**に知るのではなく、イスラームを自分の誤った見解やゆがんだ考えを通して説明しようとすることは、イスラーム学者に限らず、普通のムスリムですらやるべきことではありません。預言者ムハンマド（アッラーの平安がありますように）と教友たち（アッラーのお喜びがありますように）のの偉大さを理解しない無知な人々によるの、信仰を傷つける破壊的な言葉や文章が、致命的な毒であることを知るべきです。

ペルシア語の詩の翻訳です。

**私の信仰を攻撃する者たちゆえに、私は柳の葉のように震えます。**

アッラーが私たちの心で、愛する存在の愛情を深めてくださいますように。敵を愛するという災いに陥ることがありませんように。一つの心に信仰があることのしるしは、アッラーが愛されるものを愛し、愛されないものを愛さないことです。」

行動において、宗派は４つあります。イマーム・アーザム、イマーム・シャーフィー、イマーム・マーリク、イマーム・アフマド・ビン・ハンバリー（アッラーの慈悲がありますように）の法学派です。

この4つの法学派のうち、どれか一つを模範とすることが必要です。4つの法学派とも、真実であり、正しいものです。4つともスンナ派です。私たちはイマーム・アーザムの法学派に属しています。この法学派に属する人を「**ハナフィー派**」と呼びます。イマーム・アーザムの法学派には報奨があり、真実です。誤りがある可能性もあります。他の3つの法学派も同様です。善行である可能性もあります。

そして、信仰が私たちに永遠に残り、失われない為の条件や理由も6つあります。

1. 私たちは目に見えないものを信じます。私たちの信仰は目に見えないものに対してであり、目に見えるものに対してではありません。なぜなら私たちは、崇高なるアッラーを自分たちの目で見たことがありません。しかし、この目で見たかのように信じ、信仰しました。このことに何の疑念もありません。

2. 地で、天で、人間に、天使たちに、そして預言者たち（アッラーの祝福と平安がありますように）に、（アッラーの祝福と平安がありますように）幽玄界について知る者はいません。崇高なるアッラーのみが幽玄界をご存じであり、お望みのことを望む相手に教えられます。（幽玄界とは、感覚器官もしくは計算や経験では理解することのできないことという意味です。幽玄界を知るのは、アッラーが教えられた者のみです）。

3. ハラームをハラームと知り、信じること。

4. ハラールをハラールと知り、そのように信じること。

5. 崇高なるアッラーの懲罰に不安を持ち、常に恐れること。

6. どれほど罪びとであったとしても、崇高なるアッラーの慈悲に絶望しないこと。

この6つの事柄のうち、1つがが、人において存在せず、残り5つが存在する場合、もしくは1つだけが存在し、5つが存在しない場合、その人の信仰とイスラームは誠実なものではありません。

さらに、現在信仰を持っていても、将来的に信仰が失われる理由となる事柄が、40項目ほどあります。

1. ビドゥアの持ち主となること。つまり、信仰が損なわれていること。（スンナ派の学者たちが教えている正しい信条からわずかでも離れた人は、逸脱者もしくはカーフィルとなります。信仰することが絶対に必要であることを信仰しないのであれば、すぐにカーフィルとになります。信仰することが絶対に必要ではないことを否定することは、**「ビドゥア」**もしくは**「逸脱」**となります。今際のいまわの際で信仰を持たずにこの世を去る理由となります。

2. 弱い信仰、すなわち実践を伴わない信仰。

3. ９つの器官1}を正しい道から逸脱させること。

4. 大きな罪を犯し続けること。（この為、飲酒を避けなければなりませんし、ムスリムの女性や女児は、頭や髪、ふくらはぎやひじを他人である男性に見せてはいけません）。

5. イスラームの恵みへの感謝を断つこと。

6. 来世に信仰を持たずに行くことを恐れないこと。

7. 迫害を行うこと。

8. スンナに従って読まれるムハンマドのアザーンを聴かないこと。（このように読まれるアザーンに重きを置かない人は、すぐにカーフィルとなります）

9. 両親に反抗すること。彼らの、イスラームにおいて適切であり、罪ではない命令に対し、きつい言葉で反抗すること。

10. 事実であれ、過度に誓いを立てること。

11. 礼拝において、ルクウで、カウマで、２回のサジュダとジャルサで、礼拝の根幹である行為を放棄すること。

12. 礼拝を重要視せず、学び、子どもたちに教えることに重きを置かないこと、礼拝する人の妨げとなること。

13. ワインや、飲みすぎると酩酊させる酒をわずかであれ飲むこと。（ビールを飲むこともハラームです）

14. 信者を苦しめること。

15. 偽りで聖人のふりをすること、宗教的知識を売ること。

16. 罪を忘れること、軽視すること。

17. うぬぼれること、思い上がること。

18. 知識や宗教的実践が豊富であると言いうこと。

19. 偽信者であること、二面性を持つこと。

20. 妬むこと、宗教上の兄弟に嫉妬すること。

21. 国家や師の、イスラームに反していない言葉に従わないこと。イスラームに反する命令に対立すること。

22. よく知ることなく、誰かについて良いということ。

23. 嘘の主張を繰り返すこと。

24. 知識人から遠ざかること。（スンナ派の学者の本を読まないこと）

25. ひげを、スンナ以上に長く伸ばすこと。

26. 男性が絹の衣装を着ること。（人口絹と、内側が綿である絹製品は許されます。）

27. 淫行陰口を繰り返すこと。

28. カーフィルであったとしても、隣人（カーフィルであったとしても）を苦しめること。

29. 世俗的な事の為に過度に怒る起こること、イライラすること。

30. 高利貸、利子を取ること、支払うこと。

31. うぬぼれの為に服の腕や裾を過度に長くすること。

32. 魔術や呪術を行うこと。

33. ムスリムや誠実である親戚の訪問を行わないこと。

34. アッラーが愛されている誰かを愛さないこと、イスラームを破滅させようとする者を愛すること。

35. 信者である兄弟に三日以上立腹していること。

36. 姦淫を続けること。

37. 同性での性交を行い、悔悟しないこと。

38. アザーンを、法学書で教えられた時間に、スンナに適った形で読まないこと、スンナに従って読まれたアザーンに敬意を示さないこと。

39. ハラームである行いを見て、それができる力があるにもかかわらず、優しい言葉でそれを注意拒否しないこと。

40. 妻、娘、そして忠言を行うという権利を持つ女性たちが、頭や腕、足が見える形で、飾り立て、香水をつけて外出すること、悪い人々と会うことを認めること。

預言者たちが、崇高なるアッラーから運んできたものを、言葉で繰り返して、心で受け入れることを「**イーマーン（信仰）**」と言います。預言者ムハンマドを信じて、彼が教えたことによって行動することを、「**イスラーム**」と言います。

そして、**教え**と**民族**1}とは同一のものです。預言者たちが崇高なるアッラーから信仰の為にもたらしたものを、**教え**、**民族**1}と呼びます。

預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）から実践や行為についてもたらされた事柄を「**イスラーム**」、もしくは「**イスラームの規則**」と呼びます。

そして、簡潔に信仰することで十分です。解釈すること、信仰を深遠な形で知ることは必須ではありません。ムカッリド（学ぶことなく信仰を持った人）、理解することなく信仰を持った人の信仰は、有効です。そして特定一定の場では、解釈も必要です。

信仰には3つの部分があります。イーマーヌ・タクリディ、イーマーヌ・イスティドゥラーリ、イーマーヌ・ハキーキです。

**イーマーヌ・タクリディ：**イーマーヌ・タクリディは、ファルド、ワージブ、スンナ、ムスタハブについて知らず、両親から聞いた通り信じ、見たとおりにイバーダを行う人々ですいます。このような人々の信仰には、恐れが抱かれます。

**イーマーヌ・イスティドゥラーリ：**ファルド、ワージブ、スンナ、ムスタハブ、ハラーム、全てを知り、イスラームに従います。信仰すべき点を知り、教えもします。師やイルミハールの書物から学んだ、こういった人々の信仰は強固です。

**イーマーヌ・ハキーキ：**全世界が意見を一致させ、神を否定したとしても彼は否定しません。その心には疑問や疑念が生じることが決してありません。彼の信仰は預言者たちの信仰のようです。このような信仰は、残り2つの信仰よりも崇高です。

そしてイスラームの規則は、宗教的行動に関するものであり、信仰に対するものではありません。ただ信仰ゆえに天国に入れられることはあります。しかし、ただ宗教的行動ゆえに天国に入ることはありません。行動を伴わない信仰は、認められ

ますが、ます。しかし信仰を伴わない行動は認められません。信仰がない人のイバーダ、善行、サダカは、審判の日において何の役にも立ちません。信仰は他者に与えることができません。しかし、行動によるの善行は与えられることができます。信仰は遺産にはできません。しかし、自分の為に宗教的行為を行うよう、遺言をすることはできます。宗教的行為を放棄する人は、カーフィルとにはなりません。しかし信仰を放棄し、宗教的行為に重きを置かない人は、カーフィルとなります。障害があったり、支障があったりする人の宗教的行為は許されます。しかし信仰は誰に対しても免除されません。

預言者たちのウンマに伝えられた信仰は、同一です。しかし、規則、教え、宗教的行為には、差異、違いがあります。

そして、信仰には二種類あります。一つはイーマーヌ・フルクであり、もう一つはイーマーヌ・カスビです。

**イーマーヌ・フルクは、**アッラーに対して誓いを行った際に、**しもべたちが「はい」**といったことです。

**イーマーヌ・カスビは、**思春期以降に得られる信仰です。全ての宗派新葉の信仰は同一ですが、。宗教的行為は同一ではありません。信仰は、常にファルドです。宗教的行為は、思春期に達するとその時が来るとファルドになります。信仰することは、カーフィルとムスリムへのファルドです。宗教的行為は、ムスリムにのみだけファルドとなりまです。さらに、信仰は8種に分けられます。

**イーマーヌ・マトゥブ：**天使たちの信仰です。

**イーマーヌ・マースム：**預言者たちの信仰です。

**イーマーヌ・マクブール：**新葉1}の信仰です。

**イーマーヌ・マウクフ：**ビドゥアに陥った人の逸脱した信仰です。

**イーマーヌ・マルドゥ―ドゥ：**偽信者が見せている偽りの信仰です。

**イーマーヌ・タクリディ：**親から聞いただけで、師から学んではいない人の信仰です。このような人々の信仰は恐れられます。

**イーマーヌ・イスティドゥラーリ：**7崇高なるアッラーをその根拠と共に理解し、知る人です。彼の信仰は強固なものです。

**イーマーヌ・ハキーキ：**全世界が一致して神を否定したとしても、彼はが否定することがありしません。そしてその心に疑問や疑念が生じることはありません。これが他の信仰よりも

崇高であることは前述のとおりです。

信仰の規定は３つです。

まず、首を剣から救います。２つ目は、財産を人頭税や貢ぎ者から財産を守り救います。３つめは、体を地獄で焼かれることから救います。

「**（アーマントゥ・ビッラーヒ）**」これを、信仰の特性、信仰の本質とも呼びます。その崇高さや誉れゆえにそのように呼ばれるのです。

そして、信仰することが必要となる時期は、二つあります。知性を持つこと、そして思春期に達することです。

さらに、信仰の要因にも二つありますです。世界が創造されたこと、そして崇高なるクルアーンが下されたことです。

さらに、**証拠は二つです。**論理的な証拠と、伝承される、伝えられている証拠です。

さらに、**信仰の根幹、本体も二つです。**すなわち、言葉として口に出すことし、心でそれを認めることです。それらにも条件が二つあります。

心の条件は、疑いを持たないことです。言葉の条件は、何を話しているか知ることです。

そして、信仰は被造物でしょうか？崇高なるアッラーの導き道引きという尊厳から、それは被造物ではありません。しかし、しもべが受け入れ、決めるという点では被造物です。

信仰は一つの集合体でしょうか、分別されて、バラバラなものでしょうか。

心においては一つの集合体であり、器官においては分別されています。

**ヤキーン：**アッラーの本質を完全に知ることです。

**ハウフ：**崇高なるアッラーを恐れることです。

**ラジャー：**崇高なるアッラーの慈悲に絶望しないことです。

**ムハッベトゥッラー：**アッラーと預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）に、イスラームの教えに、そして信者に愛情を抱くことです。

**ハヤー：**アッラーと預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）に対し、恥を感じることです。

**タワックル：**全ての行いをアッラーに委ねることです。一つの仕事を始める際、アッラーを信頼することです。

イーマーン、イスラーム、イフサーンとは何を指すでしょうか？

**イーマーン**：預言者ムハンマドが教えられたことを信じることです。

**イスラーム**：崇高なるアッラーの命令に従い、悪事を避けることをと言います。

**イフサーン**：崇高なるアッラーを見ているかのように、イバーダを行うことです。

**イーマーン1}**：辞書では、絶対的に認めることです。イスラームにおける6つの事柄を認め、信じることです。

**マーリファ**：崇高なるアッラーを、完全性という特性を備え、不足という特性からは遠ざかっていることを知ることです。

**タウヒード**：崇高なるアッラーが唯一であると認めることです。そのお方に何者も配さないことです。

**イスラーム（イスラームの規則）と**は、つまり崇高なるアッラーの命令と禁止事項という意味です。宗教と民族1}とは、信仰するべき事柄を死ぬまで守ることです。

さらに、信仰は5つの要素要塞で守られます。

1. アッラーへの近しさ
2. イフラース
3. 義務を実践し、ハラームを避けること
4. スンナに従うこと
5. 徳を維持すること、気にかけることです。

誰であれ、この５つを守るなら、信仰を守ったことになります。この中のうちどれか一つでも放棄すれば、敵が勝つことになります。信仰の敵は４つです。右に、悪い友人友達、左に自我の欲望、前で現世への愛着、後ろでシャイターンがそれぞれ、信仰を奪おうとしています。悪い友人友達はただ、人の財産、お金を盗み、現世を奪う為に騙すのみ人ではありません1}。友人友達の中で最も悪い人、最も有害な人は、人の教え、信仰、徳、恥の意識、品位を損なわせようとする人です。このようにして、現世と来世、徳や幸福を攻撃するのです。アッラーが私たちの信仰を、アッラーがこれらの敵の災いから、イスラームの敵の欺瞞から守ってくださいますように。

**「信仰告白」**、つまり**ラー・イラーハ・イッラッラー**と唱えることの神聖な意味は、。崇め奉つるべき存在は崇高なるアッラーの他にいない、ということです。アッラーは常に存在さ

れ、唯一であられます。類するもの、並びうるものは存在しません。時間と空間を超越されます。

**ムハンマドゥン・ラスールッラー**ということの意味は、聖ムハンマド・ムスタファ（アッラーの祝福と平安がありますように）は、崇高なるアッラーのしもべであり、正しい預言者であるということです。

私たちもまた彼のウンマです、アルハムドゥリッラー。

さらに、信仰告白には8つの名称があります。

1. 証言の言葉
2. タウヒード（唯一神信仰）の言葉
3. イフラースの言葉
4.  篤信の言葉
5. タイイーバの言葉
6. ダーワトゥルハック
7. ウルワトゥルヴスカ
8. 天国の果実の言葉

です。

さらに、イフラースの条件は、ニーヤ（意図）すること、その意味をすること、経験に読むことです。1}

そして、ズィクルを行う人は、４つの事柄を必要とします。承認1}、敬虔さ、良い言葉、敬意です。

承認1}を放棄する人は、偽信者です。敬虔さを放棄する人は、ビドゥアの持ち主です。よい言葉を放棄する人は、偽善者であり、見せかけだけを取り繕います行います。敬意を放棄する人は、ファースクです。もし否定するなら、カーフィルになります。

さらに、ズィクルは3種類です。

1. ズィクル・アーヴァム
2. ズィクル・ハヴァース
3. ズィクル・アハースです。

ズィクル・アーヴァムは、無知な人々のズィクルです。ズィクル・ハヴァースは学者たちのズィクル、そしてズィクル・アハースは預言者たちのズィクルです。

そして、ズィクルを行う部位器官も３つありまです。

1. 舌によるズィクルであり、信仰告白の言葉を述べることです。

2. タウヒード、タスビーフ（数珠）、そしてクルアーンを読むことです。

3. 心によるズィクルです。

心によるズィクルは3種類です。

1. 崇高なるアッラーの特性を証明する証拠や印を熟考すること。

2. イスラームの規律を熟考すること。

3. 被造物の神秘について熟考することです。

タフシール（クルアーンの解釈）の学者たちは、雌牛章第152節の解釈を行い、崇高なるアッラーが以下のようにおっしゃると語っているのです。**「しもべたちよ、あなた方が従順さを持ってと共に私を念じるなら、私も慈悲を持ってあなたを念じよう。もしあなたが私をドゥアーと共に念じるなら、私もあなたを愛情を持って念じよう。もしあなたが私を従順さを持ってと共に念じるのなら、私もわが天国であなた方を念じよう。もしあなたが寂しい場所で私を念じるなら、私もあなたを審判の集合の場であなたを念じよう。もしあなたが、欠乏の中で私を念じるのなら、私も援助と共にあなたを念じよう。あなたが私を、愛情と共に念じるなら、私もあなたを導きと共に念じよう。あなたが私を、誠実さとイフラースで念じるのなら、私もあなたを救いと共に念じよう。もしあなたが、神聖なファーティハ章とそこにあるルブービーヤと共に念じるのなら、私もあなたをわが慈悲と共に念じよう」**とおっしゃる、と語っているのです。

さらに、学者たちはズィクルを行うことの100ほどの効用を学者たちはを指摘しています。私たちはそのいくつかを教えましょう。

ズィクルを行う人に、アッラーは満足されます。天使たちが満足します。シャイターンは悲しみます。心はよりよく、柔らかくなります。イバーダを喜んで、努力して行うようになります。心から悲しみが取り除かれます。心が楽になります。顔を輝かせます。勇敢さを持つようになります。アッラーの愛情をもたらします。アッラーを知るという扉が一つ開かれます。聖人から益を得ます。80ほどの感謝の徳を集めたことになります。

**「アシュハド・アンナ・ムハンマダン・アブドゥフー・ワ・ラスールフ」**ということの神聖な意味は次の通りです。末世の預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は、崇高なるアッラーのしもべであり、預言者です。

彼は、食べられ、飲まれ、女性たちと婚姻されていました

。息子たちや娘たちがいました。皆、聖ハーティジャからの血筋でした。ただイブラーヒムは、マーリヤという奴隷から生まれました。そしてまだ乳飲み子のうちに亡くなりました。ファーティマ（アッラーのお喜びがありますように）を除く子供たちは皆、彼自身よりも先に亡くなりました。彼女は、聖アリー（アッラーのお喜びがありますように）と結婚しました。そして聖ハサン、聖フサインは、聖アリーと聖ファーティマの子供たちです。娘たちのうち、ファーティマは非常に徳のある女性でした。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）が愛される存在でした。

預言者ムハンマドには11人の妻がいました。聖ハーティジャ、サウダ、アーイシャ、ハフサ、ウンム・サラマ、ウンム・ハビーバ、ザイナブ・ビンティ・ジャフシュ、ザイナブ・ビンティ・フザイマ、マイムーナ、ジュワイリヤ、サフィア（アッラーのお喜びがありますように）でした。

彼は人間とジンに対し、正と邪、ハラームとハラール、現世のはかなさと来世の永遠さを教え、教えのイルミハールを伝えるために遣わされた真の預言者です。（アッラーの祝福と平安がありますように）

**「イスラームの源」**は４つあります。聖典、スンナ、ウンマの一致、ムジュタヒドの類推です。学者たちは、この4つの源から宗教的な知識をこの4つの源から得ています。聖典とは、崇高なるアッラーの言葉です。スンナとは、預言者ムハンマドの言葉、行い、助言です。ウンマの一致は、ある世紀にいたムジュタヒドたち、例えば教友たちが、あるいは４つの法学派がある点で意見を一致させることです。類推とは、ムジュタヒドたちがあるものを他のものと比較類推することを意味します。

さらに、宗派とは、辞書によるとでは道を指します。私たちには二つの道があります。一つは信条の道、もう一つは宗教的行為の道です。信条の道における私たちのイマーム、すなわち道案内は、アブー・マンスール・マトゥリディー（アッラーの慈悲がありますように）です。彼の道を**「スンナ派」**と呼びます。宗教的行為において私たちの道案内は、イマーム・アーザム・アブー・ハニーファ（アッラーの慈悲がありますように）です。彼の道を**「ハナフィ学派」**と呼びます。

アブー・マンスール・マトゥリディの名はムハンマドであり、父の名もムハンマド、祖父の名もムハンマドでした。師の名はアブー・ナスル・イヤードでした。

アブー・ナスル・イヤードの師の名は、アブー・バクル・ジュルジャーニーであり、その師の名はアブー・スライマーン

・ジュルジャーニーであり、アブー・スライマーン・ジュルジャーニーの師の名はアブーユースフとイマーム・ムハンマド・シャイバーニです。この二人の師が、イマーム・アーザム・アブー・ハニーファ（アッラーの慈悲がありますように）です。（アッラーの慈悲がありますように）このように、信条の流れにおいても、宗教的行為の流れにおいても、その始祖はイマーム・アーザムです。

私たちが知ることがファルドである、３種のイマームが存在します。命令と禁止事項を与えるイマームが、崇高なるクルアーンです。これらについて、つまりイスラームについて教えられるイマームが、預言者ムハンマド（アッラーの慈悲がありますように）です。これらを行わせるイマームが、預言者ムハンマドの代理となっているイスラーム国家の長です。

イマーム・アーザムの師の名はハンマドであり、ハンマドの師の名はイブラーヒム・ネハーイであり、その師の名はアルカマ・ビン・カイスであり、彼の叔父にあたります。彼の師の名はアブドゥッラー・イブニ・マスッド（アッラーの慈悲がありますように）です。（アッラーの慈悲がありますように）彼も、預言者ムハンマドから学んでいます。

預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますよう）も、ジブラーイール（アッラーの平安がありますように）から得ています。そしてジブラーイールも（アッラーの平安がありますように）には、崇高なるアッラーが命令を与えられました。

崇高なるアッラーは、人類に4つの鉱石を与えられました。知性、信仰、恥の意識、そして宗教的行為です。

さらに、ドゥアーと宗教的行為が認められるための条件と要因は５つです。信仰、知識、意図、イフラース、そして他の人間に対して権利の侵害をしていないことです。まずスンナ派の信条を持つこと、それから行われるイバーダのあり方や条件を知ることが必要です。（一つの宗教的行為やイバーダが真正であることと、それが受け入れられることは異なります。イバーダが真正であるためには、それ自体に特有の条件やファルドがあります。そのうちの一つが不足していれば、そのイバーダは真正とはなりません。そのイバーダは行われなかったことになるのです。その懲罰から救われることはできません。真正でありながらも受け入れられなかったイバーダには懲罰はありません。しかし、そのイバーダの報奨を得ることはできません。イバーダが受け入れられるためには、まず真正であること、それから上記の５つの条件が満たされていることが必要です。他の人の権利もその条件に含まれます）。イマーム・ラッバーニ

（アッラーの平安がありますように）は、第2巻の第87の手紙で次のように語っています。「誰かが預言者の行いのように宗教的行為を行い、しかし彼がわずかでも他人の権利を侵害しているなら、その借りを返すまでは天国に入ることはできない。（ドゥアも受け入れられない）」

イブニ・ハージャル・マッキー（アッラーの平安がありますように）は、**「ザヴァージル」**という書物で、187番目の罪について説明する際、次のように語っています。「雌牛章第188節では**「あなたがたの間で、不法にあなたがたの財産を貪ってはならない」**と言われています。不当な道とは、利子、賭博、恐喝、窃盗、計略、背信。虚偽の証言、虚偽の誓約を行い欺くことです。聖ハディースでは、**「ハラールであるものを食し、ファルドを実践し、ハラームを避け、人々に害を与えないムスリムは天国に行く」、**また**「ハラームで育まれた肉体は炎で焼かれる」、**さらに**「災厄や害について信頼できない人の宗教1}、礼拝、ザカートは、本人に効果褒賞をもたらさない」、**また**「身に着けているジルハーブがハラームである道から来た得られたものである人は、その礼拝はが受け入れられない」**とされています。（ジルハーブとは、女性が用いる大判のスカーフを指します。男性の長い上衣をも指します。）ジルハーブが、女性用の2パーツになっている覆いであるとする人々によるなら、聖ハディースでは男性もこの覆いを身に着けていることが述べられている、とされています。このように述べることが正しくないこと、無知で滑稽な信条であることは明らかです。」200番目の罪について語る際に言及している聖ハディースで、**「計略を持ってものを売る人は、我々の仲間ではない。彼が行く場所は地獄である」**とされています。210番目の罪に関するハディースは、**「多くの礼拝を行い、断食をし、サダカを与え、しかしその言葉で隣人を傷つけるものの行く場所は、地獄である」**とされています。カーフィルである隣人をも、傷つけることなく良く振舞い、与えることが必要です。310番目の罪に関するハディースでは、**「平時に、不当な理由でカーフィルを殺害する者は天国には行けない」、**また**「二人の**

**ムスリムが現世の利益の為に争うなら、死んだ方も殺した方も地獄に行く」、**さらには317番目の罪に関するハディースでは、**「他者を迫害する人は、最後の審判の日にその罰を受ける」**とされています。ムスリムではない人を迫害することについても同様です。350番目のハディースでは、**「 人のドゥアーは必ず受け入れられる。迫害された人、客、そして両親である」、**さらに**「カーフィルであったとしても、迫害された人の呪いのドゥアーは拒まれない」、**さらに402番目の罪に関するハディースでは**「カーフィルである友を殺害する者は、我々の仲**

間ではない」、そして409番目の罪に関するハディースでは「**罪のうち、懲罰が最も早く与えられるものは、国家に反逆することである**」とされています。**ザヴァージル**からの翻訳はここまでです。ムスリムよ！もしあなたがアッラーのご満悦を得ること、宗教的行為が受け入れられることを望むなら、上記のハディースを心に刻んでください。ムスリムであれ、カーフィルであれ、人の財産、生命、尊厳を攻撃してはいけません。誰も傷つけてはいけません。侵害した権利があるなら、それを返しなさい。離婚した女性にマフル（婚資）を支払うことも、相手の権利です。支払わなければ、その罰が現世と来世で非常に重いものとなります。他者の権利のうちで最も重要で懲罰が重い者は、親戚や自分の命令下にある者に宗教的知識を教えることを放棄することです。彼らの、そしてすべての人々が宗教的知識を学ぶこと、イバーダを行うことを、迫害や欺瞞によって妨害する人はカーフィルとなること、イスラームの敵であることがわかります。ビドゥアの持ち主である人々、宗派に属さない人々が、言葉、文章でスンナ派の知識を変えること、宗教や信仰を破壊しようとすることも同様です。政府や憲法に逆らってはいけません。税金を払ってください。政府が防圧でファースクであったとしても、政府に反抗することは罪であるということがことが**「ベリーカ」**で書かれています。イスラーム国家ではない場所においても、法律や命令に逆らってはいけません。争いを扇動してはいけません。イスラームを攻撃する人、ビドゥアの持ち主、宗派に属さない人と友達になってはいけません。彼らが出す本や新聞を読んではいけません。彼らのラジオやテレビの放送を家で聞いてはいけません。あなたの言葉を聞く相手には、**正しいことを命じてください。**つまり、笑顔と優しい言葉で、忠言を与えてください。誰とも争ってはいけません。立派な徳で、イスラームの崇高さと誉れを示してください。

イブニ・アービディン（アッラーの慈悲がありますように）は第一巻で次のように語っています。「陰部は、４つの法学派のどれでも、隠すべき部位（アウラ）です。これらを覆うことは、一致してファルドとされます。覆うことを重要視しない人はカーフィルとになります。膝を見せている男性には、そこを覆うようにと、正しいことが命じられます。つまり、優しい言葉で忠告します。相手が繰り返し主張するようであれば、沈黙します。太ももが見えている人が繰り返し主張するようであれば、厳しく忠告します。陰部が見えている人が繰り返し主張するようなら、判事に訴え、強制的に（殴打したり、投獄したりして）覆います。他の男性の陰部を見ることの罪も、この順で増していきます。」女性が、手や顔を除く全身、足、腕、髪を、近親者ではない男性やカーフィルの女性に見せないとい

うことは、４つの法学派においてファルドです。本人たちや父親、夫がそのことを重要視しないのであれば、カーフィルとなります。男子が太ももや足を出して、女子が頭や腕を出して遊ぶことや、それらを眺めることは大きな罪です。ムスリムは、自由な時間を遊びや価値のないことで無駄にしてはいけません。学問を身に着け、礼拝を行うことで有効に活用するべきです。**「幸福の化学」**では次のように言われています。「女性や娘たちが、頭や髪、腕、足が見える状態で外に出ることがハラームであると同様に、薄手の、飾られた、良い香りの衣服で包まれて出ることもハラームです。このような形で外に出ることを許し、それに満足し、気に入っている母親、父親、夫、兄弟も、彼の罪と懲罰に連座します。」すなわち、地獄で共に焼かれるのです。もし悔悟するなら、許され、焼かれることはありません。アッラーは悔悟する人を愛されます。女性たちが体を覆うことについては、**「有益な知識」**の２８４ページでも詳しく語られています。

## 結婚し、戦いを行った預言者

預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）が４０歳の時、ジブラーイールという名の天使が訪れ、彼が預言者であることを告げました。これも預言者となった３年後には、マッカの町で宣言されました。この年を**「使命任務が与えられた年」**と呼びます。２７回、聖戦が行お子案われました。そのうち９回には、兵士として参加されました。他その18回においては司令官として参加されました。4人の男子、4人の女子、11人の妻、12人の叔父、6人の叔母がいました。25歳でハディージャと結婚しました。50歳の時、ハディージャの死の後師の粘土1}、アッラーの命令によりアブー・バクルの娘アーイシャと結婚しました。63歳の時、マディーナで、礼拝所とつながったている自室で亡くなりました。その部屋に埋葬はその部屋にされました。アブー・バクルとウマル（アッラーのお喜びがありますように）も、この部屋に埋葬されました。礼拝所が拡張され、この部屋は礼拝所となりましたの中に含まれました。マッカのクライシュ族の長であるアブー・スフヤーン・ビン・ハルビンの娘、ウンム・ハビーバを7人年目のに妻としました。アブー・スフヤーンはムアーウィヤ（アッラーのお喜びがありますように）の父です。マッカ征服の後、イスラームを信仰しました。3人年目にウマル（アッラーのお喜びがありますように）の娘ハフサと結婚しました。ヒジュラ歴5年に、ベニー・ムスタラク族の奴隷のうち、その長の娘であったジュワイリヤを購入し、奴隷の身分から解放し、結婚しました。ウン

ム・サラマ、サウダ、ザイナブ・ビンティ・フザイマ、マイムーナとサフィーヤや（アッラーのお喜びがありますように）とは、宗教上の理由から結婚しました。叔母の娘であるザイナーブとの婚姻は、アッラーによってなされました。

ジブラーイールは24000回訪れました。52歳の時、ミラージュで天に昇られました。53歳でマッカから殻マディーナへのに聖遷を行われました。サウル山の洞窟でアブー・バクルと三夜過ごし、月曜日の夜に出発しました。一週間の旅で、9月20日月曜日にマディーナのクバーの村に来ました。金曜日にマディーナに入りました。

ヒジュラ歴2年には、ラマダーン月の金曜日にバドルの戦いが起こりました。イスラーム軍は313人の兵がお折り、このうちの8人は別の場所で任務についていました。クライシュ族は1000人いました。13人の教友が殉死しました。アブー・ジャフルと70人のカーフィルが殺害されました。

ヒジュラ歴3年のシャッワール月には、ウフドの戦いがありました。イスラーム軍は700人であり、カーフィル側は3000人でした。教友たちのうち、70人が殉死しました。ウフドの戦いの4か月後、ナジュドの人々にイスラームの布教の為70人の若者が派遣されました。「**ビーリ・マウーナ**」と呼ばれる場所で攻撃を受け、二人の教友を除く全てが殺害されました。

ヒジュラ歴5年には、塹壕の戦いがありました。カーフィルは1万人、ムスリムは3000人でした。マディーナが標的とされました。ムスリムはマディーナ周辺に塹壕を掘っていました。ヒジュラ歴7年のハイバルの戦いよりも1年前に、フダイビーヤで「**ルドゥワン条約**」が結ばれました。「**ムータの戦い**」は、ギリシア軍のヘラクリオスとの間でなされた聖戦です。ムスリムは3000人でした。ギリシア軍は10万人でした。ジャーファル・タイヤール（アッラーのお喜びがありますように）がこの戦いで殉死しました。ハリド・ビン・ワーヒドがこの戦いで勝利しました。ヒジュラ歴8年にはマッカが征服されました。**フナイン**は、有名な大きな戦いです。勝利が納められました。**ハイバル**は、ユダヤ人の有名な城です。預言者ムハンマドは、そこにアリーを派遣され、征服されたのでした。預言者ムハンマドはここで毒入りの食事を振舞われましたが、食べませんでした。この戦いからの帰途、アーイシャに醜い中傷がなされました。預言者ムハンマドは大変悲しまれました。クルアーンの言葉が下り、この中傷が偽りであることが明らかになりました。ターイフにおける勝利もよく知られています。

もしあなたが幸福を求めるなら、
イスラームにしがみつきなさい。
、いつでも
ファルドとワージブ、スンナ、行うことが推奨されていること
、
善を命じること、
全てをいつでも実行し、決して放棄してはいけない、
これは小さい、これは大きいと言ってはいけない
そしてマクルーフとハラ—ムを避けなさい、
さらには他人の権利に注意を払いなさい
スンナ派である人から学びなさい。
その知識で実行しなさい、時間を無駄にしてはいけない

## 信仰の詳細について

信仰の詳細は１２あります。私の神はアッラーです。証拠は、雌牛章163節です。私の預言者はムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）です。証拠は勝利章の第28節と第29節です。私の教えはイスラームです。証拠は、イムラーン家章の第19節です。私の啓典は崇高なるクルアーンです。証拠は、雌牛章第2節です。私のキブラは、神聖なカーバです。証拠は、雌牛章の第144節です。

信条における宗派は、「スンナ派」です。証拠は家畜章の第153節です。

系譜は、預言者アーダムに連なります。証拠は、高壁章の第172節です。

私の民族は、イスラームの民です。証拠は、巡礼章の第78章です。

私はムハンマドのウンマに属します。証拠は、イムラーン家章の第110節です。

私は実際に信者新車です。証拠は戦列章の第4節です。アルハムドゥリッラーヒ・アラトゥ・タウフィキヒ・ワスタグフィルッラーハ・ミン・クッリ・タクシーリーン。

5つの理由により、知識は行為よりもより尊いのです。なぜなら知識とはそれに従うわれるべき対象ものであり、行動は

知識それに従うものだからです。知識は必須必要であり、行動はそれに伴うものだからです。知識はそれ自体で効果褒賞をもたらします。行動は知識を伴わなければ効果褒賞をもたらしません。知識は知性よりも尊いのです。なぜなら知識はその始まりのないものであり、知性はその後に来るものであるからです。人はイフラースによって飾られます。イフラースは、信仰によって飾られます。信仰は天国によって飾られます。天国は、天国の女性や男性たちによって飾られます。そしてアッラーの美を拝見することによって飾られます。

さらに、行動が信仰が行動よりも些少だったとしたら、月経中の女性が定時の礼拝を免除さ許されることはなかったでしょう。なぜなら、信仰については許されないからです。生涯で一度信仰告白を行うことはファルドです。この証拠は、ムハンマド章の第19節です。信仰告白を行うことには４つの条件があります。言葉で唱える際に、心の備えができていること、意味を知ること、心のイフラースと共に唱えること、敬意を持って唱えることです。

信仰告白を行うことには130ほどの効果褒賞があります。しかし、以下の4つの事柄のうち１つでもあれば、効果褒賞はな亡くなります。その4つとは、多神崇拝、疑念、タシュビフ（アッラーを被造物に類似すると見なすこと）、自然発生主義です。多神崇拝とは、アッラーに何かを同等に配することを言います。疑念は、教えにおいて疑問を持つことです。タシュビフは、アッラーを被造物に類似すると見なすことです。自然発生主義とは、「アッラーは万物に干渉することはない。全て、時が来れば自然に発生する」と見なすことです。

さらに、130の効果褒賞のうち、30はこの文章で言及されています。30のうち5は現世で、5は死ぬ際、５は墓で、5は審判集合の日、5は地獄、5は天国でのものです。

現世における5つの効果褒賞：

1. その名が良い形で呼ばれます。

2. イスラームの規則がファルドとなります。

3. その首が剣から救われます。

4. 崇高なるアッラーが満足されます。

5. 信者が皆、彼に親愛の情を抱きます。

死ぬ際の5つの効果褒賞：

1. アズライール（アッラーの平安がありますように）が、美しい姿で彼に訪れます。

2. 油の中の毛を取り除くようにスムーズに彼の魂を取り去

ります。

3.．天国の香りがもたらされます来ます。

4. 高貴で、．高められ、吉報をもたらす天使たちが訪れます。

5.．信者よ、あなたは天国に行く、と呼びかけられます。

墓場での5つの効果褒賞：

1. 墓が広くなります。

2. ムンケルとナクルが美しい姿で訪れます。

3.．天使が、彼のが知らないことを彼に教えます。

4.．崇高なるアッラーが、彼のが知らないことをひらめかせられます。

5.．天国における位階を目にします。

審判集合の日における５つの効果褒賞：

1. 質問や感情1}が容易になります。

2.．帳面が右側から与えられます。

3.．善行と悪行の重さを調べる天秤で、善行の方が重くなります。

4.．アッラーの崇高な位階の陰で休むことができます。

5. スラート橋を星のように通過します。

地獄における5つの効果褒賞：

1. 地獄に行ったとしてもすれば、地獄の民のように恐ろしい目にはあいません。

2.．シャイターンと争うことがありません。

3.．手に火の手錠、首に鎖が書けられることはありません。

4.．煮えたぎる湯を飲まされることはありません。

5.. 永遠に地獄にいることはありません。

天国における５つの効果褒賞：

1.. 天使たちが皆、彼に挨拶します。

2.．誠実な人々と親しく接することができます。

3.．永遠に天国にいることができます。

4.．アッラーが彼に満足されます。

5.．アッラーにまみえることができます。

（カーディ・ザーデ・アフメッド師は「**ファラーイド・ウル・ファワーイド**」というアーマントゥ・シャルフの本で次の

ように語っています。「地獄には7つの層があります。それぞれの層の炎は、上の層の炎よりもさらに激しくなっています。罪が許されていない信者は第１層に、罪に応じて焼かれ、その後地獄から出され、天国に運ばれます。それ以外の６つの層では、様々なカーフィルが永遠に焼かれます。罰が最も厳しい第7層では、偽信者が焼かれます。彼らは言葉では、イスラームを賛美し、称賛し、心では信じていない、二面性を持つ人々です。カーフィルは燃えて灰になると再び創造され、さらに焼かれます。永遠にこのように焼かれるのです。天国と地獄は今でも存在します。一部の学者によると、地獄がどこにあるかわかりません。一部の学者によると、地面から7層下にあります。これらの言葉は、天球には存在しないことを示します。天球、太陽、全ての星が天の第1層にあることを考えるなら、私たちが地上のどこにいたとしても、7層の天の下に空があります。地獄は、7層の地のうちのどこかにあることが明らかなのです。」

## クフルを引き起こすもの

クフル（アッラーへの敵意）には、三種類あります。頑迷さによるクフル、無知によるクフル、判断によるクフルです。

頑迷さによるクフルはアブー・ジャフルやフィルアウン（ファラオ）、ナムルード、シャダッドのクフルのように、教えや信仰を知りつつも信じないことであり、彼らについて「彼らは地獄に行くだろう」と言うことも許されます。

無知によるクフルは不信心者の多くの人を指しますであり。、彼らはこの教えが真実であることを知っており、アザーンが読まれる時にはそれを聞いてはいるものの、ムスリムになりなさいと言われると、我々は先祖代々このようにしてきた、これを続ける、と言います。

判断によるクフルは、敬意を示すべきものをところで蔑視し、蔑視するべきものにきところで敬意を払うことです。

崇高なるアッラーの聖人たち、預言者たち、学者たちや彼らの言葉、イスラーム法の書物やファトゥワには敬意を払うべきなのに、それを蔑視するのであれば、それもクフルです。不信心者の宗教儀式を気に入ること、必要がないのに彼らの僧衣を身に着けること、神父に特有の帽子や十字架といった不信心者のしるしであるものを用いること、それらを好むことはクフ

ルです。

クフルには七つの害があります。その教えや婚姻が損なわれます。その人が屠ったものは食べられなくなります。合法として行ったものが非合法となります。その人を殺害することが許されることとなります。天国がその人から遠ざかさなります。地獄が近づきます。その状態で死ねば、その人の為に礼拝を行うことができません。

本人の同意により、何々が誰々にあれば、もしくはなければ私は不信心者になる、もしくはユダヤ教徒になる、と誓いを行ったのであれば、そのものがその人にあってもなくてもその人が自分の同意でクフルに至ったことになります。その信仰や婚姻にをもう一度入る、もう一度結ぶ復旧されることが必要です。

姦淫、利子や嘘といった、どの教えでも禁止であることについて、合法であればよかったのに、自分もやっていたのに、と願うことはそれもクフルです。

預言者たち（アッラーの祝福と平安がありますように）は信じる、でもアーダデム（アッラーの平安がありますように）が預言者であったかどうかはわからない、というなら、不信心者になります。預言者ムハンマドが末世の預言者であることを知らない人は、不信心者となります。

誰かが、「預言者たちがいうことが本当なら、私たちは救われるはずだた」、と言ったとすれば不信心者となる、と言われています。故ビルギヴィーは、「何らかの言葉を疑いという形で語ればクフルになる。確信をもって語れば、クフルではない」と話しています。誰かに、「来なさい、礼拝しなさい」と言い、その人が「しやらない」と言えば、不信心者となる、と言われています。ただし、「あなたの言葉ではしやらない、アッラーの命令ですやる」と言えば、不信心者にはなりません。

誰かに、「ひげをこの長さよりも短くするな」もしくは「この長さよりも長い部分を切れ」あるいは「爪を切れ、なぜなら預言者ムハンマドのスンナだから」と言い、彼が「切らない」と言うなら、不信心者となります。他のスンナについても同様です。特に、スンナであることが知識や証拠によって明らかである場合です。ミスワークがその例です。故ビルギヴィーは、「この言葉を、スンナを否定する形で言えばクフルである。ただし、あなたの命令ではやらない、預言者ムハンマドのスン

ナであるからやるのだ、と言うなら、クフルではない」と語っています。

ユスフ・カルダヴィーは「**アル・ハラール・ワル・ハラーム・フィル・イスラーム**」という本の第4版の81ページで次のように語っています。「ブハーリーのハディースでは、多神教徒とは反対のことを行いなさい、あごひげを伸ばしなさい、口ひげを切りなさい」と言われている。このハディースは、あごひげをそること、一定よりも短くすることを否定しているする。拝火教徒はあごひげを切り、剃る、そる者もいるる。ハディースは、彼らとは逆のことをすることを命じている。イスラーム法学者の一部はこのハディースについてを、あごひげを伸ばすことがワージブ（義務）であること、あごひげをそることはハラームであることを示している、としているる。そのうちののイブニ・タイミーヤは、があごひげを切ることに対し、かなり強い形で対立しているる。一部の学者たちは、あごひげを伸ばすことは風習であり、崇拝行為ではないとことを教えているる。「フェティフ」の本はイーヤードから引用し、支障がないのにあごひげを切ることはマクルーフ（忌避されるべきもの）であるとしているる。これが最も正しいのであるいのは、これである。このハディースはあごひげを伸ばすことがワージブであると示している、ということはできないない。なぜなら、ブハーリーによってまとめられたで書かれているハディースでは、**「ユダヤ教徒やキリスト教徒は（髪やあごひげを）染めていない。あなた方は彼らと反対のことをしなさい」とされているる。**つまり、あなた方は染めなさいと言われているが、。このハディースは、髪やあごひげを染めることがワージブであることを示してはいないない。ムスタハブ（奨励されるもの）であると示しているのである。なぜなら、教友の一部は染めていたものの、大多数は染めていなかったためであるからである。ワージブであれば皆、染めていたはずであるであろう。あごひげを伸ばすことを命じるハディースもこれと同様であり、あごひげを伸ばすことは義務ではなく、奨励されるべきものであると示しているのであるある。イスラーム学者のうち誰も、あごひげをそったとは伝えられていないない。なぜなら、彼らの時代には、あごひげを伸ばすことは風習であったからである。（ムスリムの風習に従わないことは忌避されるべきものであるある。それが扇動の要因となれば、ハラームとなる。る）」カルダーヴィーからの翻訳はここまでです。カルダーヴィーは本の前

書きで、四つの法学派の法学の知識を混合したこと、どれか一つの学派のみを模倣することは適切ではないといったことことを書いていまする。これによって、スンナ派の学者と言う道から外れてしまっているのです。スンナ派の学者は、全てのムスリムが四つの法学派のうちどれか一つに従うことが必要であること、法学派を混合することは無宗派、さらには罪となることを伝えています。一方で、カルダーヴィーのあごひげについての文章は、ハナフィー学派の意見を示すものであり、文章として引用することは適切であると判断されたものです。アブドゥルハック・ダフラヴィー師は、**「アシアトゥル・ラマアトゥ」**の第3版で次のように語っています。「イスラーム学者が売者たちは、髪やあごひげを染めることに関しては自分の住む地域の風習に従っているる。なぜなら、許される、合法である行いにおいて、住んでいる地域の風習に従わないことは名誉名声を失う得ることにつながり、これは忌避されるべきことであるためである。」ムハンマド・ハーディミー（アッラーの慈悲がありますように）は、**「ベリーカ」**と言う書物で次のように語っています。「ハディースでは、**口ひげを短く、あごひげを長くしなさい**と言われているる。この為、あごひげをそること、切ること、スンナである長さよりも短くすることはが否定されているる。あごひげを一定の長さに伸ばすことはスンナですある。あごひげを一定の長さより短くすることは許されないない。一定の長さよりも長い部分を切ることもスンナである。ある」この長さとは、唇の淵から指4本分の長さを指します。スンナであること、さらにはムバフ（合法）であることを王が命令した場合、それを行うことはワージブ（義務）とになります。王、そしてすべての恩ムスリムが行うことが命じられているということです。このような場所では、あごひげを一定の長さに伸ばすことがワージブとなります。一定の長さよりも短くすること、もしくは剃ることは、ワージブの放棄になります。タフリーメン・マクルーフ（クルアーンやハディースの解釈の結果、忌避されるべきもの）となります。この人がモスクで導師となることは合法とはなりません。ただし、戦いの場にいる者、もしくは迫害を避ける為、生計を得る手段を失わない為、あるいは教えの命令を教える為、ムスリムやイスラームに奉仕を行う為、教えや高潔さを守る為にあごひげをそることは合法であり、さらには必要と見なされます。支障がない状態で、短くすることや、剃るそることが忌避されるのです。一定の長さよりもあごひげを短くし、それによってスンナを行って居ると信じる

ことは、ビドゥアとなります。スンナを変えようとすることになります。このようなビドゥアを行うことは、人を殺すことよりもなお大きな罪です。

女性と男性が知性を持ち、思春期を経ており、婚姻を行っている状態で、彼らに信仰のあり方を聞いた際に応えることができない場合ければ、彼らはムスリムではありません。彼らに信じるべき事柄を教え、その後で改めて婚姻を行わせるなら、その婚姻は純正なものとなります。５４のファルドの項目を見てください。

誰かが口ひげを整え、そばにいた人がそれは何の役にも立たないと言ったのであれば、それを言った人がクフルの状態にあると懸念されます。なぜなら口ひげを短くすることはスンナであるからです。スンナを軽視したことになるのです。

誰かが全身を絹の衣装で覆っており、誰かが彼に祝福されるように、と言えば、その人のクフルが懸念されます。

誰かが、キブラの方向に足を向けて寝ている、もしくは唾を吐く、もしくはキブラに対して怒鳴ると言った忌避されるべきことを行ったとしてったのであれば、彼にその行いは忌避されるべきだ、やめなさいと言った場合のであれば、その人が彼に「全ての罪がこれだけであれば1}」、と言ったのであれば、その人のクフルが懸念されます。つまり、忌避されるべきものを軽視したからです。

さらに、誰かの召使がドアから中に入ってった時にその主人に挨拶をした時、主人がそのそばに誰かがおり、「黙りなさい、主人に挨拶をするとはどういうことだ」、と言うなら、その人は不信心者となります。ただし、礼儀作法を教える為であり、挨拶は心で行うべきだったと言う為にそうしたのであれば、クフルとはならないことは明らかです。

誰かがその場にいない人の陰口を行い、そばにいた人が陰口をやめるように言った時、その人が「この程度れぐらいなんでもない」というなら、不信心者となります。これらの行為により、ハラームを軽視し、悪事と見なしていない為です。誰かが、アッラーが天国を私に与えたとしても、あなたなしでは天国に行かない、と言えば、もしくは誰かと一緒に天国に行くことが命じられたら行かないと言えば、もしくはアッラーが私に天国を与えられても私は求めない、しかしそのお顔は拝みたい、と言えば、これらの言葉はクフルとなります。誰かが、信仰

は増減する、と言えば、クフルとなると言われています。ビルギヴィーは次のように語っています。「**信仰の条件という意味で**、増える、減るといっているのであればクフルである。しかし近しさや誠実さの度合いについて述べているのであれば、クフルではない。なぜならムジュタヒドたちの多くが、信仰の増減について言及しているからである。」

誰かが、「キブラは二つある、一つはカーバで一つはエルサレムである」、と言えば、クフルになります。ビルギヴィーは次のように語っています。「今、二つであると言えば、クフルとになる。しかし、エルサレムがキブラであったが後にカーバがキブラとなった、と言えば、クフルではない。」

誰かが、学者に対し気持ちが冷覚めてしまいえば、そしてそれに正しい理由もなければその人のクフルが懸念されます。

誰かが、不信心者の崇拝行為、イスラームにはふさわしくない行いを素晴らしいと言い、そのように信じることはれば、クフルとなります。誰かが「食事中に話をしないのは拝火教徒のよい習慣だ」と言えば、もしくは生理中、産褥期に異性と寝ないのは拝火教徒のよい点だと言えば、その人は不信心者となると言われています。

誰かが誰かに、あなたはムスリムかと尋ね、その人がインシャラ―、と答え、明らかにしないのであれば、それはクフルとなります。

誰かが、子供を亡くした人に対し「アッラーはあなたの息子を必要としていた」、と言えば、不信心者となると言われています。

女性が腰に黒いひもを巻き、これが何かと聞かれた時に「キリスト教徒の衣装であるズンナールである」と答えれば、その人は不信心者となり、男性に対してハラームとなります。

誰かがハラームであるものを食べて「ビスミッラー（神の名において）」と言えば、不信心者となると言われています。ビルギヴィーは次のように語っています。「私が理解した限り、法的に禁じられていれば、（汚れた、死んだ動物の肉のように、そしてその動物の脂肪のように）不信心者となる。しかし、法的に禁じられていることを認識していることが必須となる。それによってアッラーの名を軽視したことになるからである。なぜならこれらはそれ自体がハラームであるからである。イマームたちから伝承されているが、誰かが食べ物を奪い、それ

を口にする際、ビスミッラー（アッラーの名において）といえば、不信心者とはならない。なぜなら食べることそれ自体はハラームではないからである。奪うことがハラームである」

誰かが他人をに呪いながら、「アッラーがあなたの命をクフルと共に取られるように」、と言えば、その人は不信心者となる、という点で学者たちは意見を一致させています。そもそもは、自らのクフルを受け入れることについては、クフルであると見解が一致しています。しかし他者のクフルを受け入れることは、一部の人の考えにおいてはそれもクフルではあるものの、それ以外の人の考えでは、推定としての受け入れであればクフルであり、残虐な行為や罪について「その罰が永遠で厳しいものでありますように」という意味での受け入れであればクフルではないとされます。ビルギヴィーは次のように語っています。「我々はこの言葉を原則として理解する。なぜならクルアーンにおいて預言者ムーサー（アッラーの祝福と平安がありますように）の物語にその証拠があるからである。」

誰かが、アッラーがご存じである、このことを私はやっていない、と言い、しかし実際にはそれを行っていた場合は、不信心者となります。アッラーに、ご存じでないという中傷を行ったことになります。

誰かが、証人なく妻を娶り、その男女が「アッラーと預言者が私たちの証人だ」、と言うなら、二人とも不信心者となります。なぜなら、預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）がは生きている間、幽玄界についてご存じではなく、ご存じであったという言ことはクフルとなるからです。

私は盗まれたものや紛失したものを知っている、と言えば、それを言った人も信じた人も不信心者となります。私にはジンが私にお告げをくれる、と言うなら、やはり不信心者となります。預言者たちやジンも、幽玄界のことは知りません。ただアッラーのみが幽玄界をご存じです。

誰かがアッラーに誓いを立てることを望み、誰かがその人に「、私はあなたがアッラーに誓いを立てることは望まない。、従順、誉れ、名誉に誓いを立てることを求める」、と言えば、不信心者となると言われています。

誰かが誰かに、「あなたの顔は私にとって命をも取るようなものだ」、といえば、不信心者となると言われています。な

ぜなら命を取るのは、崇高な天使であるからです。

誰かが、「礼拝をしないことはよいことだ」、と言えば、不信心者となります。誰かが誰かに「、さあ礼拝をしなさい」、と言い、その相手が「私にとって礼拝は難しいことだ」、といえば、不信心者となると言われています。

誰かが、「アッラーは天で私の証人であられる」と言えば、不信心者となります。なぜなら、アッラーのおられる空間を固定したことになるからです。アッラーは空間を超越されたお方です。（アッラーに父と呼んだ人も不信心者となります）。

誰かが預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は「食事の後でその神聖な指をなめられた」、と言い、別の人がそれに対して「それは行儀が悪い」、と言えば、不信心者となります。

「糧はアッラーからもたらされるが、しもべも行動することが必要だ」と言えば、その言葉は多神崇拝となります。なぜならしもべの行動もアッラーからのものであるからです。

誰かが、「キリスト教徒であることはユダヤ教徒（アメリカの不信心者であること、共産主義者であること）であることよりも良い」、と言えば、不信心者となると言われています。ユダヤ教徒はキリスト教徒より、（共産主義の）キリスト教徒よりなお災いであり、より悪いというべきなのです。

「不信心者であることは、裏切りよりも良い」、というのなら、その人は不信心者となります。

ハラームであるものから施しを行い、その報奨を求める場合のであれば、それを受け取った貧者もまた、ハラームであることを知りながら「アッラーが認めてくださいますように」と言いうなら、与えた人もそれにアーミーンと言うなら、二人とも不信心者となります。

「学問の場に私は用はない」、もしくは「学者の言うことを実行することが誰にできるか」、と言う場合えば、あるいはファトゥワを無視しすれば、「宗教者の言葉に何の意味がある」など、と言えば、不信心者となります。

敵に、「災いに行こう1}」と言いい、相手が「警察が連れていかない限りは行かない」、と言えば、もしくは「イスラームのことなんて知らない」と言えば、不信心者となります。

誰かがクフルであることを話し、別の人がそれをに笑えば

、笑った人も不信心者となります。この笑いが見せかけだけのものであるなら、不信心者とはなりません。

誰かが、「アッラーのおられない場所はない」、と言えば、もしくは「アッラーは天におられる」といえば、不信心者となると言われています。

「偉大な聖人たちの魂はいつでもここにある、彼らは全てを何でも知っている」、と言えば、不信仰者になります。「ここにある」、とだけ言うなら、クフルにはなりません。

「私はイスラームを知らない、もしくは求めない」、と言えば、不信仰者となります。

誰かが「預言者アーダム（彼の上に祝福あれ）がいなければしかし私たちはこの世界にいなかった」、と言うことについては、クフルになるかどうか、意見が分かれています。

「預言者アーダム（アッラーの平安がありますように）が布を織っていたらしい」と言った人に、誰かが「、では私たちは布屋の子孫だな」と言えば、不信心者となります。

誰かが小さな罪を犯し、誰かが「彼に悔悟をしなさい」と言い、彼が「、自分が何をしたというのだ、なぜ悔悟をするのだ」、と言えば、彼は不信心者となります。

誰かが別の人に、「イスラーム学者を訪ねよう、もしくは法学、イルミハールの本を読み、勉強しよう」、と言い、相手の人が「どうして私が知識を得ないといけないのだ」、と言うなら、その人は不信心者となります。タフシール（クルアーンの解釈）やイスラーム法の本を侮辱し、それらを気に入らずに、蔑視する人は不信心者となります。四つの法学派のどれかに属する学者が書いたこの尊い書物を攻撃する激しい不信心者を「異端科学者」、もしくは「異端者」と呼びます。

誰かに、「誰の子孫なのか、どの民族なのか、信仰における法学派のイマームは誰なのか、宗教行為における法学派のイマームは誰なのか」と質問して、その人がそれを知らないのであれば、不信心者となります。

酒や豚肉など、絶対的にハラームであるものを「ハラールである」と言えば、もしくは

絶対的にハラールであるものを「ハラームである」と言えば、不信心者となると言われています。（煙草をハラームであるということは危険です）

どの宗教においても、ハラームであるもの、ハラールとなることが英知にそぐわないものが、ハラールとなることを願うこともクフルです。姦通や同性愛、満腹しているのに食べること、利子を取ること、払うこと等です。酒がハラールであることを願うことは葉、クフルとはなりません。なぜなら、酒はどの宗教でもハラームとされているわけではないからです。崇高なるクルアーンの言葉を意味もなく悪用することはクフルです。ヤヒヤーという名の人に、「**ヤヒヤーよ，啓典をしっかりと守れ**」（マルヤム章第12節）ということはクフルです。クルアーンをからかったことになります。楽器、踊り、歌の中でクルアーンを読むことも同様です。

「今来たよ、ビスミッラー」と言うことは災いです。何かが多すぎると思った時に「**アッラーの造られたものだ**」といえば、その意味を知らい場合にはなければ、不信心者になります。

誰かが「私はあなたを呪わない、呪いは罪と名付けられている」と言うことは災いです。

誰かが「ジブラーイールのふくらはぎのようなに裸だ」と言うことは災いです。天使をからかうことになるからです。

誰かがアッラー以外のものに誓いをかければ、ハラームとなります。ハラームを犯した人は、罪人や不信心者とはなりません。しかし、絶対的であるハラームをハラールと言えば、不信心者となります。

さらに、「息子の頭をかけて」、もしくは「私の頭をかけて」、とい言った表現において、宣誓が神に言及している場合、例えば「神に誓って息子の頭をかけて」と言った場合は、クフルとなる恐れがあります。

# イスラームの規律

イスラームの教えの命令と禁止事項は、「**イスラームの規律**」もしくは「**イスラーム法教**」と呼ばれます。イスラームの規律は八つあります。**ファルド、ワージブ、スンナ、ムスタハブ、ムバフ、ハラーム、マクルーフ、ムフシドになります。**

ファルドとは、それを崇高なるアッラーが命じられたものです。アッラーが命じられたことが疑いのない根拠と共に明らかになっていることが必要です。つまり、クルアーンのことばで明白に理解されることが必要です。信じない人、重きを置かない人は不信心者となります。信仰、クルアーン、礼拝前の清浄、礼拝、断食、ザカートの支払い、巡礼、全身を清めること等です。

ファルドは三つに分けられます。継続的なファルド、一時的なファルド、キファーイのファルドです。継続的なファルドとは、「**アーマントゥ・ビッラーヒ**」を最後まで暗唱し意味を知り、信じ、常に信仰することを言います。一時的なファルドは、その行為を行うべき時間が来た時に行うことがファルドである行為を指します。日に5回の礼拝を行うこと、ラマダーン月に断食を行うこと、工業や商業に必要な宗教的、科学的知識を学ぶこと等です。キファーイのファルドは、それを50人もしくは100人のうち一人が行えば、他の人々免除されるものです。また、挨拶をされた時にそれに応えることなどです。そして葬儀の礼拝を行うこと、遺体を洗浄することと同様、宗教知識を学ぶこと、クルアーンを暗唱すること、体について学ぶこと、工業や商業に必要なもの以上に、宗教や科学に関する知識を身に着けることもそうです。

さらに、一つのファルドの中には五つのファルドがあります。このファルドとは、知識のファルド、行動のファルド、あり方のファルド、信条のファルド、イフラースのファルドです。、ファルドの否定です。ファルドの否定はクフルとなります。

ワージブとは、崇高なるアッラーがそれを命じられたものです。命じられたということが、はっきりしてはいない証拠で明らかになっているものです。ワージブであることを信じない人は、不信心者とはなりません。しかし、それを行わない人は、地獄の懲罰の対象となります。例えば、ウィトルの礼拝においてクヌートの祈りを唱えること、犠牲祭で動物を屠ること、

ラマダーン月で喜捨を行うこと、サジュダの章句を呼んだ時にサジュダを行うことなどです。ワージブには四つのワージブ1}と一つのファルドがあります。知識のワージブ、行動のワージブ、信条のワージブ、そしてイフラースのファルドです。ファルドとワージブを偽善で行うことはハラームです。

さらにスンナとは、預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）が一度もしくは二度、行わなかったことがあるものです。それを行わなかった人は罰を受けることはありません。しかし、支障があるわけでもなくとなることもなく、常にそれを放棄する人は、清められたり、報奨を得たりすることができなくなります。例えば、ミスワークを用いること、アザーンやイカーマを伴い集団で礼拝例外を行うこと、結婚した夜に食事を振舞うこと、子どもに割礼を受けさせること等です。スンナにも三種類あります。ムアッカダ（確定されたスンナ）、ムアッカダではないスンナ、キファーイのスンナです。

ムアッカダのスンナであるものは、朝の礼拝のスンナ、正午の礼拝の最初と終わりのスンナ、日没の礼拝のスンナ、夜の礼拝の最後のスンナなどです。これらはムアッカダのスンナです。朝の礼拝のスンナがワージブであると言う学者たちもいます。これらのスンナは、何らかの支障がない場合状態では決して放棄されるべきではありません。これらを気に入らない人は不信心者となります。

ムアッカダではないスンナであるものは、午後の礼拝のスンナ、夜の礼拝の最初のスンナです。これらは何度も放棄されたとしても、何かが必要となることはありません。何の支障もないのに完全に放棄される場合はなら、破滅や、とりなしが受けられなくなることの要因となります。

（「**ハラビー**」及び「**クドゥーリー**」でも言われているように、崇拝行為は「**義務であるもの**」と「**義務ではないもの**」として二つに区分されます。「ファルド」もしくは「ワージブ」ではないものを、「**義務ではない**」もしくは「**ナーフィラの崇拝行為**」と呼びます。日に五回の礼拝のスンナは、ナーフィラの崇拝行為であり、ファルドの不十分さを補います。つまり、行われたファルドの不足を補います。スンナが、やらなかったファルドの礼拝の代わりになることはありません。スンナの礼拝を行うことは、ファルドを放棄する人を地獄から救うことにはなりません。支障がないのにファルドを放棄する人が行ったスンナは、有効なものとはなりません。有効である（不足なく行われる）スンナの礼拝をニーヤ（意図）することが必要です。ニーヤがなければ、スンナの報奨を得ることはできません

。その為に、何年も礼拝をしない人が四回の礼拝のスンナを行う時には、まず実行されなかったファルドの不足分の補填を行うこと、その時間帯のスンナを行うことをニーヤしなければいけません。このようにニーヤすれば、補填の礼拝とスンナ両方を行ったことになり、スンナを放棄したことにはなりません。)

キファーイのスンナは、五人、十人のうち一人が行えば、他の人は免除されます。挨拶を行うこと、おこもり1}を行うこと、合法な仕事の前にビスミッラー（アッラーの名において）と唱えること等です。

もし食事の前にビスミッラーと唱えなければ、三つの損失があります。１．シャイターンが一緒に食事をします。２．食べたものが体に負担を与えます。３．食事に恵みがありません。

もしビスミッラーと唱えるなら、三つの効果褒賞があります。１．シャイターンと一緒に食事をしたことになりません。２．食べたものが体に健康をもたらします。３．食事が恵み多いものとなります。（食事を始める時に唱えることを忘れた場合は、思い出した時に唱えるべきです）

ムスタハブとは、預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）が生涯に一度もしくは二度行われた事柄です。それをしなかった人に罰や破滅はありません。とりなしを受けられなくなることもありません。しかしそれを行った人には、褒章が多く与えられます。例えば、義務でない礼拝を行うこと、義務でない断食を行うこと、ウムラ、義務ではない巡礼を行うこと、義務ではないサダカを行うこと等です。

さらに、ムバフとは、それをよい意志で行った場合は報奨が、悪い意志で行った場合は罰が与えられるものです。放棄しても罰はありません。歩くこと、座ること、家を買うこと、ハラールであるものを食べること、ハラールである条件で様々な衣服を身に着けること等です。

ハラームとは、崇高なるアッラーがクルアーンで明確に禁じられたものです。つまり、行うな、と言われた事柄です。ハラームに重きを置かない人、信じない人は不信心者となります。信じているのにそれを行った人は不信心者にはなりません。罪人となります。（イブニ・アービディン（アッラーの慈悲がありますように）は、イマームについて説く際、次のように語っています。「罪人であるイマームの後ろで礼拝をしてはいけない。罪人とは、飲酒を行うこと、姦通を行うこと、利子を取ることと言った大きな罪を犯す人のことである。（小さな罪を継続的に行うことも、大きな罪となる。）一人より多くの人が

共に金曜礼拝を行う場所で、罪人である師の後ろで礼拝を行ってはいけない。イマームが誠実であるモスクで行うべきだ。罪人には、裏切ること、非難することはワージブである。非常に物知りであったとしても、彼をイマームにしてはいけない。イマームにするとは、彼に従うこと、敬意を示すことである。罪人や宗派に従わない人がイマームとなることは、常に忌避されるべきことである。ハラームを避けることを**タクワー**（篤信）と呼ぶ。ハラールもしくはハラームであることが疑わしいものを避けることを「**ワラ―**」と言う。疑わしいことを行わない為にハラールであるものを放棄することを「**ズフド**」と呼ぶ。戦いの地で信仰を持った者は、イスラームの土地に移住することがワージブである。」

ハラームには二種類あります。一つは「**ハラーム・リ・アイニヒ**」であり、もう一つは「**ハラーム・リガイリヒ**」です。前者は、それ自体がハラームであり、常にハラームであるものです。人を殺すこと、姦通、同性愛、飲酒、賭博、豚肉を食べること、女性や少女たちが頭や腕を出して外に出ることがそれに該当します。誰かがこれらの罪を犯しつつもビスミッラーと唱え、ハラールだという信条を持つこと、つまりアッラーがハラームとされたことに重きを置かないのであれば、不信心者となります。しかしこれらがハラームであることを信じ、アッラーやその罰を恐れつつも行ったのであれば、不信心者とはなりません。ただし地獄での罰を受けることになります。

ハラーム・リガイリヒは、それ自体はハラームではなくても、ハラームである手段から得られたことでハラームとなります。誰かが誰かの果樹園に入り、所有者の許可なく果物を取って食べること、家の中のものやお金を取ってつかってしまうこと等です。これを行う人がその際にビスミッラーと唱える場合なら、もしくはハラールであると言う場合にはえば、不信心者とはなりません。誰かが大麦の粒ほどであれ不正に手にしているものがあるなら、翌日最後の審判が始まった時、集団で行った700ラカートの承認された礼拝の報奨を、アッラーはこの人から取り去られます。どちらの種類のハラームも、それを避けることは崇拝行為を行うことよりもなお善行となります。

さらにマクルーフとは、行為の報奨を失わせるものを指します。マクルーフにも二種類ありますです。ワージブの放棄と、スンナの放棄です。

ワージブの放棄は、ハラームに近いものです。スンナの放棄は、ハラールに近いものです。ワージブの放棄を行った者が意図してそうしたのであれば、罪人となります。地獄の罰を受けることになります。礼拝においては、その礼拝のやり直しが

ワージブとなります。もし誤ってそれを行った場合は、過誤のサジュダを行います。やり直しは免除されます。しかし何度も繰り返すなら、破滅や、報奨を得られないといったことから逃れることができなくなります。馬肉を食べる、猫や鼠の残したものを食べる、酒を造る人にブドウを売る等です。

ムフシドとは、その崇拝行為が根底から失われた人のことです。信仰、礼拝、婚姻、巡礼、喜捨貴社、売買を損なうこと等です。（ファルド、ワージブ、スンナを行い、ハラーム，マクルーフを避けるムスリムには、来世で**報奨**が与えられます。ハラームやマクルーフであることを行う人、ファルドやワージブを行わないムスリムには**罰**が与えられます。ハラームを避けることの報奨は、ファルドを行うことの報奨よりも何倍も多くなります。一つのファルドの報奨は、一つのマクルーフを避けることの報奨よりも多く、またこれも一つのスンナの報奨よりも多くなります。ムバフのうち、アッラーが好まれるものを「**善**」及び「**良いこと**」と呼びます。これらを行う人にも褒章は与えられますが、スンナの報奨よりも少なくなります。報奨が与えられることを知りながら行うことを「**クルベット**」と呼びます。

アッラーはしもべたちに慈悲をかけられておられる為、安寧と幸福の源となる教えを送られました。それらの教えのうち最後のものが、預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）の教えです。他の教えは、悪い人々によって変更が加えられて手を加えられています。ムスリムであれ、誰であれ、例え不信心者であったとしてもれ、誰でも、知ってか、もしくは知らずか、にこの教えにふさわしく生きるなら、この世界で苦しむことはありません。安寧と楽しさの中で生きることになます。ヨーロッパやアメリカにおいてで、この教えにふさわしい形で働く不信心者たちがこの状態です。しかし不信心者たちには、来世で報奨、褒美が与えられることはありません。このように働く人がもしムスリムなら、そしてイスラームに従うことを意図するのなら、来世でも永遠の幸福に至ることができます。）

# イスラームの構造

イスラームの柱は五つありますです。つまり、イスラームは五つのものの上に築かれています。一つ目は、信仰告白の言葉を唱えること、その意味を学び、信じることです。二つ目は、毎日五回の礼拝を、時間を守って行うことです。三つめは、ラマダーン月に毎日断食をすることです。四つ目は、もしファルドになるのであれば、年に一度ザ カート（喜捨）や寄進を行うことです。五つ目は、それができる力があれば、生涯に一度巡礼に行くことです。（アッラー1}のこの五つの命令を行うこと、ハラームを避けることを「崇拝行為（**イバーダ**）を行う」と言います。その実行の条件を満たしていない、及び巡礼に行言った人がは再び行くことは、ナーフィラ（義務ではない）の崇拝行為となります。ビドゥアやハラームを行う要因となるナーフィラの崇拝行為を行うことは許されません。イマーム・ラッバーニは「クッディセ・シッルフ」という本の29番目、123１２３番目、そして124１２４番目の書簡で、及び「**マカーマートゥ・マズハリーヤ**」の26２６番目の書簡で、ナーフィラの巡礼やウムラに行くことを許可していません。「**ナシュル・ウル・マハーシン**」で、『アシャラの位階』について説く際、次のように語っています。「偉大な学者かつ聖人である、イマーム・ナワウィーに、『あなたはあらゆるスンナに敬意を払っているが、重要なスンナである婚姻を放棄している』、と人々が言った時『、一つのスンナを行う際、多くのハラームを行うことを私は恐れている』、と答えた。」イマーム・ヤフヤー・ナワウィーは676年にダマスカスで亡くなりました。パキスタンの「**ジャミーア・イ・ハビービヤ**」大学の学長、教授であるハビーブ・ウル・ラフマーンは1401年（西暦1981年）に巡礼に行った際、ワッハーブ派のイマームがスピーカーで礼拝を先導しているのを見て、礼拝を別に行った為、手に手錠をかけて牢に入れられました。理由をが聞かれた時には、イマームがスピーカーで礼拝を先導するのは許されない、と答えました。彼の巡礼は妨害され、送り返されたのでした。

世界のどこにいようとまず必要なことは、教えやを、信仰を学ぶことです。教えは以前は、イスラームの教えをイスラーム学者から容易に学ぶことができました。今は末世であり、どこにも真の宗教学者は残っていません。無知な人々、イギリスに売られた愚かな人々が宗教者として散らばっています。現在において、教えやを、信仰を正しく学ぶ唯一の手段は、スンナ

派の学者たちの本を読むことです。これらの本を見つけることは、アッラーの大きな恵みです。イスラームと敵対する者たちは、若者を騙す為、逸脱した宗教書を広めています。真の宗教書を見つけて読むことは非常に困難になりました。若者たちは様々な遊びに縛られ、真の書物を見つけること、読むことができなくなりました。多くの若者が、遊び以外に何も考えていない状況を目にします。この病は若者の間に広まっています。ムスリムの両親は、子供たちをこの病から守ることが非常に必要となります。だから、子供たちに宗教について教え、宗教書を読むことに慣れさせる必要があります。子供たちが有害な遊びや娯楽にふけることを防ぐべきなのです。一部の人々の子供たちが、有害な遊びにふけりすぎ、食事をとることすら忘れているのを目にします。このような子供たちは、教科書を読んで試験に合格することも不可能です。両親が子供たちを管理し、本を読むことに慣れさせることが必要です。その為には「**イスラームの徳**」という本を読むべきです。この本を読む人は、教えを、信仰を学ぶと同様に、イスラーム世界がどのように動いているのかも理解することができます。両親がこの役割を果たさなければ、教えや信仰を持たない若者が生まれ、祖国、民族に大きな害を及ぼします。

　ムスリムの両親が注意すべきもう一つの点は、隠すべきところを覆い隠すということです。有害な遊びをしている者の中には、膝から股の間が見える若者がいます。イスラーム法教では、隠すべき場所を覆うことは重要なファルドです。このことを重要視しない人は、信仰を失う可能性があります。ムスリムは礼拝で多くの報奨を得る為、説話を聴く為にモスクに行きます。モスクに行くことがこれらの理由であることもまた、大きな善行です。覆うべきところを覆っていない人たちが行く場所は、モスクではなく、罪人の集まりのようになります。罪人の集まりに行くことがハラームであることは、あらゆる書物に書かれています。このようなモスクに行く人は、罪人の集まりに行ったことになります。善行を得て、説話を聴く為にこのようなモスクに行く人は、善行ではなく罪を得ることになります。隠すべきところを隠していない人がモスクに行くと、ムスリムが罪を犯したことになる要因になるのです。隠すべきところを隠さないことが大きな罪であるように、このような人々を見ることも大きな罪です。この為、このようなモスクに行く人は、善行ではなく罪を得たことになり、神の怒りを受ける要因となってしまうのです。

## 礼拝のファルド

礼拝のファルドは12１２になります。七つは外面、五つは内面にあになります。

外面であるものは、大汚からの清め、小汚からの清め、覆うべきところ（アウラ）を覆うこと、キブラの方向に向かうこと、時間、意志、最初のタクビールです。内面であるものは、キヤーム（立位）、クラート（クルアーンの言葉を唱えること）、ラカートごとのルクウ（手を膝につけ身をかがめること）、2回のサジュダ（地面に額をつけること）、最後の座位です。礼拝の最中のファルドを**ルクン**（根幹）と呼びます。サジュダで額と足の指を地面につけることはファルドです。

大汚から清められることとは、ウドゥー（清浄）が必要な状態であればウドゥーを行うこと、グスル（全身の清浄）が必要な状態であればグスルを行うこと、ウドゥーやグスルを必要としているのに水がなければ、タヤンムム（土などで清浄を行うこと）を行うことです。大汚からの清浄は三つの事柄によって成り立ちます。

イスティンジャー（水によって排泄器官を清めること）及びイスティジュマル（石や紙で排泄器官を清めること）に注意すること、洗う際、及び頭を占めさせる1}際にはファルドである場所をどこも残さないことです。

小汚からの清浄は三つの事柄によって成り立ちます。礼拝をするときに着ている服が小汚の状態ではないこと、礼拝の際に体が小汚の状態ではないこと、礼拝を行う場所が清められていることです。

隠すべきところを隠すことは、三つの事柄によって成り立ちます。ハナフィー派によると、男性はへその下からひざ下までの部分を覆うこと、男性が礼拝の際に足を覆うことがはスンナであることが419ページには書かれています。

自由民である女性は、顔と手、そして伝承によってはり足以外の全身を覆いコーティング、見せないこと。

奴隷である女性は、背中と胸からひざ下までを覆うことです。（頭部、腕、足を見せて外に出ている、もしくはぴったりとした、薄いもので覆っている女性、及び彼女たちを見る男性は、ハラームを犯したことになります。ハラームであることを気にしない人は、信仰を失い、ムルタドとなります）

キクブラの方向に向かうことは、三つの事柄によって成り立ちます。キブラに向かうこと、礼拝の完了までキブラの方向から胸を離さないこと、崇高なるアッラーの神聖な場において謙虚でいることです。時間は、三つの事柄によって成り立ちます。礼拝の始まりと終わりの時刻を知ること、礼拝が忌避されるべき時間にずれ込まないことです。

意志は、行った礼拝がファルドなのかワージブなのか、スンナなのか、ムスタハブなのかを知ること、そのことを意識すること、世俗的な事柄を心から消し去ることで成り立ちます。ウィトルの礼拝を行うことはイマーム・アーザムによるとワージブであり、二人のイマームとマーリキー及びシャーフィー学派においてはスンナです。（マーリキー派に従う人が困難な状態に陥った場合なると、ウィトルの礼拝を放棄することは許されています。）

最初のタクビールは、男性が両手を耳まで上げること、心が覚醒していること、準備のできた状態であることによって成り立ちます。キブラに向かって立ち、サジュダを行う場所を見て、クヤームの際には左右に揺れないことです。

クラートは三つの事柄によって成り立ちます。声を出して読む際には声を出し、聞こえないように読む際には自分が聞こえる程度の声で文字を正しく読むこと、クルアーンの意味を考えることです。タジュウィードに従って読むことです。（礼拝を行う際に唱えられるタクビールと、礼拝の中で読まれる全てのこと、そしてアザーンはアラビア語で唱えることが必要です。これらのアラビア語は、教えを知り、その学派の規律の書物に従うハーフィズ（クルアーンを暗唱している人）から学ぶべきです。ラテン文字で書かれたクルアーンは正しく読むことはできません。不足や過ちが生じます。クルアーンは、解釈を行うことはできますが、翻訳を行うことはできません。教えのない人、学派のない人たちが、「トルコ語のクルアーン」と呼んでいるものは正しくありません。誤り誤ちがあり、損なわれたものとなります。ムスリムミは皆、クルアーン教室に通い、アラビア語イスラームの文字を学び、クルアーンや祈りの言葉を正しく読むべきです。このように、正しく読まれて、行われた礼拝は承認されます。「**タルギーブ・ウス・サラート**」では次のように書かれています。「誰かが礼拝で唱えたものが、九人の学者によれば過ちであり、一人の学者によってるなら正しいのであれば、その人の礼拝は誤ったものということはできない。」

ルクウは三つの事柄によって成り立ちます。キブラの方角法学に向かって完全に体を折ること、腰と頭が同じところにあ

ること、きちんと動きを止め、（それに確信をもって）その状態でとどまることです。

サジュダは三つの事柄によって成り立ちます。サジュダをスンナに従って行うこと、額と鼻を同列に床につけること、きちんと動きを止めることです。（健康な人が25センチまでの高さでサジュダを行うことはが、許されるとはいえ、忌避されるべきものです。なぜなら預言者ムハンマドや教友たちの誰も、高い場所でへのサジュダは行っていなかったからです。より高い場所にサジュダを行うなら、礼拝は無効となります）

最後の座位は三つの事柄によって成り立ちます。１．男性が右足を立て、左足の上に座ること、女性は正座して、足を右側から出した状態で座ること、２．タヒヤートを決められた形で読むこと、3. 最後の座位においてサラワート（祝福祈願）とドゥアー（祈りの言葉）を唱えることです。礼拝の後で唱えられる言葉は251ページに記載されています。

## グスルについて1}

グスルのファルドはハナフィー派では三つ、マーリキー派では五つ、シャーフィー派では二つ、ハンバリー派では一つとなりまです。ハナフィー派では、

１．　一度口に水を入売れること、歯の間や歯の穴歯の溝1}の中を濡らすことがファルドです。（ハナフィー派の人は、どうしても必要な場合を除いて、き歯に詰め物をしたり、覆ったりすることができません。入れ歯がある人はを作り、グスルを行う際にはそれらを外し、その下を洗います。どうしても必要な場合は、詰め物をしたり覆ったりすることができます。しかし、グスルやウドゥーを行う際には、「シャーフィー派もしくはマーリキー派に従います」とニーヤ（意志表示）を行う人が必要がありまです。

２．　一度、鼻に水を入れること、

3.　一度、全身を洗うこと

これらが必要です。全身の、濡らすことでが害を及ぼすことのない場所を全て洗うことがファルドです。体の一部を、がやむを得ない理由、すなわち人によるものではなくすなわち人が行ったことではなく、生まれつきの理由で濡らすことができないのであれば、それは許されて、グスルが有効となります。

「**ドゥルッル・ウル・ムフタル**」では次のように語られています。「歯の間や歯の穴歯の溝1}に残った食べ物は、グスルが有効なものとなることを妨げない。ファトゥワー（示された

見解）がこうなっているのである。なぜなら、これらの下が濡らされるからである。しかしながら、残ったものが固体個体である場合、れば妨げとなると言われる。これが真実である」

**イブニ・アービディン**（アッラーの慈悲がありますように）は、このことについての説明として、「**フラーサー**」の本でも「妨げにはならない、なぜなら水は流動性のあるものであり、食べ物の下をも濡らすからだ」と語っています。水によってが濡らされていないしていないことが明らかに分かれる場合ば、これらの学者たちによるなら、グスルは有効となりません。「**ヒルヤ**」という本はこれを明快に示しています。残ったものが口の中で溶けて、固まったのであれば、水を通さない為、グスルは有効とになりません。なぜなら、ここにはやむを得ない事情はないからです。（つまり、ひとりでに生じたものではないからです。これらを清めることも困難ではないからです）

「**ハラビー・サウル**」では次のように語られています。「誰かの歯の間にパン、食べ物、もしくは何かの残りが香挟まっている時にグスルを行う場合えば、ファトゥワーによるなら、水が通らないと考えられたとしても、グスルは有効となります。なぜなら水は流れるものであり、下にも行くからです。」このようなファトゥワが出されたことが、「**フラーサー**」で書かれています。一部の学者によれば、残ったものが固体個体であれば、グスルは認められません。「**ザヒーラ**」の本でもこのように書かれています。正解もこれが正しいですです。なぜなら、下に水が通らないからです。やむを得ない事情も、困難さもないからです。

「**ドゥルッル・ウル・ムンタカ**」では次のように語られています。「歯の穴歯の溝1}に食べ物が残っている数がある状態でグスルを行った人のグスルは、有効であるという人、また有効ではないという人がいはる。予防措置として、食べ物のかすはあらかじめ取り除くべきである」

「**メラークルフェラフ**」の「**タフタウィー**」という注釈では次のように語られています。「歯の穴歯の溝、もしくは歯の間に食べ物かすが残ったのであれば、グスルは有効となる。なぜなら水は流れるものであり、あらゆるところに浸透するためである。食べ物のかすが噛まれてかまれ、硬くなっていた場合は、グスルの妨げとなる。」「**ファトゥフ・ウル・カディル**」でも同様に書かれています。

「**バフル・ウル・ラーイク**」では次のように語られています。「歯の穴歯の溝1}に食べ物が残った場合でものであれば、グスルは有効となる。なぜなら水は軽やかなものであり、あらゆる場所に浸透するからである。」「**タジュニス**」でも同じよ

うに書かれています。

サドゥル・ウシュ・シャヒド・フサーメッディンは、「グスルは有効とならない、これを取り出して歯の中に水を流すことが必要である」と語っています。取り除き出し、その下を洗うことは慎重さ1}となります。

「**ファトゥワ・ヒンディーヤ**」では次のように語られています。「歯の穴歯の溝1}もしくは歯の間に食べ物かすが残った人のグスルは有効である、という言葉がより正しい。」「**ザーヒディー**」でもこのように書かれています。しかし、かすを取り除き出し、穴1}に水を流すことが慎重さとなります。「**カーディハーン**」では次のように語られています。「歯に食べ物かすが残っている人のグスルが受け入れられ完了とはならないことは『**ナーティフィー**』で書かれている。これを取り除き出し、その下を洗うことが必要である。」

「**アル・マジュムアート・ウズ・ズフディーヤ**」では次のように語られています。「少量であれ多量であれ、歯の間に残った食べ物のかけらがは、固い生地のようになり、水の浸透を妨げるのであれば、グスルをも妨げる。」「**ハラビー**」でもこのように書かれています。「食べ物のかすを取り除くり出すことには困難さはない。詰め物やコーティングであれば取り出す出ことはできせないが、それらを。取り出すことがは困難に該当するであるとは言えない。そう、困難さはあるものの、、しかし人が行ったことが困難さの要因になる場合には、他の学派に従う為の理由となる。しかし、ファルドをと放棄する理由にはならない。ファルドの放棄が有効となる為には、他の学派にに従うことができずえず、その状態でやむを得ない事情や困難さが存在することが必要である。『（歯の詰め物もしくはコーティングは、歯痛を防ぎ、歯が破損しないようにする為である。これはやむを得ない事情とはならないのか』）と言われれば、返事として次のように言うだろう。やむを得ない事情となる為には、他の学派にに従うことが不可能であることが条件となる。

「『グスルを行う際に歯を洗うという規定は、歯のコーティングや詰め物の表面」、に移行する』、という言葉いうことは、イスラームにふさわしいもの言葉ではない。」

タフタヴィーは「**イムダード**」の注釈で次のように語っています。「ウドゥーを行った後、メスト（革靴の一種）をはいた人の清浄の状態が失われる場合、清浄の欠如は足ではなく、メストに移行する。」法学の書物で、ただウドゥーのやり方とメストについて書かれているこの言葉を、歯のコーティングについて、かつグスルのウドゥーについて述べることは、勝手に

でっちあげたファトゥワーを出すことになります。詰め物もしくはコーティングがある歯を、密集したひげに例えることも正しくありません。なぜならウドゥーを行う際に密集したひげの根元を洗うことは強制ではないとしても、グスルにおいてはこれらの下の皮膚を洗うことはファルドであるからです。「ウドゥーの際に密集したひげを洗うことがファルドではないのだから、グスルにおいても密集したひげの下を洗うことはファルドではない」という人は、グスルを行う際には密集したひげの下を洗いません。これにより、彼や彼を信じる人々のグスルや礼拝は有効ではなくなるのです。

　コーティングや詰め物を、足の傷につける軟膏、もしくは骨折した際に用いるギブス、石膏の型や包帯に例える似せることも、法学の書物には適さないことです。なぜならこれらを傷や骨折箇所から取り除くことは困難もしくは有害であり、他の学派の模倣をすることも不可能だからです。これらの三つの理由の為、覆いの下を洗うことは不可能となります。

　強い痛みを与える虫歯を抜くこと、取り外し可能な人工歯、または口蓋の半分または全体を備えた入れ歯を作らせることを望まず、詰め物またはクラウンと呼ばれるコーティングを自由に行うことは人の自由ですがあり、詰め物、コーティング、もしくはブリッジと呼ばれる固定される歯を作ることは必要不可欠ではありません。必要不可欠であることを訴えても、覆いの下を濡らすことが不可能となる理由とはありません。なぜなら、他の法学派を模倣することが可能であるからです。やむを得ないと言っていい、法学の書物に従い、シャーフィー派もしくはマーリキー派に従う人に何かを言う権利は誰にもありません。

　人に何かを行わせることを強いる天からの理由、つまり人にはどうしようもない理由を「**やむを得ないもの**」と呼びます。イスラームが命令や禁止を行うこと、強い痛み、長期もしくは命にかかわる危険があり、他にどうしようもないという状況は全て、「やむを得ないもの」です。行われた何らかの事柄がファルドを妨げること、もしくはハラームを犯す要因となることを防ぐことの難しさを「**困難**」と呼びます。アッラーの命令や禁止事項を**イスラームの規律**と呼びます。イスラームの規律により何かの判断をする場合、つまり命令されたことを行う際、もしくは禁止されたことを行うことを避ける際、自らの法学派の学者たちの、良く知られ、選ばれた言葉に従います。人が行ったことにより、学者たちのこの言葉に従うことが困難であれば、選ばれてはいない、あまり知られていない言葉に従います。他の法学派を模倣することが困難であれば、困難さの要因

であることの実行がやむを得ないものであるかどうかを見ます。

1．　困難さの要因となることの実行がやむを得ないものである時は、そのファルドを行うことは不可能となります。

2．　困難さの理由となる物事が行われることがやむを得ないものではなければ（マニキュアのように）、もしくはやむを得ない場合でもいくつかの選択肢があり、そのうち困難なものを行うことを求めているのであれば、その崇拝行為は有効とはなりません。困難さがないものを行い、このファルドを実行することが必要となります。やむを得ないものであれ、そうでないものであれ、困難さが伴うのであれば他の法学派に従うということは、「**ファトゥワル・ハディシーヤ**」及び「**フラーサ・トゥル・タフリーク**」で、さらにタフタウィー（アッラーの慈悲がありますように）の「**メラークル・ファラフ**」の注釈で、そしてモッラー・ハリル・エシルディ（アッラーの慈悲がありますように）の「**マフワート**」という書物で書かれています。モッラー・ハリルは1259年（西暦1843年）に亡くなっています。痛む虫歯を抜き、入れ歯を用いることを望まず、詰め物もしくはコーティング、すなわちクローンを作ったハナフィー派の人は、グスルを行う際、シャーフィー派もしくはマーリキー派に従います。なぜならこの二つの法学派では、グスルを行う際に口や鼻を洗うことはファルドではないからです。シャーフィー派もしくはマーリキー派に従うことも大変容易です。グスルやウドゥー、礼拝を始める際に、もしくは忘れていて礼拝後に思い出した時に、シャーフィー派もしくはマーリキー派に従うことをニーヤ（意志表示）しなければなりません。つまり、それを意識しなければいけません。シャーフィー学派において有効となる為には、婚姻することが永遠にハラームとなる関係にある18の女性以外の女性の肌に、もしくは自分の陰部に掌が触れた場合、ウドゥーを行う必要があります。そしてイマームの背後では心の中でファーティハ章を唱える必要があります。マーリキー派に従うことについては525ページを参考にしてください。他の法学派に従うことは、法学派を変えることをは意味しません。従っているハナフィー派に従っているの人は、ハナフィー派から抜けたことにはなりません。ただ、その崇拝行為のファルドやムフシドに従います。ワージブ、マクルーフ、スンナについては自らの法学派に従います。

法学派たちの、グスルについての見解が明らかである一方で、歯のについての問題についてを、。権限のない、学派すら持たない人が書いたもので解決しようとしている人がいることが分かっています。歯に詰め物をすることが許されるというこ

とは、「サビル・ウル・レシャド誌」の1332年（1913年）の号に書かれたファトゥワで通知されている、と言いう人々がいます。まずお知らせしたいのは、この雑誌は、改革派や、学派に従わない人々の文章で満たされているということです。著者の一人、マナストゥルのイスマイル・ハックは隠れたフリーメイソン会員です。イズミル出身のイスマイル・ハックは、フリーメーソン会員であるカイロの宗教責任者、改革派、メフメッド・アブドゥフに彼らに騙された人々の筆頭です。高校教育をイズミルで高校教育を受け、イスタンブールで教員養成校を終えています。宗教教育、宗教文化に通じているとは言えませんは脆弱です。彼はユニオニストに気に入られることで神学校の教師となりました。その授業や本で、アブドゥフの改革的、分離主義的な思想を広めようとしました。彼が毒して、逸脱させた生徒せいとのうち、アフメッド・ハムディ・アクセキという人物は、が「**タルフィキ・メザーイフ**」という、、学派を持たないエジプト人ラシド・ルザーからの翻訳本を書きました。ここにに書かれたいた賛辞は、彼の内面を明らかにするものとなっています。

　このイスマイル・ハックは、名を挙げた雑誌において歯の下側を細い糸で結ぶことが許されるかどうかという事柄について、法学派の意見の論争を長々と書き、銀の代わりに金のワイヤーで歯を結ぶ必要があると述べている学者の本、例えば「**シヤル・カビール**」の注釈を示し、歯の問題はやむを得ないものであるとしています。しかし彼に尋ねられていることは、歯の下側を金の糸で結ぶのか、銀の糸で結ぶのかという問題ではなく、詰め物やコーティングがある人のグスルは有効か？という問いなのです。イズミル出身のイスマイル・ハックは、自分には問われていない、皆が知っていることを長々と書き、その結果を問いへの答えとして示しているのです。この行為は学問における虚偽です。自分の見解を、イスラーム学者のファトゥワとして書くことを意図したものです。これでも不十分であるかのように、法学者たちのグスルについての文章を書き、自分の見解をそれらに似せています。例えば、「バフルという本で明らかにされているように、到達することが困難である場所に水を触れさせることは条件ではない」と書いています。しかし「**バフル**」という本では、「体の中で水を至らせることが困難な場所に」』と書かれています。人がやむを得ないものとして行ったことを、人においてやむを得ない事情がある事柄に似せているのです。「**ドゥルッル・ムフタール**」という本の、「女性にとって頭を洗うことが害を及ぼすものであれば、洗わない」という文章を、歯の詰め物がある人のグスルの有効性の証拠として示すことも、正しくありません。水が触れることで頭に害

を及ぼすのは、体の病気の場合です。歯のコーティングや詰め物は、人が行ったことです。その為、「**ドゥルッル・ムフタール**」では、歯の穴歯の溝に食べ物かすが入っている人のグスルが有効となるかどうかについては別に書かれているのです。

イズミル出身のイスマイル・ハックは、これらの欺瞞と過ちで十分とすることもなく、イスラーム学者を偽りの証人として示すことを躊躇しませんでしたせず。「水を、金や銀のコーティングもしくは詰め物の下に至らせること、そこを洗うことは条件ではない。歯の問題にやむを得ない状況があること、やむを得ない状況にある場所に水を届かせることが条件ではないことは、法学者たちによって意見の一致と共に教えられている」と書いています。歯のコーティングと詰め物がやむを得ないものであるとは、ハナフィー派の学者のうち誰も言っていません。そもそも法学者たちの時代には、歯のコーティングも詰め物もありませんでした。資料として主張している「**シヤル・カビール・シェルヒ**」の翻訳書の4ページで、イマーム・ムハンマド・シャイバーン（アッラーの慈悲がありますように）は、歯が抜けた人がその歯の代わりにその下から歯を置くこと、もしくは下部から糸で歯を結ぶことが許されていると述べている、と書かれています。歯のコーティングについては書かれていません。これはイズミル出身のイスマイル・ハックが付け足した事柄なのです。後から出現したフリーメーソンの宗教家、法学派に従わない人々、逸脱した人々がムスリムを欺く為、分裂主義を遂行する為にあらゆる計略を用いているのです。誤った事、逸脱したことが書かれています。

イマーム・ムハンマド（アッラーの慈悲がありますように）は、ぐらぐらしている歯を銀で結び付けていたように、金の糸でも結び付けることができることを教えています。金でコーティングすること、詰め物をすることが許される、とは書いていないのです。これらはイスマイル・ハックのような人々が付け加えてきたものです。

イズミル出身のイスマイル・ハックによるの、前述のような誤りとった、策略に満ちた文章に対し、当時の宗教指導者や宗教家は反応を示して、真実を明らかにしています。こういった尊い学者の一人が、ボルヴディン出身の教授ユヌス・ザーデ・アフメッド・ワフビー師（アッラーの慈悲がありますように）です。広い宗教知識を持つこの人物は、歯に詰め物をした人のグスルが有効とはならないという点について、学者たちが意見を一致させていることを証明しています。

「**サビル・ウル・レシャド**」誌は、このイズミル出身者の文章がでたらめであり、策略に満ちたものであることを理解し

たようです。彼は、あり、「**マジュムア・イ・ジェディーダ**」という名のファトゥワの本の1329年（西暦1911年）の第2版で、「グスルは許される」というファトゥワを資料として付け加えることを必要と見なしました。しかしこのファトゥワは、1299年の第1版には存在しませんでした。第2版にユニオニストの一人であるシャイフ・ウル・イスラームのムーサー・キャーズムが付け足したものです。「サビル・ウル・レシャド」誌は、改革派の人の文章を、フリーメーソンの文章で証明しようとしているのです。法学者は誰一人としても、歯のコーティングや詰め物がやむを得ないものとは言っていません。これはただ、フリーメーソン会員の宗教家や宗教改革家、学派に従わない人々、逸脱したワッハーブ派に売られたもしくは騙された宗教的に無知な人々が語り、書いていることなのです。

アフマド・タフタウィー（アッラーの慈悲がありますように）は、「**メラークルフェラフ**」の注釈で次のように書いています。「他の法学派のイマームに従うことが有効となる為には、従っている人の礼拝を損なう事柄がイマームに存在しないこと、もし存在するのであれば従う人がそれを知らないことが必要である。信頼されている見解はこれである。二つ目の見解によるなら、イマームが自身の法学派に照らして礼拝が有効となっていれば、従う人の法学派に照らして有効でないことがわかったとしても、彼に従うことは有効となる。」イブニ・アービディーンでもこのように書いています。タフタウィーとイブニ・アービディーンのこれらの言葉から理解されるように、コーティングや詰め物がないハナフィー派の人が、コーティングや詰め物をしているイマームに従うことが有効かどうかについては、学者たちには二つの別々の見解があります。一つ目の見解によると、コーティングや詰め物がないハナフィー派の人がコーティングや詰め物をしているイマームに従うことは有効とはなりません。なぜならこのイマームの礼拝は、ハナフィー派によれば有効ではないからです。二つ目の見解によるなら、このイマームはシャーフィー派もしくはマーリキー派に従っているのなら、コーティングや詰め物がないハナフィー派の人が彼に従うことは有効となります。イマーム・ヒンドゥワーニー（アッラーの慈悲がありますように）はこのような見解を示しています。マーリキー派においても同様です。コーティングや詰め物がある、認められているイマームが、マーリキー派もしくはシャーフィー派に従ってはいない、ということが明らかではない限り、コーティングや詰め物がないハナフィー派の人はこのイマームに従うべきです。この人に、マーリキー派もしくはシャーフィー派に従っているかどうか尋ねること、それを探ることは許されません。この二つ目の見解は信頼度は低いものであ

るとはいえ、困難な状態にある時は弱い見解に従うことが必要であることは先述の通りです。騒乱を防ぐ為に弱い見解に従って行動するということは、「**ハディーカ**」でも書かれています。法学派に重きを置かず、イスラーム法の書物に従わずに崇拝行為を行う人はスンナ派ではないことは明らかです。スンナ派でない人は、ビドゥアの持ち主であるか、逸脱した人、もしくは信仰を失ったムルタドとなります。私たちはコーティングや詰め物をできない、と言っているのではありません。それを行った兄弟たちの崇拝行為が認められる為の道を示しているのです。容易となる手段を示しているのです。

グスルのウドゥーは15種あります。五つはファルドであり、五つはワージブであり、四つはスンナ、一つはムスタハブです。ファルドであるグスルは、女性の月経や産褥が終わった時、男性が射精をしたとき、夢精をして寝床や下着に精液が見られた時には、まだしていない礼拝の時間が過ぎる前にグスルを行うことがファルドとなります。

ワージブとなるものは、遺体を洗った時、、精通があった時にグスルを行うこと、夫婦で寝ている時に時、二人の間に体液があり、それがどちらからのものかわからない時には二人ともグスルを行うこと、誰の服も汚れていないものの、それがいつのものかわからない場合にグスルを行うこと。そして女性が出産した時、出血がなかったとしてもグスルを行うこと（出血があった場合にはグスルはファルドです。）1}

スンナとなるものは、金曜日やイードの日、イフラームの時に（どのような意図であれ）アラファトに上る前にグスルを行うことです。ムスタハブであるグスルは、不信心者が信仰を持った時（不信心者であった時にグスルが必要な状態であればグスルはファルドとなります）、グスルが必要な状態でなければ、ムスタハブとなります。

グスルのハラームは三つです。

１．　男性が男性に、女性が女性に、グスルの時間にへその下からひざの下1}までの場所を互いに見せること

２. ムスリムの女性が、不信心者の女性に、グスルを行っている姿を見せること（他の場合においても同様です）

３．　水を無駄遣いすること。

グスルのスンナは派ハナフィー派では13あります。

１．　水でイスティンジャーを行う、すなわち排泄器官を清めること

２．　両手を手首まで洗うこと

３． 体に汚れがあれば取り除くこと

４． 口と鼻に水を入れて洗うこと（、口と鼻に、濡らしていない場所が針の先ほどでもあれば、グスルは有効となりません）

５． グスルのウドゥーの為に意思表示を行うこと

６． 全ての器官を水で濡らしながら擦るこすること

７． まず頭にを、それから右、その後左の肩に三回ずつ水をかけること

８． 手と足の指の間を洗うこと

９．体の前後をキブラに向けないこと

１０． グスルを行う際には世俗的なことを話離さないこと

１１． 口と鼻を三回ずつ洗うこと

１２． 全ての器官を洗う際にはについて右から始めること

１３．グスルを行う場所で、排せつを行わないこと。ここに上げた以外のスンナもあります。

「**アル・フクフ・アラル・マザーヒブ・イル・エルバ**」では、次のように書かれています。「グスルが必要な状態である男性及び女性が、グスルのウドゥーを行う前に、ウドゥーなしで行うことが許されない行為のいずれかを行うことは、四つの法学派のどれにおいてもハラームである。例えば、グスルが必要な状態でファルドもしくはナーフィラの礼拝を行うことはハラールではない。水がなければ、もしくは病気のような理由があり水を使うことができなければ、タヤンムムを行うことが必要である。グスルが必要な状態でファルドもしくはナーフィラの断食を行うことは有効である。クルアーンを触ること、読むことはハラームである。クルアーンにウドゥーの必要な状態で触れることもハラールではない。モスクに入ることもハラームである。敵からの防衛もしくは何らかの決定を下す為に一つ二つの短いクルアーンの章句を読むこと、モスクにロープや水を取りに、もしくは他の道がないという理由の為に入ってすぐに出ることも許されている。祈りとして短い章句、例えばビスミッラー（アッラーの名において）と唱えることはできる。モスクに入る前にはタヤンムムを行う。」

## タウヒードのドゥア—

ヤーアッラー、ヤーアッラー、ラーイラーハ　ムハンマドゥン　ラスルッラー。ヤーラフマーン、ヤーラヒーム、ヤーアフィーヴ　ヤーケリーム、ファフ　アンニー　ワルハムニーヤー　アルハマルラーヒミーン！タワッファニー　ムスリマンワ　アルヒクニー　ビッサーリヒーン。アッラフムマグフィルリ　ワ　リアーバーイ　ワ　ウンマハーティーワリ　アバーイワ　ウンマハーティ　ザヴジャーティ　ワリ　エジュハーディワリ　アブナイー　ワ　バナーイ　ワ　リ　イフワーティ　ワアハワーティ　ワ　リ　アマーミー　ワ　アンマーティ　ワリ　アフワーリー　ワ　ハーラーティ　ワ　リ　ウスタージアブドゥルハキーミ　アルワーシ　ワ　リ　カーファッティルムーミニーナ　ワル　ムーミナートゥ　ラフマトゥッラーヒタアーラー　アレイヒムアジュマーイン。

## 月経と産褥について

月経の期間は最短で三日、最長で十日になります。産褥期には最短の期限はなく、それが終わり次第、グスルを行い礼拝をし、断食をする必要があります。最長では40日となります。もし月経の出血が三日以内に終わり、月経だと思って礼拝をしていなかった場合には、礼拝のカダーを行います。グスルは必要ありません。また、もし三日を満たして終了した時にはグスルを行い、定時の礼拝を行います。十日間が過ぎると出血の有無に関わらずグスルを行い、礼拝をします。産褥がも40日経過するかたつとグスルを行い、出血の有無に関わらず礼拝を行います。月経及び産褥期にはあらゆる種類のおりものは出血と見なされます。（黄色でも、濁っていても）

月経の10日間のうち、もしくは産褥期の40日間のうち、一日二日出血がなく、終了したと思ってグスルをし、断食を行い、その後また期間内に出血があった場合には、それらの断食のカダーを行う必要があります。出血がなくなればまたグスルを行う必要があります。もし周期よりも前に出血が終わり、それが三日目以降であれば、グスルを行って礼拝を行います。しかし、周期が終わるまで男性と性交渉を持つことはできません。産褥期についても同様です。もしいつもより遅く出血が止まったときれば、十日もしくはそれ以下で止まった場合、その期間は月経となります。もし十日たっても出血が止まらず、続いていた場合、いつもの周期以上の部分は月経とは見做されなりません。その日々の礼拝のカダーを行います。産褥期の40日も、月経の10十日と同様です。

ラマダーン月で空が白んでから月経もしくは産褥期が終わった場合、その日は飲食を行わずイムサークを迎えます。しかしその日は断食を行いません。カダーが必要となります。そしてもし、空が白んでから出血があり、午後の礼拝の後にそれが明らかになった場合、その日は人に見せずに飲食を行います。一般的に出血がある場合は、礼拝や断食を放棄します。そしてもし三日以内にそれが止まれば、礼拝の最後の時間まで待ち、出血があれば礼拝を行わず、なければウドゥーを行って礼拝をします。もしまた出血があれば、また礼拝を断念します、そしてまた出血が止まれば礼拝の最後の時間まで待ち、出血がなければウドゥーを行い、礼拝を行います。三日までこのように行います。グスルは必要ではありません。ただウドゥーで十分となります。三日より後に出血が止まれば、また礼拝時間の終わりまで待ち、それからグスルを行い、礼拝を行います。出血があれば礼拝を断念します。一方で月経期間が十日に至れば、それからグスルを行い、礼拝をします。出血があっても同様です。産褥についても同じです。しかし出血が止まるたびにグスルが必要となります。一日目で止まっても同様です。ラマダーン月で空が白み始める前に出血が止まれば、意志表示を行い、断食をします。もし午前中もしくは午後の礼拝の後、また出血があれば、その断食は断食とはなりません。その日についても後でカダーを行います。

もし流産をした場合、指、髪、もしくは口、もしくは鼻が明らかであれば、完全体の子供を産んだと同様に見なされます。もしどこもまだ明らかではなければ、産褥とはなりません。しかし、三日もしくはそれ以上出血があれば、月経となります。もし月経が終わって15日もしくはそれ以上たってから流産したのであり、三日以内に出血が止まった場合、もしくは月経が終わって15日経過していなかった場合、月経とはなりません。鼻血のようなものと見なされます。礼拝を行うことが必要です。断食も行います。男性と寝る際にグスルは必要とはなりません。

（偉大なイスラーム学者のムハンマド・ビルギビー（アッラーの慈悲がありますように）は、女性の月経や産褥期についてハナフィー派に基づいて教える「**ズフル・ウル・ムタアヒリーン**」という名の大変尊い本を書いています。この本はアラビア語です。アッラーマ・イ・シャーミー・サイード・エミーン・イブニ・アービディーン（アッラーの慈悲がありますように）は、この本を発展させ、「**マンハル・ウルワーリディン**」と名付けています。イマーム・ビルギビは981年（西暦1573年）にペストで亡くなっています。アナトリアのオデミシュのビル

ギ地区でした。イブニ・アービディーンは1252年（西暦1836年）にダマスカスで亡くなっています。「**マンハル**」では次のように書かれています。「ムスリムの男女はイスラームの規則を学ぶことがファルドであることが、イスラーム法学者の一致した意見として伝えられています。この為、女性や妻に月経や産褥について学ぶ許可を出すべきです。夫が許可を出さない女性は、夫の許可なく学びに行くことが必要です。女性に特有であるこれらの知識は現在では忘れられ、それを知っている宗教者は残っていないかのようです。現在の宗教者は、月経、産褥とそれ以外の出血を区別できません。これらを詳しく教える書物もありません。本を持っていても、読んだり理解したりすることができません。なぜならこれらの知識を理解することは困難であるからです。しかしウドゥー、礼拝、クルアーン、断食、イティカーフ（おこもり）、断食、成人となること、結婚すること、離婚すること、女性が離婚後に再婚を忌避するべき期間、排泄器官を清めることといった多くの宗教的行為について、血についての知識を学ぶことが必要です。これらの知識を十分に理解する為に、私は人生の半分を費やしました。学んだことを教えの兄弟たちに簡潔に説明しましょう）」

**月経：**八歳以上の結婚な1}女性、もしくは月経周期の最後の時から完全に清められた女性の性器から少なくとも三日間続いて出る血のことを言います。これを「**有効な血**」とも呼びます。周期の後で始まる15日もしくはそれ以上の期間にまったく出血がなければ、そしてその前後に月経期間があれば、この清められている期間を「**有効な清浄**」と呼びます。15日もしくはそれ以上の清められている期間より前もしくは後、もしくは二つの神聖な清浄の期間の間に出血があれば、この期間の全てを「**法的な清浄**」もしくは「**ファーシドの清浄**」と呼びます。出血がない、15日より短い期間のことも、「**ファーシドの洗浄**」と呼びます。有効な清浄と法的な清浄を「**完全な清浄**」と呼びます。完全な清浄の前後に見られ、三日継続する出血は二回の別々の月経となります。白以外のあらゆる色、そして濁ったものを月経の血と呼びます。

少女女の子は月経が始まると成熟していると見なされます。つまり女性となります。血が見られた瞬間から、止まるまでの日を「月経期間」と呼びます。月経期間は最長でも十日になります。最短で三日になります。シャーフィー派及びハナフィー派において、は最長は十五日、最短は一日になります。

月経の血は止まることなくずっと出ている必要はありません。最初の出血が止まり、数日後にまた出血があれば、その間の三日以内の出血のない期間も、見解の一致により、ずっと出

血があったと見なされます。三日及びそれ以上続く出血のない月経が十日目よりも前に終われば、イマーム・ムハンマド（アッラーの慈悲がありますように）がアブー・ハニーファ（アッラーの慈悲がありますように）から伝えたところによると、十日間ずっと出血していたと見なされます。イマーム・ムハンマドが伝えている別の伝承もあります。イマーム・アブー・ユスフ（アッラーの慈悲がありますように）によれば、十五日より前に終わった出血のない全ての日も、出血があったと見なされます。女の子が一日出血を見て、十四日間出血がなく、その後一日出血があれば、そしてまた女性が一日出血を見て十日間出血がなく、その後イ一日出血があれば、もしくは三日間出血、五日間出血がなく、その後一日出血があれば、イマーム・アブー・ユスフによれば、女の子の最初の十日は月経と見なされます。一人目の女性は周期の日数だけ月経となり、それ以降の日は全て月経ではない出血となります。二人目の女性では、九日間が全て月経と見なされます。イマーム・ムハンマド（アッラーの慈悲がありますように）の一つ目の伝承によれば、ただ二人目の女性のみ、九日間月経と見なされます。イマーム・ムハンマドの二つ目の伝承によると、二人目の女性の最初の三日間のみが月経であり、それ以外は月経とは見なされません。私たちは自分たちの本を「**ムルテカ**」から翻訳し、これらの知識のすべてをイマーム・ムハンマドの一つ目の伝承に応じて書きました。ここでの一日とはちょうど24時間を指します。未婚の女性は月経時に、既婚の女性はいつでも、子宮口に「キュルスフ」と呼ばれるガーゼか綿を置き、それに香水をつけておくことがムスタハブです。キュルスフのすべてを子宮内に入れることはマクルーフです。キュルスフに何ヶ月何か月も毎日血のしみがつく人は、最初の十日を月経、その後の20日を月経ではない出血と見なします。**不正出血**と呼ばれるこの出血が治まるまで、常にこのような形で続けます。女性女の子に三日間出血があり、一日出血がなく、その後また一日出血があり、二日なく、その後また一日あり、一日なく、また一日あれば、この十日間は全て月経となります。毎月、一日出血があり、一日出血がなく、十日間ずっとこの形で続くなら、出血があった日には礼拝と断食を断念します。翌日はグスルのウドゥーをし、礼拝を行います。（**メサーイル・イ・シェルヒ・ウィカーヤ**）。三日よりも、つまり72時間よりも5分でも短く、また新しく始まった人については十日以上長く続けば十日目以降、新しくない人については周期よりも長く十日をも超えた場合、周期である生理日以降に来た、さらには妊娠している、及び高齢の女性、そして九歳よりも小さい女性からの出血は月経ではありません。」これは**不正出血**と呼ばれます。女性は55歳前後で閉経します。

生理周期が五日間である人は、太陽の半分が昇った時点で出血を見て、十一日目の朝に太陽の三分の二が昇る際に出血が終わったのであれば、すなわち十日を数分越えたのであれば、生理周期である五日間より後の出血は不正出血となります。なぜなら、日の出の時間の六分の一ほど、十日十夜の期間を越えているからです。十日を満了するとグスルを行い、生理期間の後でできなかった礼拝のカダーを行います。

不正出血の期間中の女性は、排尿が抑えられない、もしくは鼻血が止まらない人と同様、支障のある状態となります。礼拝を行い、断食をすることが必要です。そして出血中でも性交渉が許されます。

イマーム・ムハンマドの見解によると、少女が産まれて初めて出血を見た時、その後の八日間出血がなく、十日目の出血があれば、十日間が月経と見なされます。しかし一日出血があり九日間なく、十一日目にまた出血があった場合、どの日も月経とはなりません。出血があった二日は不正出血となります。なぜなら十日目以降に見られる出血以前の、出血のない日々は月経とは見なされないことは前述のとおりです。十日目、十一日目に出血があれば、その間の出血がなかった日も月経と見なされ、十日間の月経と十一日目の不正出血とされます。

不正出血は病気の印です。長時間続くことは危険です。医師の診察を受ける必要があります。リュウケツジュ（ドラゴンツリー）と呼ばれる植物を朝晩、1グラムを水と共に飲めば、出血が治まります。日に五グラム、摂取接種できます。女性の月経や出血のない時期は多くの場合、毎月同じ日数になります。ここで毎月というのは、月経の開始日から次の月経の最初までの期間を言います。女性は皆、自分の月経や出血がない時期の日数や時間、つまり周期を記憶しておくべきです。周期は長い期間、変わりません。変化があった場合は新しい周期を覚えるべきです。

周期の変化については「*メンヘル*」という本で次のように書かれています。女性は前回の月経の時期や日数に適した形で出血があれば、周期が変わっていないことを理解します。合っていなければ、周期が変わったことが理解されます。この種類は後述の通りです。一度でも合わなければ周期が変わったと見なされます。このようにファトゥワが出されています。周期が五日である人は、出血が終わった後、六日目に出血を見れば、この六日目は新しい月経であり、新しい周期となります。出血がない時期の日数も一度で変化します。これが変化すると月経の時期が変化することになります。周期が、五日間の出血、25日間の出血のない時期である場合、ある時三三日間の出血と25

日の出血のない日ヒとなれば、もしくは五五日間の出血と23日の出血のない時期となれば、前者では出血、後者では出血のない日の数が変化しています。同様に十日を超える不正出血があれば、そしてその後に三日もしくはそれ以上の前回の周期である日数に合致すれば、そして前回の周期の残った部分が次の周期の出血のない期間に合致すれば、周期である日数に合致する日は、新しい周期となります。周期が変化したことになります。周期が五日であり、出血がない時期の終了の七日前に出血が始まれば、かつ11日それが続けば、この出血は十日を越えている為に不正出血となります。これが三日以上続く場合、つまり四日目が前回の周期に含まれる場合、前回の周期から増えている一日は新しい出血のない期間に含まれます。周期は変化せず、日数が四日となっています。この二つの形で周期の変化をさらに説明しましょう。

前回の日数とは異なる次の回の出血日数が十日以上であり、そのうちの三日もしくはそれ以上が前回の周期の日数に含まれていなければ、月経の時期が変化しています。日数は変わらず最初に出血を見た日から始まります。周期が五日である女性が、その後の月にこの五日の中で出血を見ず、もしくは最初の三日のうちになく、その後の11日に出血を見たのであれば、最初の日から始まり、月経は五日であり、時期が変化したことになります。三日もしくはそれ以上の出血日が前回の周期の中に含まれていれば、その日が月経となり、残りは不正出血となります。周期の五日前に出血があったときあれば、周期である時期に出血がなければ、そして周期が過ぎてから一日出血があれば、その間の出血がない五日は、イマーム・アブー・ユスフによれば月経となり、周期は変わりません。周期の最後の三日、そしてその後の八日間出血があれば、そのうちの最初の三日が月経となり、日数が変化したことになります。その後の出血が十日を過ぎなければ、かつその後に出血のない時期があれば、全て月経となります。その後の出血がないべき期間が不正出血であれば、周期は変わりません。周期が五日であり、六日間出血があり、その後14日出血がなく、それから一日出血があれば、周期は変わりません。上記で示したことが十分に理解できるように、五日間出血、55日間出血がない期間、という周期である女性を基に、11の例を示しましょう。

1． この女性が五日間出血を見て、15日間出血がなく、11日間出血がくれば、周期による月経は55日後であることから、前回の周期の中では出血がありません。周期は変わらず、日数も変わりません。11日の最初の五日が月経となります。

2． 五日出血、46日出血なし、それから11日間出血があれ

ば、11日間の最後の二日は、前回の周期の中に含まれているものの、三日よりも少ないことから、周期の日数は変わりません。ただ時期が変化しています。

３．　五日間出血があり、48日間出血がなく、11日間出血があれば、11日間のうち七日間は月経ではない期間、五日間は周期に含まれており、変化はなかったことになります。

４．　五日間出血、44日間出血のない期間、一日出血、14日出血のない期間、一日出血、となる場合、間の一日の出血は月経ではない期間の最後の一日となります。14日は異常な出血のない期間であり、これは出血日となります。その最初から五日間が、月経日となります。周期の時期や日数は変化しません。

５．　五日間出血、47日間出血なし、三日間出血、14日間出血なし、一日出血となれば、三日間の出血が周期の時期に合致しています。これ以上の14日間は出血日と見なされ、十日を越えている為に周期は日数のみが変わります。

６．　五日間出血、55日間出血なし、九日間出血となれば、九日目以降は出血がない日となれば、九日が月経日となります。日数のみが変化します。周期にも、それ以降にも三日以上あります。

７．　五日間出血、50日間出血なし、十日間出血となれば、十日間が月経日となります。出血のない日数が50日となっています。出血のある期間は周期通りの時期、日数となっています。

８．　五日間出血、44日間出血なし、八日間出血となれば、八日間は月経であり、三日以上が周期に収まっています。月経日と出血のない日の数が一日変化しています。

９．　五日間出血、50日間出血なし、七日間出血となれば、七日間は月経であり、そのうち既定の周期より前に、三日未満が周期に収まっています。月経の時期と日数、月経ではない期間の日数のみが変化しています。

10.　五日間出血、58日間出血なし、三日間出血であれば三日間は月経であり、そのうちの二日は周期に含まれており、一日はその後になります。月経の周期と時期、月経のない日の数が変わっています。

11. 五日間出血、64日出血なし、七日もしくは11日出血があれば、前者の場合七日間月経であり、周期と時間が変わっています。後者の場合11日の最初の五日間が月経であり、六日間は不正出血となります。周期の時間の身が変わっています。日数は十日を越えている為、変わりません。月経ではない日の数が変化しています。

イマーム・ファフルッディン・オスマン・ゼイライー（アッラーの慈悲がありますように）は「**タビイーン・ウル・ハカーイク**」という書物で、そしてアフマド・シルビーン（アッラーの慈悲がありますように）の注釈で次のように語っています。「周期の一日前に出血、十日間出血のない期間、一日出血があれば、イマーム・アブー・ユスフによれば（アッラーの慈悲がありますように）出血がなかった十日により月経が始まり、周期まで続く。つまり、月経の最初と最後の日々は出血を伴っていない。なぜなら周期の前と十日の後に出血があり、その間は異常な出血のない期間と見なされるからである。イマーム・ムハンマドによれば（アッラーの慈悲がありますように）、このうちのどの日も月経とは見なされない。五日間の出血、25日間の出血のない期間が周期である女性は、

１．一日前に出血があり、一日出血がなく、その後出血があり十日を超える場合、アブー・ユスフによると五日間が月経となる。前と後の日は不正出血となる。イマーム・ムハンマドによれば、周期に合致している三日の出血日が月経となる。これらは周期の二日目、三日目、四日目に当たる。なぜなら周期の一日目には出血がないからである。出血があったうちの五日目は、周期には含まれない。

２．周期の一日目に出血があり、その後一日出血がなく、それから出血が見られ十日を越えれば、見解の一致として五日間が月経となる。なぜなら最初と最後の日に出血があるからである。

３．周期の最初の三日出血があり、その他の二日には出血がなければ、それから出血があり、十日を超える場合、アブー・ユスフによれば周期である五日が月経となる。イマーム・ムハンマドによれば、周期の最初の三日が月経となる。なぜならイマーム・ムハンマドによれば月経の最初と最後の日には出血があるべきだからである。」

「**バフル**」や「**ドゥッル・ウル・ムンタカ**」でも次のように記されています。「出血が、周期を越え、十日より前に終わった場合、出血が終わった後15日以内に全くなければ、超過した部分が月経となることは見解の一致により示されている。この場合、周期が変わっていない。15日のうちに一度でも出血があれば、周期を越えたものは月経にはならず不正出血となる。不正出血であることが分かれば、その日にできなかった礼拝のカダーを行う」

周期の後、そして十日より前に出血が終わった礼拝は、終わりの刻限が近づくまで待つことがムスタハブとなります。それからグスルを行い、その時間の礼拝を行います。その後で性

交渉が許されます。待っている間、グスルと礼拝を逃した場合、礼拝の時間が過ぎてしまえば、グスルなしでの性交渉が許されます。

女性の初潮及び周期の15日後に見られる出血が三日以内に終われば、礼拝の時間の終わりが近づくまで待ちます。、それからグスルは行わず、ウドゥーを行い、その礼拝を行い、それ以前にできなかった礼拝のカダーを行います。その礼拝を行った後でまた出血があれば、礼拝を行いません。出血がなければ、時間の終わり近くにウドゥーを行い、その礼拝を行い、できていない礼拝があればカダーを行います。三日間が満了されるまでこのように行います。しかしグスルを行ったとしても性交渉はハラールとはなりません。

出血が三日を越えた場合、周期より前に出血が止まれば、周期が終わるまではグスルを行ってその礼拝をします。できなかった礼拝のカダーはしません。断食は行います。出血が止まった日以降15日間全く出血がなければ、止まった日が周期の終わりとなります。しかし出血が再び始まれば、礼拝をやめます。行った断食も、ラマダーン月の後にカダーを行います。出血が止まればまた礼拝の時間の最後の方でグスルをして礼拝を行います。断食も行います。十日まで、このように続けます。十日以降は、出血があっても再びグスルを行うことなく礼拝をし、グスルの前にも性交渉がハラールとなります。しかし性交渉の前にウドゥーを行うことがムスタハブとなります。日の出の前に出血が終われば、日の出までにグスルを行い服を着るだけの時間があり、アッラーフ・アクバルというだけの時間はない場合でも、その日の断食は行います。しかし夜の礼拝のカダーは必要ありません。タクビールを唱えるだけの時間があれば、夜の礼拝のカダーを行うことが必要になります。イフタールより前に月経が始まれば、断食は損なわれます。ラマダーン月の後、カダーを行います。礼拝中に月経が始まれば、礼拝が損なわれます。月経が終わってから、ファルドの礼拝のカダーは行いません。ナーフィラのカダーを行います。日の出の後、目が覚めた時に寝床に血を見れば、その瞬間に月経中となります。寝床に血を見なければ、寝ている時に月経にはならなかったことになります。双方とも、深夜の礼拝を行うことはファルドとなります。なぜなら礼拝がファルドとなるか否かは、その時間の最後の数分に出血のない状態でいることにかかっているからです。その時間の礼拝を行う前に月経となった人は、その礼拝のカダーは行いません。

二つの月経の間に「1}**完全な清浄の期間**」があることが必要です。この完全な清浄の期間が「**有効な清浄**」であれば、その

前及び後の出血がそれぞれ別の日会の月経となることが見解の一致として示されています。

十日間の月経期間中に、出血があるはずのあった日の間に存在する出血のない日は、月経と見なされます。十日以降の不正出血のあった日については清浄と見なされます。女性に三日間出血があり、その後15日間出血がなく、それから一日出血、一日出血なし、その後三日間出血があれば、出血のあった最初と最後の三日間はそれぞれ別の月経となります。なぜなら周期は三日であり、二回目の月経が途中の一日の出血から始まっているのです。この一日はその前の完全な清浄を無効にします。モッラ・フスラブ（アッラーの慈悲がありますように）は「**グレル**」の注釈で次のように語っています。「女性が、一日出血、14日出血なし、一日出血、八日出血なし、一日出血、七日出血なし、二日出血、三日出血なし、一日出血、三日出血なし、一日出血、二日出血なし、一日出血であった場合となれば、イマーム・ムハンマドによれば（アッラーの慈悲がありますように）、この45日間のうち14日の後の十日間が月経であり、それ以外は不正出血となる」なぜならこの十日以降、完全な清浄がなく、新しい月経は始まっていないからです。その後の出血のない期間は月経の期間にないことから、ずっと出血があったとは認められません。（イマーム・アブー・ユスフによれば（アッラーの慈悲がありますように）、最初の十日と、二回の出血のない日を経た四回目の十日間が月経となります。）なぜならその後の不正な出血のない期間は、イマーム・アブー・ユスフによれば、常に出血があったと見なされ得るからです。後述の第１項によれば、十日間の月経の後、20日は清浄の期間、その後の十日間（四回目の十日間）はが月経となります。

15日間、出血のない日が全くないまま出血が続けば、その周期により計算がなされます。つまり、周期の後から始まり、前の月の出血のない日数だけ清浄の日とし、それ以降は周期に応じて月経と見なされます。

出血の継続が女性において起こる場合、「**メンヘル・ウル・ワーリディン**」の書簡によれば、それには四種類あるとされています。

１．出血が継続すれば、最初の十日は月経、その後の20日は清浄と認められます。

２．女性が神聖な出血、神聖な清浄の期間を経てから出血が続けば、この女性は周期が定まった女性となります。例えば、五日間出血があり、その後40日出血がなければ、出血の継続の最初の五日が月経、その後の40日は清浄と認められます。出血が止まるまでこのように続けます。

３．不正出血、不正な清浄が見られれば、双方とも周期は認められません。清浄の期間が15日より短い為に不正であるばら、最初に見られた出血が続いたと見なされます。11日出血、14日出血のない期間であり、その後出血が継続すれば、最初の出血は十日を超越した為に不正となります。11日目、そして出血の継続の最初の五日の出血日は清浄であり、この五日目以降、十日間月経、20日間清浄という形で続きます。清浄が完全であり、出血のある日が混ざっている為に不正であれば、このような不正な清浄及び出血の期間の合計が30を越えなければ、やはり最初の出血が継続したと見なされます。11日出血、15日間出血のない期間の後、継続する場合はこのようになります。16日の最初の日に出血があることから、不正な清浄期間となります。不正出血の最初の四日は清浄となります。合計が30日を超えるなら、最初の十日が月経であり、それから不正出血までの日は全て清浄と見なされ、不正な継続の後の十日間は月経、20日間は清浄という形で続きます。11日が出血、20日が出血なしの後、不正出血があればこのようになります。

４．有効な出血と不正な清浄期間があれば、有効な出血日は周期となります。それから30日まで、清浄期間として認められます。例えば、五日間出血、14日出血なし、その後不正出血があれば、最初の五日間は出血、その後の25日間は清浄の期間となります。この25日を満了させる為、不正出血の最初の11日は清浄と見なされます。その後、五日間月経、25日間清浄として継続されます。同様に、三日間出血、15日間出血なし、一日出血、それから15日出血がなかった後に出血があれば、最初の三日が有効な出血であり、それから不正出血までの日は全て、不正な清浄の期間であり、三日間月経、その後31日が清浄となります。不正出血の時期には、三日が月経、その後の27日は清浄として続けます。二回目の清浄が14日であれば、イマーム・アブー・ユスフによればずっと出血があったと認められ、最初の二日間が月経、残りの15日間が清浄である日として続けます。なぜなら最初の三日は出血、15日間の清浄は有効となるものであり、周期と認められるからです。

周期を忘れた女性を「**ムハイッラ**」もしくは「**ダーレ**」と呼びます。

「ニファース」は、産褥期という意味です。手や足、頭がわかる状態での流産もニファースと呼ばれます。産褥期には長短はありません。出血が終わった時点でグスルを行い、礼拝を開始します。しかし周期だけの日が経過するまでは性交渉は行えません。最長で40日となります。40日が満了すれば、出血が終え割っていなくてもグスルを行い、礼拝を開始します。40日

目以降に来た出血は不正出血です。一人目の子の際に25日で出血が治まった女性の周期は、25日となります。この女性が二人目の出産の際に出血が45日続けば、産褥は25日と見なされ、20日は不正出血となります。20日分の礼拝のカダーを行います。この為、産褥期の日数も覚えていることが必要です。二人目の際に出血が40日より前、例えば35日で終われば、このすべてが産褥となり、周期が25日から35日に変わったことになります。

ラマダーン月で、断食前の食事の後で月経もしくは産褥期が終わった人は、その日は断食を行いません。しかしその日のカダーを行います。月経や産褥期が夜明け前の食事の時間以降に始まり、午後の礼拝の後でも続いていれば、その日は飲食を行います。

月経や産褥期において礼拝、断食、モスクに入ること、クルアーンを読むこと、触ること、カーバ神殿の周回を行うこと、性交渉を行うことは四つの法学派でハラームです。断食はカダーを行います。礼拝のカダーは行いません。礼拝は許されます。全ての礼拝の時間にウドゥーを行い、礼拝用の絨毯の上でその礼拝を行うだけの時間、座って祈念やタスビーフを行うなら、最も良い形で行った礼拝と同じだけの報奨を得ます。

「ジェヴヘレ」という書物では次のように書かれています。「女性は月経が始まったことを男性に教える必要がある。夫が質問して答えなければ、大きな罪となる。清浄な状態であるのに月経が始まったということも大きな罪である。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は、「**月経が始まったこと、終わったことを夫に隠す女性は呪われている**」と言われた。月経であれ、清浄な時であれ、女性に肛門から近づくことはハラームである。大きな罪である。」配偶者にこのようなことを行う人は呪われた存在となります。器官を汚すことすら大きな罪となります。これを「**肛門性交**」と呼びます。預言者章でこれは「**悪い行いである**」とされています。カーディ・ザーデ師の「**ビルギヴィー**」では、預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は、「**ルツ族のよう用に肛門性交を行う者を、現行犯でとらえた場合は二人とも処刑しなさい**」と言われているとされています。一部の学者は、二人ともを焼かなければならないと述べています。それを行った場合、二人ともグスルが必要な状態となります。充血があった場合、グスルが必要にはならないものの、断食が損なわれます。

礼拝の時間内に、礼拝を行う前に女性の月経が始まれば、その時間の礼拝のカダーは必要ありません。（「**永遠の幸福**」という書物の、グスルの項を読んでください）

## ウドゥーについて

ウドゥーのファルドはハナフィー派では四つ、マーリキー派では七つ、シャーフィー派とハンバリー派では六つです。

1. 顔を洗うこと

２．腕を肘と共に洗うこと

３．頭の三分の一を湿らせること

４．足を、かかとの骨の部分と共に洗うこと。

さらに、ウドゥーの種類も四つになります。一つはファルド、一つはワージブ、一つはスンナ、一つはマンドゥーブです。

ファルドであるものは四つです。クルアーンに触れる為、日に五回の礼拝を行う為、葬儀の礼拝を行う為、ティラーワのサジュダを行う為にウドゥーを行うことです。

ワージブであるものは、訪問のタワーフ（カーバの周回）を行う為にウドゥーを行うことです。

スンナであるものは、クルアーンを暗唱する為、墓地を訪問する為、グスルの前にウドゥーを行うことです。

マンドゥーブであるものは、眠りにつく際、起床した際、嘘や陰口を言った際、そして欲望を掻き立てるような楽器を聞いた際、これらを悔悟し、懺悔を行い、ウドゥーを行うことです。

さらに、学問の場に行く際にウドゥーを行っておくこと、ウドゥーを行った後でウドゥーなしで行うことが許されないことを行った場合（例えば、礼拝をすること）、ウドゥーを行った状態で再びウドゥーをすることはマンドゥーブです。もしそのようなことを行っていないのなら、ウドゥーをした状態でさらにウドゥーを行うことは忌避されるべきものとなります。

## 水について

水は四種類となります。絶対的な水、制限された水、メシュクークの水、使用された水です。

１．絶対的な水とは、雨水、海水、泉の水、井戸の水です。これらの水は汚れたものを清めます。どのようなことにも使えます。

2. Ma-i makayyet,1} メロンジュース、スイカジュース、ぶどうの木のエキス、花の蜜などです。これらの水は汚れたものを清めますが、ウドゥーやグスルの為には使用できません。

３．メシュクークの水、ロバ、及び母がロバであるラバが飲んだ水の残りを言います。この水ではウドゥーもグスルも行うことができません。どちらを先に行ったとしても無効となります。

４．使用された水。これは地に落ちた水でしょうか、それとも体から排出された離れた水でしょうか？この点では意見の相違があります。主要なものは、体から排出され離れたものです。これにも三つの見解があります。イマーム・アーザムによれば（アッラーの慈悲がありますように）、汚れが重いものです。イマーム・アブー・ユスフによれば（アッラーの慈悲がありますように）、汚れが軽いものです。イマーム・ムハンマドによれば、清いものです。主要なものはこれになります。

ウドゥーの成立の条件は九つです。

1. ムスリムであること

２．成熟した人であること

３．知性を伴っていること

４．ウドゥーがない状態であること

５．ウドゥーの為の水が清潔であること

６．ウドゥーを行うだけの力があること

７．月経中ではないこと

８.産褥期ではないこと

９．礼拝の時間内であること（この九つ目は、支障を持つ人についてのものです）

**ウドゥーのスンナ：**25個まで言及されています。

１．「アウーズ」を唱える

２．「ビスミッラー」と唱える

３．手を洗う

４．指の間を広げて洗う

5. 口に水を入れる

6. 鼻に水を入れる

７．意思表示を行う。ハナフィー派では、顔を洗う際に意思表示を行うことはファルドではなくスンナです。シャーフィー派ではファルドです。マーリキー派では手を洗う際にファルドとなります。

８．キブラの方向に向かうこと

９．ひげを広げて洗うこと（もし密集している場合れば）

10.　ひげを湿らせること

11.　右側から始めること

12.　左手の小指、右足の小指の下から始め、順に指の間を広げて洗うこと

13.　頭を上から濡らすこと

14.　頭から流れる水で耳や首を湿らせること

15.　その順番を尊重守すること

16.　間をあけず、続けて行うこと

17.　頭を湿らせる際には、前から始めること

18.　ミスワークを用いること

19.  眼のふちや眉毛にも水を至らせること

20.　穴になっているところ、現れているところをこすること

21.　ウドゥーは少し高くなっているところにとどまって行うこと

22.　ウドゥーで洗うべき個所を三度ずつ洗うこと

23.　ウドゥーを行った後、水入れに水を満たすこと

24.　ウドゥーを行う際、世俗的な言葉を話さ離さないこと

25.　常にこの意志を伴っていること

## ミスワークの使用について

さらに、ミスワークの使用には、15の効果褒賞があります。これらを「シラージュル・ワッハージュ」から引用して示します。

1.　死ぬ際に信仰告白の言葉を唱えることのできるが言える要因となります

２．歯肉を丈夫上部にします

３．痰を取り除きます

４．胆汁を止めます

５．口の痛みを取り除きます

６．口臭を取り除きます

７．アッラーがご満悦なさいます

８．頭の血管を強くします

９．シャイターンが悲しみます

10.　目が輝きます

11.　善行、良い行いが増えます

12.　スンナによって行動したことになります

13.　口が清らかになります

14.　言葉が流暢になります

15.　ミスワークを使用してなされる2ラカートの礼拝は、ミスワークを使用しない70ラカートの礼拝よりも報奨が多くなります。

## ウドゥーのムスタハブ（奨励されるもの）その六つが以下の通りです。

1.　心でなされた意思表示を口に出して言うこと

２．耳から流れた水で首を湿らせること

3.　足を、キブラに向けて洗わないこと

４．可能であればウドゥーで余った水を、キブラに対し起立規律した状態で飲むこと

５．ウドゥーの後、サルワールに少し水をかけること

6.　清潔できれいなタオルで拭くこと。

イブニ・アービディーンはウドゥーを損なうものについて「自分の法学派においてマクルーフ（忌避されるべきもの）ではないものが、他の法学派でファルドであれば、これを行うことはムスタハブである」と語っています。イマーム・ラッバーニは第286の書簡で「マーリキー派では、ウドゥーを行うべき器官をなでることがファルドである為、あなた方は必ずなでなさい」と語っています。イブニ・アービディーンは婚姻の問題について語る際に「ハナフィー派に属する人がマーリキー派に従うことはより良い。なぜならイマーム・マーリクはイマーム・アーザムの弟子のようだからである。一つの問題でハナフィー派では見解が出されていない場合、ハナフィー派の学者たちはマーリキー派を鑑みてファトゥワを出してきた。法学派の中でハナフィー派に一番近いのはマーリキー派である」と語っています。

## ウドゥーのマクルーフ（忌避されるべきもの）

そのうちの18は以下の通りです。

１．顔に水を強く打ち付けること

２． ウドゥーを行う水に息を吹きかけること

３． 三回よりも少なく洗うこと

4. 三回以上洗うこと

５． ウドゥーを行う水に唾を吐きかけること

６． 水の中に鼻水を入れること

７． うがいをする際に水を飲みこむこと

８． 背中をキブラに向けること

９． 目をつぶること

10. 目を見開きすぎること

11. 左から始めること

12. 右手で鼻を洗うこと

13. 左手で口に水を入れること

14. 左手で鼻に水を入れること

15. 足を地面に打ち付けること

16. 日光で温まった水でウドゥーを行うこと

17. 使用された水を避けないこと

18. 世俗的な言葉を話すこと。

## ウドゥーを損なうもの

この文章ではそのうちの２４について言及します。

１． 肛門から出るもの

２． 排尿器官から出るもの

３． 虫や小さな石などが体内から出た場合

4. 体の一か所に血が集まって腫れている場合

5. 女性が子宮内に入れた薬が出てきた場合

6. 耳に入れた薬が口から出てきた場合（耳もしくは鼻から出てきた場合は損なわれません）

7. 男性が尿道に詰めた綿が濡れて落ちてきた時（綿の一部が外部にあり、外に出ている部分が乾いていれば、落ちない限りは損なわれません）

８． 綿が落ち、外に出ている部分が濡れている場合

９． 口いっぱい分嘔吐すること、痰を吐くことは、量が多くても損ないません。寝ている人の口から出る水は、黄色であったとしてもきれいです。

10. 病気が原因で目から涙が出ること。泣くこと、玉ねぎのようなものの影響で涙が出る場合は損なわれません。

11. 鼻から出る血、膿、黄色の水は穴から外に出なかったとしても損ないます。鼻水は汚物ではありません。ウドゥーは損ないません。

12. 吐き出した唾液に血が多く見られた時

13. 何かをかんだ時、かんだ場所に血が見られた場合、及び血が口や歯に付着していた場合、ウドゥーが損なわれます。付着していなければ損なわれません。

14. どこからか出血があり、少量でも広がっているのが見られた場合、ハナフィー派ではウドゥーを損ないます。マーリキー派やシャーフィー派では損なわれません。

15. 裸の動物の上で寝入っていて、下り坂を下がっている場合

16. ウドゥーをしたかどうか不安になり、ウドゥーをしていない懸念が大きい場合

17. 男性が配偶者と裸で抱き合った場合

18. ウドゥーで洗うべき器官の一つを洗うことを忘れ、それがどこであるかわからなくなった場合

19. できものがあり、それがひとりでに、もしくは押さえた時に血、膿、黄色い液体を出している場合

20. 傷があり、そこに黄色い液体、血、膿のように汚れた液体がたまり、健康な箇所もしくはそこにある綿や包帯にも付着していれば、ウドゥーが損なわれます。傷口や症状が現れている箇所から出ている透明な液体はウドゥーを損ないません。疥癬、天然痘（および湿疹）を患っている人がこの見解に従うことは合法です。

21. どこかにもたれて眠ってしまい、もたれているものが取り去られ倒れそうになった場合

22. ルクウとサジュダがある礼拝で、自分自身及び周囲の人に聞こえる声で笑うこと。もし自分だけに聞こえる声で笑えば、礼拝が無効となり、ウドゥーは損なわれません。

23. 失神、気絶をした場合

24. 耳から膿、黄色い液体、血が出た場合、グスルで洗うべき箇所まで流れてきた場合。

公衆浴場で体を清めることをヨーロッパ人は私たちから学びました。

それ以前は悪臭で家に入れないほどでした。

清潔さをムスリムが世界に広げたのです。

人々はこれにより、大きな敵から救われました。

## ウドゥーのドゥア

ウドゥーを始める際、「ビスミッラーヒ　アズィーム　ワルハムドゥ　リッラーヒ　アラー　ディーニル　イスラーミワ　アラー　タウフィキル　イーマーニ　エルハムドゥ　リッラーヒッラズィー　ジャアラーマ　タフーレン　ワ　ジャアラル　ヌーラン」と言います。口に水を入れる際には「アッラーフンマスキ ーニー　ミン　ハウディ　ネビーやカ　カサン　ラー　アズマルー　バダフー　アバダン」と言います。鼻に水を入れる際には「アッラーフンマ　エリフニー　ラーイハタルジャンナティ　ワルズクニ　ミン　ナーミハー　ワラー　トゥリフイニー　ラーイハタン　ナーリ」と言います。顔を洗った時には「アッラーフンマ　バイ―ドゥ　ワジュヒ　ビヌーリカヤウマ　タブヤドゥ　ヴジュフ　アウリヤーイカ　ワラ― トゥサッヴィド　ワジュヒ　ビズヌビー　ヤウマ　タスワッドゥヴジュフ　ア　ダーイカ」と言います。右腕を洗う際には「アッラーフンマ　アーティニー　キタービ―　ビ　ヤミーニーワ　ハスビニー　ヒサーバン　シャディーダン」と言います。左腕を洗う際には「アッラーフンマ　ラー　トゥティーニ　キタービ―　ビ氏マーリーワラ―　ミン　ワラーイ　ザフリーワラ―　トゥハーシブニー　ヒサ―バン　シャディーダン」と言います。頭を湿らせる際には「アッラーフンマ　ハッリムシャーリー　ワ　バシャリー　アランナーリ　ワ　アジッラーニ　タフタ　ジッリ　アルシュカ　ヤウマ　ラー　ジッラーズッルカ」と言います。耳を湿らせる際には「アッラーフンマジュ　アルニー　ミナッラ　ジーナ　ヤスタミウナル　カウラファ　ヤッタビーウナ　アフサナフ」と言います。首を湿らせる際には「アッラーフンマ　アーティク　ラカーバティ　ミナッナール　ワフファズ　ミナッサラーシリ　ワル　アグラル」と言います。右足を洗う際には「アッラーフンマ　サービトゥカダマーイヤ　アラッスラートゥ　ヤウマ　タジッル　フィーフル　アクダ―ム」と言います。左足を洗う際には「アッラーフンマ　ラー　タトゥルドゥ　カダマーイヤ　タトゥルドゥクッリ　アクダ―ミ　アダ―イカ、アッラーフンマ　アル　サーイ　マシュクラン　ワ　ザンビー　マグフィラン　ワ　アマ

リ― マクブーラン ワ ティジャーラティ ラン タブーラ」と言います。ウドゥーが完了すれば、「アッラーフンマジュアルニー ミナッタワビーナ ワジュアルニー ミナル ムタハッヒリーナ ワジュアルニー ミン イバーディカスサーリヒーナ ワジュアルニー ミナッラジーナ ラー ハヴフン アライヒム ワラ―フーム ヤフザヌーン」と言います。そして天を仰ぎ、「スブハーナカッラーフンマ ワ ビハムディカ アシュハド アンラー イラーハ アンタ ワフダカ ラー シャリーカ ラカ ワ アンナ ムハンマダン アブドゥカ ワ ラスールカ」と言います。

その後、一回もしくは二回、あるいは三回、まず「ビスミッラー」を唱える形で「インナー アンザルナ」の章を読みます。

さらに、人々や配偶者、子供たちに必要な宗教知識を学び、教えてください。最後の審判の日、妻について男性たちは問われます。

## タヤンムムについて

ハナフィ一派ではタヤンムムは礼拝の時間に入る前から有効となります。他の三つの法学派では有効とはなりません。タヤンムムのファルドは三つになります。ウドゥーを行う為に必要なタヤンムムと、グスルを行う為に必要なタヤンムムは同じです。ただ、意志表示が異なります。この為、この二つのタヤンムムのうちの一つを、もう一つの用途で行うことはできません。

１．意思表示（ニーヤ）を行うことであり、これは必須条件です。

２．両手を清潔な土に打ち付け、その手で顔を覆いなでること

3. 両手をもう一度土に打ち付け、まず左手で右腕を、その後右手で左腕を、残すところなくなでること。これらもこの行為の根幹となります。

タヤンムムがファルドであることの根拠は、婦人章第43節及び食卓章第60節にあります。マーリキー派とシャーフィー派ではタヤンムムは、礼拝の時刻より前には許されていません。そして一回のタヤンムムでは一回しか礼拝をすることがはできません。

以下の６つのものでは、タヤンムムを行うことが許されません。それらの物の上に土の粒をかけると、できるようになり

ます。それらは、それらは以下の通りです。鉄、鉄、銅、青銅、スズ、金、銀、およびすべての金属です。熱で溶けたこれらの金属、熱で柔らかくなったガラス、つやが消されている陶器類でタヤンムムを行うことは許されません。土に属するものであることが条件です。

土壌に放尿されていても、それが乾いていればそこで礼拝することはできます。しかしそこでタヤンムムを行うことはできません。

タヤンムムを可能とするためには、水を探し、それでも見つけられなかったこと、一人のムスリムである一般の人に尋ねること、そしてその一般の人が誠実であることも条件に含まれます。

タヤンムムの条件は五つあります。

１.. 意思表示を行うこと　２．対象箇所をなでつけること　３．タヤンムムを行うものが土に属する種類であること。土に属する種類ではない場合は、土の粒がそこにあることが必要となります。４．使った物質もしくは土が清潔であることが必要です。５．水を使うことが事実上、もしくは法的に不可能であること。（病気の後、腕や足の不調も有効な事情となります。老人における不調も同様です。彼らは礼拝を座って行います。）

さらに、、　　タヤンムムのスンナは七つになります。

１．「ビスミッラー」を唱えること　２．両手を清潔な土に打ち付けること ３．手を、打ち付けた物質の上で一度前後させること　4. 指を広げること　５．両手を打ち付けて土を払うこと　６．まず、顔をなでつけること　７．腕を、肘を含めて残すところなくなでつけること。

水を探す条件は四つです。

１．その場所が発展していること　２．水があるという知らせがもたらされること　３．水がある、という確信があること　４．恐れがあるような地域ではないこと。

6666誰かが水を見つけたがて、しかし水がある場所が1マイル以上遠ければ、タヤンムムは許されます。1マイルより近く、時間が過ぎる心配もなければ、タヤンムムを行うことは合法とはなりません。（1マイルとは4000ズラー、すなわちハナフィー派によると0.48×4000＝1920メートルの距離になります）

そして誰が水を探し、見つけられず、タヤンムムを行って礼拝をした後、水が見つかった時には礼拝を再度行うか否か？この問題は意見が分かれています。原則としては、行った礼拝

は再度行いません。

誰かが少し濡れた場所を見つけるも、しかしウドゥーを行うほどの水がなく、タヤンムムを行う場所も見つからなければ、一つまみの泥を乾かし、それでタヤンムムを行います。数人がタヤンムムを行い、そのうちの一人が水を目にすれば、全員のタヤンムムが無効となります。

さらに、誰かが一定量の水を持ってきて、あなた方のうち誰かがウドゥーをするように、と言えば、全員のタヤンムムが無効になります。あなた方全員がウドゥーをするように、と言い、しかし持ってきた水が一人分であれば、皆のタヤンムムは有効となります。

誰かがグスルを必要とする状態になるもののり、水が見つからず、モスクにでのみ水がある場合は、グスルの為にタヤンムムを行い、それから水を受け取るためにモスクに入ります。しかしモスクに入った時に水が見つからなければ、礼拝の為にさらにタヤンムムが必要となります。

誰かがモスクに中に座っている際に、そこで射精を行った場合があれば、タヤンムムを行い、それからモスクを出ます。手が切られている人がいれば、タヤンムムを行うことができます。しかし頼むことができる人がいれば、その人に頼むことは免除されません。もしいなければ、免除されます。もし、両手両足が切られている人がいれば、他の人々の見解によるなら、礼拝は免除されます。アブー・ユスフによれば礼拝をすることが必要です。

さらに、金曜礼拝ではタヤンムムは認められません。つまり、ウドゥーを行う為の時間が少なく、金曜礼拝に間に合わないとして急いでタヤンムムを行うことは合法ではありません。（金曜礼拝の等価は正午の礼拝である為）ネビズと呼ばれるナツメヤシの果汁でウドゥーを行うことは合法ではないことが「**ドゥッル・ウル・ムフタール**」で書かれています。

誰かが旅行中に夢精をした場合は、タヤンムムを行い、朝の礼拝を行います。そして正午まで過ごし進みます。午後の礼拝が近づき、正午の礼拝の時刻が過ぎそうな時間帯に、タヤンムムを行い、正午の礼拝を行います。誰かが午後の礼拝の後で水を見つければ、朝と正午の礼拝をやり直すかどうか、ここで学者たちは意見の相違を見せています。ある見解では、やり直し、別の見解ではやり直しません。この問題は、礼拝を行う人によるものと言えるでしょう。

誰かのロバに水があり、ロバを見失った場合、タヤンムムを行い、礼拝をします。礼拝中にロバの声を聞けば、ウドゥー

が無効となります。

誰かが馬に乗っていて、降りた場合に仲間が彼を待たないのであれば、馬の上でタヤンムムを行い、頭の中でイメージすることによって礼拝を行います。

道中が危険、もしくは寒く、グスルを行えば病気になってしまう可能性があれば、タヤンムムを行い、礼拝をします。

旅をする人は、そのかばんにタイルかレンガを入れておく必要があります。なぜならタヤンムムをすることになれば、周囲が濡れていればこのレンガでタヤンムムを行い、礼拝をするからです。

誰かがイードの礼拝を行おうとしてウドゥーが無効になり、もう一度ウドゥーをすればイードの礼拝に間に合わないことが分かった場合、もしくはあまりにも混雑している恐れがあれば、タヤンムムを行い、礼拝をします。この見解はイマーム・アーザムによるものです。イマームの見解によれば、ウドゥーを行います。

（「**メラーク・イル・ファラフ**」のタフターウィーの注釈では次のように書かれています。「病気はタヤンムムを行う為の理由となる。健康な人が、ウドゥーを行えば病気になるかもしれないと不安になることは、理由にはならない。健康な人が、断食をすれば病気になるかもしれないと心配になればそれをカダーに残すことが許されるという学者たちは、病気になることを恐れる人がタヤンムムを行うことは許される、という。病気には四つの種類がある。水が害を与える。行動が害を与える。自身が水を使えない。タヤンムムを行うことができない。害を与えるかどうかは、彼自身が強く書案じること、もしくはムスリムであり、公正で献身的な医者の指摘により理解される。公正な医師がいない場合は、虚偽が認められていない医師の言葉も認められる。水を用いることができない人は、ウドゥーをさせてくれる誰かがいなければ、タヤンムムを行う。子供、召使、妻など、ウドゥーをさせてくれる人がいれば、その人がウドゥーをさせる。そのような人がいなければ、タヤンムムを行う。イマーム・アブー・アーザムによれば、お金を払って人を雇う必要はない。タヤンムムを行うこともできない人は、礼拝をカダーに残す。妻や夫や互いのウドゥーを行わせることが義務ではないにしても、配偶者に援助を求めることが必要である。町、村の外にいて、温かいお湯を見つけることができない人は、冷水でグスルを行えば病気になると恐れる場合、タヤンムムを行う。町の中でも同様であることはファトゥワが出されている。ウドゥーやグスルで洗うべき器官の半分以上が傷になっていれば、タヤンムムを行う。半分が傷であれば、健康な部分

を洗う。傷になっている部分については湿らせるが、それが害を与える場合、包帯の上から湿らせる。これも害を与えるなら、全く湿らせない。頭部に病気があり、湿らせることが害を与える場合は、それは免除される。両手と両足の洗うべきところが切れている人は、顔にも傷があれば、タヤンムムを行うことができないため、ウドゥーなしで礼拝し、やり直しはしない。顔に傷がなければ、顔を洗ってもらう。助けてくれる人がいなければ、顔を土につける。健康な人の片手が傷ついていたり切られていたり折れていたりする場合は、もう一方の手でウドゥーを行う。両方の手がそうであれば、顔を土につける。傷口、癤、骨折の部分にこれらを治療し害から保護する目的でやむを得ず包帯やギプス、軟膏、石膏があり、それを開いて洗うことができず、湿らせることもできなければ、それらの表面の大部分とその間の無償な皮膚を湿らせる。できるのであれば、これらを外して湿らせること、無傷な皮膚を洗うことが必要となる。これらがウドゥーのある状態で包まれることや定められた期間などはない。無傷な足を洗い、もう片方の足の包帯を湿らせることは合法である。傷が治る前に上に物が落ちてもウドゥーは損なわれない。湿らせた後、湿らせるべきものが変化したとしても、それは損なわれない。爪が割れたり傷ついたりした場合、そこにもしくは足の傷に塗られた軟膏を取り除くことが害を及ぼすのであれば、やむを得ない為に軟膏の表面を洗う。洗うことが害を与える場合は、湿らせる。それも有害であれば、行わない。（他の三つの法学派でも同様である為、他の学派の模倣をすることは不可能である。）この軟膏はジェビレ（板の一種）のようなものであるとイブニ・アービディーンは書いている。しかし歯の詰め物やコーティングはこのようではない。なぜならマーリキー派やシャーフィー派に従うことが可能であるからだ。自分に非がなく理性を失った人、。もしくは気絶した人は、六回の礼拝だけの時間が過ぎれば、理性が戻るまではできなかった礼拝のカダーは行わない。病人は、心の中でイメージして行った礼拝の数が何であれ、それらの実践について誓いは行わない。回復した時に全てをカダーで行う。」

　イブニ・アービディーン（アッラーの慈悲がありますように）は次のように語っています。「健康な人の、ウドゥーで洗うべき器官を他人が洗うこと、湿らせることは忌避されるべきである。彼に他の人がウドゥーの水を運んでくること、自身が洗う際に水をかけることは許される。病人が衣服や寝床を常に汚していれば、もしくはそれを交換することが困難であれば、汚れた状態で洗う。ジェビレと呼ばれる板、絆創膏、軟膏が傷のが回復した後にとれてしまえば、ウドゥーが損な底案われる。傷が回復し、それを覆っているものが落ちることなく、害を

及ぼさない状態で取り外すことができれば、ウドゥーとグスルが損なわれる。」

（アッラーは愛される者のために罪を許す為、もしくは天国での恵みを増やす為に病気や困難さを与えられます。イバーダは難しく、苦痛を伴うものとなります。これに対し、現世での行いにおいて容易さや糧に恵みを与えられます。イバーダを行わない人々には容易さや恵みは与えられません。彼らが苦労し、計略や策略で多く稼ぎ、快楽や快適さの中で生きたとしても、この喜びは長くは続きません。わずかな時間の後、病院や墓地に運ばれていきます。来世での懲罰は非常に重いものとなります。

## イスティンジャー、イスティブラ、イスティンカー

イスティンジャーは水で洗うべきところを洗うこと、イスティブラは排尿の後、排泄器官の湿り気がなくなるまで、必要なら歩き回り、必要なら他の形で時間を過ごすことです。イスティンカーは、清潔になったことに心から確信を持つことです。

イスティンジャーは六種類になります。

ファルドであるのは、衣服や体、そして礼拝をする場所に1ディィルヘム以上に汚れがあれば、水で清めることがファルドです。同様にグスルを行う時にも、イスティンジャーはファルドです。（ここで1ディィルヘムとは、1ミクサルのことであり、4.8グラムになります）

ワージブであるのは、衣服や礼拝するべき場所に1ディィルヘムより多くの汚れがあれば、それを取り除くことです。

1ディィルヘムより少なければ、取り除くことはスンナです。ムスタハブであるものは、ごくわずかである汚れを取り除くことはがムスタハブです。

マンドゥーフであるものは、誰かが座っていた場所が湿っていて、おならをした場合、洗うことがマンドゥーフとなります。座っている場所が乾いている状態でおならをした時に洗うのはビドゥアです。

イスティンジャーのスンナは、石もしくは土できれいにすること、それから水で清めることです。

もし石や土で汚れを取り除けず、1ディィルヘム以上残っていれば、もしくは1ディィルヘム以上その周囲に広まっていれば、水で洗うことがファルドとなります。その後、清潔な布で拭きます。もし布がなければ手で乾かします。

イスティンジャーのムスタハブは一つです。石を一つつかむことです。つまり、三つ、五つ、七つであることです。1}

（尿をもらす人は、下着を尿で汚さない為に12センチ×12センチの大きさの布の端を少し折り、ここに0.5メートルの糸の端を結びます。この布を性器にかぶせます。糸を、布の端、すなわち性器に一度巻き付けます。巻いたところに近い部分は2重にし、その部分を巻いた部分の下を通し、引っ張り、締め付けます。自由な端は結び目でループされ、安全ピンで固定されます。排尿時には、ピンを外し、糸の輪を外し、糸を引っ張るとすぐにほどけ、布が取り外せます出てきます。糸の輪がピンから簡単に外れなければ、針に留め具をつけ、そこにリングを付けます。老人の中には性器が小さくなる人もいます。布を巻くことができなくなります。そういった人は、性器を小さなナイロン袋に入れ、袋の口を縛っておきます。尿を漏らすものの、有効な理由がない、ハナフィー派に属する人は、ウドゥーをし、グスルや礼拝を始める際、マーリキー派に従うことを意思表示します。アズハル大学の教授であり、1384年に亡くなったアブドゥルラフマーン・ジェズィリー（アッラーの慈悲がありますように）の主宰する、エジプト人学者たちが作っていた「**キターブ・ウル・フィクフ・アラル・マザーヒビル・アルバ**」では次のように書かれています。「マーリキー派では、二つ目の見解により、病気、高齢と言った要因でウドゥーを損なわせる状態が生じた場合は、すぐに考慮される事情を持つ者となり、ウドゥーは損なわれない。敬意を表しているハナフィー派やシャーフィー派は、この見解に従う。」礼拝中に尿を漏らすハナフィー派は、その状態が良くない場合はマーリキー派のこの見解に従います。意志表示（ニーヤ）を行い、事情のある者としてそのまま続けます。）

## 礼拝はどのように行われるか

礼拝は、四つの事柄と共に行います。ファルド、ワージブ、スンナ、ムスタハブです。ハナフィー派では、手を耳の高さまで上げることがスンナです。手のひらをキブラに向けることもスンナです。男性は親指を耳たぶに触れさせること、女性は肩の高さまで上げることがムスタハブです。「**アッラーフ・アクバル**」ということはファルドです。タクビールを行った後、手を組んで右手を左手の上に置くことはスンナです。男性は手をへその下に置き、女性は胸に置くことがはスンナです。男性が左手の手首を強くつかむことはムスタハブです。礼拝中はイマームであれ、それに従う人であれ、一人であれ、「スブハーナカ」を唱えることはスンナです。「ビスミッラー」を唱えることはスンナです。ファ

ーティハ章を読むことはワージブであり、その後で三つの節、もしくは三つの節だけの長さのある一節を読むことはワージブです。スンナの礼拝及びウィトルの礼拝のそれぞれのラカートで、一人で礼拝するときはファルドの礼拝の2ラカートで、立ったままクルアーンの一節を読むことはファルドです。

ルクウで腰を屈める折ることはファルドです。三回「**スブハーナッラー**」と言うまでの間腰を折ることはワージブです。三回「**スブハーナ　ラッビヤル　アズィーム**」と言うことはスンナです。五回、もしくは七回唱えることはムスタハブです。ルクウからクヤーマに起き上がる時、そして二回のサジュダの間で起き上がって座った時、一回「**スブハーナッラー**」と言えるだけの長さで身を屈める折ることはイマーム・アブー・ユスフによればファルドです。他の見解によればワージブであり、一部の人々はスンナであると言っているものの、主としてはワージブとなります。

サジュダで頭を礼拝用絨毯に置くことはファルドです。三回、「**スブハーナッラー**」と言えるだけの時間、体を屈める負っていることはワージブです。三回「**スブハーナ　ラッビヤル　アラー**」ということはスンナです。五回もしくは七回言うことはムスタハブです。

イブニ・アービディーン（アッラーの慈悲がありますように）は、次のように語っています。「サジュダを行う際、まず両膝、それから両手、その後で鼻、そして額を地面につける。親指は耳の高さにある。シャーフィー派では手は肩の高さに置かれる。両足の少なくとも一本の指を地面につけることはファルドである。地面が柔らかく、頭が中に沈んで入ってしまわないことが必要である。地面に敷かれた絨毯、藁、麦、大麦も同様である。地面にある机、長椅子、車も、地面と見なされる。動物の上、そして動物の上にある鞍などは、地面と見なされない。ブランコや、枝に釣られて空中で揺れている布、絨毯、藁は地面とは見なされない。米、キビ、亜麻の種など、滑るものの上でのサジュダは有効にはならない。袋に入っていれば有効となる。サジュダの場所は、膝をつけている場所よりも半ズラー、すなわち指12本分（25センチ）高いところにある場合、礼拝は有効だが、マクルーフ（忌避されるべきもの）となる。サジュダでは、肘は体から、おなかも太ももから離して置く。足の指のうち三本はキブラに向ける。ルクウでに体を屈める折る際、かかとの骨を互いに触れさせるくっつけることはスンナであり、サジュダでもつけたままにする。

女性は礼拝をする際、手を肩まで上げる。手は腕より外には出さない。右手の手のひらを左手の上に置く形で、胸の上で重ね

る。ルクウでは体を軽く屈める折る。腰と頭を同じ高さにはしない。ルクウとサジュダでは指を開かない。互いにくっつけて置く。手を膝の上で重ねる。膝を曲げる。膝をつかむことはしない。ただ、腕をおなかに近いところに置く。おなかを太ももに近づける。タシャッフドでは足を右側から出す形で座る。手の指の端を膝に伸ばす。（男性も膝をつかまない。）指は互いにくっつけて置く。自分たちの中で、もしくは男性もいるもいつ集団の中でイマームと礼拝することはマクルーフである。金曜礼拝もしくはイードの礼拝を行うことはファルドではない。犠牲祭の日の礼拝のファルドの後、「**タシュリークのタクビール**」を声を出さすに唱える。朝の礼拝を遅れて行うおこなうことはムスタハブではない。礼拝中は大声で唱えることはしない。」）イブニ・アービディーンの翻訳はここまでです。ハマウィー（アッラーの慈悲がありますように）は、「**アシュバブ**」の注釈で次のように語っています。「女性の髪を削ったり、切ったり、もしくは薬を用いたりして完全になくすことは絶対的なマクルーフ（忌避されるべきもの）です。（男性に似せないことを条件に、髪を耳まで短くすることは合法であると理解されています。）

女性がアザーンやイカーマを唱えることはマクルーフです。夫や身内の男性の同伴なく旅をすることはできません。巡礼でスカーフを取ることができません。シャーフィー派やマーリキー派は、考慮されるべき事情がある場合でもサーイを行います。ターイフ（カーバ神殿の周回）はカーバから遠いところで行います。説話を行うこともしません。なぜなら声はが隠すべきものであることがは事実だからです。巡礼ではメストと呼ばれる革製の履物を吐きます。女性は遺体を運ぶことはしません。罪人になっても殺害されることはありません。刑事裁判で証言は認められません。モスクでイティカーフ（おこもり）は行いません。手や足をヘンナで染めることは葉合法です。（マニキュアは使用しません。）遺産、証言、貧しい親類に施しをする際には男性の半分となります。善良な女性を法廷に呼ぶことはできません。判事もしくは代理人がその家に行きます。若い女性は他人である男性に挨拶をしたり、お悔やみの言葉を述べたり、くしゃみをした時に何かを言ったりしません。また自分にそれらが言われても返事をしません。他人である男性と一室で、自分たちだけでいることはしません。」ハマウィの翻訳はここまでです。最初の座位で座ることはワージブです。次の座位で座ることはファルドです。最後の座位で「アッ　タヒヤート」を唱えることはワージブです。

ファルト及びワージブ、そして正午の礼拝、金曜日の礼拝の最初のスンナ、金曜日の最後のスンナの、最後の座位において、そしてそれ以外の礼拝において（午後の礼拝や深夜の礼拝

の4ラカートのスンナのように）、それぞれの座位で祝福祈願のドゥアーを唱えることはスンナです。挨拶の言葉はファルドです。そして挨拶において両方の肩を見ることはスンナです。注意深く見ることはムスタハブです。

さらに、礼拝が完全なレベルで認められることの条件は（ハラームを避けることと、）畏怖、篤信、不要な事柄の放棄、礼拝を面倒に感じないこと、そして礼拝の為に全ての世俗的な事柄から離れることです。畏怖とは、アッラーの崇高な尊厳に畏怖の念を抱くこと、篤信とは九つの器官をハラームやマクルーフから守ること、不要な事柄の放棄とは、現世でも来世でも役に立たないおしゃべりや行いを放棄すること、礼拝を面倒に感じないこととは、礼拝の動きの実践を面倒に感じないこと、世俗的な事柄から離れることとは、ムハンマドのアザーンが読まれた時に全てを放棄し、信者の集団に加わることを意味します。

礼拝の中で尊重すべき六つの事柄は次の通りです。イフラース、タファックル、ハウフ、ラジャー、ルヤーティ・タクシール、ムジャーハダです。

イフラースは、その行いをアッラーのご満悦の為だけに行うこと、タファックルは礼拝の中にある事柄について考えること、ハウフは偉大で荘厳なるアッラーを恐れること、ラジャーは偉大で荘厳なアッラーの慈悲に希望を抱くこと、ルヤーティ・タクシールは自らを過ちの多い存在と知ること、ムジャーハダは我欲やシャイターンと戦うことを意味します。

ムハンマドのアザーンが唱えられた時、イスラーフィル（アッラーの祝福がありますように）がラッパを吹いているかのようにウドゥーを行い、墓から起き上がるかのようにモスクに行き、最後の審判の集合の場に行くかのようにムアッズィン（アザーンを唱える人）がイカーマを行い、集団礼拝で列に並びながら、この人は審判の日に集合の場で120の列を持ち、80８０の列は預言者ムハンマドのもの、そして40の列が他の預言者たちのウンマのものであるとしてイマームに従い、イマームがファーティハ章を読む時には、右側に天国、左側に地獄、首にアズラーイール、（アッラーの祝福がありますように）、向かいにカーバ、そして前に墓があり、足の下にはスラート橋があると感じるのですます。私の尋問は容易になるだろうか？私が行った崇拝行為は、来世での私の頭の冠、私と共にある同行者、そして墓地において助けとなるだろうか？あるいは認められず、濡れた布のように顔に打ち付けられるだろうか？と熟考することが必要です。

**現世の恵みは忠実ではありません。**
**最後の嵐が全てを損なうのです。**

# ムハンマドのアザーン

以下の文章は、「**ドゥッル・ウル・ムフタール**」及びその注釈である「イブニ・アービディーン」からの翻訳です。

イルミハールの書物で知らされている、定められた言葉を、知性を持つムスリムが定められた形で唱えることを、「ムハンマドのアザーン」と呼びます。つまり、モスクのミナーラ（尖塔）に上がり、アラビア語の言葉を立って唱えることが必要です。他の言葉に翻訳されたものを唱えることは、意味を理解したとしても、アザーンとはなりません。アザーンは、日に五回の時刻が来たことを教える為に唱えられます。男性が、モスク以外の高い場所に上がって唱えることは、ムアッカダのスンナです。女性がアザーンやイカーマを唱えることはマクルーフ（忌避されるもの）です。女性の声を男性たちに聞かせることはハラームです。

ムアッズィンは、モスクの外の高い場所で、大きな声で唱え、近隣の人々に聞かせることが必要です。過度に叫ぶことは合法ではありません。アクバルという際には、最後の文字を前の文字とつなげるか、もしくは一緒にします。ウトゥレ（アラビア語の母音記号）は読まれません。言葉の最初もしくは最後に記号や文字を付け足し、過度に声を震わせて読むこと、それを聞くことはハラールではありません。サラート、及びファラフという時には顔を左右に向けることがスンナです。足と胸はキブラの方角から離しません。もしくはミナーラの方に向かって唱えます。最初のミナーラはムアーウィヤが建てたものです。預言者ムハンマドのモスクの上に高いものと作っています。ビラール・ハバシーがそこに上がり、アザーンを唱えていました。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）はビラールに、指を耳に当てることを命じられました。途中で話をした場合は最初から再度唱えることが必要です。数人が一緒に唱えることは葉合法です。誰かが唱えた部分を他の人が唱えなければ、有効とはなりません。アザーンを座りながら読むことは絶対的に忌避されるべきです。ムアッズィンが有効であること、アザーンのスンナと時間を知ること、毎日継続的に唱えること、アッラーのンご満悦の為に無償で唱えることがスンナです。有償で読むことも合法です。まだ成熟していない子供のアザーンは、有効ではありません。なぜならその声は鳥、そして機械音のようであるからです。（この為、アザーンやイカーマをスピーカーで唱えることは有効ではありません。罪

人がアザーンやイマームのタクビールに従うことは信頼できません。彼が唱えることはマクルーフ（忌避されるべきもの）です。ムアッズィンはアザーンの時刻を、他の人々も礼拝を時間通りに行うことを知ることがは必須です。時刻になったかどうかを疑いながら礼拝をした場合、それが時間通りであったことが後で分かったとしても、その礼拝は有効とはなりません。イスラーム圏外で使われているカレンダーが正しいかどうか、誠実で博識であることに置いて信頼されているムスリムに尋ね、確認することが必要です。）スンナに従って唱えられた様々なアザーンのうち、最初の一つだけを聞いた人は聞いたことを唱え、自分のモスクのアザーンであれば集団礼拝に行くことが必要です。クルアーンを読む人も唱えることが必要です。葬儀の礼拝をしている人、食事中である人、モスクにいる人、宗教的な知識を教え、学んでいる人はアザーンを繰り返す必要はありません。アラブ人でなく、過度に声を震わせて読まれるアザーンは、スンナに適していません。アザーンを聞いた人が座っている場合ればは立ち上がること、歩いている場合はれば立ち止まることがはムスタハブ（奨励されるもの）です。誓いについての項目で願掛けについて説明する際、次のように述べています。「あらゆる地域にモスクを作ることは、統治者にとってのワージブである。通常、財務省のお金で作られる。政府が作らないのであれば、ムスリムが作ることがワージブとなる」

（このように、イスラームに従い、あらゆる地域にモスクが作られれば、あらゆる地域でアザーンが唱えられ、皆、自分の地域のアザーンを聞きます。ムアッズィンが過度に叫ぶこと、スピーカーを使うことも不要となります。スピーカーは、アザーンのスンナが放棄される要因となる、一つのビドゥアです。アザーンを唱える際、礼拝をする際、ビドゥアであるものを用いることは大きな罪です。これらのイバーダが無効となる要因になります。この為、宗教局の諮問および宗教活動審査委員会の1954年12月1日付、第737号の決定の第15条では「スピーカーを説話台に設置することは、絶対的に禁止される。もしイマームのタクビールが聞こえないほどにモスク混んでいるのなら、ムアッズィンの一人、もしくはもっと遠くにいるもう一人がそれを行う」とされています。ラジオ、カセット、スピーカーで流されるクルアーンやアザーンは人の声ではなく、それを唱える人々の声を再現した磁石と電気によって生成される楽器の音であること、その声が存在する要因である人の声そのものではないにもかかわらず、くてもそれに大変似ているために、それを唱えている人の声だと思われている。そのようなことがということが「**アル・フィクフ・アラル・ムザーヒブ・イル・アルバ**」の読誦についての項で、及び「**永遠の幸福**」の本の「響

きと音楽」の部分で詳しく説かれています。イスラームが命じている「**ムハンマドのアザーン**」とは、有効なムスリムの声のことを指しますを出します。管から出る声はアザーンではありません。この時代の真の宗教学者の一人であるエルマル・ハムディ師（アッラーの慈悲がありますように）は、タフシールの第3巻、2361ページで次のように語っています。「このように、『聞け』及び『読誦せよ』という命令は、クラート（読み上げる）と並べられている。クラートは、古い言葉であり、知性があり成熟した人の口から、形式に則って出される音によってなされるものですます。さらに、ジブラーイールの行いもクラートではなく、イクラー、すなわちクラートを行おなわせる粉セルことです。アッラーの行いも、クルアーンの啓示と、「読む」ということの創造です。それに対し、知性を持たないもの、及び生命を持たないものから出る音をクラートとは言えないように、声の反響から生じる行いをクラートということもできません。この為、法的なクラートから生じた反響音はクラートではなく、ティラーワ（クルアーンを読む際の規則）も適用されないこと、そして例えば、ティラーワのサジュダ（ティラーワに基づいて必要となるサジュダ）を必要としないことが明らかにされています。本を黙って読むことは、クラートを行うことではないように、鳴っている、響いている声を聞くことは、クラートを聞くことにはなりません。鳴り物を聞くきくことでしかありません。従って、クルアーンを読む人の声を伝える蓄音機、もしくはラジオから出る音もしくは声は、クラートではありません。クラートの反映、もしくはスペクトルです。それによって、『聞け』及び『読誦せよ』という命令に従ったことにはなりません。つまり、聞かれるべきこと、黙っていることがワージブであるクルアーンとは、鳴らされるクルアーンではなく、クラートとして読まれるクルアーンです。一方で、それがワージブもしくはムスタハブではないことから、その逆、それが無いことがワージブであるはずだと考えるべきではありません。なぜなら、クルアーンを音響にかけることと、音響にかけられた他クルアーンを聞くことは別の行為だからです。クルアーンを音響にかけること、楽器のようにすることは決して許されないことであることは明らかです。実際、クルアーンを読むことはアッラーに近しくなることであるものの、ふさわしくない場所で読むことは差しさわりがあります。例えば、公衆浴場でクルアーンを読み上げる人は、罪を犯したことになります。同時に、それが読まれている場合、聞かないでいることも善行ではありません。同様に、反響である音で響く、蓄音機やラジオで流されるクルアーンの読誦を聞くことは務めではない、として、聞かないことが務めであるとも思うべきではありませ

ん。なぜなら、クラートではなくても、クラートに似ているものではあるからです。アッラーの、語られるお方という主性の顕現であるからです。ワージブもしくはムスタハブでなかったとしても、それは合法であり、良いものことであり、それに不敬な態度を示すことは許されないのです。このような状態を前にしたムスリムは、不適当である場所に置かれたクルアーンのページを前にしているかのようであり、それに対し不敬な態度を示さないこと、でいる限りそしてそれをその場から取り、ふさわしい場所に置くことが宗教上の務めです。）

多くの法学、及びファトゥワの本、例えば「**カーディハーン**」では次のように書かれています。「アザーンを唱えることはスンナである。イスラームの教えの象徴であり印である為、一つの町、一つの地域でアザーンが放棄されれば、統治者はその住民に強制的にアザーンを唱えらせることが必要である。ムアッズィンはキブラの方向と礼拝の時刻を知るべきである。なぜならアザーンは最初から最後まで、キブラに向かって唱えることがスンナである。アザーンは礼拝の時刻、断食明けの食事の時間が始まったことを教える為に唱える。この時間を知らない人、及び罪人が読むことは争いの要因になる。知性が備わっていない子供、酔っ払い、狂人、グスルが必要な状態の人、及び女性がアザーンを唱えることはマクルーフである。この場合、ムアッズィンが再び唱えることが必要となる。（マウリードを読むこと、読ませること、聞きに行くことは非常に良いことである。しかし、女性がマウリードやアザーンを読み、歌を歌い、必要以上に話し、その声を他人である男性に聞かせること、そしてそれらを聞くことはハラームである。女性は女性たちに対してのみ読むべきであり、その声をカセット、ラジオ、テレビに出すべきではない。）」座ったまま、ウドゥーのない状態で、市街地にいるのに動物に乗ったままアザーンを唱えることもマクルーフですが、それらのアザーンはやり直しはされません。アザーンはミナーラで、モスクの外で唱えられます。モスクの中では唱えられません。言葉の意味を損なう形で伸ばし、響かせて唱えることはマクルーフです。アラビア語以外の言葉ではアザーンを唱えることはできません。「**ヒンディーヤ**」では「ムアッズィンがその声をあるべき程度よりも張り上げることはマクルーフである」とされています。「**イブニ・アービディーン**」（アッラーの慈悲がありますように）は次のように語っています。「アザーンが遠くから聞こえるように、ムアッズィンが大きな声で読むことはスンナである。数人のムアッズィンが一つのアザーンを一緒に唱えることは合法である。」学者たちのこれらの文章からわかるように、スピーカーを通してアザーンやイカーマを唱えること、礼拝を先導することはビ

ドゥアです。ビドゥアを行うことは大きな罪です。ハディースでは、「ビドゥアを行う者のイバーダはどれ一つ認められない」とされています。スピーカーの音は人間の声にとても似ているとはいえ、人間の声そのものではありません。磁石が動かすパーツから生じる音であって、す、高い場所に上がり、立っている人の声ではありません。スピーカーをミナーラの左右に、後ろに置くことで、声がキブラに向かって出ないことも、また別の罪となります。声を遠くに響かせること、スピーカーのつんざくような、機械的な音も必要ではないのです。なぜならそれぞれの地域にモスクを作ることがワージブであるからです。それぞれの地域でアザーンが唱えられ、どの家でもそれが聞こえるでしょう。それ以外に、「**アザーン・ジャウク**」も合法です。数人のムアッズィンが一つのアザーンを一緒に唱えることを「**アザーン・ジャウク**」と呼びます。憂愁を帯びた人の声は遠くまで聞こえ、人の子こと、魂に影響を及ぼし、信仰を新たにさせます。（ムアッズィンはアザーンを、そしてイマームはクラートを、モスクにいる信者の集団に聞こえる程度の自然な声で唱えます。遠くまで聞こえるように無理をすることはマクルーフです。スピーカーを使う必要がないことはここからも理解できます。特に、スピーカーと呼ばれる管から出る音は、アザーンではありません。ムアッズィンの口から出る声が、**ムハンマドのアザーン**です。偉大なイスラーム学者のアブー・ヌアイム・イスファハニーの「**ヒルヤトゥル・アウリヤー**」の本におけるハディースでは、「**楽器から流れるアザーンの音は、シャイターンのアザーンである。これを唱える者はシャイターンのムアッズィンである**」とされています1}。

ハディースでは「**最後の審判の日が近づくと、クルアーンが楽器から流れる**」、また「**いつか、クルアーンがは楽器から流れる時が来る。アッラーはそれらを呪われる**」とされています。ここでの楽器とは、あらゆる種類の楽器を指します、笛恩ことです。スピーカーもまた楽器です。ムアッズィンはこれらのハディースを恐れ、アザーンはスピーカーを通して唱えないことが必要です。一部の宗教的に無知な人々は、スピーカーが役に立つこと、声を遠くまで運ぶことを語ります。預言者ムハンマドは、「**崇拝行為は、私や教友たちから学んだとおりに行いなさい。崇拝行為に変更を加える者は、ビドゥアの民と呼ばれる。ビドゥアを行う人は確実に地獄に行く。彼らの崇拝行為はどれも認められない**」と命じられました。イバーダに「、役に立つものを加えた」、と言いうことは正しくありません。このような言葉は、宗教上の敵たちの欺瞞です。一つの変化が効果的かどうでないかは、イスラーム学者のみが理解していまます。この深い知識を持つ学者を「**ムジュタヒド**」と呼びます。

ムジュタヒドは自分たちで変化を加えることはしません。加えられたものがビドゥアであるかどうかを理解します。アザーンを、楽器で流すことは、見解の一致によりと共にビドゥアであるとされています。人を、アッラーのご満悦やに、愛情に至らせる道は、人の心です。心は、本来は清らかな鏡のようです。崇拝行為は、この鏡の清らかさを高めます。ビドゥアや罪は心を暗くします。愛情の道からもたらされる、恵みや光が得られなくなります。誠実な人々はこの状態を理解し、悲しみます。罪を犯すことを望みません。崇拝行為を多く行うことを望みます。毎日五回の礼拝のみでではなく、より多くもっとたくさん行いたいと願います。罪を犯すことは我欲には心地よく、有意義効果的に感じられます。全てのビドゥア、罪は、アッラーの敵である我欲をはぐくみ、力を与えます。スピーカーを通してアザーンを唱えることも同様です。アブドゥッラーヒ・デフレヴィーの後継者の一人、ラウフ・アフマドは『（ドゥッル・ウル・メアーリフ』）の前書きで、「クルアーンやその他の務めを楽器を通して唱えることはハラームである」と書いています。アザーンをスピーカーを通して唱えることも同様です。

（シャーフィーは、「**アル・ムカッディマトゥル・ハドラミーヤ**」及び「**アンヴール**」という本で次のように語っています。「モスクの外にいる人がモスクにいるイマームに従うことがシャーフィー派において有効となる為には、イマームを見て、声を聞くこと、最後の列から300ズラー（300×0.42＝126メートル）よりも遠くないことが必要である。」テレビで見ている、声を聞きいている、遠方のイマームに従って行った礼拝は、ハナフィー派でもシャーフィー派でも有効とはならない。預言者ムハンマドの時代において崇拝行為に存在しなかったものを後世になって崇拝行為に加えることは、「**ビドゥア**」を行うこととなります。アザーンや礼拝に、ラジオ、テレビ、スピーカーを加えるというビドゥアを行う人がは地獄に行くということが、婦人章第114節からも理解されます。スピーカーやから、ラジオから聞こえる声は、アザーンそのものではありません。それに似ているものです。鏡や紙に見えるものが人とに完全に同じ姿をしていて似ていたとしても、それは本人ではなく、似ているものなのです）

## 礼拝のワージブ

ハナフィー派における礼拝のワージブ：イマームの背後でスブハーナカ以外の何も唱えないこと、イマーム及び一人で礼拝している人はファルドの2ラカートで、及びその他の礼拝の全てのラカートで一回ずつファーティハ章を唱えること。4も

しくは3ラカートのファルドの最初の二つのラカート及び他の礼拝の全てのラカートで短い章句を読むこと。３もしくは４ラカートのファルドでファーティハ章を、最初の2回のラカートに割り当てること。ファルドからファルドに移行すること。ファーティハ章を短い章句より先に読むこと、最初の座位で座ること、サジュダを続けて行うこと、終わりの座位でタヒヤートを唱えること。挨拶を行って礼拝を終えること。ウィトルの礼拝ではクヌートのドゥアーを唱えること。イードの礼拝では付け加えられているタクビールを行うこと。イフター（アラビア語の読み方の規則）をつけて唱えるところは、イフターをつけて唱えること。ジャフルをつけて唱えるべきところはジャフルをつけて唱えること。作法に従って正しく礼拝を行うこと。礼拝で言葉を唱える時、もしくはイマームが唱えるのを聞いた時にはティラーワのサジュダを行うこと。サフヴのサジュダを行うこと。四ラカートのファルドの礼拝では、終わりの座位でタヒヤートを唱えた後、体を屈めず折らず、起き上がること。あらゆる動きでイマームに従うこと。支障がない場合、一つの見解によるなら、ファルドを集団で行うこと。犠牲祭の前日の朝の礼拝から、四日目の午後の礼拝まで、23のファルドの礼拝の後で「**タシュリークのタクビール**」を唱えること。

**礼拝のスンナ**

ハナフィー派における礼拝のスンナ：最初のタクビール及びウィトルの礼拝のクヌートのタクビールで、男性はが手を耳たぶに、女性は肩のところまで上げること。最初の、及びクヌートのタクビールで、手のひらをキブラに向けること。、クヤームで右手の親指と小指を左手の手首に結び付けること。女性は右手を左手の上に置くこと、男性はへその下に、女性は胸の高さに手を組むこと。全ての礼拝の最初のラカートで、イマームであれ、集団礼拝であれ、一人であれ、「**スブハーナカ**」を唱えること。イマーム及び一人で礼拝する人が、最初のラカートごとにスブハーナカの後、「アウーズ」と「ビスミッラー」を唱えること。同様に、イマーム及び一人で礼拝をする人が、全てのラカートでファーティハ章の前に聖なるビスミッラーを唱えること。イマームが「**ワラッダーリーン**」と言った時には、イマーム、集団、一人で礼拝する人は自らがファーティハ章を唱え終えた後でゆっくりと「アーミーン」と唱えること。クヤームからルクウに移る際、タクビールを行うこと。ルクウで手を膝の上に置き、指を開くこと。ルクウで三回「**スブハーナラッビヤル　アズィーム**」と唱えること。ルクウで腰と頭を同じ高さに置くこと。イマーム及び一人で礼拝する人は、ルクウから起き上がる際、「**サミ　アッラーフ　リマン　ハミダ**」と

唱えること、クヤームからサジュダに移る際には、「**アッラーフ・アクバル**」と唱えること。サジュダで三回「スブハーナラッビヤル　アズィーム」と唱えること。最初のサジュダから起き上がる時、「アッラーフ・アクバル」と唱えること。サジュダをする時、「**アッラーフ・アクバル**」と唱えること。サジュダで手の指をそろえること。男性はサジュダでひざを床につき、太ももをおなかから離すこと。女性は太ももをおなかにつけること。二回目のサジュダから起き上がる時、「**アッラーフ・アクバル**」と唱えること。男性が右足を立て、左足の上に座ること。最後の座位でサラワートのドゥアーを唱えること。右と左に挨拶をする際、頭を向けること。タヒヤートでは両手を膝の端にそろえておき、指は自然な状態にしておくこと。サジュダでは、両手と両足の指をキブラに向けること。サジュダをした際には、手を耳の高さに置くこと。七つの器官1}の上でにサジュダを行うこと。四ラカートのファルドの礼拝の最後の二ラカートでは、ファーティハ章のみを唱えること。聖なるスンナに従い、ムハンマドのアザーンを唱えること。集団でも一人でも、ファルドで男性がイカーマを行うこと。

**礼拝のムスタハブ**

ハナフィー派による、礼拝のムスタハブ：ムアッズィンがイカーマで「**ハイヤアラッサラー**」と言った時、集団は体を屈めず折らず、身を起こすこと。最初のタクビール及びウィトルの礼拝のクヌートのタクビールで、男性が親指を耳たぶに触れさせること。クヤームでは手を組んだ時に手首をきつく締めること。クヤームで、サジュダする場所を見ていること。ルクウとサジュダで、五回もしくは七回タスビーフを行うこと。ルクウで足の方を見ること。ルクウで足をくっつけていること。クヤームで体を起こした時、左足を右足から離すこと。額より先に鼻を地面につけること。サジュダで鼻の両側を見ること。挨拶をする際、肩の上を見ること。イマームの左側にいる人は、挨拶をする際、イマームと守護天使、信者集団への挨拶を意図すること。右や左に誰もいなければ、ただ守護天使たちを意図すること。礼拝中に汗を拭かないこと。咳をしないこと。あくびをしないこと。タヒヤートに座った際には太ももを見ること。イマームは礼拝の後、顔を信者集団に向けること。

## 礼拝の礼儀

１.　一人で行うもしくはイマームと行なっている人は、挨拶に続いて「**アッラーフンマ　アンタッサラーム　ワ　ミンカッサラーム　ワ　ザル　ジャラール　ワル　イクラム**」と唱え

ること。その後、三回「アスタグフルッラハル　アズィーム　アッラズィー　ラー　イラーハ　イッラー　フワルハイヤルカユーマ　ワ　アトゥブ　イライフ」と唱えること。これを懺悔のドゥアーと言います。

２．その後、「アーヤトゥルクルシー」を唱えること。

３．33回「スブハーナッラー」と唱えること。

４．33回、「アルハムドゥリッラー」と唱えること。

５．33回、「アッラーフ・アクバル」と唱えること。

６．一回、「ラーイラーハ　イッラッラ―フ　ワフダフーラー　シャリーカラ　ラフ　ムルク　ワ　ラフルハムド　ワフワ　アラー　クッリ　シャイン　カディル」と唱えること。

７．腕を前に伸ばし、手をドゥアー―の方向である天に向け、集中してドゥアーすること　８．集団で礼拝している場合、ドゥアーを待つこと

9. ドゥアーの最後に「アーミーン」と言うこと。

10. ドゥアーの最後に手を顔につけること

11. その後、それぞれビスミッラーと唱えながら、11回イフラース章を唱えることを命じるハディースが、。「ベリーカ」の第一巻の最後のページに書かれています。それから一回ずつ「クル　アウーズ」を唱えること、67回「アスタグフルッラー」と言い、。70回にすること1}。10回「スブハーナッラーワ　ビハムディヒ　スブハーナッラーフ　アズィーム」と言うこと。それから「スブハーナカ　ラッブカ」の章句を読むことです。これらは「メラークル・ファラフ」という本に書かれています。聖ハディースでは、「日に五回の礼拝の後なされるドゥアーは認められる」とされています。しかしドゥアーは、覚醒した心で、声を出さずに行うべきです。ドゥアドゥアーを、ただ礼拝の後、もしくは一定の時間の身に行うこと、一定のものを覚え、詩を読むようにドゥアドゥアーすることはマクルーフです。ドゥアドゥアーが終わってからると手で顔をなでるのはスンナです。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）はカーバ神殿の周回で、食後、就寝時にもドゥアドゥアーをされていました。これらのドゥアドゥアーでは、腕を前に伸ばさず、また手で顔をなでることもされませんでした。ドゥアドゥアーやズィクルを静かに行うことは善行です。ドゥアドゥアーや懺悔をウドゥーのある状態で行うことはムスタハブです。教団に属する人たちが行うように、踊ったり、回ったり、拍手したり、タンバリン、ダミー1}、ネイニー、サズを演奏したりすることは、見解の一致としてハラームです。このように、信者集団はイマームと共に静かにドゥアドゥアーを

行うことが徳とされます。別々にドゥアドゥアーすること、ドゥアドゥアーする前に立ち上がって去ることも合法です。「**ヒンディーヤ**」のファトゥワーでは次のように言われています。「最後のスンナである礼拝で挨拶を行い、イマームが座ることはマクルーフである。右、左、もしくは少し後ろに下がり。すぐ具に最後のスンナを行うべきである。もしくはすぐに去り、家で礼拝する。集団もしくは一人で礼拝する人は、座っている場所にい続け、ドゥアドゥアーすることができる。もしくは座っている場所で右、左、もしくは後ろに下がり、最後のスンナを行うことも合法である。最後のスンナがない礼拝では、イマームが座った場所でキブラに向いたままでいることはマクルーフであり、ビドゥアドゥアである。起き上がり去ること、もしくは集団の方に向き直ること、もしくは右、左に向いて座ることが必要である。」

**礼拝の後のドゥアドゥアー:** アルハムドゥリッラー　ラッビル　アーラミーン。アッサラートゥ　ワッサラーム　アラーラスーリナ　ムハンマディン　ワ　アーリヒ　ワ　サフビヒアジュマーイン。主よ、私が行った礼拝を承認してください。来世と私の将来をよいものとしてください。最期の息でタウヒードの言葉を唱えることができますように。亡くなった人々をお許しください。アッラーフンマムマグフィル　ワルハム　ワアンタ　ハユルッラヒーム。タワッファニー　ムスリマン　ワアルフキニー　ビッサーリヒーン。アッラーフンマグフィルリワ　リワーリダヤ　ワ　リウスタズィーヤ　ワ　リムー　ミニーナ　ヤウマ　ヤクームル　ヒサーブ。主よ！私をシャイターンの災いから、敵の災いから、悪をそそのかす我欲の災いからお守りください。私の家に良いもの、ハラールであるもの、そして価値のある恵みをお与えください。イスラームの人々に祝福を与えてください。ムスリムの敵を滅ぼし壊滅させてください。不信心者と聖戦を行うムスリムを、神の支援によりお助けください。アッラーフンマ　インナカ　アフューウン　カリームン　トゥヒブル　アフワ　ファーフ　アンニー。主よ！病気の人に癒しを、苦しんでいる人に解決策をお与えください。アッラーフンマ　インニー　アッサルーカスッハータ　ワ　アーフィヤタ　ワル　アマーナタ　ワ　フスナルフル　ワッリダービルカダリ　ビ　ラフマティカ　ヤー　アルハマルラーヒミーン。母に、父に、子供たちに、親戚、友達、そして全ての教えの兄弟たちに価値のある人生、良い性質、知性、健康、健やかさ、成熟、導き、正しい方向性をお与えください。主よ！アーミーン。ワルハムドゥリッラーヒ　ラッビルアーラミーン。アッラーフンマ　サッリ　アラー。アッラーフンマ　バーリク

アラー　アッラーフンマ　ラッバナー　アーティナー。ワルハムドゥ　リッラーヒ　ラッビルアーラミーン。アスタグフルッラー、アスタグフルッラー、アスタグフルッラー、アスタグフルッラーハル　アズィーム　アルカリーム　アッラズィー　ラー　イラーハ　イッラ　フワル　ハイヤル　カイユーマ　ワアトゥーブ　イライフ。

## 礼拝のマクルーフ

１．首を曲げ、左右を見ること

2. 着ているものをいじること

3. 正当な理由なく手でサジュダする場所を払うこと

４．男性が両手を、立っている際には胸の上で、サジュダでは胸の高さに置くこと

5. 指を鳴らすこと

6. 正当な理由なく、あぐらをかいて座ること

7. サジュダで片足を上挙げること

8. 年配の人がそばに寄れないような汚れた衣服で礼拝をすること

9. 人の顔に向かって礼拝をすること

10.火に向かって礼拝をすること

11. 体、衣服に絵（顔）があること

12. 正当な理由なくあくびをすること

13. 手を袖から出さずに礼拝すること

14. 犬のように脛の上に座ること

15. 目をつぶること

16. 手をキブラから別の方向に向けること

17. 集団で礼拝する際、前に空いている列があるのに、後ろの列で礼拝すること。もしそばに誰かがいればタンズィーハン・カラ―ハト（罪であるという絶対的な証拠はないものの、やらない方がよいもの）、そばに誰もいなければタフリーマン・カラーハト（絶対にやらない方がよいもの）となります。この場合、ワージブを放棄したことになります。不足を補う為にその礼拝をやり直すことが必要となります。

18. 前に絨毯がない状態で、墓地に向かって礼拝すること

19. 汚れたものに対して礼拝すること

20. 男性と妻が一緒に並んで、それぞれ別の礼拝をすること

21. トイレに行きたいのに、我慢しながら礼拝すること

22. ルクウから身を起こした後、サジュダに入る際、正当な理由なく、先に手を床につけること

23. 一回のルルクウで二回、どこかを掻くかくこと。（もし一回のルクウで手を上げながら三回掻かけば、礼拝は無効になります）

24. イマームより先にルクウすること。

25. イマームより先にルクウから起きること

26. イマームより先にサジュダを行うこと

27. イマームより先にサジュダから起き上がること

28. 正当な理由なく、何かにもたれて立ち上がること

29. サジュダから起き上がる際、手よりも先にひざを起こすこと

30. 顔や目のごみを払うこと

31. 二回目のラカートで、最初のラカートで唱えた章句から後の章句に飛ぶこと

32. 一回目、二回目のラカートで、同じ章句を読むこと、もしくは一回のラカートで同じ章句を二回読むこと（義務でない礼拝では合法です）

33. 二回目のラカートで、一回目のラカートで読んだ章句よりも前の章句を読むこと

34. 二回目のラカートで、一回目のラカートで読んだ短い章句よりも三つの節の分、長く読むこと

35. 正当な理由なく、どこかにもたれながら体を屈めるこ折ること、起き上がること

36. ハエを追い払うこと

37. 袖を折り、肩や足が見えている状態で礼拝すること

38. 砂漠で、覆いを使わないこと

39. 通路で礼拝すること

40. ルクウやサジュダで、指でタスビーフを数えること

41. イマームが説教台の中におり、カーテンを閉め、完全に中にいる状態で階段や説教台にいること

42. イマームが単独で、集団よりも1ズラー以上、下もしくは上にいること。（１ズラーは約50センチ）

43. イマームが説教台以外の場所にいること

44. 礼拝の最中、「アーミーン」を大声で唱えること

45. クヤームで読んでいるものを、ルクウで完了すること

46. ルクウで読んでいたものをクヤームで完了すること

47. 正当な理由なく、片足で立つこと

48. 礼拝で体を揺らすこと

49. 刺していない蚊を殺すこと

50. 礼拝中に何かの匂いをかぐこと

51. 頭を覆わずに礼拝すること。巡礼者はイフラームの状態では、頭を覆わずに礼拝します。

52. 腕を出した状態で礼拝すること

53. 裸足で礼拝すること。（女性が裸足で礼拝することは、一つの見解ではマクルーフです。別の見解によると礼拝を損ないます）モスクで、靴や類似するものを背後に置くことはマクルーフであることが、イブニ・アービディーンの439ページで書かれています。前、右ではなく、左側に置くことがスンナであることが「ベリーカ」の最後で書かれています。ファルドと最後の礼拝の間でドゥアドゥアーや祈りの言葉を唱えることはがマクルーフであることがが「**タグリーブッサラート**」にで書かれています。

**礼拝を損なう事柄1}:** 意図的に、もしくはうっかりして行った場合に、礼拝を損なうものは、ハナフィ―派によると55ほどが明らかにされています。

１. 世俗的なことを話すこと

２. 自分で聞こえるだけの声で笑うこと

3.礼拝にそぐわないとされている行いをすること

４. ファルドの一つを、正当な理由なく放棄すること

５. 必要に迫られることなく、ファルドの一つを放棄すること

６. 世俗的なことのために大声で泣くこと

７. 正当な理由なく、痰を切ること、咳をすること

8. ガムをかむこと

9. ルクウで、三回、どこかを掻かくこと、もしくは両手を上げて打ち付けること

10. 握手すること

11. 自分に聞こえるだけの声で最初のタクビールを行わないこと

12. 自分に聞こえるだけのことをことで唱えないこと

13. 誰かが呼んだ時に「ラー　ハウラ　ワラ―　クッワタイラー　ビッラーヒ　アリーユル　アズィーム」もしくは「スブハーナッラー」「ラーイラーハ　イッラッラ―」と言うこと。礼拝中であることを伝える意図で言われた場合、礼拝は損なわれません。質問した人に答えた場合は損なわれます。

14. 意図的に挨拶を受けること

15. 口に入っている飴のようなものを味わい、その水分がのどに入ること

16. 野外で礼拝するとき、降っている上アリーユル　アズィームムムムっている雨や雹ひょう等がのどに入ること

17. 動物の手綱を三回引くこと

18. 三回、手を上げること。、もしくは三回、蚊やノミなどをつぶして殺すこと

19. 一回のルクウで三回、毛を抜くこと

20. ああ、うう、等と言うこと

21. 馬の上で、イスラームに従った形で礼拝を行っている最中に片足で鞍の両側を三回蹴ること

22. 両足で一回、鞍の両側を蹴ること

23. イマームよりも前にいること

24. 正当な理由なく、一列分歩くこと

25. 髪やひげを梳かすこととくこと

26. イマームが男性、女性の為にイマームとして礼拝を先導するとニーヤ（意志表示）を行い、男性、女性が一列に並び、イマームに従って並んで礼拝すること。（同じ列、すなわち隣り合っていない場合、もしくはその間に覆いがある場合は合法です。）女性、女児がモスクに行く為、もしくは何らかの理由で頭や腕、すなわち覆い隠すべき場所を隠さずに外に出ることはハラームです。この場合、行った礼拝は善行ではなく罪となります）

27. 自分のイマーム以外に指示を征服すること（つまり、イマームがクラートで詰まった時に助けること）

28. 女性が絨毯を敷き、イマームに従っていれば、その後に来た信者集団が作り出す列がその女性がいる場所にまで広がれば、その右、左、後ろに当たる部分で礼拝をした三人の人の礼拝は無効となります。

29. 子供を抱くこと

30. 何かを食べること、飲むこと

31. 歯の間に挟まっていた、ひよこ豆ほどの大きさのものを飲み込むこと

32. 両手で襟を合わせること、頭の覆いを外すこと、もしくは外してつけること

33. 何かの災いについて耳にした時、「**インナー　リッラーヒ　ワ　インナー　イライヒ　ラージウーン**」と言うこと。

34. 何かの良いことを聞き、「**アルハムドゥリッラー**」と言うこと。

35. 一つの見解によれば、誰かが礼拝中にくしゃみをした際、「**アルハムドゥリッラー**」と言うこと。

36. 隣の人がくしゃみをした時に「**ヤルハムカッラー」**と言うこと。

37. 他人がくしゃみをした時に「**ヤフディクムッラー**」と言うこと。

38. 男性が来て、礼拝をしている女性にキスをすること

39. 礼拝中にドゥアドゥアーする際、金銀、その他世俗的なものを求めること

40. 胸をキブラからそらすこと。キブラの方角を知るには二つの手段があります。１．キブラ角　2. キブラ時計　１. 地図上で都市とメッカの間に線を引くと、その方向は「**キブラ線**」になります。この角度がキブラ角です。２．カレンダーに書かれている時間（**キブラ時間**）に太陽を向くける人はキブラを向いています。ケドゥーシーは解釈で次のように書いています。「ルービ・ダイレ（キブラの方角を知るために道具）を調整し、それがキブラ角に向けられた時、そこで示される角度が、イスタンブールンにおけるキブラ時間の角度となる。」時計の文字盤が空に向けられ、時針が太陽に向けられると、時針と12の間の角度の中央のラインは南を示します。568ページを見てください。

41. サジュダで両足を同時に上げること

42. クルアーンの意味を損なうほど、誤って唱えること

43. 女性が子供に授乳すること

44. 他人のに言葉により場所を変えること

45. 動物に三回、鞭をふるうこと

46. 閉じられている扉を開くこと

47. 三文字まで1}の文字を書くこと

48. 外套を着ること

49. カダーの礼拝が六回よりも少ない場合、それを思い出すこと

50. （船、電車で）及び動物の上で正当な理由があって礼拝を行っている時、キブラ以外の方角に向くこと

51. 動物に負荷をかけること

52. 心の中では棄教していること

53. グスルが必要な状態であること、女性が月経中であること

54. イマームが、ウドゥーが損なわれたと思い、代わりに他の人を入れること

55. 意味が変わるほどに文字を変えてクルアーンを読むこと。イブニ・アービディーン（アッラーの慈悲がありますように）は礼拝のスンナについて語る際、次のように述べています。「礼拝以外のものに従いながら行われた礼拝は有効とはならない。イマーム、ムアッズィンが礼拝を始める為にタクビールを行う際、礼拝を始めるというニーヤ（意志表示）尾を行うことが必要である。単に集団に聞かせる為にニーヤを行えば、礼拝は有効とはならない。彼らに従った人々の礼拝も、有効とはならない。イマームの声が届くのに、ムアッズィンが礼拝の中のタクビールを唱えることはマクルーフであり、醜いビドゥアドゥアである。必要である場合は、ムスタハブとなりますが、声を響かせることを考えるのであれば礼拝が無効となる。」ここからも理解できるように、イマームやムアッズィンが信者集団にスピーカーで声を聞かせることは集団の礼拝を損なうことになります。彼らの礼拝が有効とならないのです。さらに、醜いビドゥアとなります。ビドゥアを行うことは大きな罪です。他の場所で礼拝を先導しているのがテレビで見える、聞こえるイマームに従うことは有効ではないことは葉、インドの学者たちがマラップラムでの町で発行した「**アル・ムアッリム**」という雑誌の1406年ラビーウルアッワル月、1985年12月の第12号で詳しく書かれています。）

**さらに礼拝を損なわない事柄：**前に空いている列があった場合、一歩もしくは二歩歩いて到達できるのであれば、もしくはアーミーンと言い、これが他の人への返事ではない場合、眉や目で相手の挨拶を受ければ、もしくは誰かが来て何ラカート礼拝をしたのかと聞かれけば、それに指で示して応えれば、これらのうちのどれも、礼拝を損なうことにはなりません。

サラートとは辞書上の意味として、崇高なるアッラーから慈悲を、天使たちから許しを、信者たちからドゥアドゥアーすることを意味します。「アファーリ・マールム」及び「アルカ

ン・マフスーサ」を、トルコ語では礼拝する、と言うのです。「アファーリ・マールム」は礼拝の前後で行う行為、「アルカン・マフスーサ」は礼拝の最中に行う根幹を意味します。これらは礼拝に特有のものです。

また、ある時預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は、アリー（アッラーがお喜びくださいますように）に嬉しそうに、「**アリーよ！あなたは、の礼拝のファルド、ワージブ、スンナ、ムスタハブに重きを置かなければならない**」と言われた時、マッカの住民の一人が「アッラーの使徒よ、アリーはそれらのすべてを知っています。私たちに礼拝のファルド、ワージブ。スンナ、ムスタハブに重きを置くことの徳を教えてください。私たちもそれに合わせて振舞います」と言いました。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は、「**わがウンマよ、そして教友たちよ！礼拝は崇高なるアッラーが喜ばれるものである。無垢な天使たちの愛情である。預言者たちのスンナである。マーリファ（アッラーを知ること）の光である。徳のある行為である。体の力である。糧の恵みである。命の光である。ドゥアドゥアーの承認である。死の天使への仲裁者である。墓地での支えである。ムンカル及びナクルへの答えである。最後の審判の日における、あなた方の為の木陰である。地獄とあなた方との間の幕である。スラート橋を稲妻のように渡らせるものである。天国における冠である。天国のカギである**」と答えられました。

## 集団礼拝の徳

誰かが集団と共に二ラカートの礼拝をするときれば、また単独で27ラカートの礼拝をするときを比べるとれば、集団で行った二ラカートの礼拝の善行のほうがはそれよりも多くなります。

ある伝承では、一人で千ラカートの礼拝をしても、やはり集団で行った二ラカートの礼拝の善行がより多くなるとされています。集団礼拝の善行はたくさんあります。いくつかについてここで説明します。

１．信者たちが一か所に集まることで互いへの親愛の情が生じます。

2. 無知な人たちが学者たちから礼拝の各項目について学びます。

３．一部の人の礼拝が承認され、一部の人の礼拝が承認されない場合、承認された人への敬意の為、承認されない人の礼

拝も承認されます。

ハディースでは、「**わがウンマよ、友たちよ！あなた方の為に二つの道を置いた。一つは崇高なるクルアーンであり、もう一つは私のスンナである。これ以外の道を進む人は、私のウンマではない**」と言われました。（アブドゥルガーニ・ナブルシー（アッラーの慈悲がありますように）は、「**ハディーカ**」の99ページで次のように語っています。「アッラーはイスラームの一部をクルアーンによっておしえられたように、一部を預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）のスンナによって教えられた。預言者ムハンマドのスンナは、彼が信じたこと、語られたこと、行われたこと、道徳、そして誰かの言葉もしくは行いに対して沈黙されたこと（このようにしてそれを認めたことが理解される）である。」このハディースは「**アディッラ　イ　シャリーヤ**」からの二つ目を示しています。

## 礼拝におけるイマーム

さらに、イマームに従う人は四種類になります。これらはムドゥリク、ムクタディ、マスブーク、ラーフクとされます。

１．ムドゥリクは、最初のタクビールをイマームと共に行う人です。

２．ムクタディは、最初のタタクビールに間に合わなかった人を言います。

3. マスブークは、イマームがラカートの一つもしくは二つを行った後、従った人です。４．ラーフクは最初のタクビールをイマームと共に行い、しかしその後、自分の事情の為、ウドゥーを行い、再びイマームに従った人です。この人は前のように、クラートなしで、ルクウとサジュダ、タスビーフを行い、礼拝をします。その人がもし世俗的な言葉を口にしていなければ、イマームの背後にいると同様とになります。しかし、モスクから出た後、非常に近い場所でウドゥーをする必要があります。とても遠くに行った場合、礼拝は無効になるという人々もいます。」

誰かがモスクに来た時に、イマームがルクウをしていれば、そしてルクウに間に合おうと急ぎ、最初のタクビールをルクウに体を屈め折りながら行えば、それはイマームに従ったことにはなりません。イマームがルクウしていたのであれば、イマームに従うことをニーヤし、タクビールを立ったまま行い、それからルクウをします。イマームに腰の動きで追いつき、一緒にタスビーフを行えば、そのラカートに従ったことになります

。しかしルクウをした時にイマームが腰を起こせば、そのラカートには追いつけなかったことになります。

## 礼拝におけるタディーリ・アルカーン（根幹であるものを正しく適切に行うこと）

礼拝における五つの箇所で、タディーリ・アルカーン（根幹であるものを正しく適切に行うこと）を忘れていないのに、意図的に放棄した場合、イマーム・アブー・ユスフによれば（アッラーの慈悲がありますように）、礼拝は無効になります。その他の見解によれば、無効にはなりません。しかしワージブを意図的に放棄していることから、不足分を償う必要があります。忘れてしまって行わなければ、「**サフヴのサジュダ**」が必要となります。

（185ページを見てください）

**タディーリ・アルカーンを放棄することには26ほどの害があります。**

１．貧困の要因となります。

２．来世の学者たちがその人彼に憤慨します。

３．公正さを失い、証言が無効とになります。

４. 礼拝を行った場所が、最後の審判で否定的な証言をします。

５．誰かが、タディーリ・アルカーンなしで礼拝している人を見た場合、それを言わなければ罪となります。

６．その礼拝を再び行うことがワージブとなります。

７．信仰のない死の要因となります。

８．礼拝を阻む盗むものとなります。

９．行った礼拝例外が古い布のように審判の日に顔にたたきつけられます。

10. アッラーの慈悲を受けられなくなります。

11. アッラーとお会いしている場での、不徳の要因となります。

12. 礼拝の、多くの報奨を得られなくなります。

13. 他のイバーダの報奨があたえられないことの要因となります。

14. 地獄にふさわしい存在となります。

15. 無知な人々が彼を目にし、彼らがタディーリ・アルカ

ーンを放棄する要因となります。この為、宗教学者が罪を犯すことは葉より多くの罰をもたらす要因となります。

16. イマームに従わなかったことになります。

17. その間にあるスンナを放棄したことになります。

18. 崇高なるアッラーの罰を受けることになります。

19. シャイターン（悪魔）を喜ばせることになります。

20. 天国から遠ざかります。

21. 地獄に接近します。

22. 自らの自我を苦しめることになります。

23. 自我を穢したことになります。

24. 右と左にいる天使を苦しめたことになります。

25. 預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）を悲しませることになります。

26. 全ての被造物にその害が及びます。なぜならその人の罪の為に雨が降らず、作物が実らず、季節外れに雨が降り、益効果ではなく害を及ぼすことになるからです。

## 旅行中の礼拝1}

「**イスラームの恵み**」では次のように言われています。「義務でない礼拝を立って行う力があるのに座って行うことは、いつでも、どこでも合法である。座って行う際は、ルクウの為に体を屈め折る。サジュダの為には頭を地面に倒す。しかし正当な理由なく、義務でない礼拝を座って行う人には、立って行う人の半分ほどの報奨しかが与えられないれる。日に五回の礼拝のスンナやタラーウィーの礼拝も、義務ではない礼拝である。旅の途中、すなわち町や村ではないところで、義務ではない礼拝を動物の上で行うことも合法である。キブラの方を向くことや、ルクウやサジュダを行う必要はない。イメージで礼拝を行う。つまりルクウの為に体を少し屈める折る。サジュダの為にもう少し体を屈める折る。動物の上に汚物があることは、礼拝の妨げにはならない。地上で義務ではない礼拝を行う際、疲れた人が杖、人、壁にもたれて礼拝することは合法である。自らの足で自分が歩きながらく際に礼拝することは、有効ではない。ファルドとワージブの礼拝は、町ではないところで、正当な理由がある際にのみ動物の上で行うことができる。正当な理由とは、動物から降りた場合に仲間が行ってしまって一人残されること、生命、財産、家畜が盗まれる恐れがあること、地面が泥であること、動物に乗ることができないこと等である。可

能であれば動物をキブラの方向に向け、留めさせて礼拝する。可能でなければ動いている状態で行う。動物の上のマフミールと呼ばれる箱のようなものの中で礼拝する場合も同様である。動物を止め、マフミールの下に支柱を置けば、机や長椅子のようになり、地面で礼拝することになる。キブラに対して立って礼拝することが必要となる。

船で礼拝することは、ジャーファル・タイヤールがエチオピアに行く際、預言者ムハンマドが彼に教えられた通りである。すなわち、動いている船で、正当な理由がなくても、ファルドとワージブの礼拝を行うことができる。船で、集団で礼拝もできる。動いている船でも、イメージで礼拝を行うことは葉合法ではなく、ルクウとサジュダを行う。キブラの方向を向くことも必要である。礼拝が始まる際、キブラのに方向を向く。船が曲がるたびに、自分もキブラに向く。船では汚れから清められることも必要である。ハナフィー派では、正当な理由がなくとも、動く船でファルドの礼拝をせいとうな理由がなくても床に座って行うことが合法となる。海の真ん中に錨いかりを下ろしている船が大きく揺れていれば、海岸で止まっている船と同様となる。海岸で止まっている船ではファルドの礼拝をは座って行うことができない。岸に上がることが可能であれば、立って礼拝することもできず、陸に上がって礼拝することが必要である。財産、生命、もしくは船を動かすことに危険があれば、船で立って礼拝することは合法となる。」「**イスラームの恵み**」からの翻訳は以上です。

「**イブニ・アービディーン**」は次のように語っています。「二つの車輪があり、動物に結び付けなければ地面にまっすぐ留まっていない車で、止まっている時も動いている時も、礼拝をする場合は動物に乗って礼拝をする時と同様である。四つの車輪がある車は、止まっている時は寝床のようなものである。動いている時は、動物の為に先に示した正当な理由があればファルドの礼拝をすることができる。もしくは、車を止め、キブラに向かって行う。止めることができなければ、動く船と同様に行う。」旅行中であり、移動に用いている乗りものの上で座れなかったり、キブラの方向を向けなかったりする場合、その乗りものを降りてから、シャーフィー派もしくはマーリキー派に従い、二回の礼拝を合わせて行います。床に座ることのできる病人が、イスやソファーに座ってイメージで礼拝を行うことは合法ではありません。バスやで、飛行機で礼拝をすることは、車の礼拝と同様です。旅に出る際に、は町もしくは村の端から三日もしくは18フェルサフ＝54マイル（54×0.8×4＝104キロメートル）の距離に行くことをニーヤした人は、町の端から離

れた時、旅行者となります。イブニ・アービディーンは、1マイルは400ズラーであり、1ズラーは指24本分であると語っています。（一本の指は2センチです。シャーフィー派及びマーリキー派では16フェルサフ＝48マイル＝48×0.42×4000＝80キロメートルです。）

さあ、来てください、礼拝をしましょう。心の錆を落としましょう。

礼拝をしない限り、アッラーに近づくことはできません。

礼拝が行われるところでは、罪がこぼれ落ちます。

人は礼拝をしない限り、完全にはなりません。

クルアーンではアッラーは礼拝を強く称賛されています。

礼拝をしない限り、その人を愛さないと言われました。

ハディースでは、信仰のしるしは礼拝しない限り、

は人において信仰のしるしは明らかにはならないとされています。

礼拝をしないことは大きな罪です。

カダーをしない限り、悔悟では許されません。

礼拝を軽視する人は、すぐに信仰からも外れてしまいます。

礼拝をしない限り、彼はムスリムではありません。

礼拝は心を清め、悪から守ります。礼拝しない限り、美しくなりませんらないのです。

## 最初のタクビールの効果褒賞

さらに、誰かが最初のタクビールをイマームと共に行えば、秋の日に木から葉が、風が吹くたびに木から葉が落ちるように、その人の罪も同じように落ちていきます。

ある日、預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）が礼拝をされている時、ある人が朝の礼拝の最初のタクビールに間に合うことができませんでした。その為彼は奴隷の一人を解放しました。彼は預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）のおそばに来て、（アッラーの祝福と平安がありますように）「アッラーの使徒よ。私は今日、最初のタクビールに間に合いませんでした。しもべを一人解放しました。最初のタクビールの報奨を得ることはできるでしょうか」と尋ねました。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）はアブー・バクルに、「あなたはどう思うか、この最初のタクビールについて」と問われました。

アブー・バクルは、「アッラーの使徒よ（アッラーの祝福と平安がありますように）、私が40頭のラクダを持っていて、この40頭の積み荷が宝石であり、その全てを貧者に寄付したとしても、やはりイマームと共に行う最初のタクビールの報奨を得ることはできません」と言いました。それから、「**ウマルよ！あなたはどう思うか、この最初のタクビールについて**」と言われました。ウマルは「アッラーの使徒よ（アッラーの祝福と平安がありますように）、マッカとマディーナの間を埋め尽くすだけのラクダを持っていて、これらの積み荷が宝石であり、全てを貧者に寄付したとしても、やはりイマームと共に行う最初のタクビールの報奨を得ることはできません」と言いました。それから、「**オスマーンよ、あなたはどう思うか、この最初のタクビールについて**」と問われました。オスマーンは「オスマーンの使徒よ（アッラーの祝福と平安がありますように）、夜、二ラカートの礼拝をし、それぞれのラカートで、崇高なるクルアーンを読了したとしても、やはりイマームと共に行う最初のタクビールの報奨を得ることはできません」と言いました。それから、「**アリーよ、あなたはどう思うか、この最初のタクビールについて**」と問われました。アリーは「アッラーの使徒よ（アッラーの祝福と平安がありますように）、マグリブとマシュリクの間の不信心者の全てが、ムスリムを滅ぼす為に攻撃してきたとしてたとしたら、そしてアッラーが私に力を与えられ、彼らと聖戦を行いう、彼らの全てを殺したとしても、やはりイマームと共に行う最初のタクビールの報奨を得ることはできません」と言いました。

それから預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は、「**わがウンマよ、わが友よ！七層の大地と七層の天が紙となり、海がインクとなり、全ての木々がペンとなり、全ての天使が書記となりれば、そして最後の審判の日まで書き続けたとしてもても、やはりイマームと共に行う最初のタクビールの報奨を書くことはできない**」と言われました。

そしてもし、崇高なアッラーが創造された天使たちはその程度なのか？と言うのなら、預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）がミラージュに上がられた夜、天国と地獄、天の家を天使たちが周回していた時の話を聞きなさいました。その時、預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は言われました。「**わが兄弟、ジブラーイールよ。この天の家を周回する天使たちは戻ってこない。彼らはどこに行くのか？**」ジブラーイールは答えました。「アッラーが愛されるお方よ。私が創造された日から今まで、この天の家を周回する天使たちが戻ってきたのを見たことはありません。一度周回した者には、最後の審判までその番は来ないのです

」

誰かが礼拝で「アウーズ・ビッラーヒ」の言葉を唱えれば、崇高なるアッラーはそのしもべに、体の毛ほどの数の報奨を与えられます。そしてファーティハ章を一度読めば、。アッラーはそのしもべに、承認された巡礼ほどの報奨を与えられます。そしてルクウを行えば、崇高なるアッラーはそのしもべに何千もの金をサダカしたほどの報奨を、そしてルクウでスンナに従って三回タスビーフを行えば、崇高なるアッラーは、そのしもべに崇高なるアッラーは天から下された四冊の啓典及び百のスフフ（預言者たちに下された短い啓示）を読んだだけの報奨を与えられます。「**サミ　アッラーフ　リマン　ハミダ**」と言えば、崇高なるアッラーはそのしもべを慈悲の海に入れられます。サジュダを行えばそのしもべに、崇高なるアッラーは人間とジンの数だけの報奨を与えられます。サジュダでスンナに従って三回タスビーフを行えば、崇高なるアッラーがそのしもべに与えられる徳は非常に大きいものとなりますたくさんあります。しかしその一部のみが言及されています。

最初の徳は、天空の重さの報奨が与えられるということです。二つ目は、崇高なるアッラーはそのしもべを許されるということです。三つ目の徳は、そのしもべが死んだ時、ミカイール（アッラーの平安がありますように）がそのしもべの墓に最後の審判の日までい続けられるということです。四つ目の徳は、最後の審判の日、ミカイール（アッラーの平安がありますように）がそのしもべを神聖な翼の上に載せられ、とりなしをされ、天国に連れていかれるということです。最後の座位を行えば、。崇高なるアッラーは、そのしもべに忍耐強い貧者ほどの善行を与えられます。忍耐強い貧者は、感謝する富裕者よりも500年早く天国に行きます。感謝する富裕者は彼らを見て、現世で忍耐する貧者であればよかったのにと願うのです。

**尋問の天使が墓場に来て、**
**礼拝を正しく行ったかと尋ねます。**
**死ねばすぐに救われると思ったのか？**
**あなたの懲罰は準備完了だ、と言われます。**

## 崇高なる天国について

八つの天国と八つの扉があり、八つのカギがあります。最初のカギものは、日に五回の礼拝をする信者たちの信仰です。二つ目は崇高なる「ビスミッラー」の言葉です。残りの六つは、崇高なるファーティハ章に含まれます。八つの天国とは、

１．威厳の場 ２．決定の場 ３．平安の場 ４．継続の天国 ５

．位階の天国 ６．永住の天国 ７．フィルデウスの天国 8. ナーイムの天国です。

威厳の場叔母は、白い光でできています。

決定の場は、赤いルビーでできています。

平安の場は、緑の菊でできています。

継続の天国は、銀でできています。

位階の天国は、金でできています。

フィルデウスの天国は、金と銀でできています。

ナーイムの天国は、赤いルビーでできています。

天国に入る信者は永遠にそこにおり、決してそこから出ることはありません。そこにいる女性たちには、月経や産褥、そして悪い性格性質は存在しませんがありません。人々が望む好きな食べ物、飲み物が、準備された状態で目の前にもたらされます。料理や調理すること、切ることといったことからは遠くかけ離れています。頭上では鳥が飛んでいます。信者はあずまやに座り、それらを見ます。もしあなたが鳥に対し、「現世で私にこんなに近づけば、あなたを焼肉にしただろう」とあなたの心に思い浮かんだ瞬間、光の皿に焼き立てのものができあがり、それを食べ始めるのです。言葉がどこかで集まり、心に現れた時、例えば「これがまた鳥に戻ればなあ」、と思った瞬間、それは元通り鳥となり、飛んでいきます。

天国パラダイスの土は麝香でできており、建物は日干し銀と日干し金でできています。

天国の民の一人一人に、百の力が与えられます。また天国の民のそれぞれに少なくとも70人の天国の女性と、二人の現世での女性が与えられます。

さらに、天国にでは四つの川が流れています。これらの源は一つであり、流れは別々であり、それぞれの味は他のものと違います。それらの一つは純粋な水であり、一つは純粋な乳であり、一つは天国の酒であり、一つは純粋な蜜です。

天国には高いあずまやがあり、ます。それらはが傾いています。き、信者はそれらに乗り、望む場所に運ばれます。（この世界での例は、現在のエスカレーターや飛行機です。）

天国にはトゥーバの木があります。この木の根は上にあり、枝は下向きに生えています。これの現世における例は、月と太陽です。

さらに、天国の民は食べ物、飲み物の味や喜びを感じます。しかし過度な欲求は感じないため、このような人間的なニー

ズや苦痛からは遠ざかっています。

アッラーは天国で、信者であるしもべたちに呼び掛けられました。、「**しもべたちよ、他に何を求めるのであれ、私は与えよう。あなた方は喜びと快適さの中にいなさい。**」しもべたちも、「主よ、あなたは私たちを地獄から解放されました。そして天国に入れてくださった上で、天国の乙女たちを与えられました。その他にも、思いつきもしない、見たこともない、聞いたこともない、これほどの恵を与えられました。これ以上のものを求めるのは恥ずかしいです」と答えます。アッラーはまた呼び掛けられ、「**しもべたちよ、あなたは私に、これらより別に求めているものがある**」と言われます。しもべたちは「主よ、これ以上のものを求めることはできません。そもそも何を求めるべきかわかりません」と言うと、アッラーは「**しもべたちよ。現世で、問題が起こった時にはあなた方はどうしていたか**」と問われます。しもべたちも、「学者に尋ね、その問題を学び、問題を解決してきました」と答えます。アッラーは「**今回もそのようにしなさい。学者に尋ねなさい。知識を得なさい。そこで教えられたものが何であれ、私はあなた方に与えよう**」と言われました。そこで学者は、「あなた方はアッラーの美を忘れたのですか？あなた方は現世にいる時、主は天国におられ、時空を超越したお方であるのだから、その美を私たちに示してくだされば、と望んでいました。そう、それを求めなさい」と言います。彼らもアッラーの美にまみえることを求め、アッラーは時空を超越されたおかたであり、その永遠の美を示されます。アッラーの輝かしい美を見れば、何千年も人々は驚嘆するのです。

さらに天国にいる人は、あずまやに座っている時、至る所に周囲に、窓の前に果物があるのを見ますあります。しもべたちはその果物を見て、「そちらに手を伸ばそう、その枝を引こう飛行、果物をもいで食べよう」。と思った瞬間、座った場所から立ち上がり、枝を引く間もなく、すぐに座った場所に望む臨む枝が来て、果物をもぎ、食べているのですます。その味がまだのどに到達するより先に、もいだところに新しい果実ができます。口に入れると熟しており、大変美味です。このようにして、「主の美味」は新鮮に実るのです。

> **あなたが知性を持つなら、礼拝をしなさい。**
> **なぜならそれは永遠の幸福の王冠であるからです。**
> **礼拝は信者のミラージュだと知ってください。**

# カダーの礼拝

さらに、時間通りに行われる礼拝により得られるの効果褒賞は、とても高くなります。これらのうちいくつかが言及されています。

1. 顔が輝きます。

2. 生涯が恵み多いものとなります。

３．ドゥアドゥアーが受け入れられます。

４．人々の中で尊い存在となります。

5. 信者たちが皆、彼と仲良くなります。

さらに、礼拝を放棄すること、すなわち正当な理由なく、時間通りに行わないことには、15の害があります。これらの害のうち五つは現世で、三つは死の際に、三つは墓地で、四つは裁きの場での害となります。

現世での害は、

１．顔に光がなくなりますありません。

２．生涯が恵みのないものとなります。

３．ドゥアドゥアーが認められません。

４．ムスリムである信者に行うドゥアドゥアーが認められません。

５．行ったその他の崇拝行為の報奨が与えられません。

死の際の三つの害は、

１．空腹で死にます。

２．渇きの中で死にます。

３．軽蔑されるような死に方をします。どれほどしっかり食べても満腹せず、どれほど水を飲んでも満たされません。

墓での三つの害：

1. 墓が彼を苦しめ、骨と骨が互いを貫通通貨します。

２．墓が火で満たされます。

３．彼の上に竜が現れます。その竜の名はアクラと呼ばれます。その手にはハンマーがあり、一度打ちつけられると地の底にまで沈み、また元の位置まで戻されます出てきます。その後、さらに打ちつけられます。この状態が最後の審判の日まで続きます。その人はこの罰を最後の審判まで受けます。

裁きの場での四つの害：

１．裁きが厳しいものとなります。

2.　崇高なるアッラーの懲罰を受けることになります。

３．地獄に入れられます。

４．彼の額に三行の文章が書かれます。

一つ目は、「この人はアッラーの懲罰を受ける」

二つ目は、「この人は、アッラーの権利を損なう」

三つ目は、「この人はあなたはアッラーの権利を損なったため、今日のこの日、アッラーの慈悲を受けられない」

礼拝は教えの柱です。礼拝することでれば、教えの柱を立てたことになります。このようにして、彼の上に影となるものを作ります。そしてその下で平安を得るのです。

誰かが礼拝を意図的に放棄した場合、そしてその後カダーを行わなかった場合、その人は三つの学派では殺害されるにふさわしいとされます。ハナフィ一派ではそれは不要となります。しかし、大罪と呼ばれる大きな罪を犯したことになります。礼拝を始めるまで投獄が必要とされます。礼拝に重きを置かず、第一の義務であると信じない為に礼拝をしない人は、不信心者となります。

人が一回の礼拝を意図的に放棄し、その後カダーを行えば、地獄で一定の期間、すなわち80年焼かれることになります。この罰から救われる為には、悔悟し、懇願し、許しを請うことが必要です。（来世での1日は、この世界での千年に相当します。来世での年月はそれに応じて計算されます。）

（ムハンマド・アミン・イブニ・アービディーン（アッラーの慈悲がありますように）は、「**ラッド・ウル・ムフタ一ル**」という本で次のように語っています。「礼拝は、天からの教えのすべてで、礼拝は命じられている。預言者アーダムは午後の、預言者ヤークブは日没の、預言者ユーヌスは深夜の礼拝をしていたとされている。」全てのファルドやハラームを信じることがは信仰の条件であるように、礼拝をすることも義務であり、任務であることを信じることは信仰の条件でありません。しかし、礼拝をすることは信仰の条件ではありません。

知性を持ち、成熟しているムスリムの男女は、正当な理由がなければ、毎日五回の礼拝をすることがファルドです。日に五回の礼拝例外はミラージュの夜にファルドとなりました。「**ムカッディマトゥッサラート**」「**タフシール・マズハリー**」及び「**ハラビー・イ・カビール**」におけるハディースでは、次のように言われています。「**ジブラーイールはカーバの門のそば**

で、二日間私のイマームとなった。我々二人は日が昇る際に朝の礼拝を、太陽が真上から少しずれた時に正午の礼拝を、影が自分と同じ長さになった時に午後の礼拝を、日が沈む際に（上端が見えなくなった時に）日没の礼拝を、夜が暗くなった時に夜の礼拝を行った。二日目は、朝の礼拝を周囲が明るくなった時、正午の礼拝を自分の影が二倍になったとき　、午後の礼拝はそのすぐ後に、日没の礼拝は断食を終えた時に、夜の礼拝は夜の三分の一になった時点で行った。それから、ムハンマドよ、あなたや過去の預言者たちの礼拝の時刻はこの通りである。あなたのウンマは、礼拝のそれぞれをこの行った二回の礼拝の時刻の間で行うように、と言った。」

毎日五回の礼拝を1}行うことが命じられています。両親には、七歳の子に礼拝をするように命じること、十歳の子が礼拝しなければ手で打つことが両親には必要です。学ぶ子供を三回以上打つことや、棒で打つことは合法ではありません。断食すること、飲酒をしないことについても、子供に教える必要がありますはこのように至れます。礼拝がファルドであること、つまり第一の義務であることを信じない人は不信心者となります。ファルドであることを信じていても、怠惰である為にそれソ俺をしない人は、不信心者とはなりません。「**罪人**」となります。礼拝を始めるまで収監されます。寛容さや慈悲はかけられません。礼拝を始めなければ、死ぬまで収監されたままとなります。血が流れるまで打たれると言いう人もいます。シャーフィー派もしくはマーリキー派では、礼拝を怠慢によって行わない人は不信心者とならないものの、罰として殺害されます。ハンバリー派では不信心者となり、殺害されると言われています。シャーフィー派でもこのようなイジュティハードを出す学者たちもいます。礼拝を、時間内に、集団で行う人はムスリムであることが理解されます。なぜなら他の教えにおいてえでは礼拝は単独で行われるからです。集団では行われないからです。巡礼も行います。礼拝はただ体で行われる崇拝行為であり、他人の代わりに礼拝することはできません。ザカートは財産によって行われる崇拝行為であり、正当な理由がない人の為にも、他人が自分の財産や命令によってザカートを支払うことができます。巡礼は体と財産をもって行われる為、正当な理由がない人1}の代わりにそのお金や命令で他の人が巡礼に行くことはできます。死ぬまで一回も断食をしなかった高齢の人は、断食の代わりに毎日、貧者にフィドゥヤと呼ばれるお金を支払うことができます。礼拝の為には、フィドゥヤを支払うことも合法ではありません。礼拝をしない人が遺言すれば、死後、彼の礼拝の負債の補償の為、遺した財産からフィドゥヤを支払うことはよいとされます。残した財産が補償に十分ではなければ、**譲渡**を

することは合法です。断食の為に補償をすることはワージブです。

夏場、北にある国々の、夜が深くなる前に夜明けとなる地域では、夜遅くの礼拝及び夜明け前の礼拝の時間が始まらない為、ハナフィー派ではこの二つの礼拝をする必要はありません。偉大なムジュタヒドであるイマーム・シャーフィー（アッラーの慈悲がありますように）は、必要であるとのイジュティハードを出しています。しかし学者の多くによれば、彼らには夜明け前と夜遅くの礼拝を行うことはファルドとはなりません。カダーを行う必要もありません。なぜなら二つの礼拝の時間が始まっていないからです。時間が来る前に礼拝することはファルドとはなりません。しかし断食はこのようではありません。ある国で新月が目にされると、全ての国で断食月が始まります。

自分の法学派に従ってファルドを行う際、もしくはハラームを避ける際、**困難さ**があるのであれば、困難さのない他の法学派に従い、この困難さから救われるべきです。困難さとは、あることを非常に難しい状態で行うこと、もしくは全く行えないことです。困難さのない法学派がない場合は、困難さの要因となっている事柄が不可欠なものであるなら、このファルドを行うこと、ハラームを避けることが必要ですは許されます。不可欠なものでないのなら、それを放棄し、困難さから救われるべきです。511ページを見てください。

夜明け前の礼拝に遅れてきた人は、集団に追いつけるよう、スンナの礼拝を放棄します。時間を逃さない為に、スンナを放棄することがより必要です。集団に追いつくことができたとしても、スンナの礼拝をモスクの外もしくは柱の後ろで行います。このような場所がない場合、集団のそばでは礼拝せず、スンナを放棄します。なぜならマクルーフを行わない為には、スンナは放棄されるからです。

正当な理由があり、行うことができなかったファルドを「**ファワーイト**」と呼びます。逃した礼拝という意味です。正当な理由なく、怠慢の為に行われなかった礼拝を「**マトゥルカート**」と呼びます。これは正当な理由なく放棄されたものということです。イスラーム法学の学者たちはカダーに残された礼拝を「ファーイタ」と呼び、放棄された礼拝とは呼びませんでした。なぜなら正当な理由なく時間内に礼拝をしないことは大きな罪であり、カダーを行ってもその罪は許されないからです。さらに悔悟を行い、もしくはイフラースによる巡礼を行うことが必要です。カダーを行うと、ただ放棄したこと、礼拝しなかったことの罪が許されます。カダーすることなく行われた悔悟

は有効とはなりません。なぜなら罪を放棄することが悔悟の条件であるからです。

礼拝を時間の後に放棄することについて、正当な理由は五つです。1つ目は、敵の前におり、で座ることやって、キブラから他の方向に向かっているために、動物に乗って進みながら礼拝することができない場合きず、2つ目は、客、道中の窃盗、山賊、どう猛な動物につかまる危険がある場合、3つ目は、母親もしくは子供に危険が及ぶ場際、合に助産師が礼拝を遅らせることです。これらはは正当な理由となります。四つ目の正当な理由は忘れること、五つ目は眠ることです。ハナフィー派では時間が過ぎる前に最初のタクビールを行えることがハナフィー派で、シャーフィー派では一ラカートの礼拝ができることがシャーフィー派で「**実現**」となります。

ファルドの礼拝をカダーすることはファルドです。ワージブの礼拝をカダーすることはワージブです。スンナをカダーすれば、スンナの報奨を得ます。五回の礼拝のファルドと、ウィトルの例外の実行及びカダーにおいては順番に気を付けることが必要です。しかし時間の最後においては必要ありません。つまりカダーを行う為にはその時間をファルドをカダーに残すことはしません。カダーに残された礼拝があることを忘れた場合、もしくはカダーに残された礼拝の数が六になれば、調整が無効となります。カダーに残された礼拝の数が六より少なければ、調整は無効とはなりません。調整なしに行われたファルドの礼拝がは無効になったとしても、数が六に達すなると、つまり五回目の時間が過ぎれば、全て有効となります。例えば朝の礼拝をしていない人が、それを思い出したにもかかわらず、正午、午後、日没、夜半の礼拝及びウィトルの礼拝を行えば、どれも有効なものとはなりませんが、太陽が昇れば、全て有効となります。1}

カダーに残された礼拝は急いでカダーすることが必要です。ただし、子どもたちの生計を稼ぐまで、そして五回の礼拝のスンナ及びドゥーーハーの礼拝、タスビーフ、モスクに入った時の礼拝を行うまで遅らせることは合法1}です。イブニ・アービディーンはウドゥーのスンナについて次のように語っています。「合法であるということは、禁じられてはいないということである。比較的忌避されるべきこともまた。合法と呼ばれる。」従って、合法と呼ばれるものを行わず、このスンナの礼拝の為に、カダーを遅らせないことが必要です。ラマダーンの断食のカダーは急ぐものではありません。

イスラーム圏外でムスリムとなった人が、ファルドであることを知らない為に放棄した礼拝、。断食、ザカートについて

は、カダーをしません。しかしイスラーム圏に住む人が、。ファルドやハラームを知らないことは正当な理由とはなりません。ムルタドが信仰を持つようになれば、信仰を持つまでの期間にできやらなかった礼拝のカダーは行いません。まだ成熟期に達していなかった人が、夜半の礼拝を行った後、グスルが必要な状態となりになれば、それから日の出の前に目覚めれば、夜半の礼拝をカダーすることが必要です。なぜなら行った礼拝はナーフィラ（義務ではない礼拝）であったからです。寝ている間にファルドとなったのです。1}健康な時に行わなかった礼拝を、病気になってからタヤンムムやイメージで行うことは合法です。カダーに残された四ラカートのファルドは、。旅行中も四ラカートとして行われます。旅行中にカダーに残された二2ラカートの正午のファルドは、可能な時であっても二二ラカートとしてカダーされます。正午の礼拝のファルドを行う際、この日の正午の礼拝のファルド、もしくは正午のファルドと言われます。カダーに残された礼拝の数が一よりも多い場合、「（まずカダーに残ったもの」）もしくは「最後にカダーに残ったもの」である正午のファルドをカダーできます。しかし、ラマダーン月の数日のカダーをする場合は、日の順番を決めることは必要ではありません。

怠慢の為に行わなかった礼拝のカダーを行う時には、他人に知られないようにするべきです。なぜなら礼拝を時間通りにしないことは罪であるからです。罪を見せつけることもまた罪となります。夜、隠れて行った罪を、昼間に他人に説明することも罪となります。イブニ・アービディーンの翻訳はここまでです1}。

このように、ハナフィー派ではじゃカダーに残された礼拝を急いでカダーすることが必要です。シャーフィー派でも同様です。シャーフィー派の学者の一人シャムスッディン・レムリ（アッラーがお喜びくださいますように）は、ファトゥワにおいて次のように語っています。「正当な理由により行われなかった礼拝がある人が、ラマダーン月でタラーウィーの礼拝を行い、カダーに残った礼拝をラマダーン月の後でカダーすることは、罪にはならない。しかし正当な理由なく放棄された礼拝において、このように行うことは罪となる。なぜなら放棄された礼拝は速やかにカダーされるべきだからである。」正当な理由なく放棄された礼拝を最初に行わず、スンナ、例えばタラーウィーの礼拝を行うことが罪であることを、シャーフィー派の学者たちは明白に示しています。ハナフィー派においても同様です。ハナフィー派では、正当な理由でカダーに残された礼拝を、スンナの礼拝をする程度に遅らせることは合法であると言われていることは、これらのカダーは遅れない方が良い、という

ことを示しています。なぜなら合法とは、イスラームでは禁止されていないという意味です。イブニ・アービディーン（アッラーの慈悲がありますように）は、流れる水を浪費することは合法であるという言葉を、比較的忌避されるべきものであると説明しています。正当な理由によりカダーに残された礼拝のカダーを行うことを急ぐのであれば、正当な理由なく放棄された礼拝のスンナの代わりに行うことが必要となります。

イブニ・アービディーン（アッラーの慈悲がありますように）は、「ウドゥーにおいて三回洗うことはムアッカダのスンナである。水の価値が高いということ、冷たいということ、礼拝以外の目的で水を必要としているということといったような正当な理由でこのスンナを放棄することはマクルーフとはならない」と語っています。放棄された礼拝を少しでも早くカダーし、大きな罪から救われる為に、夜明け前の礼拝の他のスンナの代わりに、これらのカダーを行うことが必要であることがここからも読み取れます。スンナの代わりにカダーを行うことについては291ページに書かれています。

## 死者の為の礼拝の償い

（礼拝の償いとは、死者を礼拝の負債から救うことを意味します。この為、礼拝の償いが払われます。償いを払う為には、死ぬ前に遺言を残すこと、償いに足りるだけの財産を残すことがワージブです。つまえり、遺した財産の三分の一が、償いの額よりも少なくないことが必要です。償いは庇護者が支払います。死者の庇護者とは、遺言をした人です。もしくは遺産相続人の一人です。イスラームでは四種類の庇護者がいます。死者の庇護者、孤児の庇護者、婚姻を行う女性の庇護者、奴隷や女奴隷の庇護者です。この最後のものを「**マウラー**」と呼びます。彼らは「**アウリヤ―**」とも呼ばれます。アッラーが非常に愛される人々です。この愛情に至る為に、彼らのあらゆる言葉、行い、道徳が、預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）のが教えられたとおりであることが必要です。これらは、真の学者たちから容易に学ぶことができます。真の学者を見つけられない人は、スンナ派の学者たちの書物から学ぶべきです。「**イブニ・アービディーン**」（アッラー慈悲がありますように）は次のように語っています。「正当な理由の為に行われなかった礼拝がある人が、これらの償いを行うことを遺言として残せば、一回のファルドとワージブの礼拝について、残した財産の三分の一から0.5サア（2.1リットル）、つまり520ディルヘム（1750グラム）の麦、もしくは麦粉を貧者たちに与える。全てを一人の貧者に与えてもよい。貴金属（金も

しくは銀として）を与えることはさらに良い。、遺言をした人が財産を残していない場合、もしくは財産の三分の一が償いの為に十分でない場合ければ、もしくは全く遺言を残していない場合でなければ、庇護者がわずかなお金を寄付して償いを行うのであれば、一日当たり1750×6＝10500グラム、すなわち10.5キロ、一年で3780キロの麦（もしくは10キロの麦の価値は、常に約1グラムの金に等しいため、その価値に応じて52.5もしくは慎重に60個の金貨、もしくはこれらの金貨の重さに相当する（432グラムの）腕輪、指輪、もしくはその金製品）を借りる。行った礼拝も不十分であることを考え、死者の寿命から、男性なら12年、女性なら9年を差し引きし、責任があった年月を計算する。ハナフィー派では毎日六回の礼拝の償いが必要であり、太陽暦における一年分の礼拝の償いの為に必要となる（3780キロ）の麦、もしくはそれよりも良いものとして、等しい価値を持つもの（60個の一リラ）金貨を借りる。これを、礼拝の償いを行うことをニーヤ（意志表示）し、一人の貧者に与える。貧者は、知性があり、成人しており、誠実な男性である必要がある。貧者は、承認しましたと言って受け取る。それから遺産相続人に贈る。遺産相続人は受け取ったものを、彼、にもしくは別の貧者に贈る。このようにして、責任があった年に相当するまで繰り返す。より多くの金を借りたのであれば、このやりとりはより少なく行われる。金貨がなければ、庇護者は腕輪や指輪等、金製品を女性から借りる。ここから、礼拝をしなかった年数×７．２グラムを減らし、ハンカチーフに包む。ハンカチーフには、礼拝をしなかった年数の数だけ金貨がある。60をかけ、貧者の数で割ると、受け取りの数が計算される。金が少なければ、前述の数の半分ほどを減らす。受け取りの数は最初のものの二倍になる。60歳で亡くなった男性の為には、貧者に60×48×7.2＝20736グラムの金が与えられる。なぜなら一年分の礼拝の補償は60の金であるからである。七人の貧者と、100グラムの金を使って30回の受け取りのやりとりを行う。もしくは七人の貧者と70グラムの金を用いて43回のやりとりを行う。このやりとりが終わると貧者は、手にしている金を庇護者に贈るります。庇護者も、借りていたものを返す。それから、断食、犠牲、誓いの為にもこのやりとりを行う。しかし誓いの償いの為には少なくとも十人の貧者に与えることが必要である。一人の貧者には一日あたり０．５サア以上与えることはできない。しかし一人の貧者に一日で、さらには一回で、多くの礼拝の償いを与えることはできる。ザカートの償いは、遺言なしで行うことはできない。死者の遺言が必須となる。しかし断食の為には遺言は必須ではない為、ザカートについては庇護者が寄付をしてこのやりとりを行うとよい。やりとりのすべてが終わる

と、庇護者は貧者たちに一定量の財産、お金を贈る。

償いの為に遺言を行った死者が残した財産の三分の一が、全ての償いの為には不十分であれば、庇護者は、遺産相続人の許可なく、三分の一以上の財産を償いに使うことはできない。三分の一が償いには足りていても、彼に借金がある場合、貸している側が補償の為に与えたとしても、償いより先に借金が支払われる。自分の取り分を受け取った後、償いの為に贈ることは合法とはならない。なぜなら償いは、ただ相続人が許した財産によって行われるからである。全生涯の礼拝の償いを遺言で残した人の、生きた年数が不明であれば、遺言は無効となる。しかし三分の一がその人生の礼拝として推定される額よりも少なければ、三分の一の全てについて遺言を残したことになり、一定額の財産に関する遺言となり、有効となる。

死者が遺言を残していても、庇護者（つまり相続者もしくは後継者）が寄付を行うことはワージブではない。死者が、三分の一が償いに足りるための財産を残すこと、この三分の一で償いを行うことを遺言で残すことがワージブである。三分の一の一部で受け取りのやりとりを行うこと、残ったものを遺産相続人もしくは他者に寄付することを遺言として残せば、ワージブを放棄したことになる。これは罪である。この為、三分の一の一部で受け取りのやりとりを行うこと、残りでクルアーンやタフリール・ハトゥマ（七万回信仰告白の言葉を唱えること）を行うことを遺言することは有効とはならない。この他、お金を取ってクルアーンを読むことも合法ではない。お金を受け取った人も支払った人も罪を犯したことになる。お金を取ってクルアーンを教えることは合法とは言われるが、読むことも合法であると言った人はいない。

私の礼拝を遺産相続人が行うようにと遺言を残した死者の相続人が、この人の礼拝の全てをカダーすることは有効とはならない。しかし誰かが礼拝し、もしくは断食をし、その報奨を死者に贈れば、それは有効である。死の病を患う人が自分の礼拝のフィドゥヤを支払うことは合法ではない。」イブニ・アービディーンの翻訳はここまでです。

アフマド・タフタウィー（アッラーの慈悲がありますように）は、「**メラーク・ウル・フェラフ**」の注釈で次のように語っています。「できなかった断食のフィドゥヤを支払い、償いをすることは、明白に告げられている。礼拝は断食よりもなお重要であり、礼拝も断食と同様であることを学者たちは見解を一致させ、示している。礼拝の償いについて根拠がないと言っている人は、自らの無知をさらけ出していることになる。この言葉で学者たちの一致した見解に対立したことになるのである。

病人が寝ている際に頭でイメージする形での礼拝もできない場合、できなかった礼拝が五回よりも少なかったとしても、それらの為に遺言を残すことは必要ない。同様に旅行や病気の為断食ができなかった人も、これらのカダーを行うだけの定住している及び健康である時間がなければ、遺言は残さない。フィトルのサダカ、妻の生計、巡礼のイフラーム状態所痛いにおける殺生、巡礼、願掛けのサダカについては遺言を残すことができる。遺言を残していない死者の為に、遺産相続人やそれ以外の何らかの人が寄付をすることは、インシャラー、合法である。巡礼の為に遺言を残した人の庇護者は、死者が住んでいた町から、もしくは死者が残した財産の三分の一が足りる場所から、寄付をする人は望む場所から巡礼に行く。死者の為に誰も、有償であれ無償であれ、断食をすること、礼拝をすることは有効とはならない。この点は聖ハディースで明らかである。償いとして払われたサダカを通して、アッラーは死者の負債を許される。シャーフィーの「**アンヴール**」と言う書物では、「死者が行わなかった礼拝の為にフィドゥヤを支払うことがワージブではない。払っても、補償にはならない」とされている。マーリキー派とシャーフィー派はハナフィー派に従い、この受け取りのやりとりを行う。

死者が遺言を行った財産の額が償いの為に足りなければ、もしくは残した財産の三分の一が十分ではなければ、もしくは遺言を全く残していなければ、誰かが寄付したわずかなお金で、負債の全てを補償する為に受け取りのやりとりが行われる。補償のニーヤと共に貧者に与えられる。貧者は受け取った後、これを庇護者もしくは他の人に贈る。この人もそれを受け取ることが必要である。彼も、死者の負債の補償の為にと言い、これを寄付し、貧者に与える。」タフタウィーの注釈の翻訳はここまでです。

## 金曜礼拝について

さらに、金曜礼拝が有効である為の条件が七つあります。

１．礼拝を行う場所が発展していること、すなわち町と言える程度には大きいこと

２．説話が行われること

３．説話を礼拝よりも前に読むこと

４．そこで、イマームもしくは政府によって派遣された担当者がいること

５．正午の礼拝の時間に行われること

６．信者集団がいること。イマーム・アーザム及びイマーム・ムハンマドによれば（アッラーの慈悲がありますように）、成人し、知性を持つ男性のイマームの他の三人、アブー・ユスフによれば（アッラーの慈悲がありますように）、イマーム以外に三人の人がいること。両者の見解が基本です。

７．礼拝には誰でも自由に来ることができること。「ヒンディーヤ」の注釈では次のように言われています。「奴隷ではなく、健康で、旅行者でもない男性が金曜礼拝を行うことは、それぞれ個人にとってファルドである。旅行中の人、病気の人、女性は、金曜礼拝を行うことはファルドではない。激しい雨、もしくは当局の迫害を恐れる人にとってもファルドではない。上司、司令官、雇用者は、その指示下にある人の金曜礼拝を妨げない。相当する時間分、給与から差し引きすることはできる。罪人であるイマームが金曜礼拝を先導すれば、それを防ぐことができない人々は彼に従うこと、その理由で金曜礼拝を放棄しないことが必要であると言われる。他の礼拝では、有効なイマームが礼拝を先導しているモスクに行くべきである。罪人であるイマームの背後で礼拝をするべきではない。女性がいずれかの礼拝を集団で行う為にモスクに行くことはマクルーフである」

誰かがイマームに、金曜礼拝の二回目のラカートに間に合ったときえば、イマーム・ムハンマド（アッラーの慈悲がありますように）によれば（アッラーの慈悲がありますように）、正午の礼拝を行います。イマーム・アーザム及びイマーム・アブー・ユスフによるなら（アッラーの慈悲がありますように）によると、タシャッフドであれ間に合えば、金曜礼拝を行います。イマーム導師が説話を行う際、誰かが義務ではない礼拝を行う場合なら、二ラカート礼拝し、それ以上は行いません。さらに金曜礼拝のスンナは、二ラカート行って挨拶をするのか、もしくは四ラカート行うのかという点は、見解が分かれています。原則としては、四ラカートを完了させます。

金曜礼拝のワージブは五つあります。

１．アザーンの時間には全てを放棄すること

２．モスクに努力していくこと

３．イマームが説話をしている時に義務でない礼拝を行わないこと

４．世俗的な言葉を話さないこと

５．静かにしていること。

金曜礼拝のムスタハブは六つあります。

１．芳香

２．ミスワーク

3. 清潔な衣服

4. タブキール（金曜礼拝の為にモスクに早めに行くことを指します。幸福の時代、教友たち（アッラーがお喜びくださいますように）は朝の礼拝の後で解散せず、金曜礼拝の後で解散していました。このウンマから最初に放棄されたものは、タクビールのスンナです）　５．グスルすること

6. サラワート（祝福祈願）を行うこと。

金曜礼拝のマクルーフは五つです。

1. 説話が読まれている時に挨拶を行うこと

２．クルアーンを読むこと

３．くしゃみをした人に「ヤルハムカッラー」ということ

4. 食べること、飲むこと

５．マクルーフであるあらゆる行為を行うこと。（イマームが説話を伸ばすこともマクルーフです）

ミナーラで読まれた一回目の金曜礼拝のアザーンの後、イマームが説話台のそばで、金曜礼拝の最初のスンナを行います。それから説話台の前に来て、立ったままキブラに向かって短いドゥアドゥアーを行い、説話台に上がり、集団に向かって座り、二回目のアザーンを聞きます。それから立ったまま。説話を始めます。

（ワッハーブ派と呼ばれる人々は、スンナ派の法学派には含まれません。法学派に属していません。彼らを「**ワッハーブ派**」もしくは「**ナジュディ**」と呼びます。ワッハーブ派はイギリス人が設立したものです。アブドゥルワッハーブの息子ムハンマドという名の、ナジュド出身の無知な人を通して設立したものです。彼らの本では、ワッハーブ派ではないムスリムを多神教徒、不信心者と呼んでいます。ムスリムを殺害すること、女性や少女、財産を戦利品として奪うことは合法であると書いているのです。たくさんのお金を出し、道を外した人々を集め、無知な宗教学者たちをワッハーブ派とし、それぞれの国で開いた「**世界イスラーム学者協会**」という名のワッハーブ派のセンターに送っています。彼らのイスラームにそぐわない文章を、（世界イスラーム学者協会のファトゥワーであるとして）あらゆるイスラーム国家に広めています。毎年、巡礼者に無料で配っています。こういった文章の一つでは、「女性が金曜礼拝をすることはファルドである」としています。女性や少女たちを無理やり金曜礼拝に行かせています。女性と男性が混ざって

礼拝をしているのです。ある文章では「金曜礼拝や祝日の説話は、集団が理解できる言葉で行う。アラビア語では行うべきではない」としています。このようなファトゥワにはイスラーム国家の真の宗教学者たちは文書で返答しています。これらの正しい返答の一つは、インドの様々な場所におけるスンナ派の学者たちのファトゥワーです。例えば、マドラスの宗教担当者であるムハンマド・タミーン・ビン・ムハンマド・マドラシー（アッラーがお喜びくださいますように）は次のように語っています。

「説話をアラビア語以外で、もしくはアラビア語及び翻訳された言語双方という形で行うことはマクルーフである。説話の全てをアラビア語で行うことはワージブである。なぜなら預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は、全ての説話をただアラビア語で読まれたからである」「**バフルル・ラーイク**」という本では、祝日の礼拝について説く際、次のように語られています。「タラーウィーとクスフの礼拝以外の、義務ではない礼拝は集団では行わない。祝日の礼拝は常に集団で行われる為、義務ではない礼拝ではなく、ワージブであることが明らかである。」このように、預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）が常に行われた崇拝行為がワージブであることは明らかです。偉大な学者ザビーディ（アッラーの慈悲がありますように）は「**イフヤー**」の注釈で次のように語っています。「預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）が継続的に行われていた崇拝行為はワージブとなる。ファルドであることを示すことはできない。」偉大な学者であり宗教担当者であるアブー・スウード師（アッラーの慈悲がありますように）は、「**ファトゥフッラー・イルムイン**」と言う書物で次のように語っています。「預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）が継続的に行われることは、これがワージブであることを示す。」（（イブニ・アービディン（アッラーの慈悲がありますように）は、ウドゥーのスンナに関する項で次のように語っています。「預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）が継続的に行われた崇拝行為を全く放棄されなかったのであれば、ムアッカダのスンナである。放棄されたかった上で、放棄した人を否定しておられたのであれば、ワージブとなる。なぜなら、否定しなかったということは、結果として放棄したこととなるからである。この為、アブー・スウード師は、全く放棄せずに継続されたことがワージブであると言われている。」双方とも、正当な理由なく放棄することが絶対的なマクルーフであることを、礼拝のマクルーフの最後で示しています。）預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）

がは説話を、常にアラビア語だけで行われていたことは、アラビア語で行うことがワージブであることを示しています。従って、説話をアラビア語以外の言葉で行うこと、及びアラビア語と翻訳された言語の両方で行うことは絶対的にマクルーフです。なぜなら一つ目ではアラビア語で行うことを放棄したことになるからです。（二つ目では、説話をアラビア語のみで行うことを放棄したことになるからです。双方とも、預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）が継続的に行われていたことを放棄したことになります。同様に、礼拝を始める時のタクビールをアラビア語で唱えること、これらの間で「アッラーフ・アクバル」と唱えることは、それぞれ別の二つの事柄です。二つのうちどちらかを放棄することは絶対的なマクルーフです。なぜなら預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は、常にアラビア語で「アッラーフ・アクバル」と唱えられており、これを唱えることはワージブであり、放棄することは絶対的なマクルーフであるからです。イブニ・アービディン（アッラーの慈悲がありますように）は、「**ラッド・ウル・ムフタール**」で次のように語っています。「マクルーフとは、ワージブもしくはスンナであることが放棄されることである。一つ目は絶対的なマクルーフ、二つ目はハラールに近いマクルーフである。」「**ハラービ・カビール**」では、「スンナを放棄することはハラールに近いマクルーフである。ワージブを放棄することは絶対的なマクルーフである」と言われています。

「**ファタワーイ・シラージーヤ**」では「説話をペルシア語で行うことは合法である」と言われています。この言葉に対し、説話をアラビア語以外で行うことは合法であり、絶対的もしくはハラールに近いマクルーフではない、とファトゥワーを出すことが逸脱です。なぜならシラージーヤの言葉では「有効である」とされているからです。これは、マクルーフではない、ということを示すものではありません。イブニ・アービディン（アッラーの慈悲がありますように）は、「**レッド・ウル・ムフタール**」で、「有効であるということは、マクルーフではないことを示すものではない」としています。ムハンマド・アブドゥルハウィー・ルクナウィー（アッラーの慈悲がありますように）は、「**ウムダートゥッリアーヤ**」という本で次のように語っています。「説話がアラビア語で行われることは必須条件ではない。ペルシア語もしくは他の言語で行うことは合法である、、と言う言葉は、礼拝が合法となるということを示す。つまり、金曜礼拝が有効となる為に、説話がなされるという条件が満たされる、ということを意味する。説話に問題がないことを意味しない。なぜなら、預言者ムハンマド（アッラーの祝福

と平安がありますように）はアラビア語のみで行われたからである。これらに対し、絶対的なマクルーフとなる。」教友たちを目にした世代、及びその世代を目にした世代（アッラーの慈悲がありますように）は、説話をいつでもどこでもアラビア語のみで行っていました。アラビア語以外の言葉では行わなかったと同様に、アラビア語と翻訳された言語を両方とも使うこともありませんでした。（しかし、彼らがアジアで、アフリカで説話を行った時、聞いている人は誰もアラビア語を知りませんでした。説話で語られることを理解していませんでした。かれらが理解できるよう、翻訳された言葉で語ること、新しくムスリムになった人々にイスラームを教えることが必要であったにも関わらず、説話をアラビア語以外で行うことは合法と見なしませんでした。イスラームについては説話以外で彼らに説明を行っていました。説話を理解し、イスラームをよく学ぶ為に、彼らにアラビア語を学ぶことを命じていました。わたしたちもこの学者たちのように行うべきです。）

これらに対し、説話をアラビア語以外で行うことは**ビドゥア**となります。絶対的なマクルーフとなります。前者を絶対的なマクルーフと呼び、後者をハラールに近いマクルーフと呼ぶことは逸脱です。なぜならハラールに近いマクルーフとは、スンナを放棄することを指すからです。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は、説話の全てを、いつでもアラビア語のみで行われた為、説話の全てをアラビア語のみで行うことはワージブです。このワージブを放棄することはハラールに近いマクルーフではありえないのです。絶対的なマクルーフであることを放棄することはワージブです。メヴラーナ・バフル・ウル・ウルーム（アッラーの慈悲がありますように）は、「**アルカン・ウル・アルバ**」で次のように語っています。「絶対的なマクルーフであるものを放棄することはワージブである。このマクルーフを行うことは、このワージブを放棄することである。」

絶対的なマクルーフであることを常に行っている人は、公正ではありません。・イブニ・アービディン（アッラーの慈悲がありますように）は、「**ラッド・ウル・ムフタール**」で礼拝のワージブについて説く際、イブニ・ヌジャイム（アッラーの慈悲がありますように）から引用し、次のように語っています。「絶対的なマクルーフであるものを行うことは小さな罪である。小さな罪を繰り返すことは、公正さを失わせる。」説話の翻訳文を読み上げるイマームの公正さも失われ、罪人となります。彼の後ろで礼拝することは、絶対的なマクルーフとなります。「**ヌール・ウリザフ**」及び「**イブニ・アービディーン**」では次のように語られています。「奴隷、村人、私生児、無知で

ある人であれば、また罪人、ビドゥアを行う人であれば、学者であったとしてもイマームとなることはマクルーフである。こういった人をイマームにすることは罪である。」偉大な学者イブラーヒム・ハラビー（アッラーの慈悲がありますように）は、「**ハラビー・イ・カビール**」で次のように語っています。「罪人をイマームにする人は、罪を犯したことになる。なぜなら、罪人をイマームにすることは絶対的なマクルーフであるからだ。」「メラーク・ウル・ファアラー」では次のように語っています。「罪人は、学者であったとしてもイマームにされることはマクルーフである。なぜならイスラームに従うことにおいて緩みを見せるためである。彼に反抗することがワージブである。イマームとすること、彼に敬意を示すこととなる。イマームとなることを防ぐことができなければ、金曜礼拝やそれぞれの礼拝を他の礼拝で行わなければならない。」

偉大な学者タフタウィー（アッラーの慈悲がありますように）は、この点を語る際、「罪人がイマームとされることは絶対的なマクルーフである」としています。

イマームは、説話がアラビア語以外の言葉でなされる要因となってはいけません。要因となることは罪です。なぜなら罪を犯すことを助けることも罪であるからです。イブニ・アービディン（アッラーの慈悲がありますように）は、「**ラッド・ウル・ムフタール**」で次のように語っています。「罪人であるイマームの後ろで礼拝例外をすることはできない。罪人ではないイマームを探すことが必要である。金曜礼拝についてはそうではない。町で、いくつかのモスクで金曜礼拝が行われている場合、金曜礼拝を罪人であるイマームの後ろで行うこともマクルーフとなる。なぜなら他のイマームの後ろで礼拝することが可能であるからである。「（**ファトゥフル・カディール**」）でもこのように書かれている。」従って、アラビア語以外の言葉で翻訳文を読み上げるイマームの後ろでは礼拝をしてはならず、説話をアラビア語のみで行うイマームを探すべきです。金曜礼拝をその人の後ろで行うべきなのです。「Et-tahkîkât-üs seniyye fî kerâhet-il-hutbet-i bi-gayrýl’ arabiyye ve kirâetiha bil arabiyyeti ma’a tercemetihâ bi-gayr-il’ arabiyyeti」という本を読んでください。

偉大な学者ムハンマド・タミーミー・マドラシーの文章の翻訳はここまでです。

上記の文章は、1349年（西暦1931年）に、インドにおいてでアラビア語でとして書かれ、インドの最も偉大な十人の学者によって評価され、署名がなされたものですれました。この歴史的なファトゥワーと共に、インドの「**ディオベンド**」及び「

**バーキヤトゥッサーリハートゥ**」及び「**マドラス**」さらには「**ハイダラバード**」という、学者たちのアラビア語のファトゥワーがは1396年（西暦1976年）にイスタンブールで出版されています。オスマーン朝時代、世界的に名が知られた何千もの立派な学者たちやイスラーム世界の有力者たち（アッラーの慈悲がありますように）は、人々が説話を理解できるような、手段を求めてきました。説話において、トルコ語の翻訳について合法であるとは見なされず、それを許可もしませんでした。信者集団に説話の意味を説明する為に、それぞれのモスクで礼拝の後、金曜日の勉強会が開かれました。600年間、この形で人々に説話が教えられ、これによりイスラームからの逸脱をふせいできたのです。）

祝日（イード）の礼拝の**追加のタクビール**は九つあります。一つがファルド、一つがスンナ、七つがワージブです。最初のルクウにおけるタクビールはスンナです。追加のタクビールはワージブです。そして二回目のラカートのルクウのタクビールは、ワージブと共にワージブとなります。

## 礼拝をすること

「（**イスラームの恵み**」）で書かれているように、知性を持ち、成人しているムスリムが毎日五回の礼拝を行うことはファルドです。誰も、誰かの代わりに礼拝することはできません。人は、行った礼拝やその他の崇拝行為の報奨を、（生きている、死んでいるかを問わず）他者に贈ることがはできます。（自分自身に与えられただけの報奨が、彼らのそれぞれに報奨として与えられます。自分の報奨は全く減りません。）債権者、すなわち借りがある相手の取り分から逃れるために礼拝をし、それを寄付することは合法ではありません。礼拝がファルドであることを信じ、正当な理由なく怠慢で礼拝をしない人は不信心者とはなりません。罪人となります。（一回の礼拝の為に地獄で七万年焼かれることが教えられています。）礼拝をし始めるまで、収監されます。子供は七歳になると礼拝をするよう命じられます。十歳になって礼拝をしなければ、手で打たれます。三回より多く打たれることはありません。棒で打つこともできません。ただ、殺人を犯した大人を、判事の決定によって打つことができます。夫は妻を棒で打つことはできません。（どのような生き物であれ、その頭、顔、胸、腹部を打つことは合法ではありません。）病人も、力が及ぶ限りは礼拝をすることがファルドです。

# 差し障りがあること

　ウドゥーを損なわせるものが体から出る状態が継続的であれば、「**差し障り**」と呼ばれます。尿、分泌物、放屁おなら、鼻血、傷からの出血や膿、痛みや腫れの為の目からの出血が継続している場合れば、こういった人もしくは不正出血がある人は「**差し障りのある人**」と呼ばれます。留め具、薬を使い、、もしくは礼拝を座って、またはもしくはイメージによってで行ってい、これらを止めることが必要です。（尿を漏らす男性は、尿道能動に大麦ほどの天然の綿を入れます。人口綿を使うと、繊維が臓器に入り炎症を起こす可能性があります。尿をするとそれはひとりでに外に出ます。尿を多く漏らす場合は、尿が浸透して外に漏れてしまい、ウドゥーが損なわれます。漏れた尿が下着を汚さないことが必要です。この為には、尿が出るところにガーゼを巻き、端に結んだ糸で巻き、結びます。糸の動く端の輪の部分を安全ピンで下着に固定します。尿が多く漏れる場合、ガーゼの中に綿を入れることもできます。糸の端の輪がピンをくぐるのが難しければ、糸に留め具をつけ、輪をこれに通します。輪はそこから容易に外すことができます。ガーゼは三回、流水で洗います。尿を漏らす人は、ポケットに数枚のガーゼを入れておくべきです。糸付きのガーゼを用意しる為に、12×12センチの幅のガーゼの一角を折り、ここに50センチほどの弦を結び付けます。高齢者及び一部の病人では排尿器官が小さくなり、そこに巻いたガーゼがとれてしまいます。このような人は小さなナイロンの袋にハンカチほどのガーゼをつけ、排尿器官を袋に入れます。袋の口を縛ります。ガーゼに一ディルヘム以上の尿がたまれば、ウドゥーを行う際にガーゼを交換好感します。礼拝の時間が過ぎると、差差し障りを持つ人のウドゥーは無効になります。時間が過ぎる前に、差しさわりの理由であるものの他、何らかの理由によってもウドゥーは無効となります。例えば鼻の一方から血が出ている時にウドゥーをし、それからもう片方の鼻からも血が出始めれば、ウドゥーは無効となります。ハナフィー派でもシャーフィー派でも、差し障りの持ち主となる為には、ウドゥーを損なうものが一回の礼拝の時間中、流れ続ける必要があります。ウドゥーを行い、その時間のファルドの礼拝を行うだけの時間、それが出ていなければ、差し障りの持ち主とはなりません。誰かが差し障りのある状態となれば、その後の礼拝の時間において一回、一滴でもそれが出ていれば、差し障りのある状態はその時間も継続します。一回の礼拝の時間帯に全くそれが出なければ、差し障りのある状態は終わります。差し障りの原因である汚れが衣服に一ディルヘム以上付着した時すれば、再び付着しないようそれを防

ぐことが可能であれば、付着した場所を洗うことが必要です。「**アル・フィクフ・アラル・マザーヒブ・イラルバ**」では次のように語られています。「病人が、マーリキー派によって差し障りのある状態となる為に、二つの見解がある。一つ目の見解によれば、ウドゥーを損なわせるものが一回の礼拝の時間の半分以上継続すること、始まった、及び終わった時間が明らかでないことが必要となる。二つ目の見解によれば、一つ目の見解の二つの条件を満たしていなくても、これらが出る状態が始まれば、病人は差し障りのある状態となる。ウドゥーは損なわれない。それが止まった時間が分かれば、礼拝をする際にウドゥーを行うことがムスタハブとなる。ハナフィー派でもシャーフィー派でも差し障りのある状態にはなれない病人や老人は、マーリキー派の二つ目の見解に従う。」

　グスルを行うことで病気になること、病気が悪化すること、もしくは治癒が遅れることを恐れる人はタヤンムムを行います。この恐れは、自らの経験、もしくはムスリムであり公正な医師が告げることによって明らかになります。罪を犯したことが誰にも言及されていない医師の言葉も認められます。寒い時期、身を寄せる場所も水を温めるものもなく、町においては公衆浴場のお金も持っていない場合、病気の原因となり得ます。ハナフィー派では一回のタヤンムムで望臨むだけのファルドの礼拝を行うことができます。シャーフィー派やマーリキー派では、それぞれのファルドの為にタヤンムムを行います。ウドゥーで洗うべき器官の半分以上が傷ついている人はタヤンムムを行います。傷が半分以下であれば、健康な場所を洗い、傷の部分はなでつけます。グスルでは全身が一つの器官とを見なされるため、全身の半部以上に傷があれば、タヤンムムを行います。傷ついた場所が半分以下であれば、健康な場所を洗い、傷ついた場所は湿らせます。湿らせることが傷に害を及ぼす場合、包帯を撫でます。これも害を及ぼす場合、湿らせることを断念します。ウドゥーでもグスルでも、頭を湿らせることが害を及ぼす場合、頭を湿らせることはしません。手に傷や湿疹があり、水を使えない人はタヤンムムを行います。顔や腕を地面に（レンガ、土。石の壁に）漬けます。手や足が切れている人の顔にも傷があれば、礼拝はウドゥーなしで行います。ウドゥーをさせてくれる人が見つけられない人はタヤンムムを行います。子供、奴隷、有償で雇った人は援助をする義務があります。それ以外の人にも援助を求めることはできます。しかしそれ以外の人は援助する義務を負いません。夫や妻も、互いのウドゥーを助ける義務は負いません。

　採血されたり、ヒルに血を吸わせたり、傷や湿疹ができたり、骨が折れたり痛んだりして包帯（綿、ガーゼ、その上にパ

ッチ、軟膏）を巻いている人は、そこを水もしくは湯で洗い、もしくは湿らせることができなければ、ウドゥーでもグスルでも、その半分以上の部分の上を湿らせます。包帯を外すことが害を及ぼす場合、その下の健康な部分を洗うことはしません。包帯の間から見える皮膚の部分を湿らせます。包帯は、ウドゥーのある状態でまく必要はありません。湿らせた後、包帯を変える場合、他の包帯が巻かれたとしても新しいものを湿らせる必要はありません。

## 病人の礼拝

「**イスラームの恵み**」では次のように語られています。「立っていられない、もしくは立っていると病気が悪化する懸念のある病人は、礼拝を座って行い、ルクウの為には体を少しかがめます。それから置き直り、床にサジュダを行います。楽な形で座ります。膝を崩すこと、あぐらをかくこと、太物の上に座り、肘を膝の周囲で輪の形にして座ることも合法です。頭痛、歯痛、目の痛みも病気と見なされます。敵に見られる恐れも差し障りのある状態です。立ち上がるとウドゥーが損なわれる人も座って礼拝します。何かにもたれて立てる人は、もたれて礼拝を行います。立位を長く保てない人は、最初のタクビールを立って行い、痛みが出れば座って礼拝を続けます。

床でサジュダを行うことができない人は、立って言葉を唱え、ルクウやサジュダの為には座ってイメージで行います。座位で、ルクウの為に少し、サジュダの為により深く身を折ります。体を折ることができない人は頭を下げます。何かの上にサジュダをすることは必要ではありません。持ち上げられたものの上でサジュダを行う際、ルクウの時よりも深く身を折れば、イメージで行ったこととなります。礼拝は有効となります。しかし手で何かを持ち上げることは不要です。もたれて座ることが可能であれば、寝てイメージで行うことは合法とはなりません。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は、病人が前に枕を置き、そこにサジュダしているのをご覧になり、枕を取り払われました。病人は前に板を置きました。それも取り払われました。「**できるのであれば、額を床につけて礼拝しなさい。それができなければ、イメージで行いなさい。サジュダの時にはルクウよりもより深く身を折りなさい**」と言われました。「**バフル・ウル・ラーイク**」で示されているように、イムラーン家章第191節では、「または立ち，または座り，または横たわって（不断に）アッラーを唱念し」とあります。イムラーン・ビン・フサインが病気になると、預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は彼に「

立って行いなさい。それができなければ座って行いなさい。それもできなければ横向きもしくは仰向きに寝て行いなさい」と言われています。（このように、立てない病人は座って礼拝する。座れない病人は寝て礼拝します。どういう形であれ座れない人は、寝て行います。床に座れない病人及びバスや飛行機に乗っている人が、ソファーやいすに座って、足を下におろしたまま礼拝することは合法とはなりません。集団礼拝に行くと立って礼拝できない人は、家で立って行います。以下の20個の事柄のうち一つがあることは、集団礼拝に行かない為の正当な理由となります。雨、酷暑、酷寒、生命や財産を襲う敵への恐れ、仲間が去ってしまい、道中で一人になってしまう恐れ、暗闇であること、貧困で負債のある人が、捕まって投獄される恐れがあること、失明していること、歩けないほどにマヒがあること、片足が切断されていること、病気、手足が不自由であること、泥、歩けないこと、歩けない老人、めったにない法学の授業を逃すこと、好きな食事を逃す恐れ、旅行の為に動いていること、代わりになる人を見つけられない看護人、夜の強風、トイレを我慢していること、病気の悪化もしくは治癒の遅れを恐れる病人、看護人のいない状態になってしまう病人を監護している人、高齢の為歩くことが困難であることは、金曜礼拝に参加しないことについての正当な理由となります。集団礼拝に歩いて行き来することは、乗り物に乗っていくことよりも徳があります。モスクでは椅子やソファーに座ってイメージで礼拝することは合法とはなりません。イスラームが教えていない形で崇拝行為を行うことは**ビドゥア**になります。ビドゥアを行うことが大きな罪であることは、法学の書物で書かれています。

キブラに向かうことのできない病人は、容易である方向に向かって礼拝します。仰向けに寝ている人は頭の下に何かを置き、顔をキブラに向けて礼拝します。膝を曲げるとより良いとされます。頭でイメージもできない病人は、礼拝をカダーに残すことが合法となります。礼拝中に病気になった人は、できる限り継続します。座って礼拝している病人は、礼拝中に回復すれば、立ち上がって礼拝を続けます。知性や意識を失った人は礼拝をしません。五回の礼拝が過ぎる前に回復すれば、五回分をカダーします。六回を過ぎれば、カダーは全く行いません。

イメージでも礼拝をすることができない人は、礼拝を急いでカダーに残すことがファルドとなります。カダーをする時間もなく死を迎えれば、できなかった礼拝の償いの為にフィドゥヤを払う遺言を残すことはワージブにはなりません。カダーできるだけの時間、健康でいた場合には、遺言を残すことがワージブとなります。遺言を残さなかった場合、庇護者、さらには他人が自分の財産で償いをすることは合法であると言われてい

ます。「**イスラームの恵み**」の翻訳はここまでです。

さらに、聖ハディースでは次のように言われています。「**困窮は、24の事柄からもたらされる。**

1．必要に迫られていないのに立って排尿すること
2．グスルが必要な状態で食事をすること
3．パンくずを大切にせず、踏みつけること
4．玉ねぎやニンジンの皮を火にいれること
5. 目上の人の前で歩くこと
6. 父や母を名前で呼ぶこと
7. 木やスポンジの切れ端で歯をいじること
8. 手をスライム状のもので洗うこと
9．ロバの上に座ること
10. 排尿した場所でウドゥーをすること
11. ボウールや陶器を洗わずに料理を入れること
12. 服を上に縫い付けること
13. 空腹のときに玉ねぎを食べること
14. 顔を裾で拭くこと
15. 家にクモを放つこと
16. 夜明け前の礼拝をして、モスクから急いで出ること
17. 市場に早く行き、遅く戻ること
18. 貧しい人からパンを買うこと
19. 父や母に悪いドゥアドゥアーを行うこと
20. 裸で寝ること
21. 大砲を覆いのない状態で置くこと
22. ろうそくの火を、息で吹き消すこと
23. 全てを、ビスミッラーと言わずに始めること
24. シャルワールを立ったまま着ること

誰かが出る時、「**インナー　アータイナー**」の章を読み、その後。「主よ、私を夜明け前の礼拝の時間に目覚めさせてください」と言えば、アッラーの許しにより、その人は朝の礼拝に時間通りに目覚めます。

# 礼拝の重要性

「**アシアトゥル・ラマートゥ**」の本には、礼拝の重要性を示す多くのハディースがあります。この本は、「**ミシュカートゥル・マサービーフ**」というハディース本のペルシア語版です。インドの偉大なイスラーム学者の一人アブドゥルハック・ビン・サイフッディーン・ダフラウィー（アッラーの慈悲がありますように）が書いたものです。1384年（西暦1964年）にリュクノヴの町で第9版が出されています。四巻になります。「**マサービーフ**」の本は、ムヒースンナ・フサイン・ベガウィー（アッラーの慈悲がありますように）が書いたものです。ムハンマド・ワリーユッディン（アッラーの慈悲がありますように）がこれを編集し、「**ミシュカート・ウル・マサービーフ**」の名をつけています。アブドゥルハック・ダフラウィーは1052年（西暦1642年）にダルヒーで亡くなっています。

アラビア語で1}は礼拝を「**サラート**」と言います。サラートはそもそも、ドゥアドゥアー、慈悲、悔悟を意味します。礼拝にはこの三つの意味が全て含まれているため、礼拝をサラートと呼びました。

１．アブー・フライラ（アッラーがお喜びくださいますように）は伝えています。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は、「**五回の礼拝と金曜礼拝は、次の金曜礼拝まで、そしてラマダーン月の断食は次のラマダーン月までに行われる罪の償いである。大きな罪を犯すことを避ける人々が、小さな罪を許される要因となる。**」途中で犯された小さな罪の為に、他のムスリムの取り分がない人をなくしていきます。小さな罪が全て許され、終わった人々は、大きな罪の為の懲罰が軽減される要因となります。大きな罪が許される為には悔悟することも必要です。大きな罪がなければ。その位階が上げられる要因となります。これらの聖ハディースは「**ムスリム**」に記載されています。五回の礼拝に不足がある人が許されるには、金曜礼拝が必要要因となります。金曜礼拝も不足があれば、ラマダーン月の断食が必要要因となります。

２．またアブー・フライラが伝えています。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は言われました。「**門の前に川が流れる人は、この水で毎日五回体を洗えば、体に汚れが残るだろうか？**」教友たちが答え、「いいえ、全く汚れは残りません、アッラーの使徒よ」と言いました。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は「

日の五回の礼拝も同じである。五回の礼拝を行う人の小さな罪を、アッラーは無とされる**」と言われました。この聖ハディースは「**ブハーリー**」及び「**ムスリム**」に記載されています。

３．アブドゥラー・イブニ・マスード（アッラーがお喜びくださいますように）は伝えています。一人の人が、他人である女性にキスをしました。すなわち、アンサール（マッカの元々の住民）の一人がナツメヤシを売っており、この女性はナツメヤシを買いに来たのでした。その人は女性に対し、動物的な感情が生じさせたために、「たのでした。家にもっとよいものがある。、来なさい、そちらをあげよう」、と言いました。家につくと女性を抱きしめ、キスをしました。女性は「何をしているの、アッラーを恐れなさい」と言いました。彼も後悔しました。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）のもとに来て、行ったことを話しました。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は彼に返事をされませんでした。アッラーから啓示を待たれたのでした。その後、この人は礼拝をしました。アッラーはフード章の第115節を下されました。この章句では「**礼拝は昼間の両端において，また夜の初めの時に，務めを守れ。本当に善行は，悪行を消滅させる**」と言われています。昼間の両端とは午前と午後を意味します。つまり夜明け前の礼拝、正午の礼拝、。午後の礼拝です。夜の初めの時とは、日没の礼拝と夜半の礼拝です。この章句では、毎日の五回の礼拝が罪の許しの要因になることを教えています。この人は、「アッラーの使徒よ！この吉報はただ私にのみ下されたのですか？それとも全ウンマの為ですか？」と尋ねました。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は、「**全ウンマの為だ**」と言われました。この聖ハディースは二つのサヒーフで書かれています。

４．アナス・ビン・。マーリク（アッラーがお喜びくださいますように）は伝えています。「ある人が預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）を訪ね、「懲罰が与えられる罪を犯しました。私に罰を与えてください、打ってください」と言いました。預言者ムハンマドは何の罪を犯したのかを彼に尋ねられませんでした。礼拝の時間が来て、私たちは一緒に礼拝しました。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）がは礼拝を終えると、、この人は立ち上がり、「アッラーの使徒よ。私は懲罰が与えられるべき罪を犯しました。アッラーの書物で命じられている罰を私に与えてください」と言いました。「**あなたは私たちと一緒に礼拝をしたのではなかったか**」と尋ねられました。「はい、礼拝しました」と彼は答えました。「**悲しむな、アッラーはあなたの罪を許された**」と預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安があり

ますように）は言われました。この聖ハディースは二つの基本的な書物に書かれています。この人は、懲罰が必要な大きな罪を犯したと考えていました。礼拝をすることで許されたということは、これが小さな罪であったことを示しています。もしくは懲罰といったのは、小さな罪に対するものである罰のことでした。二つ目の質問で「懲罰を与えてください」と言っていることはそれを示しています。

５．アブドゥラー・イブニ・マスード（アッラーがお喜びくださいますように）は伝えています。アッラーが最も好まれるのはどのような行為であるかを、預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）に尋ねました。「**時間通りに行われる礼拝である**」と言われました。いくつかの聖ハディースでは、「**時間が早いうちに行われる礼拝を非常に好まれる**」とされています。それに次いでどのような行為を好まれるかを尋ねました。「**母や父によく振舞うことである**」と言われました。それに次いで何を好まれるかを尋ねると、「**アッラーの道において聖戦を行うことである**」と言われました。この聖ハディースはサヒーフの本に記載されています。別の聖ハディースでは、「**行動の中で最も良いことは、食事を振る舞うさせることである**」と言われています。また別のものでは「**挨拶することを広めげることである**」とされています。また別のものでは、「**夜、皆が眠っている時に礼拝をすることである」と言われています。別の聖ハディースでは、「最も尊い行為は、手や言葉で誰も傷つけないことである**」と、また別の聖ハディースでは「**最も尊い価値は聖戦である**」とされています。ある聖ハディースでは「**最も尊い行為は純粋な巡礼である**」とされています。すなわち、全く罪を犯さずに行われる巡礼です。「**アッラーを念じることである**」、また「**継続的な行為である**」としている聖ハディースもあります。質問をした人の状態に即して、様々な答えが与えられています。もしくはその時代にふさわしい返答がなされています。例えば、イスラームの最初期において最も価値のある行為は、聖戦でした。（私たちの時代において行為のうち最も価値があるものは、文章、出版を通して不信心者、宗派に属さない人々に答えを与えること、スンナ派の信条を広めることです。このような形で聖戦を行う人々に、お金、財産、肉体的な支援を行う人も、彼らが得る報奨から取り分を得ます。クルアーンの言葉、聖ハディースは、礼拝がザカートやサダカよりもより価値があることを示しています。しかし死の状態にある人に何かを与え、死から救うことは、礼拝をすることよりもより尊いのです）

６．ジャービル・ビン・アブドゥラーが伝えています。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は

次のように言われました。「**人とクフル（教えへの憎悪）の間の境界は、礼拝を放棄することである。**」なぜなら、礼拝は人がクフルに至ってしまうことから救う覆いであるからです。この覆いが取り除かれると、人はクフルに滑落します。この聖ハディースは「**ムスリム**」に記載されています。この聖ハディースは礼拝の放棄が非常に悪いことであると示しています。教友の多くは、礼拝を正当な理由なく放棄する人は不信心者となる、と語っています。シャーフィー派やマーリキー派では不信心者とはなりませんが、殺害が合法となります。ハナフィー派では礼拝を始めるまで収監され、殴られます。

７. ウバーダ・ビン・サーミト（アッラーがお喜びくださいますように）は伝えています。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は言われました。「**アッラーは日に五回の礼拝を行うことを命じられた。誰かが、きちんとウドゥーを行い、それらを時間内に実行じっこうすることでれば、またルクウや集中を完全に行うことでえば、アッラーが彼を許されると約束されている。これらを行わない人には約束はされていない。望まれれば許され、もしくは罰を与えられる。**」この聖ハディースはイマーム・アフマド及びアブー・ダーウード及びネサーイが伝えています。このように、礼拝の条件、ルクウやサジュダに集中することが必要です。アッラーは約束を違えられることはありません。きちんと礼拝をする人を、必ず許されるのです。

8. アブー・アマーマ・バーヒリー（アッラーがお喜びくださいますように）は伝えています。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は言われました。「**日に五回の礼拝を行いなさい。一か月断食を行いなさい。財産からザカートを支払いなさい。あなた方を統治投資する人々に従いなさい。主の天国に入りなさい。**」このように、毎日五回の礼拝を行い、ラマダーン月に断食を行い、財産からザカートを支払い、アッラーの地上における代理人である統治者の、イスラームに適した命令に従うムスリムは天国に行きます。この聖ハディースはイマーム・アフマド及びティルミズィーが伝えています。

９. 良く知られた教友の一人であるブライダ・イ・アスラミー（アッラーがお喜びくださいますように）は伝えています。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は言われました。「**あなた方と私の間にある誓いは、礼拝である。礼拝を放棄する人は不信心者となる。**」このように、礼拝をする人はムスリムであることが理解されます。礼拝に重きを置かない人、礼拝を第一の務めだと認めない為にそれを行わ

ない人は、不信心者となります。この聖ハディースはイマーム・アフマド及びティルミズィー、そしてイブニ・マジャが伝えています。

10. アブー・ザル・イ・ギファーリー（アッラーがお喜びくださいますように）は伝えています。秋のある日、預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）と外に出ました。葉が落ちてきていました。一本の木から二本の枝を折られました。これらの葉はすぐに落ちてしまいました。「**アブー・ザルよ。ムスリムがアッラーの為に礼拝を行えば、この枝から葉が落ちるように罪が落ちるだろう**」と言われました。この聖ハディースはイマーム・アフマドが伝えています。

11. ザイド・ビン・。ジュハミーが伝えています。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は言われました。「**ムスリムが正しく集中して二ラカートの礼拝を行えば、過去の罪が許される。**」すなわち、小さな罪が全て許されます。この聖ハディースはをイマーム・アフマド（アッラーの慈悲がありますように）が伝えています。

12. アブドゥラー・ビン・アムル・イブニ・アス（アッラーがお喜びくださいますように）は伝えています。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は言われました。「**誰かが礼拝を行えば、この礼拝は審判の日に、光、しるしとなり、地獄から救われる要因となる。礼拝を守らなければ、光やしるしが表れずできず、救いが得られない。カールーン、ファラオ、ハーマーン、及びウバイ・ビン・・ハラフと共にいることになる。**」このように、誰かが礼拝のファルド、ワージブ、スンナ、礼儀に即した形で礼拝を行えば、この礼拝は審判の日に光の中にいることの要因となります。このような礼拝を行うことを続けなければ、審判の日に名を挙げられている）不信心者たちと共にいることとなりますます。つまり、地獄の厳しい懲罰を受けるのです。ウバイ・ビン・ハラフは、マッカの不信心者の中でも激しい人でした。ウフドの戦いで預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は、その神聖な手で、彼を地獄へと送られたのでした。この聖ハディースはイマーム・アフマド及びベイハーキー及びダーリミーが伝えています。

13. タビーン（教友を見た世代の人々）の有力者であるアブドゥラー・ビン・シャキーク（アッラーがお喜びくださいますように）は伝えています。「教友たち（アッラーがお喜びくださいますように）は崇拝行為の中で、ただ礼拝を放棄する人が不信心者になると語っていた。これはティルミズィーが伝えています。アブドゥラー・ビン・シャキークはウマルから、ア

リーから、オスマーンから、アーイシャから（アッラーがお喜びくださいますように）から聖ハディースを伝承しています。ヒジュラ歴の108年に死去しています。

14. アブドゥッダルダ（アッラーがお喜びくださいますように）は伝えています。「**私のがとても愛する人が私に言った。バラバラにされても、火で焼かれても、アッラーを何かと同列においてはいけない。ファルドの礼拝を放棄してはいけない。ファルドの礼拝を意図的に放棄する人はイスラームから逸脱する。酒を飲んではいけない。酒は全ての悪事のカギである。**」このように、ファルドを重要視せず、放棄する人は不信心者となります。怠慢の為に放棄する人は不信心者にはならないものの、大きな罪となります。イスラームが教えている五つの正当な理由のうち一つにより死ぬことは罪ではありません。酒、アルコール飲料の全ては知性を失わせます。知性を失った人はあらゆる悪事を行い得るのです。

15. アリー（アッラーがお喜びくださいますように）は伝えています。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は言われました。「**アリーよ、三つのことを行う際に遅れてはいけない。時間になればすぐに礼拝しなさい。葬儀の礼拝の準備ができればすぐに葬儀をしなさい。娘に釣り合う結婚相手が見つかれば、すぐに結婚させなさい。**」この聖ハディースはティルミズィー（アッラーがお喜びくださいますように）が伝えています。葬儀の礼拝を遅らせない為に、マクルーフである三つの時間においても礼拝をします。（このように、女性は釣り合う相手と結婚することが必要です。釣り合う相手とは、金持ちであること、給与が多いことを意味するのではありません。男性が誠実なムスリムであること、スンナ派の信条を持ち、礼拝すること、飲酒をしないこと、つまりイスラームに従っていること、生計を維持できるだけの仕事を持っていることを意味します。男性が金持ちであること、マンション所有者であることばかり求め、自分の娘たちを破滅へと追いやり、地獄に投げ入れることになります。女性も、礼拝をすること、腕を出して外に出ないこと、マフラム（結婚の対象とはなり得ない相手）ではない限り親戚であっても二人だけにならないことが必要です。）

16. アブドゥラー・イブニ・ウマル（アッラーがお喜びくださいますように）は伝えています。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は言われました。「**礼拝の時間が来ればすぐに礼拝する人に、アッラーは満足される。時間の最後に行う人も、アッラーは許される。**」この聖ハディースはティルミズィー（アッラーがお喜びくださいますように

）が伝えています。

シャーフィー派やハンバリー派では、全ての礼拝を時間内の早いうちに行うことが、徳があるものとされます。マーリキー派も、これに近いです。ただし、非常に暑いときに、一人で礼拝を行う人が正午の礼拝を遅らせることは徳があるものとされます。ハナフィー派では、夜明け前や夜半の礼拝を遅らせること、暑い時期に正午の礼拝を涼しくなってから行うことは徳があることものです。（しかし、正午の礼拝はイマームたちの見解によれば、午後の礼拝の時間に入る前にされるのが良いとされ、また午後の礼拝や夜半の礼拝も、イマーム・アーザムによれば、時間が入った時点で行うことが良いとされます。より注意深く振舞ったことになります。篤信を持つ人は、あらゆる行いで注意深く振舞います。）

17. ウンム・ファルワ（アッラーがお喜びくださいますように）は伝えています。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）に、どの行為が、徳のがあるものであるか尋ねられました。「**行いの中で徳があるものは、時間の早いうちになされた礼拝である**」と言われました。この聖ハディースは、イマーム・アフマド、ティルミズィー及びアブー・ダーウード（アッラーがお喜びくださいますように）が伝えています。礼拝はイバーダのうち最も崇高なものです。時間に入ってすぐに行うことは、より崇高となります。18. アーイシャ（アッラーがお喜びくださいますように）が伝えています。「預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）が、礼拝を時間内の最後の方で行われたことを、二度は見ていない。」

19. ウンミ・ハビーバ（アッラーがお喜びくださいますように）が伝えています。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は言われました。「**一人のムスリムは毎日、ファルドの礼拝の他、12ラカートのナーフィラの礼拝（義務ではない礼拝）を行えば、アッラーはその人に天国であずまやを造られる。**」この聖ハディースは「ムスリム」に記載されています。このように、毎日五回のファルドと共に行われるスンナの礼拝を、預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）はナーフィラの礼拝と呼ばれました。

20. タビーンの有力者の一人であるアブドゥラー・ビン・シャキーク（アッラーがお喜びくださいますように）が伝えています。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は、義務ではない礼拝、すなわちナーフィラの礼拝を、アーイシャ（アッラーがお喜びくださいますように）に尋ねました。「（正午のファルドの前に四ラカート、後に二ラカー

ト、日没の礼拝と夜半の礼拝のファルドの後に二ラカート、夜明け前の礼拝のファルドの前に二ラカートを行われました」）と答えました。この知らせはムスリムとアブー・ダーウードが伝えています。

21. アーイシャ（アッラーがお喜びくださいますように）は言われました。「預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）が、義務ではない崇拝行為のうち最も継続されたものは、夜明け前の礼拝のスンナでした。」この知らせは「**ブハーリー**」と「**ムスリム**」で書かれています。アーイシャ（アッラーがお喜びくださいますように）は、五回の礼拝で行われるスンナの礼拝を、義務ではない（ナーフィラの）礼拝と呼ばれていました。

（偉大なイス1}ラーム学者は、逸脱した人々、宗派に属さない人々に対し、スンナ派の最も強い保護者、アッラーが選ばれた教えを広め、ビドゥアを倒した偉大なムジャーヒド、イマーム・ラッバーニ・アルフィ・サーニー・アフマド・ビン・アハド・ファールキー・セルハンディ（アッラーがお喜びくださいますように）は、イスラームにおいてそれに並ぶものが書かれていない、「書簡集/メクトゥーバット」の第一巻、第29の書簡で次のように語っています。

「アッラーが喜ばれる行いは、ファルドとナーフィラである。ファルドのそばではナーフィラには何の価値もない。一回のファルドを時間内に行うことは、千年間止まらずにナーフィラの礼拝を行うことよりもより尊い。各種のナーフィラ、例えば礼拝、。ザカート、断食、ウムラ、巡礼、唱念におけるものでも同様である、考察1}は皆どうである。さらには一つのファルドを行う際、そのスンナのうちの一つ、礼儀1}のうちの一つを行うことは、その他のナーフィラを行うことよりも何倍も尊い。1}エミル・ウルムーミニーン・ウマル・ウル・ファールク（アッラーがお喜びくださいますように）はある日、夜明け前の礼拝を先導した際、集団の中である人を見かけないため、その理由を尋ねた。彼は毎晩。ナーフィラの礼拝を行っていたので、眠ってしまってい集団礼拝に来られなかった、。と人々は答えた。「一晩中眠っていてもり、夜明け前の礼拝を集団で行えば、より良かった」と言われた。このように、一つファルドを行う際に、礼儀のうちの一つを行うこと、マクルーフであるものを避けること、唱念、考察1}、反省よりも何倍も価値がある。そう、これらは、その礼儀を守ること、マクルーフを避けることとともになされれば、もちろん非常に徳のあるものである。しかしそれらを行わないのであれば、何の価値もない。同様に、一リラのザカートを支払うことは、何千リラのナーフィ

ラのサダカを支払うことよりも良い。その一リラを支払う際、一つの礼儀を守ること、。例えば近しい親戚に与えることも、そのナーフィラのサダカよりも何倍も良いことである。」

（夜に、礼拝を行うことを求める人はが、カダーの礼拝をすることが必要である、ということもここから理解されます。）アッラーの命令を「**ファルド**」、禁止事項を「**ハラーム**」、預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）が行われたことを「**スンナ**」、禁じられたことを「**マクルーフ**」、これらの全てを「**イスラームの規則**」と呼びます。良い徳を持つこと、人々に善を施すことはファルドです。イスラームの規則を信じない人、気に入らないひとは、「**不信心者**」「**罪人**」となります。すべてを信じる人を「**ムスリム**」と呼びます。怠惰である為にイスラームの規則に従わないムスリムを「**罪人**」と呼びます。ファルド、ハラームに従わない罪人は、地獄に行きます。この人の行ったことはどれも、またそのスンナも、認められません。報奨を与えられることもありません。一リラのザカートもを支払わない人が、。何百万も出して行った善行、施しは、どれ一つとして認められません。彼が作ったモスク、神学校、病院、善行を施す集団の為に行った支援には、報奨は与えられません。夜半の礼拝を行わない人のタラーウィーの礼拝は認められません。ファルドやワージブとは別に行われる崇拝行為を「**ナーフィラ**」と呼びます。スンナもまたナーフィラの崇拝行為です。この定義によれば、カダーの礼拝を行う人は、スンナの礼拝をも行ったことになります。一回のファルドを行った人、ハラームを避けた人の報奨は、何百万回分のナーフィラの報奨よりも多いのです。ファルドを行わない人、ハラームを行う人は地獄で焼かれます。ナーフィラの崇拝行為は彼を地獄から救いません。崇拝行為における変化を「**ビドゥア**」と呼びます。崇拝行為を行う際にビドゥアを犯すことはハラームであり、崇拝行為が無効となる要因となります。（245ページを見てください）聖ハディースでは「**ビドゥアを犯した人はどの崇拝行為も認められない**」とされています。罪人、例えば妻や娘の頭を覆わせない人やビドゥアを犯す人、例えば崇拝行為でスピーカーを使う人の後ろで礼拝をするべきではなく、その説話、つまりはを、教えについてでっちあげた内容を聞くべきではなく、その書いた本を読むべきではありません。親友であれ敵であれ、笑顔と優しい言葉をかけるべきであり、誰かと言い争いをするべきではありません。聖ハディースでは「**愚か者には返事はなされない**」とされています。崇拝行為が心の清らかさを増します。罪は心を暗くします。豊かさを得られなくなります。すべてのムスリムは、信仰の

条件とファルド、ハラームを学ぶことがファルドとなります。知らないことは正当な理由ではありません。知り、信じないと同様のことになります。「**書簡集/メクトゥーバット**」の本はペルシア語です。翻訳の部分はここまでです。イマーム・ラッバーニ師は1034年（西暦1624年）にインドのセルヘンドで亡くなっています。

これらの文章から理解できいるように、五回の礼拝のスンナも、ナーフィラの礼拝です。これらはファルドと共に行われる為、またそのファルドの不足を補う為、他のナーフィラの礼拝よりも徳のあるものです。礼拝に価値を置き、これらを第一の務めと知っているのに、ファルドの礼拝を正当な理由なく、時間内に行わないムスリムは大きな罪を犯したことになります。地獄で、ファラオやハーマーンと共にいることになりまのです。ナーフィラの礼拝、すなわちスンナは、人をこの大きな罪から、この厳しい懲罰から救うことはできません。この為、放棄されたファルドの礼拝のカダーを行うことがファルドとなります。これらのカダーを遅らせることも大きな罪です。この、増える罪を終わらせることが必要です。カダーを行うことはファルドである為、報奨はスンナを行った時の報奨よりも何千倍も多くなります。これにより、またスンナを正当な理由で放棄することは合法である為、それぞれのムスリムは正当な理由なく放棄したファルドの礼拝のカダーを、毎日四つの時間の礼拝のスンナとしても行うべきです。夜明け前の礼拝のスンナをワージブであるという学者もいるために、夜明け前の礼拝のスンナの代わりにカダーを行うことはやめましょう。このようにしてカダーを常に行い、大きな罪から少しでも早く救われるべきです。カダーを終えた後、五回の礼拝のスンナを続けます。なぜならスンナの礼拝を正当な理由なく放棄し続けることは小さな罪となります。スンナに重きを与えない人は、不信心者となります。

正当な理由でできなかった礼拝は急いでカダーを行うことがファルドであるものの、正当な理由で行わないことは罪ではない為これらのカダーは、スンナの礼拝を行う間遅らせることを、ハナフィー派の学者たちは合法であると言います。しかしこの言葉は、正当な理由なく放棄された礼拝のカダーについても合法であるという意味にはなりません。また、合法であるとは、ワージブである、良いことであるという意味ではありません。合法と呼ばれるもののなかで、マクルーフであることが知られているものは多くあります。（例えば、ズィンミー（キリスト教徒及びユダヤ教徒）である不信心者に「**フィトルのサダカ**」を支払うことは合法ですが、マクルーフです。）

礼拝をし、手をハラームであるものには近づけないでください。

長生きしても、する。ずっとこの世界がいつまでもあると思わないでください。

若者時代には五回の礼拝にしっかり結びつきなさい。

天国の庭園で、上植えたものを収穫するでしょう。

死を思い起こさない人がいます。

一人はハラームを犯し、一人は礼拝をしません。

いつの日か、そこの手が動かなくなります。

アッラーと言わない舌は話せなくなります。

## ザカートを支払うこと

さらに、ザカートがファルドであることの根拠は、雌牛章の第43章及び110節にあります。

さらに、12のタイプの人にザカートを支払うことは合法となりません。それらは、狂った人に、死者の白布に、不信心者に、金持ちに、統治者に、配偶者に、奴隷に、お金を払って解放した奴隷に、主人が死んで解放された奴隷です。に、となります。女性が夫にザカートを払うことについては意見が分かれ、原則的には払いません。

さらに、誰かを他人だと思っていた誰かがそのものの子供であったり、ムスリムであると思っていたものの不信心者であったりした場合、彼らにはザカートは払われませんが、知らずに払っていた場合、原則として返還はしません。

ザカートは八つのタイプの人に払うべきです。

1. 正しい信仰にあ教えにあり、貧しい人々

2. 犠牲を屠るだけの財産がない貧者

３．借金があるムスリム

4. ザカートや税を徴収する係の人（費用の額）

５．祖国では豊かであっても、今いる場所では貧しい状態の人

6. 聖戦、巡礼の際にそれを必要とする人

7. 解放される為に主人に一定の金額を支払う必要のある奴隷

8. 心が教えに傾いてきた人々。現在においてはこの人々は存在しません。生計の為に必要な額よりは多く、しかし犠牲の動物を屠るには足りない財産を持つ人を「**貧者**」と言います。

給料が何リラであれ、生計を立てるのが困難である役人は皆、ザカートを得ることができ、犠牲技セ尾の動物を屠ること、フィトルを払うことはワージブとはなりません。宗教知識を学び、教えている人は、40年間の生計の糧があっても、ザカートを受け取ることができます。ザカートのお金では、モスクや聖戦、巡礼を行うことができません。死者に白布を買うこともできません。金持ちの小さな子供たちに、自分の母、父、子どもたち、妻に払うことはできません。兄弟、嫁、婿、義母、義父、叔母、叔父に払うことはより善行となります。貧者には比較的少ない額を払います。しかし子供たちがいるのなら、。それぞれにニサーブの額を超えない範囲で多く払うことができます。財産を浪費してい知る人、ハラームであることに用いる人には払えません。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）の血統である人にも、現在では戦利品の権利を得ることができない為、払うことができます。

ザカートがファルドとなる為の条件は六つあります。

1. ムスリムであること

２．成人であること

３．知性を伴っていること

４．奴隷ではないこと

5. （ザカートのニサーブの）額だけ、ハラールであるザカートの財産を持つこと

6. 所有しているお金が、生計に必要なもの、借金を返す為のものよりも多いこと（ザカートがファルドとなった後、。ムスリムの貧者に与えない人、もしくは他の借金がある人が、施しを行うこと、サダカを払うことは善行とはならず、罪になりますること。この人はがザカートを払い借金を返すことがファルドとなります。「**ハディーカ**」第二巻の635ページ、及び「**べリーカ**」の1369ページでは次のように書かれています。すなわち、お金をハラームである場で使う者、もしくは浪費する人に（ザカートと）サダカを払うことは合法ではありません。なぜならハラームを助けることはハラームであるからです。

払う人には何の利益もあってはいけませんないことが必要です。夫婦が互いにザカートを払う場合、払う人への利益は完全にはなくなりません。それぞれの崇拝行為と同様、ザカートを払う際にもニーヤ（意志表示）を行うことが必要です。ザカートの財産が借金及び日々の必要なお金　よりも多いこと、生計の為に必要なものよりも多いこと、そしてこの余剰分が「**ニサーブの額**」となることが必要です。金のニサーブは20ミスカル（96グラム、13.3金リラ）です。銀のニサーブは200ディルヘ

ム（672グラム）です。ザカートを払うことがファルドとなるためには、ザカートの財産がニサーブの額となった時から、一年後にもその財産が維持されていることが必要です。ザカートがファルドとなる事を防ごうと、一年が満了する前に策略を立てることは、イマーム・ムハンマドによるとマクルーフです。イマーム・アブー・ユスフによればマクルーフではありません。なぜなら、ファルドとなれば従わないことは罪となるからです。罪を避けることは**葉服従1}**となるとしています。ファトゥワは、イマーム・ムハンマドの見解によってなされています。

「**ザカートの財産**」とは、増減する財産のことです。これは四種類になります。一年の半分以上、牧草地で放牧している4本足のオスとメスの混合、またはメスのみの動物、貿易の為に購入された品物、金製品、銀製品、土から生じる食料です。牧草地にオスの動物しかいない人、ラバ、ロバしかいない人、こういった人にはザカートを払うことはファルドではありません。ラクダ、牛、羊の子牛は、成長した動物と一緒にいる場合、ザカートの計算に含まれます。ザカート、土から収穫された作物の税、償い、フィトルのサダカとして支払われる財産の代わりに、これらの財産を価値1}を与えることも合法です。シャーフィー派では合法ではありません。ザカートがサダカとなった後、財産がなくなれば、それは取り消しとなります。持ち主が補償した場合には取り消しとはなりません。

ザカートとは、知性を持ち、、成人であるムスリムがは、完全な財産かつであり、ハラールな手段からもたらされたザカートの財産の額が、ニサーブの額となってから一年度、この財産の一定額を八種類の階級のムスリムのうち一人もしくは数人に払うことを、ザカートと言います。ザカートには、受け取る人がムスリムであることが必要です。完全な財産とは、使用が可能であり、合法である財産という意味です。購入された財産は、契約された時にその人のものとなるとはいえ、納品されるまでは使用ができない為、完全な財産とはなりません。略奪された、つまり迫害を加えて無理やり奪ったもの、盗まれたもの、利子、賄賂、賭博によって得られたもの、楽器を演奏したり歌を歌ったりした報酬、そしてアルコール飲料の販売の対価として得たもの、罪人である相手とやりとりして得たものを「汚れた財産」と呼びます。汚れた財産からザカートを払うことはできません。なぜならこれらは、受け取った人のものとならないからです。汚れた財産は、持ち主に、持ち主が死んでいる場合は遺産相続人に、相続人がいなければ貧しいムスリムに与えることが必要です。汚れたお金がそれ自体で、もしくはハラールの財産と混ざってしまった場合、この混ざったものは資産にはなるものの、「**汚れた資産**」となります。これも、他者に与

えること、使うことがハラームであり、完全な財産ではないため、ザカートを払うことはできません。これに混ざっている汚れた財産に相当するもの、それが無ければその価値だけのものを、自分のハラールであるザカートの財産からも持ち主へ死ぬ死へと払ってから、汚れた資産は使用がハラールとなり、ザカートのニサーブに加えることが必要となります。この借金を支払う為のハラールの財産がなければ、借りて支払います。借金を返す前に、汚れた資産を使うこと、他者に与えることはハラームであっても、それを売ったり、贈り物にしたりすれば、受け取った人にとってはハラームとはなりません。持ち主や遺産相続人がわからなければ、もしくは様々な人から集められたハラームの財産が互いに混じり、汚れた資産となっている場合、全てをムスリムの貧者にサダカとして与えることが必要です。

貧者がは受け取ったものを贈り物として返す場合、与えた人が受け取ることは合法です。

金や銀は純粋な形で用いることはできません。純度が半分以上であれば、ザカートをどのような状態であれ支払うことができい、それは重さにより計算されます。市場で価格として用いられるものが二種類あれば、純度がより高いものを「**ジャイド**」と呼びます。純度が低いものを「**ズユフ**」と呼びます。純度が半分以下であれば、貿易に用いられ、その価値が金もしくは銀のニサーブだけあれば、ザカートを支払うことが必要となります。

雨水や川の水で灌漑された土壌からの作物は、量が少なくても、簡単に腐ってしまう野菜や果物であっても、十分の一を農作物への税として、役人に渡します。役人はそれらを売り、お金を「**財産の家**」と呼ばれる国庫に入れます。果実が見えた時、もしくは実った時、もしくは収穫された時、それを支払う時に支払うことがファルドとなると言われていました。動物や倉庫、機械、エンジンで灌漑されたものは、二十分の一を支払います。費用を差し引きする前に渡すことが必要です。政府が作物税をその持ち主に寄付すること、許すこと、廃止することは合法ではありません。山から、もしくはその土壌から得られる蜜に対しても作物税を支払います。

ズィンミー（キリスト教徒及びユダヤ教徒）にはザカートをは支払いません。しかしフィトル、償い、。願掛け、サダカを払うことはできます。「**バフル**」では次のように記されています。「ズィンミー（キリスト教徒及びユダヤ教徒）ではない不信心者には、ムステミン（良質な住民であることが保証されている人）であれ、ハルビー（誠実な住民）であれ、借金がない貧者に、ニサーブの額もしくはそれ以上のザカートを与える

ことはマクルーフです。貧者に子供たちがいるなら、それぞれに対しニサーブの額よりもわずかに少ないだけのものを与えることは合法です。

有効である通貨を持っている人は、フルース（金銀以外の木の句もしくは紙でできたお金）で財産を売ることが合法です。フルースは、金銀以外の金属もしくは紙のお金であり、風習により通貨の基準となる為、提示表示される必要はありません。フルースが市場で有効でなければ、イマーム・アーザム（アッラーの慈悲がありますように）によれば、この取引は無効となります。イマームたち、すなわちイマーム・アブー・ユスフとイマーム・ムハンマド（アッラーの慈悲がありますように）によれば、無効とはなりません。その価値だけの通貨が払われます。借りてきた後でフルースが通用しなくなれば、イマーム・アーザムによればそれに相当するもの、すなわち受け取っただけのフルースを払います。イマームたちによれば、その価値だけの通貨を払います。通貨を持っていない人がフルースでやりとりをする為には、フルースを提示表示することが必要です。提示表示された財産は、それを支払うことが必要となります。それに類似するものを払うことはできません。宝石商に一ディルヘムの重さの銀を与え、その半分をフルースで、半分を半ディルヘムより一ハッベ分少ない銀で払ってください、と言えば、これは無効になります。なぜなら半ディルヘムの銀を、もっと少ない量の銀を対価に売ることは、利子となるからです。この半分でフルースをください。もう半分で半ディルヘムよりも一ハッベ少ない銀をくださいと言えば、この取引は有効となります。もし、この一ディルヘムの銀で私に半ディルヘムの重さのフルースと、半ディルヘムより一ハッベ少ない銀をくださいと言えば、取引の双方が有効となります。一ハッベ少ない銀を、同じ重さの銀の対価として、及び半ディルヘムのフルースを、半ディルヘムよりも一ハッベ重い銀の対価として売ることになります。フルースと、その対価である銀の重さとの違いは、種類が異なることから合法となります。

「**ベダーイ・ウス・サナーイ**」では次のように書かれています。「ザカートとして払われる財産は、ザカートを必要とする財産と同じ種類、もしくは他の種類のザカートの財産であるべきである。（金の代わりに、貧者に服、靴、麦、油といったものを与えることは合法ではない。）ザカートの財産は、実物もしくは貸しとなる。実物である場合、長さもしくは体積で計られるか、もしくは計られない。計られない場合、放牧されている動物もしくは商売品となる。放牧されている動物の場合、諸文献で示されている動物そのものが与えられる場合、中くらいの等級レベルのものが与えられる。低い等級レベルのものが

与えられる場合、。中くらいのレベルの物との差額分だけの金もしくは銀も与えられる。動物の価値に相当するものが示される場合は、やはり中くらいの等級レベルに相当するものが与えられる。低い等級レベルであるものに相当するものが与えられる場合は、金もしくは銀で不足を満たす。二頭の中くらいの大きさの羊の代わりに、その価値を合計して一頭の太ったものを与えることは合法である。なぜなら利子ではないものにおいては、その価値が尊重されるからである。商売品については諸文献で知らされているものの40分の1を払う。同じ種類で、別のものが与えられる場合、よいものの代わりに中くらい、もしくは悪いものが与えられるなら、その間の差を埋めることが必要になる。なぜなら品物とは、重さもしくは体積では計られないものを意味するからである。これらにおいては量の差は利子とはならない。例えば、一着のよい服の代わりに、二着の並みの服を与えることは合法である。同じ種類ではない、別のものを払う場合、ファルドである量よりも少なく払うなら、その差額を埋めることが必要となる。ザカートの財産が長さや体積で計られる場合、財産そのものの、40分の1を払う。そのものではない、別のザカートの財産を払うなら、そのものの価値の分だけ払うことが必要である。別の種類のものが払われる場合、シャイハインによれば（アッラーの慈悲がありますように）、その価値だけではなく、量だけの分を払う。例えば、200キロの商売品である、良質な麦の価値が、200ディルヘムの銀であるから、そのザカートとして五キロの麦を払うことは合法となる。同様に、200ディルヘムの純度の高い銀のザカートである五ディルヘムの純度の高い銀の代わりに、五ディルヘムの純度の低いものを払うことができる。願掛けにおいて与えることも同様である。

　金と銀は絶対的な**通貨基準**である。基準として創造されたものである。人の何らかの必要性を満たすために、そのもの自体は用いられない。必要なものを買う為の媒介である。他のものは、通貨基準としても、それ自体使われる為のものとしても創造されている。」***バダイー***からの翻訳はここまでです。

　人が快適に、イスラームに適した形で生きる為に使われることが必要となるものを、「**必需品**」と呼びます。41ページを見てください。必需品は、人の状態や時代により変わります。快適に生きる為には必要ではなく、楽しみの為に、装飾の為に、敬意を集める為に用いられる余分なものを「**装飾品**」と言います。金や銀は必需品ではなく、。装飾品です。男性は家及び外で、女性は家だけで、許されているもので飾ることが合法となります。

このように、通貨基準であるフルースはいつでも商売品となります。その価値が、市場で用いられる金貨のうち、最も価値が低いものにより、ニサーブの額が決まり、そのザカートを支払うことが必要となります。なぜなら商売品のニサーブは、イマームたち（アッラーの慈悲がありますように）によれば、金や銀の貨幣のうち、貿易でよりよく使われているもので計算されるからです。ザカートも、その価値が計算されたお金により、もしくは財産そのものの40分の１を支払います。しかしこれは必需品として用います。フルースは金や銀以外のお金を意味します。銅、青銅、その他の合金と同様、紙からも作られます。つまり、紙のお金はフルースです。これらのザカートを払うことが必要です。しかし、これらの価値は、金や銀の価値のように「**絶対的な価値**」ではありません。「**変動するもの**」となります。政府が与える価値なのです。与えると同様にそれを取り去ることもあるのです。変動するものがなくなると、通貨とはなり得ません。ザカートの財産ではなくなります。イブニ・アービディーンは次のように語っています。「商売品の価値は、商売で多く用いられる、お金として印刷された金もしくは銀により計算される。銀により計算されるとき場合、240ディルヘムの銀の価値があり、金により計算される場合20ミスカルの金の価値がある場合、双方ともニサーブの額ではあるものの、この品は銀で計算することが必要である。なぜならザカートとして六ディルヘムもしくは半ミスカルの金を与えることが必要となるである。これは五ディルヘムの銀の価値となり、貧者にとっての価値は効果はが少なくなる。（なぜなら、20ミスカルの金と200ディルヘムの銀は、同じニサーブを示し、価値は同じである。）一ミスカルの重さの金貨を、一**ディナール**と呼ぶ。（トルコの金貨のすべては１．５ミスカル、すなわち７．２グラムの重さとなる。）通貨基準であるフルースのザカートは、ニサーブが計算された「金もしくは銀」で払うことがワージブとなる。」

ここから理解されるように、紙幣のニサーブは、商売で用いられる金貨の、最低価格で計算され、そのザカートを金として払うことが必要です。なぜなら銀はお金としては現在全く利用されないからです。紙幣のザカートは、ニサーブの計算で用いられた金属、すなわち金で払われるのです。それ自体の40分の1をが紙幣として払うわれることはできません。なぜなら紙幣それ自体は、必需品として用いられないからです。ただの紙もあるのに、紙幣を紙として利用することは浪費です。浪費はハラームです。紙幣のザカートは、お金として用いられる為、紙として払うことも合法ではありません。なぜならお金として使う為にその価値が絶対的で永続的である金が払われるからです。

金は、お金として、及び他の形で払うことができます。いつでも、あらゆる場所に存在します。自分の町で金を見つけられない人は、金製品が売られる地域の友人友達に紙幣を贈り、それで金を買い、。ザカートを払うように求めます。紙幣を後で払うことも合法です。紙幣のザカートを払うことがこれほど容易であるのに、法学の書物のこの命令に従うことを望まず、金の代わりに、その価値が一時的なものである紙幣で払うことは正しくありません。法学の本に従うことを望まず、崇拝行為をクルアーンの言葉から自らの理解した形で行おうとする人を「**宗派に従わない人**」、もしくは「**逸脱した人**」と呼びます。このような逸脱した人に対しては、「私は崇拝行為を、クルアーンや聖ハディースからあなたが理解した形ではなく、法学派のイマームたちが理解し、。教えているものに従って行う」と言うべきです。法学派のイマームたち（アッラーの慈悲がありますように）が理解したことを教えている本を、「**法学の書物**」と呼びます。

**アズハル大学**の神学部の教授であるアブドゥルラフマーン・ジャズィーリが率いる学者団が作成した「**キターブ・ウル・フィクフ・アラル・マザーヒブ・イル・アルバー**」の本では、これらの法学の知識が四つの法学派ごとにそれぞれ書かれています。この本は五部になっており、全てが1392年（西暦1972年）にカイロで印刷されています。

「紙幣のザカート」の項目では次のように語られています。「法学者たちは、紙幣のお金についてザカートを払う必要があるとしている。なぜならこれらは、貿易において金や銀の代わりに用いられるからである。これらはいつでも、金や銀と容易に交換することができる。紙幣を多く持っている人が、これらを金や銀のザカートのニサーブに加えないこと、これらのザカートを支払わないことは、知性が受け入れることのできるものことではない。この為、三つの法学派の法学者たちは、紙幣のザカートを払うことが必要であると見解を一致させている。ただしハンバリー派は、そこから離れている。ハナフィー派の学者たちは紙幣が証書であること、望む場合には金や銀にすぐに交換できることを語っている。この為、ザカートをすぐに払うことが必要であるとしている。なぜなら、受け取る借金のザカートを払うことは、金や銀が手に入った時にはファルドとなる。手に入る前にザカートがファルドとなったとしても、払うことはファルドとはならない。」望む場合は、受け取るまで待ち、受け取った時に過去の年都市のザカートを払う。望む場合は待たずに、手にしている実物の金や銀であるもののザカートを毎年払う。受け取る予定の金のザカートとして、手にしてい

る証書を与えることはできず、。証書に書かれた金や銀を負債者から得た場合、これらの40分の１を分け、過去の年都市のそれぞれについて個別に貧者に払うことが必要となる。このように、ザカートとして紙幣を払うことはできない。これらの40分の1も、貴金属商から価値が最も低い金貨を買い、。このお金もしくはその重さだけの金の指輪、腕輪を貧者に与えることが必要である。

負債者にザカートを払い、彼を借金から救う為には、「あなたにザカートを払おう。しかしあなたから受け取るものを、私が与えるザカートの対価として計算する。あなたもそれを認めなさい」ということは合法ではありません。ザカートを貧者に払うこと、貧者も受け取ったものを金持ちに返し、借りを返すことが必要です。貧者が返すことを信頼できない債権者について、「ファトゥワ・イ・ヒンディーヤ」の六巻の最後では次のように語られています。「債権者は、信頼している人を債務者に示し、あなたに与えるザカートを受け取る為、それからあなたの私への負債を払う為、この人を代理人にしなさいと言う。貧者もその人を代理人とする。その人がザカートを受け取ると、受け取ったものは貧者のものとなる。それからこれを金持ちに与え、貧者の借金を返す。二人が、一人の貧者に対し債務者であれば、そのうちの一人が貧者に受け取り分だけのザカートを払い、彼を自分に対する負債から救うことを望むなら、。貧者にそれだけのザカートを払う。それから受取分を貧者のにサダカととする。つまり、受取分を帳消しとする。それから貧者は手にしているザカートをこの金持ちに贈る。もしくは貧者は、負債だけの金を誰かから借り、金持ちに贈る。金持ちはこれをザカートとしてこの貧者に返す。そして貧者を負債から自由にする。つまり、彼の借金を帳消しにする。貧者はザカートとして受け取った金を、。まずそれを借りた相手に返す。ザカートで善行施しを行うことができない。それを行う為には。これらを知り合いの貧者に与える。貧者も、それらでその善行を行う。」ここからも理解できるように、紙幣でザカートを払う為には、払う紙幣の価値だけの金貨の重さの金の装飾品を、妻もしくは知り合いから借ります。この金を、知り合いもしくは親戚である貧者に、ザカートの意思表示と共に払います。これにより、紙幣のザカートが払われたことになります。それから、貧者はこの金を、この金持ちに贈ります。金持ちはそれを受け取り、持ち主に返し、借りを返します。ザカートが支払われているため、金持ちはザカートを払う為に分けておいた紙幣の一部を、この貧者に与えます。残ったものはあらゆる種類の善行の為に割り合当てます。貧者もこの善行の報奨を得ることを

望むなら、ザカートとして受け取った金をこの金持ちに売ります。それから善行を行う為に金持ちを代理人とし、紙幣を金持ちに払います。

四つの法学派の知識における専門家であり、偉大な学者であるアブドゥルハキーム・アルワーシー（アッラーの慈悲がありますように）は次のように語っています。「紙幣の価値は、変動するものである。その値が下がると価値がなくなる。この為、フィトラ、ザカートを紙幣で払うことは合法ではない。紙幣として払われたザカートは。金に換えられ、カダーされるべきである。巡礼以外、それ以外の財産による崇拝行為のカダーは、交換によって行われる。」

「**ドゥッル・ウル・ムフタール**」では次のように語られています。「統治者に反逆を起こす形で国を征服したムスリム、及び迫害を行うムスリムの王たちは、動物もしくは作物と呼ばれる土壌からの収穫物のザカートを受け取れば、そしてこれらをアッラーが命じられた場所に与えれば、この受け取った品はザカートとなる。受け取ったものを他の場所に与えれば、受け取ったものはザカートとは見なされない。所有者がザカートを再びムスリムの貧者に払うことが必要となる。商売品のザカート及びお金のザカートを集める場合、学者たちの多くによれば、ザカートは無効となる。ファトゥワーもこのような形である。一部の学者によれば、迫害を行う王たちはムスリムである為、そして手にしている財産は人々の権利であり、貧者と見なされる為、彼らにザカートのと言うニーヤ（意志表示）をして与えられるザカートは有効となる。」**イブニ・アービディーン**は次のように語っています。「税として、関税として、もしくはその他の名で受け取る財産、お金も同様である。ニーヤをしていたとしても、ザカートは有効とはならないという意見が優勢である。つまり、迫害者であるムスリムは、この財産のザカートを集める権利を持たないのだ。」ファトゥワーも同様であることが、「**タフタウィー**」の注釈で書かれています。このように、動物のザカートや作物への税の支払いが有効となるためには、これらを徴収する政府がムスリムであること、徴収したものを「**財産の家**」と呼ばれる国庫から、四つのカテゴリーで受取者となる人々に分配することが必要となります。政府に払われるこの種の税は、。学者たちの多くによるとれば、商売品やお金のザカートではいけないとされます。一部の学者たちは、徴収する政府がムスリムによるものであると知しっていること、払われた財産やお金をザカートのニーヤと共に払うことを条件として合法となる、と語っているものの、これは有力な意見ではありません。

来てください。否定しないでください。慈悲を持って振舞いなさい。
あなたの貴重な寿命を無駄にしないでください。
心を、我欲の欲望から救いなさい。
外見と同様、心も純粋でありなさい。
銅と混ざってしまった金を受け取った貴金属商はそれを気に入るでしょうか？
高校1}を卒業したのだとうぬぼれていてはいけません。
考えなしに言葉を口に出してはいけません。
深くものを知っている人を見つけ、彼の話を聞きなさい。
これにより、アッラーもあなたに良く振舞ってくださるだろう。
真実の海に到達し、深く潜り、鉱石を出し、純粋となりなさい。
卒業証書を持った、宗教上無知な人々に騙されてはいけない。
先人が正しい道を示しているのです。

## 断食について

断食のファルドは三つです。

１．ニーヤをすること

2. ニーヤを、最初と最後の時間の間に行うこと

３．イムサークの時間から日没までの時間、断食を無効とするものを避けること。イムサークの時間とは、地平線が白み始めた時間です。断食をニーヤせず、夜まで断食を無効とするものを避け続けても、断食をしたことにはなりません。その日をカダーすることが必要となります。

人にとって断食がファルドと なる為の条件は七つです。

1. ムスリムであること　2. 成人していること。子供の断食も有効です。3. 知性を持っていること。４．イスラーム圏ではないところにいる人は、断食がファルドであることを聞くこと　５．定住していること　６．月経中ではないこと　７．産褥期ではないこと。六つの事柄は断食を無効にします。食事をすること、飲み物を飲むこと、性交、月経、産褥、口いっぱいの嘔吐。以下のことは断食を無効にはしませんが、その褒賞を失わせます。嘘、陰口、ムスリムたちの間で人の言葉を言いつけること、偽証などが該当します。といったものは断食を無効にはしません。しかしその報奨を失わせます。

さらに、七種類の人は断食をしません。1. 病人　2. 客人　３．月経　４．産褥期にある女性　５．妊婦が、それを行う力がない場合　６．授乳期である女性が、子どもに影響がある場

合　7．弱った高齢者。

さらに、断食の為には毎日個別にニーヤを行うことが必要です。「（**ヒンディーヤ**」）では次のように語られています。「ニーヤは心で行う。サフル（断食前の食事）に起きることは、ニーヤである。」断食におけるニーヤは二種類あります。前者は、ラマダーン月の毎日の為、及びナーフィラや特定の日の為のニーヤの開始時間は、前日の日没や「ダフワ・キュブラ」と呼ばれる時間です。「**ダフワ・キュブラ**」の時間とは、シャーリア法による日中の時間、すなわち断食をする時間の半分であり、アザーンの時間と共に、

夜明け＋24＋夜明け/2もしくは夜明け＋12－夜明け/2＝12＋夜明け/2￥となります。

つまり、「ダフワ・キュブラ」の時間は、アザーンの時間と夜明けの時間を示す数の半分です。共通時間によれば、シャーリア法の日中の時間と太陽暦の日中の時間の違い、すなわちヒッセ・イ・ファジュルの半分ほど、終了より前になります。ヒッセ・イ・ファジュルとは、太陽が昇る時間と、夜明け、すなわちイムサークの時間の間です。ダフワの時間にニーヤを行うことは合法ではありません。夜明けより前にニーヤを行う際には、「明日の断食を行うことをニーヤしました」と言います。夜明けよりも前にニーヤを行う場合は、「今日の断食を行うことをニーヤしました」と言います。

もう一つの種類は、カダーや償い、願掛けです。この三つのニーヤの時刻は同一です。始まりの時間は前日の日没であり、終わりの時間は地平線が白みかける前です。空が白み始めてからは、この三つについてニーヤを行うことは合法ではありません。一年のラマダーン月の様々な日のカダーを行う際、名前や順番を決める必要はないことが、イブニ・アービディーンのカダーの礼拝の項の最後に書かれています。断食をする人は三種類となります。無知な人の断食、学者の断食、預言者や聖人の断食です。無知な人の断食は、食べず、飲まず、性交を行いません。しかしそれ以外の罪を行います。学者たちの断食は、これ以外の罪も行いません。預言者と聖人の断食は、疑わしいすべてのものを避けます。

断食をする人の祝日は、三種類となります。無知な人の祝日、学者たちの祝日、預言者と聖人の祝日。無知な人の祝日は、夜になると断食明けの食事をし、望むものを飲み食いし、私たちの祝日はこうだ、と言います。学者たちの祝日は、夜になると断食明けの食事をします。崇高なるアッラーが私たちの断食を承認してくださったのなら、私たちの祝日はそれだ、と言います。もし承認していただけなければ私たちはどうなるか、

と熟考します。しかし預言者と聖人の祝日は、アッラーにまみえることです。彼らは崇高なるアッラーのご満悦を強く求めます。

さらに、ムスリムたちの祝日は五種類あります。

１．信者の左にいる天使が、悪事として書くことを何も見つけられないこと

２．死の瞬間に、吉報を伝える天使が来て、「こんにちは信者よ、あなたは天国に行く」、と吉報をもたらすこと

3. 墓に至った時に、墓が天国の庭園のようであること

4. 最後の審判の日、慈悲の木陰の下で、預言者と聖人、学者、誠実な人々と共にいること

５．毛よりも細く、剣よりも鋭く、夜の闇よりもなお暗く、一年で下り、一年で上り、一年が平坦であるスラート橋の上で、七か所である質問に答え、そこを通過通貨できること。もし返事ができなければ、それぞれに千年の罰があるとされます。その七つの質問とは、まず信仰、二つ目は礼拝、三つ目は断食、四つ目は巡礼、五つ目はザカート、六つ目はしもべの権利、七つ目はグスルとイスティンジャー、ウドゥーについてのものです。

さらに、誰かがラマダーン月のイムサークの時間よりも前に、ニーヤを行った断食を意図的に損なえば、償いとカダーの双方が必要です。ナーフィラやカダーの断食には償いはありません。

償いの為には奴隷を一人解放します。断食に力が不十分であれば、ラマダーン月及び断食を行うことがハラームである五つの日以外の日に、連続して六日間の断食を行います。その後、損なってしまった断食の日数だけ、さらにカダーの断食を行います。（断食明けの祝日の一日目と、犠牲祭の四日は断食を行うことがハラームです。）それにも力が不十分であれば、60人の貧者に一日、もしくは一人の貧者に60日間、二回食事を与えます。もしくは一人一人にフィトルの額だけの財産を与えます。

一日のカダーの断食の為に一日断食をします。

以下の五種類の人には、償いは不要となります。1. 病人　２．客　３．授乳中の女性が、子どもに影響があることを懸念してあると断食しなかった場合　4. 高齢者　５．空腹もしくはのどの渇きで倒れてしまう恐れがある人。

こういった人々は、正当な理由がなくなってから、一日に対し一日カダーをすることが必要となります。

ラマダーン月が開始したかどうか確かではない時のニーヤは、数種類あります。ラマダーンにニーヤを行う、もしくは他のワージブにニーヤを行う、もしくはラマダーンであればラマダーンの断食を、ラマダーンでなければナーフィラ、もしくはワージブではないものをニーヤすることも合法です。もう一つの種類も確実に合法です。それは得絶対的な断食をニーヤすること、もしくはシャーバン月、つまりナーフィラの断食に、とニーヤすることです。

誰かが、「ラマダーンなら、ニーヤしました。ラマダーンではないなら、ニーヤはしません」と言うなら、このようなニーヤで断食をすることは全く合法ではありません。

さらに、誰かがラマダーンの夜明け前、つまり地平線が白みだす前に断食のニーヤを行わなければ、そして正午より前に飲み食いをすれば、イマーム・アーザムによれば償いは不要です。他のイマームたちによれば、償いが必要となります。なぜなら、ニーヤをして、断食することが可能であるのに飲み食いをしたからです。さらに、もし正午の礼拝以降に飲み食いをすれば、見解の一致で、償いは必要となりません。

さらに、誰かが二回もしくは三回のラマダーンのうち、一日ずつ断食を破ってしまった場合、それぞれの為に一回ずつの償いを行うのか、三回の為に一回の償いを行うのか、という問題は、見解が様々になっています。原則としてそれぞれに対し、一回ずつの償いを行います。誰かにがラマダーンの借りがある場合、その人がその借りの分を断食せず、何年もたった場合には、一部の学者によれば罪人となります。さらに誰かが償いを行っているところでラマダーンもしくは犠牲祭が来れば、ラマダーンの後、再び最初から始めることが必要となります。最初に行ったものは数に入れられません。

さらに、誰かが旅行をニーヤすることなく断食をやめて飲み食いしすれば、その後で旅行をニーヤし、出発した場合すれば、カダーと償いの両方が必要となります。旅行は、断食を中断することを合法とするわけではありません。旅に出る人がその日の断食を中断しないことはワージブです。日中、もしくは夜、ダフワの時間までニーヤをした客がその日の断食を中断することはハラールにはなりません。もし中断すれば、カダーを行います。旅行は、断食を始めないことを合法とするのです。。

また、誰かがラマダーン月に精神を病んでしまい、断食ができず、その後回復した場合、断食できなかった日の分をカダーします。もしラマダーン月の最初から最後まで全く回復せず、その状態が継続すれば、そのラマダーン月の断食は免除されます。

またある人が断食していることを忘れて断食を中断してしまった場合、断食は無効とはなりません。もし、断食していることを思い出し、自分の断食が無効になったと思って食べ続ければ、カダーが必要となります。償いは必要となりません。

また誰かが自分の汗を飲み込んだり、染められた糸をかんで染料を飲み込んだりした場合、。もしくは唾液を飲み込んだ場合、もしくは自分の唾液を一度外に出してから飲み込んだ場合、もしくは歯の間の食べ物を飲み込んだ場合、そしてそれがひよこ豆より余地も大きい場合、。もしくは皮下注射で薬を注入した場合、断食は損なわれます。カダーを行うことが必要となります。

また、誰かが紙片もしくは手のひらいっぱいの塩を食べたり、米粒を飲み込んだりすれば、断食は損なわれます。ただしカダーを行うことのみが必要となります。なぜなら、手のひらいっぱいの塩は食べ物としてにも薬としてにも食べる習慣はないからです。手のひらいっぱいの土壌と同様です。しかし食べた塩が少量であれば、償いも必要となります。「**アシュバフ**」で言及されています。なぜなら塩は、少量では薬としても食料としても用いられるからです。

パンのお金を稼ぐ為に働いている時に、病気になると感じた労働者が、病気になる前に断食を中断することは合法ではありません。断食を中断すれば、カダーと償いが必要となります。償いから救われる為には、まず紙を飲み込む必要があるのです。妊娠中の女性、もしくは授乳中の女性が、気持ちが悪くなって食べた場合、。カダーのみが必要となります。正当な理由がないのに、ラマダーンで人目につくところで食べる人は罪人となります。

さらに、誰かがゴマ粒をただ噛んだ場合、断食は無効になりません。しかしそれを飲み込めば、噛んでいてもいなくても、断食は無効となります。そしてカダーが必要となります。

さらに、断食は十五種類ありますとなります。三つがファルド、三つがワージブ、。五つがハラーム、四つがスンナです。ファルドである断食は、ラマダーン月と、カダー、償いの断食です。

ワージブである断食は、願掛け、条件付けのない願掛け、開始したナーフィラの断食日没まで継続することです。

ハラームである断食は、断食明けの祝日の最初の日、そして犠牲祭の四日間であり、この五日間で断食を行うことはハラームです。

スンナである断食は、毎月の13,,  14,.15日、ダーウードの断

食、月曜日、木曜日、アシューラの日、アラファの日、そして前述の神聖な日になされるものです。太陰暦の13,、14, １４, 15日を「**アイヤーム・バイズ**」と呼びます。年に一日ずつ断食し、次の日にイフタールを行うことを**ダーウードの断食**と呼びます。

**さらに、断食を行うことには十五の効果褒賞があります。**

１．1. 地獄への盾となります。

２．その他の崇拝行為が承認される要因となります。

３．体のズィクルとなります。

４．うぬぼれが破壊されます。

５．自尊心が砕かれます。

６．集中力を増します。

７．報奨が増えます。

8. アッラーがそのしもべに満足されます。

９．信仰を持って死んだときねば、天国に早く入る要因となります。

10. 心が輝きます。

11. 知性が輝きます。

シャーバン月の29日に太陽が沈めば、西側の地平線にラマダーン月の新月を探すことがワージブです。公正である人、すなわち大きな罪を犯さず、スンナ派であるムスリムが新月を曇り空に見つけた場合、判事、知事に連絡をし、それが認められると、各地でラマダーン月が始まります。判事や知事がいない場でムスリムが新月を見つけた場合、その地で断食が始まります。ビドゥアを犯す人、罪人の言葉は承認されません。晴腫れている空では、多くの人が連絡することが必要です。新月が見えなければ、ラマダーン月は始まりません。「**バフル**」「**ヒンディーヤ**」及び「**カーディハーン**」では次のように書かれています。「イスラーム圏外の国々の囚人が、ラマダーン月の始まりを知らず、カレンダーを見て一か月断食を行えば、ラマダーンよりも一日早くもしくはラマダーンの二日目、もしくはちょうどラマダーンの最初から断食を始めたことになる。一つ目の場合、ラマダーンよりも一日早く断食をし、ラマダーンの最後に祝日を祝ったことになる。二つ目の場合、ラマダーンの最初の日は断食せず、。最後の断食はイードの日に行ったことになる。どちらの場合も二日間カダーを行うことが必要である。三番目の場合、。断食を行った月の最初と最後の日が、ラマダーン月に合致していたかどうか同課が疑わしい。ラマダーン月かどうかはっきりしない日に断食をすることは有効とはならない

ため。やはり二日、断食をする。」ここからも理解できるように、ラマダーンを、新月を見るのではなく、前から用意されていたカレンダーを見て開始する人は、祝日の後の、二日間、カダーを意図して断食することが必要です。聖ラマダーン月が始まる日の計算については、「**永遠の幸福**」の本で詳しく説明してあります。（イブニ・アービディーン（アッラーの慈悲がありますように）は次のように語っています。「曇り空では、アザーンが読み上げられたとしても、太陽が沈んだことに確信が持てない限りはイフタールをするべきではない。星の多くが見えるようになるまでにイフタールを行えば、ムスタハブがなされたことになる。ある場所で日没を目にしてイフタールを始めるた場合、高い場所、例えば尖塔で太陽が沈んだことが理解されるまではイフタールはしない。夜明け前の礼拝もサフルも同様である。」）天文学の書物における**公転**の表を見ると、公転の時間はその高さにより変わります。全ての礼拝の時間の計算を行う際、ある場所におけるもっとも高い丘により計算されているもののみが使用されています。公転の時間を計算に入れずに作られたカレンダーでは、日没の時間が数分早く書かれています。日没の時間に、太陽が沈んでいないのが目にされるのです。このようなカレンダーを見てイフタールを行う人の断食は無効となります。）

## 犠牲の条件は三つである

１．ムスリムであること、知性を持ち、成人しているムスリムであること

２．定住者であること

３．犠牲として屠る動物のニサーブの額が多いこと。

羊もしくはヤギ、ラクダ、牛を根幹とし、一頭等のラクダや牛は七頭の動物と同等となり、一頭の牛は七人の捧げものとすることが合法です。もう一人別の人が私も加わろうと言えば、八人目の捧げものは無効となります。犠牲とする動物のニサーブは、フィトルのニサーブと同じです。

（イブニ・アービディーン（アッラーの慈悲がありますように）は次のように語っています。「誰かの持ち分が七分の一よりも少なければ、誰の犠牲も合法とはならない。この為、七人よりも少ない人数で、一緒に屠ることが必要となる。購入を共同で購入する行うことが有効となる。購入した後で共同とすることも有効ではあるがは、購入する前に共同所有者となることがよりよい。人は、誰かのうちに対し、七分の一から七分の六まで、共同所有者となることができる。肉はこの割合で分配

する。共同購入者の一人が死に、相続人が彼の為に、そしてあなた方自身の為に屠ってくださいと言えば、有効となる。なぜなら死者の為に動物を屠ることは、アッラーへと近しくなる行為となるからである。しかしこのように言わなければ、共同所有者のうち死者のものは捧げるという行為とはならず、そのどれも、有効とはならない。共同所有者のうちの一人でもが不信心者であれば、もしくは肉の為に共同所有者となったのであれば、誰の動物も合法とはならない。なぜなら共同所有者全員が、捧げものとすることをニーヤすることが条件だからである。不信心者のニーヤは逸脱となる。食べる為にニーヤすることは、アッラーへと近づくことではない。同様に、共同所有者のうち一人が今年の動物を、ほかの人が過去の年の動物を屠ることをニーヤした場合、他の人々のニーヤは逸脱であり、肉はサダカとなる。その肉を貧者へのサダカとすることが必要となる。一人の人のニーヤは有効であったとしても、この人も肉を食べることができない。なぜならサダカにするという決定は肉の全てに適用されるからである。ニーヤされた捧げものは、ワージブであるものであることは条件ではない。スンナやナーフィラの捧げものでもよい。様々な種類のワージブでもよい。子供や大人の為に、アキーカ（生まれた子供の髪を切ること）を行うことも合法である。なぜならアキーカは子供と言う恵みに対する感謝であり、捧げものである。結婚式の食事も感謝することであり、スンナの捧げものである。共同所有者のうち全員が犠牲祭の捧げものとすることを言うニーヤすることでいることは、徳があることである。アキーカを行うことは、ハナフィー派ではスンナではない。ムスタハブもしくはムバフである。ムスタハブである者は、アッラーに近づく行為である。ムバフであるものは、感謝のニーヤと共に行われれば、アッラーに近づく行為となる。また、多ニーヤを行えば、それは崇拝行為となる多くの習慣がある。ムバフも、ニーヤをすれば、服従となる。アキーカを行うことについてはアラビア語の「**ウクド・ウッドゥーリヤ**」及び「**ドゥッル・ウル・ムフタール**」の書物で詳しい情報がある。」

## 巡礼の根幹は三つである

1．イフラームの状態に入る際、巡礼をニーヤすること
2．アラファトで定められた時間滞在すること
3．訪問の周回を行うこと。

アラファトでの滞在の始まりは、ズルヒッジャ月の九日目、日没から、翌日の朝までです。( 一日前もしくは一日後にア

ラファトに滞在する場合、巡礼は無効となります。ワッハーブ派の人々は新月を見ずに、一日前に祝日を祝っています。定められた時間に滞在を行わない人の巡礼は有効とはなりません。）周回（タワーフ）は七種類です。

最初のものは訪問の周回、

二つ目はウムラの周回（この二つはファルドです）

三つ目は、クドゥムの周回です。

四つ目は別れの周回、

五つ目はワージブである願かけの周回です。

六つ目は、ナーフィラの周回、

七つ目がムスタハブであるタタッウの周回です。

巡礼の為に、にイフラームにニーヤを行うことがファルドです。イフラームの布をまとうことはスンナです。縫い目がある衣服を避けることはワージブです。

さらに、巡礼がファルドとなる為の条件は八つです。

１．ムスリムであること

２．成人していること

３．知性を持つこと

４．健康であること

5. 奴隷ではないこと

6. 所有する財産が、基本的な生計に必要なものよりも多いこと

7. 巡礼の時間が来ていること。巡礼の時間とは、アラファの日及び四日の祝日です。道中も計算に入れます。

８．道のりが遠い女性のそばに、夫もしくは婚姻が永遠に合法とはならないムハッラムである人がいること。（この八つの条件を持つ人は、人生に一度、巡礼に行くことがファルドとなります。一回よりも多く行く場合、後で言ったものはナーフィラの巡礼となります。「**ナーフィラの崇拝行為**」とは、ファルドもしくは義務ではなく、自らの希望で行う崇拝行為を指します。ナーフィラの崇拝行為の報奨は、ファルドである崇拝行為と並べると、大海のそばの一滴の水ほどにわずかなものです。イスラーム学者は、マッカから遠い国に住む人々が再度巡礼に行くことを許していません。アブドゥラー・ダフラウィーは「クッディサ・シッルフ」の第63の書簡で次のように語っています。「巡礼への道程では多くの場合、崇拝行為が完全に行われない。この為、イマーム・ラッバーニ（アッラーの慈悲がありますように）は第123及び124の書簡で、ウムラやナーフィラ

の巡礼に行くことに満足しないことを述べている。）」

ファルドが行われること、女性が覆われることに妨げとなるナーフィラの巡礼は、ハラームとなります。このようなナーフィラの巡礼に行くことは、善行ではなく罪となります。ウムラに行くことも同様です。ザカートはニサーブを所有してからヒジュラ暦で一年後に支払うことがファルドとなります。ザカートを払うことがファルドとなるこの時期は、人によって異なります。この期間が巡礼の時期よりも前であれば、財産、お金の全てについてザカートを支払い、残りで巡礼に行きます。ザカートを払う時期が巡礼の時期にちょうど重なれば、まず巡礼に行きます。巡礼の後、残ったお金についてザカートを払います。）

## 54のファルド

子供が成熟した時、もしくは不信心者が**信仰告白の言葉**を唱えた時、つまり「**ラー　イラーハ　イッラッラー　ムハンマドゥン　ラスールッラ―**」と言った時、そしてその意味を知り、信じた時には、「**(ムスリム」)**となります。不信心者の罪は全てすぐに許されます。　しかし彼らは全てのムスリムのように、可能な限り信仰の六つの条件、すなわち「アーマントゥ」を覚え、意味を学び、それらを信じること、「イスラームの全て、つまり預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）が告げられた命令と禁止事項の全てをアッラーが教えられたものだと信じます」、と言いうことが必要です。そして可能な限り、全ての性質や直面した物事から、ファルドである者、つまり命令されたもの、そしてハラームであるもの、つまり禁じられたものを学ぶこともファルドです。これらを学び、ファルドを行うこと、またハラームを避けることがファルドであることを否定するなら、つまり信じずに、重きを置かないのなら、信仰は失われ、ムルタドとなります。つまりこの学んだことのどれか一つでも、例えば女性が体を覆うことを気に入らなければ、ムルタド（**離脱者**）となります。ムルタドは、教えからの逸脱の原因となることを悔悟しない限りは、例えば礼拝、断食、巡礼、善行、施しを行ったとしてもうことでムスリムとなることはありません。これらの善い行いの褒賞効果を来世では全く見ることができません。否定したこと、つまり信じなかったことについて悔悟し、後悔公開することが必要です。

イスラーム学者たちは、それぞれムスリムが学び、信じ、従うべきファルドののうち54つを選んでいます。54５４のファルドは以下の通りです。

1. アッラーをよく知り、決して忘れないこと。

２．ハラールであるものを食べること、飲むこと。

３．ウドゥーを行うこと。

４．毎日時間通りに日に五回の礼拝を行うこと。

５．礼拝を行う際、大きな汚れ、小さな汚れをグスルで清めること。

６．　人の糧に、アッラーのお力が十分であることを真実信じつと知り、信じること。

７．ハラールである清潔な衣服を着ること。、

８．アッラーを信頼し、努力すること。

９．満足すること。

1010. 恵みに対し、アッラーに感謝すること。つまりそれらを命じられた場所で用いること。

11. アッラーからもたらされる運命を甘受すること。

12. 災禍に対し忍耐すること。

13. 罪を悔悟すること。

14. イフラースを持って崇拝行為を行うこと。

15. 人間やジンのシャイターンが敵であると知ること。

16. 神聖なるクルアーンを根拠、印と見なすこと。その定めるところを受け入れること。17. 死を真実であると知り、死へ備えること。

18. 崇高なるアッラーが愛されるものを愛し、愛されないものから逃げること。（これをフッブ・フィッラー、ブードゥ・フィッラーと言います。）

19. 父や母によく振舞うこと。

20. 善を勧め、悪いことは止めること。

21. マフラムである（永遠に結婚の対象とはならない）親戚を訪問すること。

22. 　信託をうらぎらないこと。

23. 常にアッラーを恐れ、ハラームを犯すことを避けること。

24. 崇高なるアッラーと預言者ムハンマドに従うこと。つまりファルドを行い、ハラームを避けること。

25. 罪を避け、崇拝行為に時間を費やすこと。

26. 規律、法律に逆らわないこと。

27. 世界を、教訓を得る場として見ること。

28. アッラーの存在、すなわちその特性、被造物について熟考すること。

29. 舌を、ハラームであり性的であったりする言葉から守ること。

30. 心を、現世への愛着から清きよめること。

31. 決して誰も軽視しないこと。

32. ハラームであるものを見ないこと。

33. どのような時も約束に忠実であること、

34. 耳を、性的な者及び楽器のような禁じられたものを聞くことから守ること。

35. ファルドやハラームを学ぶこと。

36. はかり、測定器具を正しく用いること。

37. 崇高なるアッラーの懲罰について過信せず、常に恐れること。

38. ムスリムである貧者にザカートを与えること、

39. 崇高なるアッラーの慈悲に絶望しないこと。

40. 自我の欲望、つまりハラームである欲望に従わないこと。

41. 空腹である人を、アッラーのご満悦の為に食事させること。

42. 食べ物、衣服、住居の費用を稼ぐ為に働くこと。

43. 財産のザカート、農地の収穫物に対する税を払うこと。

44. 月経中、産褥期である人に近づかないこと。

45. 心を罪から清めること。

46. うぬぼれを避けること。

47. 成人していない孤児の財産を保護すること。

48. 若い男性に近づかないこと。

49. 火に五回の礼拝を時間通りに行い、カダーに残さないこと。

50. 誰の財産も強奪しないこと。（離婚した女性に婚資金を支払うこともアッラーのしもべが持つ権利です。支払わない場合、現世での罰、来世での懲罰は非常に重いものになります。しもべの権利のうち、最も重要なもの、懲罰が重いものは、親戚や指示下にある人に善を命じることです。彼らに宗教知識を教えることを放棄することです。彼らが、そして全てのムス

リムが教えを学ぶこと、崇拝行為を行うことを、迫害したり騙したりして妨げる人は、不信心者であることは明らかです。ビドゥアを犯す人、宗派に属さない人の言葉、文章により、スンナ派の信条を変えること、教えや信仰を損なうことも同様です。）

51. 崇高なるアッラーと何者かを同等と見なさないこと。

52. 姦淫を避けること。

53. ワインやアルコール飲料を飲まないこと。

54. 偽証を行わないこと。

ワイン、スピリッツ、アルコール飲料は全て、大きな汚れです。水と土壌を混ぜた時、この二つのうちどちらかが清浄なものであれば、そこで生じる泥がきれいであること、この見解が有効であること、ファトゥワーも同様であることが「**バフル**」という本で、及び「**イブニ・アービディーン**」で書かれています。このファトゥワーが弱いものであることを伝える学者たちもいますが、困難な状況である時には、弱い見解を基に行動できるということが、「**イブニ・アービディーン**」及び「**ハディーカ**」で書かれています。これによると、必要ニーズに応じて作られたコロン、ワニス、スピリッツ及び染料は、アルコールと混ぜられる物質が清浄なものであれば、混ぜられたものも清浄であることが理解されます。シャーフィー派でもこのようであることが、「**マフワート**」の注釈で書かれています。清めることが困難であれば、礼拝の妨げにはなりません。困難であるために清浄であると認められるこのような液体は、やむを得ない事情がない限り、飲むことは合法ではありません。アルコール飲料は決して清浄となることはありません。なぜならこれらの飲み物におけるアルコールは他の物質と共に、必要ニーズがある為、効果がある為ではなく、快楽の為に混ぜられているからです。それが混ざったものも全て穢れとなります。やむを得ない事情なく飲むことは常にハラームです。）

## 大きな罪について

さらに、大罪、すなわち大きな罪の種類は非常に多くあります。ここでは72について言及されます。

１1. 不正に人を殺害すること。

2. 姦淫を行うこと。

３. 同性愛を行うことは全ての教えでハラームです。

４. ワイン、あらゆる種類のアルコール飲料を飲むこと。

5. 窃盗を行うこと。

6. 快楽の為に覚せい剤を使うこと。

７．他者の財産を奪うこと。強奪すること。

８．偽証を行うこと。

９．ラマダーン月の断食を、正当な理由がないのにムスリムの前で中断すること。

10. 利子で財産、お金を受け取ること、払うこと。

11. 多く誓いを行いすぎること。

12. 母親に反抗すること、たてつくこと。

13. マフラムあり、誠実である親戚との付き合いを断つこと。

14. 戦場において戦いを放棄して敵から逃げること。

15. 本人の承認なく、孤児の財産を奪うこと。（「**永遠の幸福**」の1029ページでは「孤児の代理人がその財産を取ること、使うことは合法である。他者にそれを取らせること、フィトルを支払うこと、犠牲の動物を屠らせることは合法ではない。」）

16. はかりや測定器具を正しく用いないこと。

17. 礼拝を時間よりも前もしくは後に行うこと。

18. 信者の仲間の心を傷つけること。

19. 預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）が語られていない言葉を口にすること、彼にたてつくこと。

20. . 賄賂を受け取ること。

21. 真実の証言から逃げること。

22. 財産のザカートや収穫物への税を払わないこと。

23. 力がある人が、罪を犯す人を見てもそれを妨げないこと。

24. 生きた動物を火で焼くこと。

25. 崇高なるクルアーンを学んだ後、それを忘れること。

26. 崇高なるアッラーに絶望すること。

27. ムスリムに対してであれ、不信心者に対してであれ、人を裏切ること。

28. 豚肉を食べることはハラームです。

29. 預言者ムハンマドの教友たち（アッラーがお喜びになられますように）の誰かを愛さないこと、呪うこと。

30. 満腹した後で食べ続けることはハラームです。

31. 女性が夫のベッドから逃げること。

32. 女性が男性の許可なく訪問に行くこと。

33. 高潔な女性を売春婦と呼ぶこと。

34. ムスリムたちの間で人の悪口を言いつけること。

35. 覆うべき場所を他者に見せること。（男性のへそと膝の間、女性の髪、腕、足も覆うべき場所です。）他者の覆うべき場所を見ること。

36. 死んだ動物の肉を食べること。他者に食べさせること。イスラームが教える形に従わず殺された動物も、死んだ動物となります。

37. 信託を裏切ること。

38. ムスリムの陰口を言うこと。

39. 妬むこと。

40. 崇高なるアッラーに何者かを同等とすること。

41. 嘘をつくこと。

42. うぬぼれ、自分を優れていると見ること。

43. 死の床にある人の遺産相続人から財産を盗むこと。

44. 過度にけちであること。

45. 現世（ハラーム）に愛着を感じること。

46. アッラーの罪を恐れないこと。

47. ハラームであるものをハラームと信じないこと。

48. ハラールであるものをハラールと信じないこと。

49. 占い師の占い、幽玄界から知らせをもたらしているという話を信じること。

50. 棄教すること、ムルタドとなること。

51. 正当な理由なく、他者の妻や娘を見ること。

52. 女性が男性の衣装を着ること。

53. 男性が女性の服を着ること。

54. カーバで罪を犯すこと、

55. 時間が来る前にアザーンを唱えること、礼拝をすること。

56. 国家の長の命令、法律に反抗すること、たてつくこと。

57. .人の覆うべき場所を、その母の覆うべき場所に似せること。

58. 人の母を呪うこと。

59. .武器を用いてしるしを取ること。

60. 犬が食べ残したものを食べること、飲むこと。

61. .行った善行について恩を着せること。

62. 男性が絹を着る切ること。

63. 無知であることに固執すること。（スンナ派の信条、ファルド、ハラーム、そして必要な知識を学ばないこと。）

64. アッラーやイスラームの教える美名以外のものを言い、誓いを立てるいをすること。

65. 学問から逃げること。

66. 無知であることが災いであると理解しないこと。

67. 小さな罪を繰り返すことに固執すること。

68. やむを得ない事情なく、大声で笑うこと。

69. 一回の礼拝の時間が過ぎるだけの時間、グスルが必要な状態で外にいること。

70. 月経中もしくは産褥期である時に、妻に近づくこと。

71. メロディをつけること、道徳的でない歌を歌うこと。音楽、楽器を使うこと。インドの偉大な学者であるミルザ・マズハル・ジャーヌ・ジャーナン（アッラーの慈悲がありますように）は、「**カリマトゥ・タイバートゥ**」という本で、ペルシア語で次のように語っています。「楽器を演奏すること、聞くことは一致した見解として、ハラームである。ただし、ネイ（笛）を拭くことはマクルーフ、宴で太鼓を叩くことはムバフと言われる。）（クルアーンやアザーンにメロディをつけて唱える際、意味が変わったり、文字が繰り返されたりすればハラームとなる）

「**アル・フクフ・アラル・マザーヒブ**」では、「メロディをつけて唱えることはハラームである。これを聞くことは合法ではない」とされています。

韻を踏んでいる言葉を、それに調和する声で読むこと、聞くことを、「**タガンニー**」又は「**シマー**」と呼びます。

タガンニーは美しい、気に入るような声で読むことです。クルアーン、アザーン、マウ舞うリード、賛美歌をタガンニーで読むことには二種類あります。

1. スンナであり、善行であるタガンニー。タジュウィードの知識に従って唱えることです。このようなタガンニーは心に、魂に力を与えます。

2. 禁じられた、ハラームであるタガンニー。音記号や音符に従い、メロディをつけて読むこと。このようなタガンニーは文字や言葉の意味を損なわせます。意味を変えてしまいます。このように唱える人の声は、我欲に心地よく、甘美に感じられます。我欲に圧倒されている人を泣かせ、跳ね回らせます。その意味について理解していません。心、魂は不注意さや病から救われません。

「**タルギブ・ウッサラート**」の162ページ、「**バリーカ**」の第二巻1342ページ、「**ハディーカ**」第二巻589ページでは次のように語られています。「娯楽の為に、ガラガラ音の出る楽器をつけた動物に乗ってはいけない。それはマクルーフである。その楽器はシャイターンの楽器である。その楽器があるキャラバンには慈悲の天使は訪れない。」仕事や利益の為に乗ることは葉合法です。

イスラームや道徳にふさわしくない詩を読むこと、適切なものであっても、楽器、酒、女性と男性が混ざっている逸脱した場所で読むこと、もしくは他の場所で読まれたものを、このような場所でラジオやカセットで聞くこと、女性や少年が読むことは一致した見解としてハラームとされています。）適切な詩を、適切な場で読むことは合法です。心に影響を与えれば、アッラーの慈悲の要因にもなります。一部の学者たちはムバフであるシマー（宗教的、道徳的な詩）をも求めていません。彼らは自分の性質上、心地よく感じられない為にシマーを求めていないものの、ムバフであるシマーを求める人々を否定もしていません。）クルアーン、マウリード、賛美歌、祝福祈願の言葉を、逸脱した場で、敬意を込めて読むことはハラームです。楽しみ、快感の為に読むことはクフルとなります。「（**ドゥルッル・メアーリフ**」）の六ページでは「楽器、女性、少年の声は禁じられ、ハラームである。それ以外の人の声で価値のある詩を読むことはシマーであり、ムバフである」とされています。

72. - 自殺すること、すなわち自分を殺すことは葉、他者を殺すことよりも大きな罪です。墓で地獄の懲罰を受けます。すぐに死ななかった場合なず、。悔悟を行えば、。全ての罪が許されます。墓地での懲罰はうけません。（放棄された礼拝の悔悟が有効となる為には、これらのカダーを行う必要があります。カダーを始めた人は、死ぬまでカダーを行うことをニーヤしたことになります。こ子のニーヤへの対価として、全てのカダーの負債が許されます。同様に、信仰にもたらされた不信心やビドゥアの信条である逸脱も、クフルや逸脱に対し悔悟を行えば、クフルやビドゥアの信条、そしてこれまでの逸脱した行い

をしない、ということをニーヤしたことになります。こ子のニーヤの対価としてこれらの全てが許されます。）

## 覆うべき場所及び、女性たちが身を覆うこと

「**アシアトゥル・ラマ—トゥ**」という本で、婚姻の項の冒頭において次のように語られています。

１．アブー・フライラ（アッラーがお喜びくださいますように）は伝えている。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）のそばに一人の人が来て、「アンサール（マッカに、ヒジュラ以前から住んでいたムスリム）である、ある娘と結婚したいのです」と伝えた。「一度、その娘に会いなさい。**なぜならアンサールである人々の目には何かがある**」と言われた。このハディースは「**ムスリム**」の本で書かれている。結婚する娘を前もって一度見ることはスンナである。

２．アブドゥラー・イブニ・マスード（アッラーがお喜びくださいますように）が伝えている。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は言われた。「**女性は、自分が会った女性の美しさ、良さを夫に説明してはいけない。夫がその女性を見たのと同じになる**」このハディースは「**ブハーリー**」及び「**ムスリム**」に書かれている。

3. アブー・サーイド・フドゥリー（アッラーがお喜びくださいますように）は伝えている。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は言われた。「**男性は男性の、女性は女性の、覆われるべき場所を見てはいけない。**」このように、男性が女性の、女性が男性の覆うべき場所を見ることがハラームであるように、男性が男性の覆うべき場所、女性が女性の覆うべき場所を見ることもハラームである。男性の、男性に対して覆うべき場所は膝とへその間である。女性が女性に対して覆うべき場所も同様である。女性が、他人である男性に対して覆うべき場所は、手や顔以外の全前身である。この為、女性のことをアウラ（覆うべき場所「アウラ」と同じ語）と呼ぶ。ムスリムであれ不信心者であれ、他人である女性の顔を性欲を持って見ること、覆うべき場所については性欲を持っていなくても見ることはハラームである。

4. ジャービル・ビン・アブドゥラー（アッラーがお喜びくださいますように）は伝えている。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は言われた。「**他人である女性の家に入ってはいけない。**」

５．アカバ・ビン・アムル（アッラーがお喜びくださいますように）は伝えている。預言者ムハンマド（アッラーの祝福

と平安がありますように）は言われた。「**他人である女性と、一室で二人きりになってはいけない。女性が夫の兄弟やその息子と二人きりで過ごせば、死ぬまで引きずられる。**すなわち、騒動の原因となる。このことを十分に避ける必要がある。このハディースは「**ブハーリー**」及び「**ムスリム**」で書かれている。

6. アブドゥラー・イブニ・マスード（アッラーがお喜びくださいますように）は伝えている。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は言われた。「**女性の体は、覆うべきものである。**」つまり、覆われることが必要である。（**女性が外に出るとシャイターンが常にそばにいる。**）（つまり、シャイターンは男性を騙し、罪に陥れる為に彼女を罠とする。）

7. ブライダ（アッラーがお喜びくださいますように）は伝えている。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）はアリーに言われた。「**アリーよ。一人の女性を見たなら、顔を背けなさい。再び彼女を見てはいけない。突然目に入ることは罪にはならないが、もう一度見ることは罪になる。**」アブー・ダーウードとダーリミーが伝えている。

８. アリー（アッラーがお喜びくださいますように）は伝えている。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は言われた。「**アリーよ。太ももを見せてはいけない。さらに、死んでいても生きていても、誰の太ももをもの見てはいけない。**」このハディースは、アブー・ダーウードとイブニ・マジャが伝えている。ここから理解されるように、死者の覆うべき場所を見ることは、生きている人のもの門を見るのと同様である。（スポーツ選手や、海で泳ぐ人の覆うべき場所を見ることを十分に避けなければならない。）

9. アブドゥラー・ビン・ウマル（アッラーがお喜びくださいますように）は伝えている。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は言われた。「**覆うべき場所を開いてはいけない。**（つまり、一人でいる時も開いてはいけない。）**なぜなら、あなた方のそばから決して離れない者たちがいる。彼らに対し恥を感じ、彼らに敬意を抱きなさい。**」彼らはハファザと呼ばれる天使であり、人をジンの害から守る。そして性交の際のみ人から離れる。

10. ウンミ・サラマ（アッラーがお喜びくださいますように）は伝えている。「マイムーナ（アッラーがお喜びくださいますように）と一緒に預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）のおそばにいた。イブニ・ウンム・マクトゥム（アッラーがお喜びくださいますように）が許しを求め

、中に入った。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は彼を見て、私たちに、「**カーテンの後ろにいなさい**」と言われた。「彼は盲人ではありませんか？私たちのこ子とは見えないでしょう」と私は言った。「**あなた方も盲人なのですか？彼のこととがを見えなないのですか？**」と彼は言われた。つまり、彼が盲人であれ、あなた方は盲人ではないと言われた。このハディースはイマーム・アフマド、ティルミズィー、アブー・ダーウード（アッラーの慈悲がありますように）が伝えている。このハディースによれば、男性が他人である女性を見ることがハラームであるように、女性が他人である男性を見ることも合法ではない。法学派のイマームたち（アッラーの慈悲がありますように）は、他のハディースについても考慮し、女性が他人である男性の頭、髪を見ないことが困難であり、行うことが難しい命令は、「**アズィーメット**」と呼ぶ。男性の、女性に対する覆うべき場所は膝とへその間である。ここを見ないことは容易である。容易である命令は「**ルフサット**」と呼ばれる。

（このように、預言者の妻たちや教友たちは「アズィーメット」で行動し、「ルフサット」であるものも避けていた。イスラームを内部から崩壊させようとするイギリス人や、**逸脱した人々**が言うような、の、「預言者ムハンマドの時代には女性は覆っていなかった。今、この女性たちはがおばけのように身を覆っているが、当時はなかった。アーイシャは頭を覆わず外に出ていた。現在のこのベールは法学者たちがでっちあげたものだ」といったことばは、醜い中傷である。確かに以前は、覆うことは命じられていなかった。しかしヒジュラ歴三年及び五年において、女性が身を覆うことがは命じられた。ババンザーデ・アフマド・ナーイムは、ベールに関する章句が三回啓示されていることを、「**タジュリード・サリーフ**」の翻訳の118ページで書いている）

11. タビーンの有力者であるバフズ・ビン・ハキムは、父や祖父について語っている。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は言われた。「**覆うべき場所を覆いなさい。妻や女奴隷以外に見せてはいけない。一人でいる時も、アッラーに対し恥を感じなさい。**」このハディースをティルミズィー、アブー・ダーウード、イブニ・マジャ（アッラーがお喜びくださいますように）が伝えている。女奴隷のことを、「右手の財産」と呼ぶ。なぜなら購入するとき、右手で交渉し右手でお金を払うからである。

12. ウマル・ビン・ファールク（アッラーがお喜びくださいますように）は伝えている。預言者ムハンマド（アッラーの

祝福と平安がありますように）は言われた。「**男性が、他人である女性と二人きりで過ごしているときれば、三人目としてシャイターンがいる。**」このハディースはティルミズィーが伝えている。（他人である一人もしくは複数の女性と閉じられた場所で自分たちだけで過ごすことはハラームである。イブニ・アービディーンはイマームについて語る際、次のように述べている。「別の男性がいれば、もしくは結婚の対象とはならない女性もいれば、自分たちだけでとはならない。」）

13. ジャービル・ビン・アブドゥラー（アッラーがお喜びくださいますように）は伝えている。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は言われた。「**夫が遠くにいる女性たちのそばに行言ってはならない。なぜならシャイターンは、血のようにあなた方の血管をうごめいているからである。**」あなたにおいてもそうなのかと尋ねられると、「**私においてもそうである。しかしアッラーは、それに対し私を助けられた。それをムスリムとされた。それは私に降伏した**」と言われた。このハディースはティルミズィー（アッラーの慈悲がありますように）が伝えている。

14. ウンム・サラマ（アッラーがお喜びくださいますように）は語っている。「私は預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）のおそばにいた。私の兄弟のアブドゥラー・ビン・エビ―・ウマイヤの奴隷も部屋にいた。この奴隷はムハンナス（女性に似せた男性）だった。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は彼を見て、その声を聞いて、「**このような人々を家に入れてはいけない**」と言われた。」このハディースは、「**ブハーリー**」や「**ムスリム**」で書かれている。「ムハンナス」とは、性格正確、行動、言葉、姿を女性に似せている男性、及び男性に似せている女性を指す。このような人々は呪われる。彼らについてハディースでは、「**自らを女性に似せる男性及び自らを男性に似せる女性に、アッラーの呪いがありますように**」と言われている。やむを得ない事情なく、男性のような衣装を身に着け、かみそりを使い、男性に固有のことを行う女性、女性のように髪を伸ばし、飾り付ける男性もこのハディースに含まれる。

15. ミスワル・ビン・マフラマー（アッラーがお喜びくださいますように）は語っている。「大きな石を運んでいた。道の途中で服が下に落ちた。上に上げることができずにいた。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）が私をこの状態でご覧になった。「**服を上げなさい、裸で外に出てはいけない**」と言われた。」このハディースは「**ムスリム**」が伝えている。このハディースは、通りやで、海岸で、スポーツ

の場で、男性や女性が肌を見せることを禁じるものである。

16. アブー・ウマーマ（アッラーがお喜びくださいますように）は伝えている。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は言われた。「**一人の少女の美しさを見た人が、すぐにそこから目を逸らせば、アッラーは彼に新しい崇拝行為としての報奨を与えられ、この崇拝行為の心地よさをすぐに感じる。**」このハディースはイマーム・アフマド・ビン・ハンバリー（アッラーの慈悲がありますように）が伝えている。

17. ハサン・バスリー（アッラーの慈悲がありますように）が伝聞として伝えている。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は言われた。「**覆うべき場所を見せ、他者の覆うべき場所を見る人にアッラーの呪いがあるように。**」このハディースはイマーム・バイハキーン（アッラーの慈悲がありますように）の「(シュアーブルイーマン」)という書物で書かれている。

18. アブドゥラー・イブニ・ウマル（アッラーがお喜びくださいますように）は伝えている。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は言われた。「**自分を何かの種族に似せるものは、その仲間となる。**」このハディースは、イマーム・アフマド、及びアブー・ダーウード（アッラーの慈悲がありますように）が伝えている。つまり性質、行い、衣装をイスラームの敵たちに似せる者は、彼らの仲間となる。（流行や、不信仰者の悪い習慣についていく者、ハラームを芸術と呼ぶ者、ハラームを行う者を芸術家、進歩主義者と呼ぶ者は、このハディースから教訓を得るべきである。）

19. アムル・シュアイブは父及び祖父から伝えている。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は言われた。「**アッラーはしもべに与えられた恵みを彼に見出すことを愛される。**」このハディースはティルミズィー(アッラーの慈悲がありますように)が伝えている。このように、アッラーは衣服が新しく、美しく、清潔であることを好まれる。これを、恵みを示す目的で行う者を愛される。うぬぼれからそれを行う者は好まれない。アッラーが与えられた恵みを隠すことは合法ではない。学問の恵みも同様である。

20. ジャービル・ビン・アブドゥラー（アッラーがお喜びくださいますように）は伝えている。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）が私たちのもとに来られた。家には、髪が乱れている人が一人いた。彼を見て、「**この髪をきちんとする為のものは何も見つけられなかったのか**」と言われた。服が汚れている人を見た時も、「**服を洗うものは何**

もないのか」と言われた。

21. タビーンであるアブラフワスは父から伝えている。「預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）のおそばに行った。私の服が古くなっていた。「**あなたにはの財産がないのか**」と言われた。財産は有ります、と私は言った。「**どのような財産があるのか**」と問われた。あらゆる財産がある、と私が答えた。「**アッラーが財産を与えられた時には、。その恵みを被造物の上に見いだされるべきだ**」と言われた。このハディースはイマーム・アフマドとナサーイ（アッラーの慈悲がありますように）が伝えている。」

「**アシアトゥル・ラマートゥ**」の第三巻の翻訳はここまでです。

22. ユスフ・カルダウィーの「**アル・ハラール・ワル・ハラーム・フィル・イスラーム**」の本では次のように語られています。「イスラームの教えは、ムスリムの女性が、中が透けるほど薄い衣装で体を覆うことをハラームとしている。「**ムスリム**」及び「**ムワッタ**」と言う書物におけるハディースでは、「**覆っているのに裸である女性や、頭をラクダのこぶのように高く盛り上げた女性は、天国に入ることができない。その香りすら感じることはできない。しかし天国の香りは、はるか遠くから感じられるものである**」とされている。このハディースは、女性が薄く透き通った服、もしくは肌にぴったりした服、靴下、スカーフで覆うこと、髪を頭の上に盛り上げることを禁じている。このように覆うことは、裸で出歩くのと同様である。ムスリムの女性、少女たちは薄いもので身を覆うべきではなく、髪を（もしくはかつらをつけその毛を）ラクダのこぶのように頭の上でまとめてはいけない。髪を団子状にしてはいけない。これらが地獄へと導く罪であることを知るべきである」

（カルダウィーが宗派に属さない宗教家であることを、200ページで述べました。イスラームの教えは、女性が覆うことがファルドであること、ベールの特性を教えています。この特性を備えたスカーフや、幅が広く丈の長いガウンやマントで覆うことの違いについては言及していません。覆うことファルドであること、ベールや衣装の形状については「預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）が崇拝行為としてではなく、習慣として行われていたスンナ」であることが、法学の本では書かれています。この為、覆いのうち、習慣となっていたものを用いることが必要です。崇拝行為ではない事柄で、習慣に従わないことはマクルーフです。騒動の要因となるなら、ハラームとなります。「**ヒンディーヤ**」では、「分厚く、幅の広い布で覆われた女性を見ることは合法である。薄く、幅

の狭い覆いの女性を見ることは合法ではない。覆われた女性であっても、その顔を性欲を持って見ることはハラームとなる。性欲を持たなくても、不必要に見ることはマクルーフである。ムスリムではない女性を見ることについても同様である。彼女たちの髪を見ることは合法となる」とされています。

厚く、幅が広く、。かかとの骨まで及び腕を手首まで覆う、濃い色のマントで覆うことは、二枚のスカーフで覆うよりもより良いとされます。「**ハラビー・イ・カビール**」では「自由である女性の、耳までの髪は一致した見解で覆うべきものである。耳の下まで伸びた部分も、学者の多くによれば同様である。一部によれば、伸びた部分は礼拝では覆うべき部分とはならない。しかし他人がこれを見ることは合法ではない」とされています。

髪の全てを、厚いベールで覆うべきです。このベールの真ん中から前の部分は額に接しており、眉の方に下がっているべきです。両側は、眉のわきから頬に下り、あごの上でピンでまとめ、胸に垂らします。真ん中から後ろの部分は背中を覆います。扇動の可能性がある場合は、頬も覆います。濃い色の厚い靴下をはきます。女性の伸びた髪の四分の一が、一つの動きの間見えていれば、礼拝は有効になりません。それより短い間見えていた場合はマクルーフとなります。ここで、女性が若いか高齢であるかについてはどの本においても区別はされていません。高齢の女性の挨拶に返事をすること、彼女と二人でいることは合法となるという人々はいても、高齢の女性が髪を見せることや、。その髪を見ることが合法となるという人はいません。ムスリムではない女性の髪を見ることは合法である、と言う人々はいます。しかし高齢であるムスリムの女性の髪を見ることは合法であるという人は決していませんでした。高齢の女性がモスクや墓に行くことが合法であるという人も、髪や頭を覆うことを条件づけているのです。

「部族連合章第59節では、ムスリムの女性は「**ジルバーブ**」で覆うように、とされている。この章句は、異なる二枚のシーツで覆うことを命じている」ということは誤りです。このシーツを巻くことを命令しているとすれば、預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）や教友たちは皆、妻にシーツを使わせていたでしょう。しかし誰も、シーツを使っていたことは本に記されていません。トルコ語の「**ティブヤーン**」と言うタフシール（クルアーンの解釈本）は、これを「頭を覆いなさい」と解釈しています。「**ジャラーライン**」という解釈本では、「女性が顔に伸ばしたスカーフである」としています。サーウィーはこれについて説明を行い、「スカーフ及び

、シャツの上を覆う布である」としています。「**ルフルベヤーン**」及び「**アブッスウード**」の解釈本では、「ジバーブとは、髪が乱れないよう頭に巻くものであり、ヒマールと呼ばれるベールの上を覆うより広く胸まで下り、シャツの襟を覆うスカーフである。この章句では女性の頭と全身を覆うことが命じられている」としています。「**ザワージル**」及び「**アル・フクフ・アラル・マザーヒビル・アルバ**」の本では、男性もジバーブを着用していたことを示すハディースが書かれており、男性にとってはジバーブとは、カミースと呼ばれる長いシャツであることを示しています。広いマントや厚いベールもしくは二枚の布でできたシーツは、この章句における頭を覆うという命令を実行する点で同じです。女性は、住んでいる場所の習慣に適した形で覆い、扇動の理由にならないようにすることが必要です。ヒジャーブの章句の一部は、ザイナブ（アッラーがお喜びくださいますように）の婚姻の日に啓示されたことが、「**ブハーリー**」の第六巻、26ページで書かれています。この婚姻は三年目に行われました。）

ムスリムであるという人は、自分が行う全ての事柄がイスラームに適しているかどうかを知るべきです。知らないのであれば、スンナ派の学者に尋ね、もしくはこういった学者たちの本を読み、学ぶことが必要です。その事柄がイスラームに適していなければ、罪もしくはクフルから救われることはありません。毎日真の悔悟をすることが必要です。悔悟された罪やクフルは必ず許されます。悔悟を行わなければ、現世でも地獄でも懲罰を受けます。この懲罰は書物の様々な場所で書かれています。

男性や女性が礼拝で、そしてあらゆる場所で覆うべきである場所を「**アウラの場所**」と言います。（**覆うべき場所を見せること、他人の覆うべき場所を見ることはハラームです。**）

男性はが礼拝で足を覆うことがはスンナであることは、419ページにで書かれいています。、イスラームには覆うべき場所などないという人は、不信心者になります。覆うべき場所を覆うことは葉、イスラームが命じていることです。覆うべき場所が出ている男性もしくは女性がいる場所、及び楽器、賭博、アルコール飲料、女性の声が聞こえる場所を「**逸脱の場**」と呼びます。逸脱の場に行くことはハラームです。心が清くあることも必要です。心が清いとは、良い徳を身に着けていることです。心はイスラームに従うことで清められます。イスラームに従わない心は清められません。四つの法学派において、覆うべき場所を見せること、他人のそのような場所を見ることをハラールと言う人、重きを置かない人、つまり懲罰を恐れない人は不

信心者となります。女性が覆うべき場所を見せること、男性のそばで歌を歌うこと、マウリードを唱えることも同様です。男性の膝と股間は、ハンバリー派においてのみ、覆うべき場所とされていません。

「私はムスリムだ」と言う人は、信仰やイスラームの条件、四つの法学派の見解の一致により教えられているファルドとハラームを学び、重きを置くことが必要です。知らないことは正当な理由にはなりません。つまり、知らないというのはり、信じないことと同様です。（**女性の顔や手以外の場所は、四つの法学派のいずれにおいても覆うべき場所です。**）見解が一致していない、すなわち別の三つの法学派のうち、いずれかにおいて覆うべき場所とはされていない場所を、重きを置かずに外に出している人は、不信心者とはならないものの、自分の法学派によると大きな罪となります。男性も膝と股間、つまり太ももを見せることについては同様です。知らないことは学ぶことがファルドです。学んだ時にはすぐに悔悟し、覆うことが必要です。

## 信者の特性

信者は信者に対し果たすべきことが七つあります。

招待に応じること、

お見舞いに行くこと、

葬儀に行くこと、

忠告を行うこと、

挨拶をすること、

迫害者から救うこと、

くしゃみをした時に「**アルハムドゥリッラー**」と言えば、「**ヤルハムカッラー**」と返すことです。

信者のうち尊いのは、六つの特性を持つ者です。崇拝行為を行うこと、います。知識を学ぶこと、びます。悪いことを行うこと、いません。ハラームであることを避けることけます、。誰の財産にも目をつけないこと、ません。死を決して忘れませないことですん。

**賞賛：**ハディースでは次のように語られています。「**皆、自分に与えられたものを好む。この愛情は人間の本質に存在する。**」我欲に執着する人は、。我欲の欲求に応じる為にそれを助ける者を好みます。知的で、知識を持つ人であれば、知的な人となる上で助けとなる人を好みます。要するに、良い人は良

いことを好みます。悪い人は悪い人、悪い事柄を好みます。その人が好む人々、。友達を見れば、その人がどういう人であるか理解できます。親友、敵、ムスリムをはじめとして、、不信心者や、ビドゥアを犯す人以外の全てに対し、優しい言葉と笑顔を向けるべきです。人に対して為なされる最も効果的な恵み、最も尊い贈り物は、優しい言葉と笑顔です。牛を崇拝する不信心者がいれば、牛の口に

藁を与え、彼らが敵となることを防ぐべきです。誰とも、喧嘩をしてはいけません。喧嘩は友情を損なわせ、敵意を強めます。誰にも怒ってはいけません。怒ることは神経や心の病気をもたらします。ハディースでは、「**怒ってはいけない**」と言われています。

人は、四つのことを隠せば、人として尊い存在となります。

1. 貧しさを

２．サダカを

３．災いを

４．災難を。

さらに、天国は四種類の人1}を求めます。

１．舌が、ズィクルを行う人であること。

２．ハーフィズであること。

3. 食事を与える人であること。

４．ラマダーン月で断食を行う人であること。

皆、次の七つのことを常に口にするべきです。

あらゆる仕事において「**神聖なビスミッラー**」を唱えること。

仕事が終わると「**アルハムドゥリッラー**」と唱えること。

どこそこに行くと言う時には「**インシャラ—**」ということ。災難について耳にした時には「**インナー　リッラーヒ　ワインナー　イライヒ　ラージウーン**」と言うこと。

過ちを口にした場合には悔悟と懺悔を行うこと。「**ラー　イラーハ　イッラッラ—　ワフダフ　ラー　シャリーカ　ラフ　ラフル　ムルク　ワ　ラフルハムドゥ　ワ　フワ　アラー　クッリ　シャイン　カディル**」を続けること。

「**アシュハド　アン　ラー　イラーハ　イッラッラ—　ワ　アシュハド　アンナ　ムハンマダン　アブドゥフー　ワ　ラス—ルフ**」と何度も唱えること。

この二つとも、朝晩何度も唱えるべきです。

1. 「アスタグフルッラー」

２．「スブハーナッラーヒ　ワルハムドゥリッラーヒ　ワラ―　イラーハ　イッラッラ―フ　アクバル　ワラ―　ハウラワラ―　クッワタ　イッラー　ビッラーヒ　アリーユル　アズィーム」

## 良い徳について

さらに人には、72ほどの良い性質があります。スンナ派の信条、イフラース、イフサーン、謙虚さ、恵みを唱念すること、教訓、清浄、努力、羨望、気前の良さ、利他主義、人間性、騎士道精神、英知、感謝、甘受、忍耐、畏怖、希望、敵であれアッラーゆえに愛すること、仲間をアッラーゆえに愛すること、我慢強さ、称賛、勤勉、細やかさ、意志、宗教的実践、死を念じること、委ねること、服従、知識を求めること、健やかさ、最善、勇敢さ、穏やかさ、優美さ、懺悔、約束に忠実であること、誓いを守ること、　良い徳、騎士道精神、満足、成熟、善を好むこと、思いやり、熱意、恥を知ること、アッラーの命令を遵守すること、親しむこと、熱意、成熟した振舞い、賢明、正しい方向性、礼儀、信心深さ、信頼、誠実、我欲についての反省、内省、怒りを抑えること、崇拝行為を好むこと、悔悟、集中、覚醒、しもべとしての服従、報奨、他者の権利を尊重すること、謙虚さ。

謙虚さと恵みを念ずることとは、全てが崇高なるアッラーの用意されたもの、恵みであることを知り感謝することです。、忠言とは、信仰上の兄弟に忠告を与え、その心から悪い徳を取り除き、良い徳を備えさせることであり、させ、さらに努力とは、教えにおいて努力すること、羨望とは他者の恵みが自分にもあることを望むことです。利他主義、騎士道精神、気前の良さは、宗教上の兄弟の仕事を引き受けること、人間性とは人間としての務めを果たすことです。英知とは物事の道理を知り行動すること、感謝とはその恵みを命じられている場所で用いること、甘受とはアッラーから自らにもたらされた定めを受け入れる甘受すること、忍耐とは災いに耐えることを意味します。

他者の権利を尊重するとは、しもべの権利を配慮することです。しもべの権利のうちで最も重要なものは、母や父の権利

です。優しい言葉、笑顔で彼らを助け、彼らを喜ばせるべく努力することが必要です。その次には、それから隣人の権利、宣誓の権利、夫婦の権利、友達の権利、それから政府の権利となります。誰にも嘘をついてはならず、策略を用いてはいけません。秤測定器具を正しく用い、労働者の賃金は額の汗が乾く前に支払うべきです。借金を返さないこと、バスや類似するものの料金を払わないことは裏切りになります。政府に税金を支払わないことは、何千人もの人の権利を侵害することです。政府が迫害を行った際えば、迫害を受けている側が政府に対立した場合、この対立者を支援することはが合法ではないことが「**バリーカ**」の「騒乱」の項目で、また「**ヒンディーヤ**」及び「**ドゥッル・ウル・ムフタール**」でも書かれています。ハディースでは「**政府を裏切る者を、アッラーも裏切られる**」とされています。つまり、反抗する人を不名誉とされます。この為、サイード・クトゥブ及びマウディディのような宗派に属さない人々が、ムスリムに対し政府への反逆を扇動するような、分裂主義、破壊主義的な文章に騙されてはいけないのです。迫害的な政府者であってもれ政府にはたてつくことはせず、たてついた者への支援もできないのです。イブニ・アービディーン（アッラーの慈悲がありますように）は、絹の衣装を着ることが男性にはハラームであることを伝える際、次のように語っています。「宴や祝祭日に絹の布を敷くこと、金、銀の製品を使わずに並べることは、見せびらかす為ではなく政府の命令に従う為であるなら合法である。しかし、日中に灯明を灯すこと、広告をライトアップするされた広告を行うことは、ものを無駄にすること、不要なところで用いることであり、合法とはならない。政府の命令の為であれば、これらを行い、子どもたちを男女共学の学校に送ることがは合法となる。479ページを見なさい。男女混合であり、覆うべき場所を覆わない人々のいる場所に行くことも合法ではない。」不信心者の法律に従わないことも合法ではないことが、「**イブニ・アービディーン**」の「金曜礼拝」及び「判事」の項で書かれています。しもべに対し返すべき権利を負っている人の崇拝行為は認められないこと、天国に入れないことも示されています。不信心者の権利から救われることは、ムスリムの権利から救われることよりもなお難しいとされています。皆に対し、良く振舞うことが必要です。悪事を働く人に、悪事で応えてはいけないのです。真のムスリムとは、アッラーの命令に、政府の法律に従います。）

成熟した人々の説話は貴重なものです。
説話に出会うことができた人はそれを失いません。
見つける為にあらゆる場所に行くべきです。
宝石商こそが宝石を理解します。
流れる水のそばにふたのされたつぼを置けば、
40年間そこにあったとしても水は汲めません。
説話は心を清めます。皆彼を妬みます。
人を博識にするものは冠やマントではありません。
まずは信仰し、ハラームから手を引かなければならなりません。
魂がその糧を知らなければなりません。アーモンドのお菓子ではないのです。

## 教友たちの優れた徳について

全ての教友の中で、預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）の四人の後継者（アッラーがお喜びくださいますように）は他の人々よりも優れています。彼ら全ての在位期間は30年になります。（教友の全て（アッラーがお喜びくださいますように）は天国に行くことが示されています。誰についてであれ、否定的なことを口にすることは許されません。）

さらに、聖人たちの奇跡は真実であり、正しいことです。

聖人たち全ての中で最も徳があるのは、アブー・バクル・スッドゥーク（アッラーがお喜びくださいますように）です。（アッラーがお喜びくださいますように）彼がカリフ（後継者）であることは真実です。彼が第一のカリフであることはウンマの一致した見解により確定しています。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）の義父に当たります。娘のアーイシャ（アッラーがお喜びくださいますように）を、預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）と結婚させたのでした。彼は学問にたけており、全ての財産を真実の道の為に費やしました。彼の死の後には何一つ残ってはいませんでした。彼は腰にヤシの繊維の覆いをつけていました。ジブラーイール（彼に平安がありますように）が彼のようなものを着て、預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）のもとに来ました。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は彼をその状態で見て、「**わが兄弟、ジブラーイールよ。私はこのような姿であなたを見**

**たことがなかった。どういうことだ**」と言われました。ジブラーイールは、「アッラーの使徒よ、あなたは今私をこの状態でご覧になりました。全ての天使が、このような状態です。その理由は、崇高なるアッラーが呼び掛けられ、「**わがしもべ、アブー・バクルは全ての財産を私の満足の為に、私の道において費やした。今、ナツメヤシの繊維の覆いを身に着けた。わが天使たちよ、あなた方も彼のように着なさい**」と命じられたためですました。天使たちは今、皆、この状態です」と言いました。

そしてその為に、彼自身が「誠実な人」と呼ばれていました。

彼に次いで徳のある聖人はウマル（アッラーがお喜びくださいますように）です。カリフ（後継者）であることは、ウンマの一致した見解により確定されています。イスラームの知識にたけていました。ある時、預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）に、偽信者とユダヤ教徒が裁判の為に来ました。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）がは裁判をされました聞かれました。ユダヤ教徒側が勝訴となりました。偽信者はそれに満足しなかった為、その時彼らに、「**人々よ！ウマルの元へに行き、あなた方をの裁いてもらいなさいきを見せなさい**」と言われました。彼らはウマル（アッラーがお喜びくださいますように）のもとに行きました。「どうしてきたのですか？」と尋ねられ、偽信者は「このユダヤ教徒との間で裁判がある」と言いました。ウマル（アッラーがお喜びくださいますように）は、「イスラームの持ち主がおられるのになぜ私が裁くのですか」と言いました。偽信者は「私たちは預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）の元へに行きました。裁きはユダヤ教徒の勝ちとなりました。私は認めませんでした。」と言いました。ウマル（アッラーがお喜びくださいますように）は彼らに、「待っていなさい。私が決着をつけましょう」と言い、中に入りました。しばらくして、衣服の下に剣を入れて彼らのそばに来ました。そして剣を抜くと同時に、偽信者の首をはねました。それから「預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）の裁きに満足しないものは、こうなる」と言われました。この為に、彼をウマル・ファールーク（正と邪を識別する者）（アッラーがお喜びくださいますように）と呼ぶのです。

預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますよう

に）は、「**正と邪を識別するのは、ウマルである**」と言われました。

ウマルに次いで尊い聖人は、オスマーン・ズィンヌーライン（アッラーがお喜びくださいますように）です。彼がカリフ（後継者）であることは真実であり、正しいことです。ウンマの一致した見解で確定しています。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は彼に、続けて二人の娘を嫁がせておられます。二人目の娘が亡くなった時、「**もう一人娘がいたら、彼に嫁がせた**」と言われていました。

二人目の娘を嫁がせる際、預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は、オスマーン（アッラーがお喜びくださいますように）を称賛されていました。結婚した後で娘は、「私の目の光である父よ、あなたはオスマーンを非常に称賛されていましたが、。あなたが言われたほどではありませんでした」と言いました。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は娘に、「**娘よ、オスマーンに対しては天空の天使たちが恥じ入るのだ**」と言われました。

預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は彼に二人の娘を嫁がせられたため、オスマーン・ズィンヌーラインと呼ばれます。ズィンヌーラインとは、二つの光の持ち主という意味です。マーリファ（アッラーに対する知識）にたけていました。

彼に次いで尊い聖人は、アリー（アッラーがお喜びくださいますように）です。彼がカリフ（後継者）であることは、ウンマの見解の一致により確定しています。彼は預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）の婿に当たります。娘のファーティマ（アッラーがお喜びくださいますように）を彼と結婚させられています。宗派に関する知識にたけていました。一人の奴隷がいて、ある時この奴隷が主人を試そうとしました。アリー（アッラーがお喜びくださいますように）は外にいました。奴隷のそばに来て、奉仕を命じました。奴隷は沈黙しました。それからアリー（アッラーがお喜びくださいますように）は奴隷に、「私はあなたに何をしたのか。なぜ様子が悪くなったのか。私の何に傷ついたのか」と言いました。奴隷は「何もされていません、私はあなたの奴隷です。あなたを試したかったのです。あなたは真の聖人です」と言いました。（教友の全てを愛する人、その道を行く人を**スンナ派**と言います。一部を愛するが多くは愛さないとする人を**シーア派**と呼び

ます。教友の全てと敵対する人を「**拒否者**」と呼びます。教友の全てを愛すると言いながらもいくつかの事柄で誰にも従わない人を「**ワッハーブ派**」と呼びます。この信条に従わない人は、スンナ派のムスリムを不信心者と呼びます。（この言葉で自らが不信心者となるのです。）

ワッハーブ派の思想は、1150年（西暦1737年）にアラビア半島で、イギリス人によって生み出されました。イギリス人たちはその計画を広める為、多くのムスリムの血を流しました。現在、各国で「**イスラーム世界協会**」と言うセンターを作り、無数の金をばらまき、無知な宗教家たちを買収して狩っています。彼らを通してムスリムを惑わせているのです。1400年もイスラームを守ってきたスンナ派の学者たちや、彼らを保護してきたオスマーン朝を否定しているのです。この学者たちが明白に示してきた正しい事実を誤りであると言います。

ワッハーブ派の一部は、「私たちもスンナ派である。ハンバリー派である」と言っています。この言葉は、ムウタズィラの逸脱者たちが「私たちもスンナ派である。ハナフィー派である」と言っていたことに似ています。スンナ派でない人が地獄に行くことを知っている為、このように言っているのです。しかし、こういた仕事において法学派に適しているということは、その法学派に属することを意味しません。一つの法学派に従う為には、信条も行動もその法学派に適していることが必要です。四つの法学派の信条は互いに同じです。四つともスンナ派の信条に従います。誰かがハナフィー派もしくはハンバリー派でいるためには、まずスンナ派であることが必要なのです。ワッハーブ派はスンナ派の信条を持ちません。）

## 食事について

食事の前に、スンナであることを考えて手を洗うことに十の効果褒賞があります。

誰かが、食事の為に手を洗った際、濡れた指先を目のふちにおき、後ろに向かって引けば、その人はアッラーの許しにより目の痛みを感じないでしょう。

十の効果褒賞：

1. アッラーの位階において一人の天使が呼び掛けます。あなたの手を清めたように、あなたの小さな罪が清められた、と

言います。

2. ナーフィラの礼拝を行ったような報奨を得ます。

3. 貧困から守られます。

4. 誠実な人々としての報奨を得ます。

5. 天使たちが彼の為に懺悔を行います。

6. 一口ごとの見返りに、それをサダカしたような報奨を得ます。

7. 「ビスミッラー」を唱えて食べることで、罪から清められます。

8. 食事の後に行うドゥアドゥアーが受け入れられます。

9. その夜に、死んだ場合ねば、殉教者の位階に到達します。

10. 日中に死ねば、殉死者の集団に記録されます。

まず手を洗うこと、そして拭き取らないことがスンナです。

食後、スンナを実行するというニーヤしてで

手を洗うことには、六つの効果褒賞があります。

１．アッラーの位階において天使が呼び掛け、「信者よ！預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）があなたに満足されました」と言います。

2. この恵みに特有の善行に至ることができます。

3. 体の毛の数だけ、善行となります。

4. 慈悲の海から慈悲を得ることができます。

5. 手に流れる血管の数だけ、善行となります。

6. 死んだ時には殉教者となります。

（アッラーのご命令には二種類あります。タクウィーンの命令と、テクリーフの命令、もしくはテシュリーの命令です。

タクウィーンの命令とは、創造を望む事柄に「在れ」と言われることです。「在れ」と言われれば、すぐにそれが存在します。誰もそれが存在することを妨げることはできません。全ての創造において、一定の物事をその要因とされました。一定の物質を、一定の物質の創造の要因とされたように、人の肉体的、精神的な力、様々なエネルギーも、多くのものの創造の要因です。一人のしもべに何かを恵むこと、良いものを与えることを望まれれば、その人をその要因に至らせます。その要因が

影響を及ぼした時、アッラーも望まれた上でれば、「在れ」と言われれば、それは存在するのです。アッラーが望まれなければ、何も存在はしません。英知を、創造の要因によって覆われ、隠されました。多くの人が要因のみを見て、要因の背後の英知、アッラーの創造を理解できません。この無理解が、その人間彼の破滅の要因となります。

テクリーフの命令とは、人に対し、行う為、もしくは避ける為に与えられる命令です。この命令の実行は、人の意志、望みにかかっています。人の意志、望みに任されているのです。しかし人が望んだものを創造されるのはやはりアッラーです。人が望んだ後、アッラーも望まれたなら、創造されます。望まれなければ創造されません。全てを創造され、物質に様々な影響や特性を与えられるのはただアッラーです。アッラー以外に創造主はいません。アッラー以外に神性という特性が存在すると信じることは、他者をアッラーと同等と見なすこと、並べることになります。他者をアッラーと同等に配する人は、最後の審判で決して許されず、彼には無限の、非常に厳しい懲罰が与えられることが示されています。

人がはアッラーの命令されたことを行うことや、良いことを行うことを願ったときうと、アッラーも慈悲をかけられ、それを願われ、創造されます。アッラーご自身を信頼しない者が悪いことを行うことを求めれば、アッラーもそれを望まれ、創造されます。アッラーご自身を信頼し、懇願する人が悪いことを行うことを望めば、アッラーは慈悲をかけられ、それを望まれず、創造されません。この為、敵の望むことは全て実現する為、より多くの懲罰を受けます。

アッラーのテクリーフの命令は、その重要性により段階に分けられています。

１．全ての人々に、信仰すること、ムスリムとなることを命じられました。

2. 信仰した人に、ハラームであることを行わないこと、悪いことをしないことを命じられました。

3. 信仰する人々に、ファルドを行うことを命じられました。

４．ハラームを避け、ファルドを行うムスリムに、マクルーフを避けること、スンナとナーフィラの崇拝行為を行うことを命じられました。

上記の順番により、先にある命令に従わず、それ以降にある命令に従うことは認められず、好まれません。効果褒賞がありません。例えば、信仰がない人が悪いことを避けることや、もしくは悪いこと、ハラームであることを避けない人がファルドを行うことや、もしくはファルドを行わない人がスンナやナーフィラの崇拝行為を行うことを、アッラーは好まれず、認められません。この為、礼拝をせず、。ザカートを支払わず、両親や配偶者、子供の権利を尊重しないムスリムのサダカ、善行、施し、モスクを建設させること、経済的支援、食事の前後に手を洗うこと、ウムラにニ行くことは好まれず、認められません。このように人は皆、先述の順序に応じてテクリーフの命令を行うことが必要です。同時に、順列の前にあるものを行わない人が、後ろの方にあるものを行い、これを行うことがファルドの放棄やハラームの実行の要因となっていなければ、善行を得ることはなくても、それを行うことを放棄してはいけません。これを常に行うことの恵みにより、アッラーは慈悲をかけられ、前の方にある命令を行わせてくださる希望があることが、「**ルーフ・ウル・ベヤーン**」の第六巻感の最後で書かれていいます。）

さらに、食事のファルドも四つあります。

1. 食べた際に満腹すること、飲んだ際に渇きが癒されることを、崇高なるアッラーのおかげであると知ること。

2. ハラールであるものを食べること。

3. その食事から力が得られるまで、アッラーにしもべとしての奉仕を行うこと。

4. 手に入ったものに満足することです。

食事を始める際、アッラーに崇拝行為を行う為、アッラーのしもべたちに役に立つことを行う為、アッラーの教えを、永遠の幸福と安らぎの道を全ての人に広めるために力を得ることをニーヤすべきです。頭をヲ覆わずに食べることは合法です。

**さらに、食事におけるムスタハブは次の通りです。**食卓を床に置くこと、清潔な服で食卓につくこと、膝を折って食べること、食事の前に手と口を洗うこと、食事を始める際に「ビスミッラー」と唱えること、まず塩を味見すること、大麦のパンを食べること、パンを手でちぎること、パンくずを無駄にしないこと、前にあるものを食べること、酢を食べること、一口を小さくすること、食べ物を十分にかむこと、三本の指で食べ

ること、三回指をなめること、食事の後で感謝すること、つまようじを用いること。

**さらに、食事の際のマクルーフは次の通りです。**左手で食べること、食べものの匂いをかぐこと、ビスミッラーと言わないこと。（食事中にも、思い出すたびにビスミッラーと唱えるべきです。）

**食事の際のハラームは次の通りです。**満腹したのに食べ続けること（客がいれば、彼の食事を妨げないよう、食べているかのように振舞う必要があります）、食事を無駄にすること、一部の人によれば、他者の財産を不正に奪う際に「ビスミッラー」ということ、食事に呼ばれもしないのに行くこと、他者の財産を許可なく取ること、体に害のあるものを食べること、偽善により用意された食事をとること、願掛けをしたものを食べること。

**熱いものを食べることには次の害があります。**耳が聞こえなくなる要因となります。顔色が悪くなります。目の輝きがなくなります。歯が黄色くなります。味を感じにくくなります。満腹しなくなります。理解力が乏しくなります。知性が乏しくなります。体に疾患を抱えやすくなります。

さらに、控えめに食事をとることの効用は以下の通りです。体が力を持ちます。心が光を帯びます。記憶力が強くなります。生計の維持が容易になります。仕事に心地よさを見出します。崇高なるアッラーを多く祈念したことになります。来世について熟考します。（崇拝行為の真摯さの味わいが増します。あらゆることにおいて確信や導きがあります。裁きが容易となります。）

**ムスリムである、と言う人には、**<br>**日に五回の礼拝が必要です。**<br>**将来、審判の日に天国の衣装、冠、**<br>**天国での乗り物となるのです。**

## 結婚について

さらに、結婚にも多くの効用があります。

まず、教えを守った保護したことになります。性格が良くなります。稼ぐことがげば、恵みとなります。さらに、スンナに従って行動したことになります。事実、預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は言われています。**「結婚しなさい。子供たちを増やすようにしなさい。なぜなら私は審判の日、ウンマの多さによって他のウンマに対し誉れを得るからである。」**

また、夫婦は互いに対する権利を尊重する必要があります。

さらに誰かが結婚する時にはきちんと、調べて、誠実で、すなわち教えをよく知り、マフラム（結婚の対象とはならない間柄の人）ではない女性を見つけるべきです。姦通によって妊娠した女性と婚姻することは合法です。姦淫を行ったのが他者であれば、子どもが生まれるまで、は性交は合法ではありません。

また女性を、財産やその美しさで選んではいけません。なぜならそれらは後に失われるからです。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は言われました。**「誰かが、財産や美しさゆえに女性と結婚すれば、その財産や美しさを失うことになる。」**

また誰かが、その教えや道徳ゆえに相手と結婚すれば、アッラーはその財産と美しさを増してくださるのです。

女性は男性より、四つのことで下であることが必要です。年齢、身長、穏やかさ、そして親戚です。四つのことにおいては、女性が男性より上であることが必要です。美しいこと、徳を備えていること、性質が良いこと、ハラームや疑わしいものを避けること、髪、頭、腕、足が見える状態で他人である男性に合わないことです。

若い少女を、年配の人と結婚させるべきではありません。離婚の要因になります。

さらに、婚姻について約束をする前に、義父母となる相手の家族について、及び結婚する若者について十分調べることはスンナであり、また二人の仲が継続する要因となります。これ

には三つの効果褒賞があることが述べられています。一つ目は、二人の間で死ぬまで愛情が失われません。二つ目は、糧が豊かになります。三つ目は、スンナに従って行動したことになります。それから、まず役所で婚姻手続きをします。スンナに適したニカーフ（婚姻）を行わないことは大きな罪となります。婚姻手続きを行わないことも罪となります。

　スンナに適したニカーフの後、男性から女性に、美しく価値のある者が送られます。これは愛情の要因となります。夫の前では妻のあらゆる装飾の適切な使用がは合法となり、さらには善行ともなります。

　婚姻の日には食事を振舞うことがスンナです。（日没の礼拝の後で食事をします。夜半の礼拝を行うと、婿を女性の家に連れて行き、ドゥアーした後ですぐに解散します。）

　婚姻の夜には新郎が新婦神父の足を洗い浅い、その水を家の四隅に撒く巻くことがスンナです。二ラカートのナーフィラの礼拝を行い、ドゥアーします。その夜はどのようなドゥアを行っても、それが認められます。婿を見た人は彼にそのことを思い起こさせるべきです。そして「**バーラカッラーフ　ラクワ　バーラカッラーフ　アライハ　ワ　ジャマ―　バイナクマー　ビルハイリ**」と言います。つまり、アッラーがあなたに祝福を、妻にも祝福植福を、そして二人の間を良い形で結び付けてくださいますように、という意味です。

　一部の人々がやるように、「仲良くしてください、息子ができますように」と言うのは、無知な者の呼び掛けであり、その価値はありません。その時には無垢なドゥアーを行うことがスンナです。必要な、教えの命令を知り、妻にも教えます。なぜなら来世でそのことが問われるからです。知らなかったということは正当な理由にはなりません。（ファルドとハラーム、スンナ派の信仰を学ぶことや、妻や子供たちに教えることはファルドとなっていますです。スンナを学ぶこと、教えることもスンナです。）

　妻をイスラームが通用しないところに連れて行ったり、送ったりしません。スカーフをつけずに外に出させません。なぜなら預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は、「**女性が良い香りをつけて、礼拝の為にモスクに来た場合れば、その女性の礼拝は承認されない。家に戻り、グスルが必要な際にグスルを行う時のようにグスルを行う時までは**」と言われています。彼らが芳香を身にまとってモスクに行くことが合法ではないのであれば、他の場所に行き、人々に姿を見

せることの罪はどれほどのものになるでしょうか？そこから類推するべきです。そして受ける罰を考えてみてください。

　さらに預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）はあるハディースで言われています。「**天国の住民の多くは貧者であり、地獄の住民の多くは女性である。**」

　このことについてアーイシャが、「女性の多くが地獄にいることの理由は何ですか」と尋ねました。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は、「**彼女たちはが災いに忍耐できない。誰かが十の良い行いをしていても、一度悪い行いを見るとその十の良い行いのことをすぐに忘れ、一回の悪い行いのことを常に話す。現世での飾りを過度に愛し、来世の為に努力しない。そして陰口をたたく**」と答えられました。

　男性であれ女性であれ、この特性を持っているなら、地獄に行くことになります。

　また、アリー（アッラーがお喜びくださいますように）が伝えているように、ある日預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）のそばにある女性が来て、「一人の男性と出会いたいです。どうすればいいでしょうか」と言いました。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は答えられ、「**男性の権利は女性に対して多くある。それに耐えられるか**」と言われました。女性が「アッラーの使徒よ、女性に対する男性の権利とは何ですか」と尋ねました。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は、「**あなたが彼を傷つければ、アッラーに対立したことになり、礼拝が認められない**」と言われました。女性は、他にもあるかと尋ねました。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は、「**どの女性であれ、夫の許可なく外に出れば、一歩ごとに罪が記録される**」と言われました。女性は他にもあるかと尋ねました。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は「**夫にひどいことをすれば、審判の日に舌が根こそぎ抜かれる**」と言われました。女性は他にもあるかと尋ねました。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は「**どの女性であれ、財産があっても、男性の希望に答えなければ、来世で顔が暗くなる**」と言われました。女性は、他にもあるかと尋ねました。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は「**どの女性であれ、男性の財産を取り、他者に与えた場合ればば、そして夫とそのことで和解しなければ、崇高なるアッラーはその女性のザカ**

ートやサダカを認められない」と言われました。女性は、他にもあるかと尋ねました。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は、「どの女性であれ夫に反抗し、もしくはたてつけば、地獄に行くきます。どの女性であれ、楽器の演奏を聴きに行けば、そしてお金を払えば、小さな時から得てきた善行が失われる。さらに彼女が来ている服も、「神聖な日々に私たちを着なかった、夫の前で着なかった、ハラームな場所で着ていた」と彼女を訴えるだろう。、神聖な日々に私たちを着なかった、夫の前で着なかった、ハラームな場所で着ていた、と言う。アッラーはこのような女性は千年焼かれると言われた」と言われました。（映画、ラジオ、テレビの悪しき面がここからも理解されます。）その女性は、この答えを聞いて、女性は、「今までここまで男性に出会えなかった、今後も出会いません」と言いました。

預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は言われました。「女性よ、男性と出会うことの報奨についても教えよう、よく聞きなさい。どの女性であれ、夫が彼女に、アッラーがあなたにご満悦くださいますようにと言えば、60年のイバーダだけの価値がある。また夫に飲む為の水を与えれば、一年間断食をしただけの徳となる。夫のベッドから起き上がった時にグスルを行えば、犠牲の動物を捧げただけの善行に至る。夫について計略を行わなければ、天で天使たちが彼女の為にタスビーフを行う。夫の糧を守れば、また夫の親戚に慈悲をかければ、そして日に五回の礼拝をし、断食をすれば、千回カーバ神殿に行くことよりも徳がある。」ファトゥマ・イ・ザフラ（アッラーがお喜びくださいますように）は、妻が夫を傷つければ、その状態はどうなることか、と言われた時、「妻が夫に反抗すれば、アッラーの呪いが彼女に残る。夫と和解するまでは救われない。また夫のベッドから逃げれば、善行が全て消え去る。夫に対して尊大な態度を取れば、アッラーは彼女に立腹される。あなたは私の主人監督か、と言ったりえば、そしてあなたのことを色々知っている、などと言ったりすれえば、アッラーは彼女に恵みをハラームとされる。夫の血を舌でなめても、その権利を与えたことにはならない。さらに、夫の許可を得て、体を覆わずに外に出たなら、夫の行動が示された帳面に千の罪が記される。許可を与えたためである」と言われました。許可なく出る女性の状態がどうなるか、ここから類推してください。

預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は言われました。「ファーテトィゥマよ。アッラーが、誰

**かが誰かにサジュダすることを命じられたとすれば、私は妻が夫にサジュダすることを命じていただろう**」と言われました。アーイシャ（アッラーがお喜びくださいますように）は、「私は預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）に、私に遺言をしてくださいと言いました。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は、「**アーイシャよ、私はあなたに遺言を遺そう。あなたもウンマの女性たちに遺言を遺しなさい。将来、審判の日には、まず信仰、二つ目はウドゥーや礼拝、三つ目は夫についての、質問をがされる。どの男でも妻の悪事に忍耐すれば、アッラーは彼に預言者アイユーブの報奨を与えられる。女性も、夫の悪事に忍耐すれば、アーイシャ・スッドゥーカの位階に到達する**」と言われました。

さらに、「**男性が妻を殴れば、審判の日私は彼を訴える**」と言われました。

人は、三つの場所で妻を手のひらもしくは結び目のない布で殴ることが合法となります。礼拝やグスルを放棄した時、ベッドに来なかった時、そして許可なく外に出た時です。棒、や握りこぶしやで、結び目のある布で殴ること、頭や胴体を殴ることは、どんな時も合法ではありません。それ以外の悪い行いでは、決して殴ることはできません。注意をすることが必要です。もし改善されなければ話放すことが必要です。罰を与えない為にです。（「**シラートゥ・ウル・イスラーム**」）では次のように書かれています。「妻が良くないことをすれば、その原因を自らの中で探すことが必要である。私が良い人なら、彼女はこうはならなかった、と考えるべきである。誠実である妻がいるのに再び結婚をするべきではない。生計を平等に分配して建てることのできない人が、二人目の妻を得ることは合法ではない。公平にできることが明らかである人が得ることは合法ではあるが、得ないことが徳である。合法である場所に行く時には、スカーフで頭を覆うこと、体を十分に覆うことが必要である。女性が香水をつけ、その美を見せながら外に出ることはハラームである。誠実な女性は、現世の恵みの中で最も尊いものである。ムスリムに慈悲を示すこと、悲しませないことは、ナーフィラの崇拝行為よりもなお、善行となる。」

「**リヤードゥ・ウン・ナーシヒーン**」では次のように語られています。「婦人章第18節では、「**妻たちに、良い形で優しく振舞いなさい**」とされている。ハディースでは、「**アブー・バクルよ、妻に笑いかけ、優しく話す者には、奴隷を解放しただけの善行が与えられる**」、また、「**罪人である男性と結婚し**

た女性には、アッラーは慈悲をかけられない」、さらに、「審判の日の仲裁を得ることを求める者は、娘を罪人と結婚させてはいけない」、及び、「人々のうち最も良い者は、人々に善を施すものである。人々のうち最も悪い者は、人々に害を与える（彼らを傷つける）ものである」、さらに、「一人のムスリムを正当な理由なく傷つけることは、カーバを70回破壊するよりもなお大きい罪である」とされている。」

「**ドゥッル・ウル・ムフタル**」では次のように語られています。「ムスリムの男性は、有効である婚姻で結婚した女性のナファカを確保することがファルドである。**ナファカ**とは、食べもの、着るもの、そして住む場所である。妻を、自分が所有する家もしくは借りている賃貸している家に住まわせることが必要である。妻は家に、男性の親戚が誰もいないことを求めることができる。夫も、妻の親戚が誰も家にいないことを求めることができる。二人ともこの権利を持っている。家が、有効なムスリムの隣人たちの中にあること（ムアッズィン自身の声を家で聞くことができること）が必要である。週に一度、両親に会いに行くことを妨げることはできない。彼らが週に一度、自分たちの娘に会いに来ることも良い。二人のうち一人が病気になれば、そして世話をする人がいなければ、夫が不満に思うが満足しなかったとしても、妻が行って世話をすることが必要である。その他のマフラムである親戚たちが年に一度来ること、もしくは妻が彼らの元へに行くことを妨げることはできない。これら以外の人のところ、及び罪となる場所に行くことを許せば、二人とも罪を犯したことになる。家で、もしくは外で、他者の為に有償でもしくは善行として仕事をすること、学校や説話に行くことは妨げる。女性が家で、家事を行うこと、無為に過ごさないことが必要である。覆うべき場所を覆っていない人々がいる浴場、海岸、スポーツ選手のゲームを見に行かせることはしない。これらを見せるテレビは家に置かない入れない。飾り立て、新しい服を着て外に出ることはしない。」妻を、マフラムである、すなわち結婚することがハラームとなる人の他に、ハラームを避けているムスリムの家に自ら連れていくことはできますが、男女はが分かれて座る必要があります。女性にとってのの、**マフラム**である親戚とは18種類の男性であり、次の通りとなります。父、祖父たち、息子、孫、異父弟もしくは異母弟であったとしても兄弟、兄弟姉妹の息子たち、叔父、伯父。であり、この七種類の男性は、授乳を要因としていても、姦通を要因としていても、マフラムの親戚となります。四種類の男性は、婚姻によってマフラムの親戚となります。義父、義

父の父、婿、義理の父、義理の息子です。一人の男性にとっては、子供たちの嫁、そして一人の女性にとって子供たちの婿がはマフラムとなります。マフラムとは、結婚することがハラームであるという意味になります。例えば、妹はマフラムです。兄弟の子供たちもマフラムです。兄弟の配偶者、叔父、伯父、叔母、伯母の子供たち、その配偶者はマフラムではありません。叔母の子供たちと配偶者はマフラムではありません。配偶者の兄弟たちはマフラムではありません。姉妹や伯母の夫、義兄弟がマフラムではないこと、他人であることは、「**イスラームの恵み**」の巡礼の章で書かれています。妻はこの二人には、頭を覆わずに姿を見せること、顔以外の場所が覆われていたとしても、二人だけで部屋にいること、一緒に旅に行くことはハラームです。婿に対しては義父母の母たちもマフラムです。女性は、マフラムである親戚とは結婚できません。そばで、スカーフで頭を覆わないことも合法となります。部屋で二人きりでいることもできます。一緒に旅に行くこともできます。マフラムではない親戚が家に来た時、夫もしくは親戚の女性のそばで、顔以外の場所を覆い、「ようこそ」と挨拶します。コーヒーやお茶などを運びます。しかしそばに座ることはしません。ムスリムは、風習や伝統ではなく、イスラームに、イルミハールの書物に従うことが必要です。ムスリムは皆、妻にイルミハールを教えることが必要です。自分が知らなければ、誠実な女性の教師のもとに送るべきです。イスラームに従い、ハラームを避ける女性を見つけることができなければ、スンナ派の学者たち（アッラーの慈悲がありますように）が書いた正しいイルいるミハールの本を一緒に読み、二人で教え合い教え、信仰、ハラーム、ファルドを良く学ぶべきです。宗派を持たない宗教者や逸脱者が書いた誤ったタフシール本や宗教書を家に持ち込んではいけません。これらは悪い友よりもさらに悪いものとなります。妻や子供たちの宗教、道徳を損なわせます。妻や娘たちは家事を行うべきであり、畑、工場、銀行、商店、役場などで働かせるべきではありません。女性や娘がお金を稼ぐこと、父や夫の作業、貿易を助けることは必要ではありません。これらを行い、家に必要なものを市場で買って持って帰るのは男性の務めです。女性がこれらを行うよう強制されれば、宗教、道徳、健康が損なわれます。双方の現世も来世も損なわれます。後で後悔しても間に合わないのです。罪や災いから救われることはありません。イスラームに従う人は、現世でも来世でも快適に過ごすことができます。悪い友達、偽信者の笑顔、優しい言葉に騙されてはいけません。イルミハールの本に位従うことが必

要です。女性たちや子供たちをハラームから守ることも必要です。息子たちを、ムスリムの教師がいる学校に送るべきです。女性が、店舗や工場、役場等で男性と一緒に働く必要はありません。夫がいない場合ければ、もしくは病気である場合れば、女性が必要なものは全てマフラムである親戚が確保することが必要です。この親戚たちも貧しければ、国家の年金を受けるべきです。アッラーはイスラームの女性に必要なもののニーズをその足元に送られます。生計の苦労は男性に与えられているものです。働いてお金を稼ぐ必要性はないものの、遺産として男性の取り分の半分は女性に与えられます。女性の務めは家の中の仕事を行うことです。この仕事の最たるものは、子どもをしつけることです。子供たちの最初の先生は、母親です。母親から宗教、道徳について学んだ子供は、無宗教の教師、悪い友達、イスラームの敵である棄教者の嘘に騙されません。母親、父親のように純粋なムスリムとなります。「**完全イルミハール 永遠の幸福**」の84ページ及びそれに続く項目、及び579ページを見てください。イスラームに敵対する偽信者をズンドゥクと呼びます。

## 葬儀について遺体を白布で包むこと、埋葬することについて

さらに、葬儀の礼拝、埋葬、遺体の洗浄、白布で包むことは全てキファーヤのファルドです。

死者を洗浄する為には、人気のいない場所に置かれた大理石もしくは板でできた台の上に、仰向けに寝かせます。シャツを脱がせます。ウドゥーを行わせます。頭からへそまで、温水で洗います。それからへそと膝の間を覆いながら洗います。洗う人は右手に手袋をします。この手を覆いの下に差し入れ、水を流しながら洗います。覆いの下を見ることはしません。それから左側に向け、左側を、。その後右側に向け、右側を手袋をした手で洗います。三枚の白布のうち一枚を、台の上、遺体の下に敷きます。この敷いたものは、遺体と共に棺桶に入れられます。

白布には三種類あります。ファルドの白布（これを、必須の白布とも呼びます）、スンナの白布、キファーヤの白布です。

スンナの白布は男性には三枚、女性には五枚です。キファーヤの白布は男性に二枚、。女性に三枚です。

「**バフル**」では次のように書かれています。「女性のキファーヤの白布は、イザール、。リファーファ、スカーフである。なぜなら女性は生前、この三つで覆われているからである」とされています。イザールとは当時、肩から足まで体に巻き付けていた布です。リファーファとは長いシャツであることが、イブニ・アービディーンで書かれています。このように、ムスリムの女性はまず幅の広いマントとスカーフで外出していました。「**バフル**」及び「**ドゥッル・ウル・ムンタカー**」では、「夫が妻に与えることがワージブである生活費は、食事、衣装、家である。衣装とは、スカーフとミルハーファである」としています。ミルハーファとは、外に着る覆いのことです。（これは現在では外套、マント、コート等と呼ばれます。このように、女性の衣服は三つのパーツからとなります。この中にはシーツはありません。シーツで覆うことは後に風習となったものです。シーツが風習である場所ではシーツで、マントが習慣である場所では幅広のマントと厚手のスカーフで覆うことが合法となります。風習、習慣から外れることは集団から離れることとなります。騒乱の要因となります。騒乱の要因となることはハラームです。）

ファルドの白布は、男性にも女性にも一枚です。

白布の布を見つけられず、絹の布だけが手に入った場合、男性に一重、女性に二重のキファーヤとします。

さらに葬儀の礼拝を先導するにふさわしいのは、まず、。ムスリムであれば国家の長朝、次いで町の支配者、それから金曜礼拝を先導するイマーム、そしてイマーム・ハーイとなります。

イマーム・ハーイと呼ばれる人は、亡くなった人が生前、彼のことをよく思っていた、博識なムスリムです。それに次いで、死者の庇護者です。庇護者が来ないうちに、ここで言及された以外の人が礼拝を先導していれば、庇護者がはそれをするかしないかは任意となります。望むなら行い、また行いません。（この解釈は「**永遠の幸福**」というイルミハールの本に書かれています。）

さらに、誰かの遺体が真ん中から切断され、半分しかない場合には、。その半分の礼拝はされません。

遺体が見つかり、バラバラになっており、各部分が違う場所にある場合は、その礼拝も行いません。しかしその部分部分が一つに集められれば、礼拝を行います。

遺体を洗った際場合、一か所が乾いたままであった時であ

れば、まだ白布に包まれていなければ、洗います。墓の近くに運んだ後で、遺体の洗うべき場所が乾いたままだったと言われた場合、そこを洗い、礼拝を行います。墓に入れ、土で覆った後でそのことが告げられた場合、その遺体を墓から出すことはしません。洗うことなく埋葬された場合、まだ土がかけられていなければ、墓から出して洗います。

さらに、遺体をタヤンムムし、運ぶ際に水が見つかった場合には、どうするかは任意です。一つの町で多くの人が亡くなった場合、全員の為に一回だけ礼拝することはが合法です。当然、イスラームの規則が実行されます。しかし、より良いのは、一人ずつ行うことです。

またさらに、葬儀の礼拝で「**アッラーのご満悦の為に礼拝を、男性**（もしくは女性）**の為にドゥアーを、このイマームに従って行います**」とニーヤを行います。

また誰かが、追いはぎ行為を行う際に捕まえ、判事や庇護者の承認で殺した場合、もしくは誰かを国家に反逆を起こした為に闘争の際に殺した場合、もしくは誰かが自分の母や父を殺した場合、彼らの葬儀の礼拝はおこな子案われません。

自分を殺した場合、つまり自殺した場合、礼拝は行われます。（**ドゥッル・ウル・ムフタ―ル**）。また、スンナ派である人には十のしるしがあります。

1．その人は集団礼拝に常に参加します。

2. （その信仰がクフルに至っていない）イマームに従います。

3. メスト（革製の履物）の上からウドゥーの際、メスト（革製の履物）の上から湿らせることを合法と見なします。

4. 教友（アッラーがお喜びくださいますように）の誰一人についても、悪いことを述べません。

5. 国家に反逆を起こしません。

6. 教えについて、論争、討論を起こしません。

7. 教えについて疑いを持ちません。

8. 良いことも悪いこともアッラーからもたらされることを知っています。

9. （棄教が明らかになるまでは）キブラを持つ人を棄教したと見なしません。

10. 四大カリフを、その他の教友よりも崇高と見なします。

## 死のありかたについて

不運な人よ、あなた方は死から逃げようとします。誰かが死んだ、私も彼のそばにいたら私にもうつる、と言います。そして伝染病、感染症が地域に入ってきているとして、他の場所に逃げようとします。この考えも、ハラームです。病気は、アッラーが望めば、感染します。

不運な人よ、あなたはどこに逃げるというのでしょう。死はあなたに約束されています。寿命が延びることはありません。寿命が尽きるとき、死の時がくれば、瞬きするだけの時間も与えられません。運命には過不足はありません。

アッラーがそのご命令を、どこと定められたのであれ、その人は、財産、子ども、家族を全て放棄して、そこに行きます。そして土があるその国に行くまでは、命を取る命令はなされません。

皆、死の時が来た時に死にます。高壁章第33節では「**死の時が来れば、その時間をわずかでも前後させることはできない**」とされています。

人は生まれる前に、どれだけ生きるかが定められています。そして人がどこで死ぬか、悔悟して死ぬか、悔悟せずに死ぬか、どの病気で死ぬか、信仰を持って死ぬか、信仰を持たずに死ぬか、全てが保護された銘板に記されています。ロクマーン章の最後の節にこの示唆があります。

世界の創造主は死を創造されました。それから、復活を創造されました。そして糧を創造され、銘板に記されました。

アッラーはあなたが日に何回息を吸い，吐くのかをご存じです。そして銘板に記されました。天使たちは見守っており、時間が来ると死の天使に伝えます。

そしてもし人生で、クルアーンで示されている言葉を信じ、守っていれば、幸福のうちに行くでしょう。全てのことがアッラーからであると知りなさい。死んだ人の後ろで嘆き、泣き叫ぶのはやめなさい。こういったことは信仰を失って死ぬことの要因となります。アッラーがお守りくださりますように。罪や過ちがあるなら、純粋な悔悟を行うべきです。

アッラーはアズラーイール（アッラーの平安がありますように）に命じられます。「**私の親友たちの命を容易な形で取りなさい。敵の命を困難な形で取りなさい。**」アッラーがお守り

くださいますように、もし罪があれば！

審判の日の一日は、千年もしくは五万年になるでしょう。この点に関する解釈は多くあります。サジュダ章第五節、及び階段章第四節から理解されます。

そして天使たちは、罪人の命を罰と共に取り去ります。言葉では説明ができません。私たちを無から創造された、アッラーに庇護を求めます。一部の死者は死の床で、矢のようにあちこちこちら、あちらと向きを変えます。事実アッラーはクルアーンでそう語られています。その頃、その天使たちは罰を与えており、互いに声をかけているのでます。ジブラーイール（アッラーの平安がありますように）はその天使たちに「慈悲をかけるな」と言われます。偽信者の命は鼻先にまで来ます。そしてすると再び戻されます。あらゆる器官が苦しクリ締められ、目の光が失われます。天使たちは、「あなたは天国には行かない。この世界の創造主があなたに立腹された。あなたには救いはない。あなたは生前行ったことを忘れたのか？悪事を行った人よ。あなたには次のような懲罰が用意された。偽信者と不信心者の為の罰である。なぜならあなたは礼拝せず、ザカートを支払わず、サダカもせず、貧者に慈悲をかけることもしなかった。ハラームを避けなかった。あなたの行いは罪だった。陰口をたたき、それでもアッラーは偉大なりと言っていた。その罰が今私の手にある。」そしてアッラーから呼びかけが来ます。**「この偽信者は一日であれ死を思い起こさなかった。傲慢であった。ファルド、スンナ、ワージブを守らなかった。今、私の罰を見せよう。」**また天使たちは爪の根からしがみつき、その命を胸の動脈から取り去り、食堂に運び、そこからまた入れます。また呼び掛けが来ます。**「学者たちがあなた方に教えかったか。啓典を読まなかったか。不注意であってはいけない、シャイターンに従ってはいけない。と言わなかったか。全てはアッラーからであることを知りなさいと言わなかったか？」**現世の死肉のようなものを過度に求めてはいけません。アッラーが与えられたものに満足してください。貧しいしもべたちに慈悲深く振舞いなさい。困窮者に食事を与えなさい。アッラーはあなた方を創造され、あなたがたを育まれる王です。あなたにアッラーから災いがもたらされたなら、やはりアッラーに呼び掛け、懇願し、救いをアッラーに求めなさい。私は医者にお金を払った、だから回復したと言ってはいけません。それがアッラーの助けであると知りなさい。あなたが、自分の財産と言っているものは、あなたへの信託です。そこからあなたの悩みへの方策はありません。合法であれば、それについて問われます。アッラーがどのように定められたのであれ、それを受け取ります。財産、子ども、親友について、どれほど嘆いても、どこの

砂漠に逃げても、救われることはありません。あなたの土地土がどこであれ、そこに埋められるしかないのです。死の時が来るまでは誰もあなたには害を及ぼしません。ただ危険から身を守ること、苦しみの方策となる要因を果たすことが命じられています。

そしてアッラーがあなたに、健康、財産、子どもと言った恵みを与えられたのなら、喜んでび、「アルハムドゥリッラー、私たちの主が、恵みを与えられた」と言うのに、アッラーがあなたに災いを与えたときなら、つまりあなたに災いがもたらされた時には、不平を言い、忍耐をしません。感謝することを忘れてしまいます。

アッラーは呼び掛けられます。「**天使たちよ。彼を捕らえなさい。**」天使たちは彼の命を全ての毛から取り去り、また戻ります。アッラーが罰を与えられたのなら、誰にも救うことはできません。

死の床についている彼は、この罰を見て、生きている時に良い行いを実践していればよかった、そうすれば今日、このような目に遭わなかっただろうなければと言います。さらに、その病人を待つ人々に呼びかけが来ます。「**私の傲慢なしもべたちよ。この親友を、お金を費やして救いなさい。この世界で私からもたらされる災いに忍耐せず、私に苦情を言う。今このしもべは罰を受け、命の瀬戸際になっている。私の力ゆえにである。**」天使たちはこの呼びかけを聞き、「主よ、あなたの罰は正しい」と言いサジュダをします。アッラーはこれらを、クルアーンで伝えられておられます。それからまた天使たちに、捕らえなさいという呼びかけが来ます。天使たちは彼を捕らえ、全ての場所が、一本の毛の根元ですら残されないほどに締め付けられます。天使たちは大声を上げ、「アッラーの、反抗的なしもべの命よ。、来なさい、肌から出てきなさい。今日、あなたに罰が与えられる。アッラー以外の存在を愛し、うぬぼれ、貧者に挨拶を返さなかった。ハラームであることを行った。過ちを正しいと見なし、正しいことを過ちを見なした」と言います。これらはクルアーンで知らされています。

それからその人は天使に、少し時間をください、考えをまとめたい。と言いますが、その時、死の天使がすぐそばにいるのを見ます。彼を見るとこの罰を忘れ、震え始めます。死の天使を見て彼は、「これだけの天使が罰を与えているのに、あなたは誰ですか、どうしてきたのですか」と言います。そして死が、威厳のある大きな声で、「私は死であり、あなたをこの世界から出さなければならない。あなたの子供たちを孤児としなければならない。この世界であなたが愛していなかった親戚た

ちに、あなたの財産を遺産としなければならない」と言います。

死からこの言葉を聞くと、彼は震え、顔を背けます。なぜならそれはしるしであり、ブハーリーのハディースで預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は、「**天使たちの声を聞くと、顔を壁に向ける。その前に、死が立っているのを見る**」とされています。

どちらの方向を向いても死はその方向に見え、またそちらに背を向けます。

死の天使は強く大きな声で呼びかけ、「私は偉大な死師の天使である。あなたの父や母の命も取り去った。あなたはその時そこにいたが、あなたが一体何の役に立ったか？そう、あなたの友人全員が友が全てあなたを見ているが、何の役に立つか？また私は偉大な天使であり、私が死なせたあなた以前の人々の力はあなた以上であった。」

この寝ている人が天使たちとここまで話をすると、罰を与える天使たちは去っていきます。アズラーイールは威厳を持って現れ、その時、知性は失われます。

アズラーイール（アッラーの平安がありますように）は問いかけを行います。「この世界で何を見たか。」彼は言います。「この世界の計略にはまり、こんな状態になりました」と言います。

それからアッラーは世界を一人の女性の姿とされました。、目が天空のようで、歯はが牛の角のようであるその女性はり、悪臭と共にやってきて、彼の胸の上に座ります。

それから彼の財産をその前に持ってきます。ハラームとハラールの区別もせず、夢中で稼いだお金が、彼の目の前で相続人に与えられます。

それからその財産は、元の持ち主にこのように言います。、「**反抗する者よ、私を稼いだもののが、不正な場所で使った。サダカやザカートを払わなかった。今私はあなたから離れ、あなたが望まなかった人々のものとなった。あなたに感謝することもなく、彼らは受け取った**」と言います。

この状態の時、渇きを覚え、また胸が焼かれ、四方を見ます。

それからこの状態の時、シャイターンはいい機会と見て、信仰を奪う為に枕元に来ます。その穢れた手にグラスを持ち、中に氷水を入れ、病人の枕元でそのグラスを揺らします。病人はそれを見て、音を聞きます。その場で、そしてその時に、貧

しい人、豊かな人の状態が明らかになります。

もし乱されていなければ、その水をくれ、飲みたい、と言います。その呪われた命に恩を着せます。そして「言いなさい、この世界に創造主はいないと。言いなさい！」もし罪人なら、そのままそれを言い、－アッラーがお守りくださいますように－信仰が失われます。しかしあらゆることはアッラーの英知であり、その為、そういった状態である病人の枕元には水を用意しておくべきです。そしてしばしば口を開き、水を与えることが必要です。

もし、教えの導きに至っていれば、シャイターンを呪い、拒否します。

時が満ちると、命令がなされます。アズラーイールはその命を取り去ります。360の天使が、その命をアズラーイールの手から取り、彼が愛した人たち、親友たちの形となり、天国の衣服を着せ、魂を天国の門に向かわせ、また突如、死者のそばに戻します。

そしてもし、信仰なく死んだのであれば、360の記録の天使たちが地獄から、タールよりもなお黒い葉を持ってきて、信仰なく取りだされた魂をそれで包み、すぐに地獄に送り、その場所を見せ、また彼のそばに戻します。

また、彼が成人し、この世界でどれだけ生き、悔悟せずに死んだのであれ、―アッラーがお守りくださいますように－それだけ、その結果を受けます。審判でみじめな目に遭い、彼が行く場所は地獄となります。しかしアッラーの道引きに至らない限り、もしくは預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）の仲裁がない限りは。

## 子どもたちの死について

ムスリムの子供が病気になり、死の床につけば、天国が彼の位階となります。そこから360の天使が来て、列をなし、その無垢な子供の前で待っています。そして「無垢な者よ。あなたに吉報がある。今日、母、父、祖父、隣人全てについてアッラーに願いなさい」と言い、100の天使がその顔に慈悲の冠をかけ、100の天使が愛の冠をかけ、100の天使が努力と力の服シャツを着せ、60の天使も目の覆いとベールを取り去ります。全てのベールが取り去られ、預言者アーダム以来の全ての信者の父祖たちを目にします。彼らの一部には罰が用意されています。彼らのその状態を見て子供は泣き、叫び、震えます。このことを知らない人は、断末魔の苦しみだと考えます。

それから命を取り去る天使が来て、慈悲の冠、服シャツを着ており、その目の覆いが取り去られているのを見ます。その命を取り去ることができず、「無垢な者よ。この世界の創造主があなたに挨拶を送られ、命じられた。私が彼を創造した、また私に戻らせなさい。なぜならその魂の信託は私が与えた。、再びまた私に与えるように。その対価として、彼には天国と、私の美を見るという恵みを与えよう。もし信じないのなら顔の向きを変え、天の方を見なさい。見えるだろう」と言います。その無垢なのない子供も、天使たちとアッラーの美を目にします。喜びのあまり興奮し、震え、咆哮し、赤くなります。飛び上がり、ベッドで飛び跳ね、命を差し出そうとします。またその罰の中にいる父祖たちを見て、命を差し出すのをやめてしまいます。天使たちは「無垢な者よ、なぜ命を差し出さないのですか」と言います。無垢な子供は、「天使たちよ、私はアッラーに願いました。親戚や父祖たちを私の為に許されるようにと」と言います。天使たちは、「主よ、この無垢な者と私たちの状態はあなたがご覧になっている通りです」と言います。アッラーは、「その子の権利の為に彼らを許した」と言われます。また天使たちは、「無垢な者よ、あなたに吉報がある。アッラーは信仰を持つ人の罪を許された。あなたの願いは全て認められた」と言います。無垢な子供もそれを見て、その状態である時、アッラーは天国から二人の乙女を送られ、子供の親の姿となり、腕をとり、「息子よ、もしくは娘よ、私たちと一緒に来着なさい。私たちは天国であなたなしではいられない」と言います。天国のリンゴを一つ取り、子供の手に持たせ、取りなさい、と言います。子供がそのリンゴの匂いを嗅いでいる時、アズラーイール（アッラーの平安がありますように）は彼のように美しい子供となり、即座にその命を（魂を）取り去ります。

ある伝承によれば、リンゴの匂いを嗅いでいる時、命がリンゴにくっつき、死の天使は子供の命をリンゴから取り去ります。この伝承は二つとも合法です。

それから死の天使は、その命を取り、天を旅させ、天国に連れていきます。そこにではエメラルドでできた砂漠があります。子ども度がそこに来て、「どうしてここに連れてきたのですか」と言います。天使たちは「無垢な者よ。最後の審判の場があり、そこはとても暑い。この砂漠には、七万の慈悲の泉がある。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）の泉のそばにあるいて、光でできたコップを見てください。父や母が最期の審判の場に来た時に、このコップに水を入れ、彼らに上げてください。そして彼らをとどめ、行かせてはなりません。地獄の道を行き、懲罰を受けさせない為です。なぜならあなたのドゥアーはアッラーの位階において受け入れら

れるからです。金曜日の夜に地に降りなさい。その時、アッラーの挨拶を、預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）のウンマに届けなさい。彼らに光を与え、彼らの感謝、許しの懇願をアッラーに運びなさい」と忠告します。

無垢な子供たちの命にこの位階を旅させ、すぐにまた戻り、死者の枕元に置きます。礼拝し、墓に入り、質問や尋問を受けるまで、その命は墓にあります。もし父や母が悔悟なく死ねば、審判では息子と彼らの間に覆いがあります。彼らは無垢な子供を探しますが見つけられず、互いに会いたいと願います。信者の、成人聖人していない子供の状態はこの通りとなります。

## ムスリム女性の死について

次に女性が、月経もしくは妊娠、もしくは伝染病またはもしくはこれら以外の状態になり、他人である男性に体の線を見せず、夫が彼女に満足している場合、彼女には死の際に天国の天使たちが来て、彼女の前に列をなし、彼女に威厳を持って挨拶をし、「アッラーの愛される、殉教するしもべよ。、来なさい、出なさい、現世の門で何をするというのですか。アッラーがあなたに満足なさいました。そしてこの病気を媒介として、罪を許されました。あなたに天国を恵まれました。来なさい。信託を返還しなさい」と言います。その女性はこの位階を見て魂を差し出すことを求めますが、周りを見て、「私と親友であった人たちが、理解して安心できれば、それから魂を差し出しましょう」と言い、天使たちもアッラーのご満悦を求めます。それに対し、威厳ある呼びかけがなされ、「私の威厳の権利の為に、しもべの全てのドゥアーを受け入れる」と言われます。天使たちも吉報を伝えます。それから死の天使が、120の慈悲の天使と共に来ます。その顔の光が天に至り、頭には冠、身体背中には光の衣装、そして足には金のサンダル、背中には緑の翼があります。その手には天国の食べ物、その香りは麝香のようであり、威厳を持って挨拶をします。そして、「この世界の創造主があなたに挨拶をされ、天国を与えられ、愛されるお方ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように））の隣人とされ、アーイシャの友とされた」と言います。

この信仰ある女性は、これらの言葉を聞いてき、目の覆いが開かれ、信者である女性たちを見ます。そして罪を犯し、罰を受けている人を見て、「彼らの罪をお許しください。主よ！」と懇願します。崇高なるアッラーから呼びかけがもたらされます。「わがしもべよ、あなたの願いの全てを実行した。信託

を与えなさい。私の愛する者の妻と娘があなたを待っている。」この呼びかけを聞いてすぐ、命は震え、立ち上がり、汗を流します。まさに命を差し出そうとしているところに、二人の天使が来ます。手には火でできた杖、右側に一人、左側に一人がいて、シャイターンが彼らに対し走ってきます。私たちには効果褒賞はないが、まあ試してみようと言い、手に宝石でできたグラスに入れた氷水を持ち、姿を見せ、水を差し出示します。この天使たちはそれを見て、手にした杖でシャイターンを打ち、その手のグラスを割り、追い払います。ムスリムの女性はそれを見て笑います。それからこの天国の娘たちは、彼女に宝石のグラスで天国の泉のワインを与え、飲ませみます。天国のワインの味わいにその命が飛び出て、グラスにつきます。、死の天使はその命をグラスから取ります。天使たちは呼びかけあい、「**インナー　リッラーヒ　ワ　インナー　イライヒ　ラージウーン**」と言います。それから命を取り、天空を旅させます。天国に連れて行き、その人出の位階を示し、すぐにまた遺体のもとへと連れ帰ります。

　スカーフが外され、髪がほどかれた時、魂はすぐに遺体の枕元に来て言います。「洗浄する人よ、丁寧に扱ってください。アズラーイールのペンチで傷を負っています。そして私の肌は多くの苦労をしてきました。色あせてしまいました。」遺体を洗浄する台に来ると、また魂が来て言います。「湯をあまり熱暑くしないでください。私の肌はとても弱いのです。すぐに私を、あなた方の手から解放してください。楽にさせてください。」洗って白布に包みむと、しばらく待つとち、そしてまた呼び掛けてこのように、言います。「この世界を見るのはこれが最後です。家族や親せきを見たいです。そして彼らにも私を見て、教訓を得て欲しいです。彼らも近々、私のように死ぬのだから、私が死んでも嘆き悲しまないで欲しい。私を忘れず、クルアーンを読み、常に念じて欲しい。私の遺産の為に仲たがいしないでほしい。墓で私が罰を受けないように、。金曜日や祝日にも私を思い出してほしいです。」

　それから遺体を設置する台に置かれると、命はまた呼びかけ、「安心してください、私の息子、娘、母、父よ。このような別離の日はもうない。惜別、私たちの再会は審判の日になります。さようなら皆さん、そして私の後ろで涙を流す人々！」と言います。

　礼拝がなされ、肩に担がれるとまた呼びかけ、言います。「私をゆっくり運んでください。もし善行を意図しているなら、私を苦しませないでください。あなた方からアッラーに、満足を携えていきましょう」

墓の中に置かれるとまた呼びかけ、言います。「私の状態を見てください。教訓を得てください。今、私を、暗い場所に置いてあなた方は去るサルのです。私は自分の行為と共に残ります。この状況を見て、不誠実で偽りの、現世の計略に欺かれないようにしてください。」

墓に置かれた時には、命は頭のそばに来ます。決して死者をテルキーン（死者の為に唱えられる言葉）なしで残さないでください。（埋葬の後、誠実な人が**テルキーン**を唱えることはスンナです。ワッハーブ派はテルキーンを唱えることがスンナであると信じていません。ビドゥアであると主張します。死者は聞かず、聞き取れない、と言います。スンナ派の学者たち（アッラーの慈悲がありますように）は、様々な本を書いてテルキーンを唱えることがスンナであることを証明してきました。この貴重な本のうち一冊が、ムスタファ・ビン・イブラーヒーム・シヤーミー師（アッラーの慈悲がありますように）師の、「**ヌール・ウル・ヤキーン・フィーマブハス・イッテルキーン**」という本です。ここで、タベラーヌン及びイブニ・メンデが伝えているハディースが書かれています。このハディースではテルキーンを唱えることが命じられています。「**ヌール・ウル・ヤキーン**」の本は1345年にタイのバンコクで書かれ、1396年（西暦1976年）にイスタンブールで第二版が出されています。）アッラーの命令により、死者は墓で眠りから覚めるように目覚め、暗闇の中にいるのを見ます。召使、女奴隷、もしくは常に自分を助けていた人に声をかけ、「私にろうそくを！」と言います。決して声も音もしません。墓を割り、尋問を行う二人の天使（ムンカルとナキール）が現れます。彼らの口からは炎が、鼻からは黒い煙が出ています。この状態で彼女に近づき、言います。「**マン　ラッブカ　ワ　マーディヌーカ　ワ　マンナビーユカ**」、すなわち、「あなたの主は誰か、あなたの教えは何か、あなたの預言者は誰か。」これらに正しく答えれば、その天使たちはアッラーの慈悲を吉報として伝え、去ります。すぐその瞬間に右側から窓が開き、月のような顔をした人がそばに来ます。この信仰を持った女性は彼を見て驚き、「あなたは誰ですか」と言います。「私はあなたの、現世における忍耐や感謝から創造されました。審判の日まで、あなたに同行します」と答えます。

**我欲がハラームを求めることをやめなければ、**
**心は神の光の鏡となることはできません。**

## 迫害を受けた人、忍耐した人、及び異郷にある人の死について、殉教者について

彼らの師は同一です。一つについて言及しますが、他のものもそれに類似しています。異郷にある人も二種類あります。一つは遠い地方に住み、そばに親戚や知人がいない人です。もう一つは、その場で無力である人です。皆彼を見下し、そばに寄りつかないような人です。このような信者も異郷にある人となり、死ぬと殉教者になります。誰かが60歳を過ぎ、日に五回の礼拝も放棄していない場合、ません。この人も殉教者となります。（ハラームを行ったこと人が死の原因となった人、例えば飲酒によって死んだ人は、殉教者とはなりません。しかしハラームを行う際、別の理由で死ねば、例えばビルが崩壊して死ねば、殉教者となります。女性、少女たちの顔や手のひら以外の全ては、覆うべき場所です。覆うことがファルドです。それに重きを置かない人は不信心者となります。頭、髪、腕、足が見える状態で外に出ていない女性や少女は殉教者となります。アッラーの命令や禁止事項を「**イスラームの規律**」と呼びます。イスラームの規律を学び、子どもたちに教える母、父も殉教者となります。）信仰や礼拝がなければ、殉教者とはなりません。また、不信心者につかまり人質となった状態で死んだムスリムも殉教者となります。迫害、拷問によって死んだ不信心者は殉教者とはなりません。不信心者として死んだ人は、決して天国には行けません。

この人々がは、死の床についたて際、天の扉が開かれ、天使たちが地に降りてきます。その裁きはアッラーのみがご存じです。天使たちの手には光の冠と衣服があります。その人の命を威厳を持って招きます。事実、アッラーはこの状態を暁章の最後で説かれています。

殉教者もまた、その顔を威厳ある台に置き、「わが主よ、寿命があったとしても私は何にも希望をつなぎませんでした。誰にも頭を下げませんでした。この世の計略や宗教の敵たちに欺かれませんでした。主よ！今この状態であなたに望むのは、預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）のウンマの全てが許されることです」とドゥアーし、懇願します。この人も殉教者となります。

純粋なその天使たちは、その衣服に包まれみます。その時、アッラーから呼びかけがもたらされます。「天国に連れて行

生きなさい。なぜなら現世では誰よりも礼拝を行い、客を愛し、相手の罪を許していた。そして悔悟を行っていた。さらに私を何度も祈念していた。覆うべき場所を覆わずに外に出ることもなかった。自分を、ハラームであるものから清めていた。預言者たちやイスラームに従っていた。」

すると、二人の天使が人の両方の肩で、現世において行ったで良いこと、悪いこととしておこなってきたことを書きます。彼らは、「主よ、私たちを現世で、このしもべの代理人とされました。今、私たちに許可を与えてください。このしもべの魂と共に天に昇りましょう」と言います。威厳ある呼びかけがなされます。「あなた方は彼の墓のそばにいなさい。、タスビーフやタクビールを行い、私にサジュダしなさい。そしてその報奨をこのしもべに寄付しなさい。」彼らも、審判の日まで、ズィクルとタスビーフを行い、その報奨をそのしもべのノートに記していきます。

（**注意：**エジプトの偽信者が反逆を起こし、カリフであるオスマーン（アッラーがお喜びくださいますように）を殺す為、マディーナに来ました。マディーナの人々も、嘘と中傷で彼らを支援しました。マディーナのムスリムは、カリフを助けなかったといって、教友たちを非難しました。しかし、カリフは天国の殉教者たちの崇高な位階に至ることを求めており、その為にドゥアーをしていました。そうして、彼自身を助けに来た人々を妨げ、ました。彼らを帰らせました。このことを利用し、反逆者たちは容易にカリフを殉教させたのです。これにより、彼のドゥアーは実現しました。願いがかなったのです。殉教者は死の際に苦痛を感じません。天国で与えられる恵みが彼に示され、その喜びの中で魂を天使たちに喜んで返すのです。）

## 不信心者の死について

一人の不信心者、棄教者は、イスラームを気に入らず、クルアーンを砂漠の法律と呼び、人々のうち最も崇高で最も誉れあるお方である預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）をラクダ飼いと呼ぶほどに知識や道徳に欠け、人々に安らぎや幸福をもたらし、学問、道徳、清潔さ、健康、正義の源であり、文明に光を放つイスラームを、魂のない死肉の箱であるその頭脳で受け入れられず、教えなど必要ないと言う程に軽視し、自らを我欲に委ねてしまっている愚かな人が死しぬ時には、その目から覆いが取り去られます。天国が彼に示されます。美しい天使が彼に、「不信心者よ、ムスリムを遅れていると呼び、性欲の赴くままに動き、道徳の原則を踏みにじ

る人を、先見の明、先進的と呼んでいた愚かな者よ！あたなは間違った道にいた。真実しんじつであるイスラームの教えを気に入らなかった。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）がアッラーからもたらした情報を信じ、敬意を示す人がこの天国に行くのだ」と言います。天国の恵みを目にします。天国の乙女たちも、「信仰する人は、アッラーの懲罰から救われます」と言います。少しして、シャイターンが法皇の姿をして現れます。「誰それの息子誰それよ。あの、やってきた者たちは嘘をついている。あなたが見たあの恵みは、全てあなたのものになる」と言います。それから地獄が示されます。炎でできた山、ラバのような大きさのサソリやムカデがいます。ハディースで教えられている罰を受けます。地獄の、ゼバーニと呼ばれる懲罰の天使たちが、火でできた杖で殴ります。その口からは炎が出ています。その身長はミナーラ（モスクの尖塔）のようであり、歯は牛の角のようです。大きな騒音のような声を出します。不信心者は彼らの声に震え、顔をシャイターンに向けます。シャイターンはその匂いに耐えられず、逃げます。天使たちがシャイターンをとらえ、シャイターンを地に打ち付けます。この不信心者のもとに来て、「イスラームの敵よ！あなたは現世で預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）を信じなかった。今、天使たちのことも信じなかった。呪われたシャイターンにまた欺かれたのだ」と言います。首に、火でできた首輪をかけ、頭から足を離されし、右手を左脇腹に置かれき、左手を右に置かれき、後ろから引き出します。クルアーンでこのことが告げられています。彼は叫び、現世での詐欺師たちを呼びます。ゼバーニ達が答えます。「不信心者よ、ムスリムをからかっていた愚かな者よ！懇願する時間は過ぎた。もはや信仰は認められない。ドゥアーも認められない。クフルの罰を受ける時が来た」と言います。こうして、舌をうなじから引き抜きます。目を取り出します。様々な厳しい懲罰が与えられ、その悪い魂が取り去られます。地獄に投げ入れられます。アッラーが、預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）の教えに従い、崇高なる預言者の教えを正しく私たちに伝えるスンナ派の学者たちの本で書かれている信仰のうちに、命を差し出すことを可能としてくださいますように。アーミーン。

あなたがどれほど生きたとしても、最後は死ぬのです。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は言われています。

**「人の魂が肉体から離れると、呼びかけがもたらされる。人の子よ、あなたが現世を放棄したのか、それとも現世があなたを放棄したのか？あなたが現世を片付けたのか、それとも現**

世があなたを片付けたのか？あなたが現世を殺したのか、それとも現世があなたを殺したのか？遺体の洗浄が始まると、三つの呼びかけがもたらされます。

１．あなたの力強い肉体はどうしたのか。何があなたを弱らわせたのか？

2. あなたの素晴らしい話はどうしたのか。何があなたを黙らせたのか？

3. あなたの愛する親友たちはどうしたのか。あなたをどこ何に放棄して去ったのか？

遺体が白布に包まれると、もう一つの呼びかけがもたらされます。『食べ物を持たずに出発してはいけない。この旅では、戻ることはできない。永遠に戻ってくることはできない。あなたが到着するところは、懲罰の天使でいっぱいである。』棺に入れられると、さらに呼びかけがもたらされます。『もしあなたがアッラーのご満悦を得ていたのであれば、あなたは幸運であり、偉大さや幸福があなたのものとなる。もしあなたがアッラーの怒りを得たのであれば、残念なことだ。』遺体が墓に到着すると、また一つ呼びかけがもたらされます。『人の子よ、現世で墓の為に何を用意したのか。この暗い墓の為にどんな明かりを持ってきたのか。豊かさ、誉れから何を持ってきたのか。この何もない墓に敷き、飾る為に何を持ってきたのか。』遺体を墓に置いた時、墓が呼びかけ、言います。『私の後ろで話していたが、今は私の腹の中で沈黙するのだ。』最後に、遺体の埋葬が終わり、そこで奉仕を行っていた人々も離れ、去ると、アッラーから呼びかけがもたらされます。『私のしもべよ、あなたは一人になった。この暗い墓にあなたを置いていった。かれらはあなたの親友、兄弟、子ども、そして大事にしていた人々だ。しかし誰も、あなたの役には立たなかった。しもべよ、あなたは私に反抗した。命令に従わなかった。自分の状態を考えなかった。』

もし死者が信仰を持って死んだのであれば、望むべくは、アッラーがその人を許され、このように言われることである。『信者であるわがしもべよ、あなたを墓で一人きりにすることは、私の誉れにそぐわない。威厳にかけて、あなたに慈悲をかけよう。あなたの友人ら友たちは驚くだろう。あなたに慈悲をかけよう、両親の息子に対する慈悲以上のものとなるだろう。、私の気前の良さ、恵みから、しもべの全ての罪が許され、墓が天国の庭となり、天国の乙女たちや恵みで満たされるだろう。』アッラーは非常に慈悲深く、罪を犯したしもべを許される。非常に慈悲深く、日に何度もしもべの恥を目にされ、それを覆い隠される。それを見せつけられることはない。だから、こ

**のような創造主の命令に従い、禁止されたことを避けるべきである。毎日誠実な宗教的実践を行い、未来を懲罰から救わなければならない。」**

罪の有無を問わず、信者の全てに、墓での尋問があります。罪が許されない人、そして不信心者の全てに、墓での懲罰があります。ムスリムの間で人の悪口発言を広める人、尿をかけるような人には、墓で懲罰が与えられます。（墓での懲罰は単に魂のみではなく、魂にも肉体にも与えられます。知性で理解できないことを、知性で理解しようとしてはいけません。）

もしその人が信仰なく死んだのであれば、厳しい懲罰が裁きの日まで（その後も、地獄で永遠に）続きます。

「訪ねてくる、まだ息をしている人よ。アッラー以外の何にも、夢中になってはいけない。　この世界には誰も残らない。アッラー以外の誰も、何もできない。アッラー以外に誰も残らない。

皆、悩みを持ってその命を終える。暑さにも寒さにも苦しむ。この無価値な世界で誰かと苦労する必要はない。

私も時間の一粒であった。私は国家の長の指輪の石のようであった。皇帝の勅令におけるサインのようであった。運命は私にも、嫌な顔を見せた。

ある時、私の心が病気になった。私の力、強さは常に失われた。最後に私の命の鳥（魂）が飛び去った。なぜなら鳥かご（肉体）が滅びたからだ。

私の健康は蝋燭のように消えた。あらゆる場所が黒ずんだ。来世の太陽が昇った。

アッラーの光で輝きを得た。

その瞬間、私は主と出会った。私の罪が明らかにされた。

許されることを望むと、私を無限の慈悲で迎えられた。

主よ！私が十万の罪を犯したとしても、やはり私はこの黒い顔で、崇高なあなたの扉に庇護を求めます。あなたに許しを求めます。

「罪を覆われ、許されるお方」と言う美名を、この私の文章の日付（1286）としました。この意味が必ず実現するでしょう。私の罪が許されるでしょう。

アッラー以外の誰も、何もできません。アッラー以外に誰も残りません。」

（アブドゥラー・サーミ・パシャ）

**アブドゥラー・サーミ・パシャは、上院の一員である時に**

、1295年（西暦1878年）に亡くなっています。
この人生は、苦しみに満ちた夢であり、
私たちは死ぬことを前提に生まれました。
数時間楽しく過ごしたあとはせば、
楽しさの全てを悩みが追い払います。
無知と不注意さの中、あらゆる瞬間に、
私たちは死の海の底に慕情と共に去ります。
様々な悲しみと千もの苦労で、
この世界は私たちをほろぼします。
私たちは旅をして、この要因の根幹を探します。、
この要因は何であるかを。創造主を、創造を、
その実現の神秘を、創造主の英知を、。
私たちは知ることを求めます。
創造主の英知を。しかし、創造主が置かれた神秘の在り方は、しもべの知性では理解できません。
人の無力さ、不注意さ、無知が誤りを犯してきたことは明らかなのです。

## 墓地の訪問とクルアーン読誦

墓地の訪問はスンナです。週に一度、少なくとも祝日には訪問を行います。木曜日もしくは金曜日、あるいは土曜日に訪問を行うことはより善行となります。「**シラート・ウル・イスラーム**」の最後では次のように語られています。「墓地の訪問はスンナである。訪問した人は、死者が腐っていることを考え、教訓を得る。オスマーン（アッラーがお喜びくださいますように）は墓地のそばを通る際、大いにとても泣き、ひげが濡れていた。死者も、行われるドゥアーから褒賞効果を得る。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は親戚や教友（アッラーがお喜びくださいますように）の墓地を訪問された。挨拶とドゥアーの後、キブラに背を向け、中に向かって座る。墓に手や顔をつけること、土をキスすることは、キリスト教徒の習慣である。」

ハディースでは、**「誰かが知人の墓に行き、挨拶をすれば、彼のことだと理解し、挨拶に答える」**とされています。アフマド・イブニ・ハンバル（アッラーの慈悲がありますように）は、「墓地を通過する時、イフラース章、二つの「クル　アウーズ」で始まる章句、そしてファーティハ章を読み、その報奨を死者に贈

り物とするべきである。報奨は彼らに与えられる」と語っています。アナス・ビン・マーリク（アッラーがお喜びくださいますように）の伝えるハディースでは、「**アーヤトゥルクルシーを読み、その報奨を死者に送れば、アッラーはそれを全ての死者に届けられる**」とされています。

「**ハザーナトゥッル・リヴァーヤートゥ**」では、「生前に、訪問されていた学者たちを、死後も訪問する為に遠方に行くことも合法である。効用の観点から、預言者たち（アッラーの祝福と平安がありますように）及び聖人たち、学者たちの墓の訪問の間に違いはない。ただ、それぞれの位階の間に違いはある」とされています。

（ムスリムが、住んでいる部屋の壁に銘板をかけ、その銘板に愛する人の名前を書いた場合やけば、もしくは墓の上に石を立て、そこに書き込んだ場合。み、部屋に入るもしくは墓地を訪問するムスリムが、銘板もしくは石の上に書かれた名前の持ち主の魂の為に、ファーティハ章及びドゥアーを唱えれば、アッラーはその名の持ち主に慈悲をかけられ、罪を許されます。部屋の壁及び墓石に名前を書くのは、彼を思い出す為ではありません。その名前の持ち主に、ファーティハ章とドゥアーを唱える為です。この為イスラーム諸国では、部屋の壁や墓の上に名前を書くことが風習となっています。一人の聖人の名を書き、その名を読み、持ち主に仲裁とドゥアーを求めれば、聖人はそれを聞き、求める人のドゥアーや来世の希望の為にドゥアーし、そのドゥアーは認められます。）

女性の訪問も合法ではありますが、預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）以外の墓の訪問には行かないのがより良いとされます。月経中、及びグスルが必要な状態での訪問も合法ですが、ウドゥーがある状態での訪問がスンナとなります。ハディースでは、「**信者の墓を訪問し、アッラーフンマインニー　アッサルーカ　ビ　ハック　ムハンマディン　ワ　アーリー　ムハンマディン　アン　ラートゥアッズィバ　ハーザルマイトゥと言えば、死者の罰が取り除かれる。**」「**両親、もしくはその片方の墓を毎週金曜日に訪問する人は、許される**」とされています。父母の墓の土にキスをすることは葉合法です。「**キファーヤ**」という書物では、次のように語られています。「ある人が預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）に、天国の門の敷石に口づけすることを誓った、どうすればいいでしょうかと言った時、『**あなたの母の足にキスをしなさい**』」**と言われた。母や父はいない、と言った時には、彼らの墓にキスをしなさい、墓の場所を知らなければ、二本の線を引き、それを彼らの墓であるとニーヤして、その線にキスをしなさい。誓いを実行したことになるだろう、と言われた。**」

偉大な人の墓を訪問する為に、遠方の国には行かないこと。、他の用事の為に行った時に訪問することがより良いとされます。ただし、預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）を訪問することは善行です。預言者たち（アッラーの祝福がありますように）や聖人たち（アッラーの慈悲がありますように）を訪問する人は、彼らの神聖な魂から褒賞効果を得ます。彼らへの愛情、結びつきの分だけ、心が清められます。その墓廟で罪を犯す人がいた場合れば、例えばスカーフをしていない女性たちが来た場合でもれば、訪問を放棄するべきではありませんなく。、それらを妨げることができなければ、心で憎むべきです。実際、女性がおり、歌や賛美歌がうたわれる信者の葬儀にも、行くことが必要です。

女性の墓地訪問が、悲しむこと、泣くこと、叫ぶことの為であった場合、であれば、及び男性の中に混じって災いを起こす為であれば、ハラームとなります。このような女性は呪われます。高齢の女性は、男性に混じらず親戚や聖人の墓を訪問することが合法ですが、若い娘たちにはこのような訪問はマクルーフです。女性が葬儀に参列することについても同様です。「**ジラー・ウル・クルーブ**」では次のように語られています。「墓地に来た人は立ったまま、『「**アッサラーム　アライクム　ヤー　アフラ　ダーリル カウム　イルム—ミニーン！インナー　インシャッラーフアン　カリービン　ビクム　ラーヒクーン**」」と言う。それからビスミッラーの言葉と共に、11回イフラース章、一回ファーティハ章を唱える。それから、『「**アッラーフンマ　ラッバル　アジュサーイディルバーリヤフ、ワリザーミン　ナヒラ　ティッラティ　ハラジャトゥ　ミナッドゥンヤ　ワ　ヒヤ　ビケ　ムーミナトゥン、アドゥフル　アライハー　ラウハン　ミン　インディカワ　サラーマン　ミンニー**』」というドゥアーを唱えます。墓のそばに来ると、死者の左（墓の、キブラの方向）及び足の方から近づきます。挨拶をします。立ったまま、しゃがんで、もしくは座って、雌牛章の最初と最後、ヤーシン章、タバーラカ、タカースル、イフラース、ファーティハの各章を読み、死者に贈ります。

**注意：**他者の代わりに巡礼をすることを教える一方で、学者たちは次のように語っています。礼拝、断食、サダカ、クルアーンの読誦、ズィクル、タワーフ（カーバ神殿の周回）を行うこと、巡礼、ウムラを行うこと、預言者たち、聖人たちの墓を訪ねること、死者を白布で包むことと言ったファルドもしくはナーフィラである崇拝行為、及び善行や施しの報奨を他者の魂に贈ることは合法です。崇拝行為を行った場合でも人にも、彼らの魂にも褒賞褒章が与えられます。この為、墓地のそばで、もしくは他の場所でクルアーンを読み、その褒賞報奨を死者に贈るべきであり、

彼らの為にすぐにドゥアーするべきなのです。なぜならクルアーンが読まれる場所には、慈悲と豊かさが下されるからです。ここで行われるドゥアーは認められます。墓のそばで読めば、墓は慈悲や豊かさで満たされます。ハナフィー派によると、誰かがナーフィラの断食、礼拝、サダカ、読誦の報奨を、死者、もしくは生きている他者に贈れば、その人たちにも褒賞報奨がもたらされます。ファルドの報奨を贈っても、彼らにももたらされるという人々もいます。報奨が死者たちの間で分配されることはありません。それぞれに、全てが与えられます。マーリキー派及びシャーフィー派によれば、読誦のようなただ肉体を用いて行うイバーダは、死者には贈ることはできません。それらを媒介にしてドゥアーがなされます。「**キターブ・ウル・フィクフ・アラル・マザーヒブ・ウル・アルバー**」では次のように語られています。「死者から教訓を得、来世を考えるために墓を訪問することは、男性にとってスンナである。ハナフィー派とマーリキー派においては、木曜日、金曜日、土曜日に訪問をすることがムアッカダのスンナです。シャーフィー派では金曜日の午後から土曜日の日没までがムアッカダのスンナです。訪問を行う人は、が死者の為にクルアーンを読み、むこと、彼にドゥアーすることが必要となります。これらは死者に良い影響を与えます。墓地に入ると、「**アッサラーム　アライクム　ヤー　アフル　ダール　イル　カウミルムーミニーン！インナー　インシャッラーフ　アン　カリービン　ビクム　ラーヒクーン**」と言うことがスンナです。遠方、近所、あらゆる墓地をが訪問することができますされます。特に、誠実な人々、聖人たち（アッラーの慈悲がありますように）の墓を訪問する為、に遠いところに行くことはスンナです。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）の墓を訪問することは、崇拝行為のうち最も尊いものの一つです。高齢の女性も、スカーフをして訪問をすることが合法となります。ただし騒乱の原因となるのであれば、高齢の女性も訪問を行うことはハラームとなります。訪問の際、墓の周囲をタワーフ（周回）すること、石や土にキスをすること、死者に何かを求めることは合法ではありません。聖人たち（アッラーの慈悲がありますように）から仲裁を求めること、アッラーが与えられるよう、その媒介となることはが求めることができますられます。

**二つの事柄があり、それらを慕う気持ちは誰であろうとその心を焼きます。**

**目から血の涙を流しても、その権利にこたえることはできません。**

**一つは若さであり、一つは宗教上の友です。**

## 第三巻　第九の書簡

**イマーム・ラッバーニ・ムジャッディディ・エルフィ・サーニー・アフマド・ファールキーン（アッラーの慈悲がありますように）の「書簡」第三巻第九の書簡は、ミール・ムハンマド・ヌマーンの為に書かれたものです。「（アッラーの使徒がもたらしたものを受け取りなさい」）という章句について解説したものです。この書簡はアラビア語であり、その翻訳は以下の通りです。**

慈悲深く慈愛あまねくアッラーの御名において。集合章第七節では、「**また使徒があなたがたに与える物はこれを受け，あなたがたに禁じる物は，避けなさい。アッラーを畏れなさい**」とされている。（命令されたことを行い、禁じられたことを避けることを、**イスラーム**に従う、と言いますう。）アッラーが禁じられたことを避けなさい、と命じた後、アッラーを畏れなさいと命じていることは、禁止されたことを避けることがより重要であることを示す。なぜならアッラーを畏れること、すなわち「**篤信**」とは、ハラームを避けることであるからである。篤信は、イスラームの基本である。疑わしいものを避けることを「**ワラー**」と言う。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は、「**教えの柱はワラーである**」と言われた。別のハディースでは、「**何物も、ワラー―のように（重要には）なれないのようには慣れない**」と言われている。イスラームが、ハラームを避けることにこれほどの重要性を置いているのは、避けるべきことがより多いこと、その効果褒賞がより大きいことの為である。なぜなら命令されたことを行うことにも、避けることはあるからである。一つの命令に従うことは、それを行わないことを避ける、という意味になる。その効果褒賞がより大きいのは、我欲に従わない為である。命令に従う際、我欲も心地よさを感じる。何らかの仕事において我欲に従うことが少なければ少ないほど、その効果褒賞も大きくなる。つまり、アッラーのご満悦により早く到達することができる。なぜなら、イスラームの規則、つまりイスラームの命令と禁止は、我欲を弱め、痛めみつける為にあるものなのだ。我欲はアッラーの敵である。ハディースでは、「**自分の我欲と敵対しなさい。なぜならそれは、私の敵である**」とされている。その為、崇高な道の中でも、イスラームをよく見る人がより多いものが、アッラーにより近い道となる。なぜならそこでは我欲に従わないことがより多いからである。皆が知っているように、

これが私たちのいる道である。だからこそ、偉大なる先人、博識な学者であるバハーウッディン・イ・ブハーリーは、「アッラーへと至らせる道のうち、最も短いものを見つけた」と語っているのだ。なぜならこの道では我欲に立ち向かうことがより多くなるからである。この道でイスラームをよく見ている人が多いという点については、本をよく読み、賢明で良心を備えた人にとって、このことを理解することは容易である。この事実を明らかに目にする。明らかであると同様に、私の多くの手紙でもそれを伝えてきた。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）とその家族、及びその友、そして正しい道にある人に祝福と平安がありますように。

## 第三巻、第84の書簡

アッラーに感謝します。アッラーが選ばれ、愛されたしもべたちに祝福がありますように。この道で努力すること（アッラーの愛情を得ること）を求める人は、まず信条を、正しい道にいる学者たち（つまりスンナ派の学者たち）が教える形で正ただすことが必要である。（この博識な学者たちは、全ての知識を、教友から得ている。自分の考え、哲学、思想をそれに混同させてはいない。）アッラーが彼らの活動へ、豊かな褒賞に報奨を与えられますように。それから、皆にとって必要となる法学の知識を学ばなければならない。その後、学んだことを実行しなければならない。その後、常にアッラーをズィクルするべきである。（つまり、心が常にアッラーの御名とその特性を考えていることが必要である。）しかし、ズィクルのやり方を、完全な形で行う人から学ぶことが条件である。不十分な人（さらには無知な人、逸脱した人）から学ぶと、完全な形で行うことはできない。始めはとにかく多くのかなりたくさんズィクルを行うべきであり、ファルドの礼拝やそのスンナを行った後、ズィクル以外の崇拝行為を行わず、クルアーンの読誦及びナーフィラの礼拝は別の時間に行うべきである。ウドゥーがあってもなくても、ズィクルを行うべきである。立っている時、座っている時、寝ている時、常にこの務めを行うべきである。外に行く時、食べる時、眠る時もズィクルなしではいけない。

ペルシア語の詩の翻訳：

**ズィクルを行いなさい、常にズィクルを。**

**心の清らかさはズィクルからもたらされる。**

ズィクルは非常に多く行うべきであり、ズィクルされるもの（アッラー）以外、心には何の欲求も考えもあるべきではない。アッラー以外の物事の名、しるしが胸に浮かんではいけな

い。他のことを考える為に自分を苦しめても、胸に持ってきてはいけない。心が、アッラー以外の全てを忘れることが、アッラーへと至る為のスタートとなる。この忘却が、求められるお方のご満悦、愛情を得る為の吉報となる。

アラビア語の詩の翻訳：

**スアードにどのように会えるのだろうか。**

**間に山々や深い淵がある。**

（スアードとは、愛される者の名です。）人を全てに出会わせられるのはただアッラーです。正しい道にある人に祝福がありますように。

（第三巻第17の書簡では、次のように書かれています。「心でズィクルと行うことは、それを、アッラー以外のものに執着することから救う。この執着は、心の病である。心はこの病から救われない限り、禁止された事柄に従うことが困難となる。これらに従う際にニーヤを行うこと、ムバフであることを行う際に我欲が快適さを味わうことを考えないことも、ズィクルである。」心の病の理由は、我欲に従うことです。我欲はアッラーの敵です。アッラーに従うことを望みません。自分自身にも敵です。心のあらゆる部分に、ハラームや悪事、有害なことが付着することに喜びを感じます。この喜びを得る為に、教えを持たず、信仰心を持たないことを望みます。不信心者、宗派に属さない人と友達になること、彼らの本や新聞を読むこと、ラジオやテレビの有害な放送等も、心を病気にします。イスラームに従うことは、心を病気から救います。我欲は、病気の元となりますにします。快感、欲求、心への影響力を減らします。）

**誰が、困難さの中で、求められる勝利を見出すのか？**

**運命の定めが何であれ、それは必ず実現する。**

## 第114の書簡

**インドの偉大な学者の一人アブドゥラー・イ・ダフラウィー（アッラーの慈悲がありますように）の「マカーティビ・シャーリファ」の本に位は、125の書簡があります。その114番目のものは、ハジ・アブドゥラー・ブハーリーに書かれたものであり、ペルシア語からトルコ語に翻訳したものが下記の通りです。**

アッラーには一切の欠点がはない。アッラーは常に正しいことを語られ、しもべたちに正しい道を示される。崇高なリーダーである預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）やそのご家族、教友たち（アッラーがお喜びくださいますように）に、私たちからの挨拶とドゥアーがありまするよ

うに。ここでの（つまり、デリーの町の）宗派に属する人々は、願いを叶かなえようと「アスマー」を唱える。お守りを書いている。それにより、皆を自分たちへと引き付けている。ムスリムの長であるアリー（アッラーがお喜びくださいますように）を、他の三人のカリフ（アッラーがお喜びくださいますように）よりも上に見ている。彼らは「**シーア派**」と呼ばれる。三人のカリフや教友と敵対する人を「**ラーフィズィー**」と呼ぶ。

（アブー・バクルやウマル、及びオスマーン（アッラーがお喜びくださいますように）が、アリーよりもより崇高であることを「**スンナ派**」の学者たち（アッラーの慈悲がありますように）は様々な書物で知らせてきました。これを、クルアーンの言葉やハディース、教友たち（アッラーがお喜びくださいますように）の見解の一致と共に証明してきました。この尊い書物の中の二冊が、インドの偉大な学者シャー・ワリーユッラー・ムハッディス・ダフラウィー（アッラーの慈悲がありますように）の「**ラザートゥル・ハファー**」及び「**クッラトゥル・アイナイン**」である。アラビア語とペルシア語が混ざっており、一冊目はウルドゥー語の翻訳本と共に1382年（西暦1962年）にパキスタンで発行されています。二冊目はトルコ語に翻訳され、「教友」という本の中で印刷されています。さらに、「真実の言葉の証」という本の中にも含まれています。偉大な学者イブニ・ハジェリ・マッキー（アッラーの慈悲がありますように）の「**アッサワーイク・ウル・ムフリカ**」と言うアラビア語の本は、イスタンブールでハキーカトゥ出版によってオフセット印刷で印刷されています。この本を読んだ、良心を備えるムスリムは、宗派に属さない人々が誤った道にあることを十分に理解します。彼らのうちの一部は、現在では自分たちのことを「**ジャアファル**」と呼び、「私たちは十二人のイマームの道にある」と言い、若者を騙します。しかし十二人のイマームの道にあるムスリムは、「**スンナ派**」なのです。スンナ派の学者たち（アッラーの慈悲がありますように）は、「十二人のイマームを愛することは、最期の息の際に信仰を持ったまま死ぬことができる要因となる」と言われています）

葬列を散らす為に宴会が行われます。（彼らは、集団で礼拝をしません。）マウリードの集団は、賛美する歌、死を悼む歌等を唱えさせます。修道院で楽器やドラムを聞いています。同様に、のさらに多くのビドゥアを、教団として行っています。さらに、インドのジュキーヤやブラフマンの不信心者の崇拝行為も、教団の財産としています。この世界に執着している人たちや、罪人たちと共にいるのです。礼拝ではカウマ（ルクウの後、サジュダに向かう前に体をきちんと立てること）やジャルサ（二回のサジュダの間の座位）を重視せず、集団で行うこ

とや、さらには金曜礼拝にも重きを置きません。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）の時代には、このようなことは全くありませんでした。これらはどれも、イスラームには存在しない事柄です。**スンナ派**の学者たち（アッラーの慈悲がありますように）はこのようなビドゥアを避けていました。アッラーに感謝すべきことですが、教友たちにはこのような醜いビドゥアは全く見られませんでした。ムスリムとなることを求める人、預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）の道を行きたい人は、このような教団から逃げることが必要です。彼らは教えを盗む者です。アッラーのしもべたちの教え、信仰を破壊します。ズィクルや、彼らが行う事柄は心や我欲を動かします。（彼らにおいては、状態や行動の発生ではなく、世俗的なことから逃れることが必要です。）奇跡（奇跡的なことを起こすこと、幽玄界からの知らせをもたらすこと、ジンと話すこと）はそもそも、イスラームでは価値はありません。ジュキーヤの不信心者たちも、奇跡を示します。知性を持つ人が目を覚ますこと、真実を邪から見分けることが必要です。教えに結びつくこと、現世に執着することは一人の人に同時に存在し得ないのです。世俗的なものを手にする為に教えを売ることは、知性を持つ人の行うことではありません。ブハーラーの町の学者たち、シャイフたちは、アッラーへの信頼を持つ人々でした。現世に執着していませんでした。宴を開き、現世に執着する人を集めることは、その心を暗くします。その偉大な人々は、このようなことを避けていました。彼らは預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）の正しい信条とそのスンナに強く結びついていました。全ての行為において「**根気**」の道を選びました。ビドゥアを避けました。ハラームとマクルーフの道からもたらされるものを避けました。ハラームの要因となるムバフも、ハラームとなります。「**ズィクル・ハフィー**」すなわち無言のズィクルを行うことは、「**ズィクル・ジャフリー**」、すなわち声を出すズィクルよりもなお徳があります。彼らはそのようなズィクルを行いました。ハディースで教えられている、「イフサーン（アッラーにまみえるかのようにアッラーを称えること）」の位階にありました。心は常にアッラーに向き合っていました。このようなタサッウフ（イスラーム神秘主義）の偉人のタワッジュフ（アッラーに意識を集中させること）と出会った、誠実な、純粋な人の心、さらには全ての感覚器は、すぐにズィクルを行い始めます。アッラー以外の何も心に存在させないことを、**ムシャーハダ**とも言います。そして惹きつけるものに対しても「**ワーリダートゥ**」と呼ばれ、る恵身に、つまり外面も内面もその魂が覆う、といった恵みに到達します。ムルシドがその心から恵

みを得た人の心には、アッラー以外のどの考えも入り込みません。全ての器官がスンナに適した形で、根気強く動きます。この恵みは非常に大きな幸福です。主よ！愛する預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）への敬意により、そしてその崇高な預言者の道にあるシャイフたち（アッラーの慈悲がありますように）の敬意により、この非常に尊い恵みを、私たちの糧としてください。イマーム・ラッバーニ（アッラーの慈悲がありますように）の恵みは、人のあらゆる感覚器官をこの恵みに出会わせるのです。

**私の命をあなたの道に捧げましょう。**
**名も美しくい、実体本人も美しいムハンマドよ！**
**来てください。仲裁を行ってください。この卑しいしもべの為に。**
**名も美しくい、実体本人も美しいムハンマドよ！**
**信者には多くの苦しみがあります。**
**来世では喜びが多くあるのです。**
**1万8千の世界で選ばれた人、**
**名も美しくい、実体本人も美しいムハンマドよ！**
**七層の天空を旅し、エルサレムの上に現れ、**
**ミラージュでウンマの為にアッラーに願う人、**
**名も美しくい、実体本人も美しいムハンマドよ！**
**あなたがいなければユーヌスはこの世界をどうすることができるでしょう。**
**あなたは真実の預言者です、何の疑いも迷いもなく。**
**あなたに従わない人は信仰を持たずに去ります。**
**名も美しくい、実体本人も美しいムハンマドよ！**

## 「天国の道、イルミハール」の本の、終わりの言葉

　生命を持つもの、持たないもの、全ての存在が一つの秩序の中にあることを私たちは観察見ることができます。全ての物質の構造、事象、反応において、決して変化しない順序、数学的関係が存在すあることを学びます。この秩序や関係を私たちは、物理学、化学、天文学、生物学の法則と呼びます。この不変の秩序の恩恵を受けて、私たちは産業、工場を建設し、薬を作り、月に行き、星や原子とつながるのですります。私たちはラジオ、テレビ、電子頭脳、インターネットを構築しています。 この順序が被造物に存在しなかった場合、全てがランダムだった場合、これらのことは何もできませんでした。全てが衝突し、壊れ、災いが発生します。 全てが無となってしまいます。

被造物が秩序を持ち、つながりを持ち、法則を持つことは、これらがひとりでに、偶然に存在するものではないこと、全てを知り、力を持ち、見られ、聞かれ、望まれることを実行される、ある存在によって創造されたことを示しています。その存在は望んだものを存在させ、また無とさせます。存在させること、無とさせることにおいては、他のものをその要因としています。要因なしで創造されていれば、被造物の間に秩序は存在しなかったでしょう。全てが混沌混とんとしていたでしょう。その存在も明らかにならなかったでしょう。さらには、科学や文明も生じなかったでしょう。

そのお方はこの秩序によってその存在を示されたように、しもべたちに慈悲をかけられ、存在することを示されます。預言者アーダムから始まり、全ての世紀のにおいて世界各地で、人々の間から最も良くい、最も優れた人として創造された人に、天使を通して知らせを送られ、ご自身とその美名を教えられ、人々が現世と来世で楽になる為、良く生きるために何をするべきか、何を避けるべきかを教えてきました。このような、選ばれた優れた人のことを「**預言者**」と言います。彼らが教えた命令や禁止事項を、「**宗教**」及び「**イスラームの規律**」と呼びます。人々は古いことを忘れるため、そしていつの時代にも存在する悪い人々が預言者たち（アッラーの平安がありますように）の書物や言葉を変えてきたため、古い教えは忘れられ、損なわれました。悪い人々は、でっちあげた教えを生み出したりもしていました。

全てを創造された崇高なアッラーは、人々に大変慈悲をかけられ、しもべたちに最後の預言者と新しい啓典を遣わされました。この教えは、最後最期の審判まで守られること、悪い人々がそれを攻撃し、変化させようとしたり、破壊したりしようとしても、ご自身がそれを損なわれないままの形であらゆる場所に広める、と言う吉報が与えられました。

アッラーに感謝を捧げます。私たちはまだ小さい時から、唯一である創造主を信じています。その名が「**アッラー**」であることを、最後の預言者の名が「**ムハンマド**」であること、その方が教える教えが「**イスラーム**」であることを学ぶという幸運と出会ったのです。私は、このイスラームの教えを正しく学ぶことを求めました。高校で、大学で学ぶ際、それを教える文献を探しました。しかしフリーメーソンや共産主義者に売られた科学者の模倣者、ワッハーブ派、宗派に属さない人々が、若者の周囲を覆っていました。教えを、現世の対価として売ったこのムルタドたちや、逸脱者たちは、非常に巧妙に動いており、正しい道を見つけ、識別することは不可能となっていました。アッラーに懇願する以外にできることもありませんでした。崇高なるアッラーは、スンナ派の学者たち（アッラーの慈悲が

ありますように）の本を読むことを、私たちに恵まれました。しかし急進的とされた「**科学的偏執狂**」は科学の知識と言いながら、また教えを世俗的な利益の道具とする「**宗教的偏執狂**」はクルアーンの翻訳であると言いながら、誤った思想を植え付けた誤った思想は、私たちの魂に影響を与えていました。アッラーに感謝を。、真の宗教者たちの警告により、私たちは正邪を識別し始めました。頭に植え付けられたものが知識ではなく、メッキがかけられた毒であること、それらの影響で心が黒くなっていることを理解できました。スンナ派の学者たちの本を読んでいなければ、親友と敵を区別できず、我欲や教えの敵の策略、嘘に騙されるところでした。教えを持たない人、道徳を持たない人を進歩主義者であると見せる、狡猾な敵の罠から救われることがなかったでしょう。純粋で清らかなムスリムである母、父は、、彼らから学んだイスラームの知識の為に侮蔑されていたでしょう。愛する預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は、イスラームの敵の罠に落ちないようにと、私たちに警告を与えられています。「あなた方の**教えを、真の宗教学者から学びなさい**」と命じられました。真の宗教学者を見つけることができなければ、彼らの本から学びます。ビドゥアを犯す人々、宗派に属さない人々、無知な宗教者の宗教書は、不信心者の書物と同様に非常に有害です。

　女性たち、少女たちが頭、髪、腕、足が見える状態で、男性も膝とへその間が見える状態で他者のそばに出ることはハラームです。つまりアッラーがこれらを禁じられています。アッラーの命令と禁止事項を教える四つの法学派は、男性の覆うべき場所、つまり見ること、他者に見せることが禁じられている部位を異なる形で伝えています。それぞれのムスリムが、自分の法学派が教える、覆うべき場所を覆うことがファルドです。それが覆われていない人を、他人が見ることもハラームです。「**幸福の化学**」では次のように語られています。「女性や少女が頭、髪、腕、足が見える状態で外に出ることがハラームであるように、薄く、飾り付けられ、ぴったりとした、そしてよい香りのする衣服をまとって外に出ることもハラームである。このような形で外に出ることを許し、認め、それを気に入っている母親、父親、夫、兄弟もその罪と罰を共有することになる。」つまり、地獄で共に焼やかれるのです。もし悔悟すれば許され、焼かれることはなくなります。アッラーは悔悟する人を愛されます。知性を持ち、思春期に達している少女、女性が、他人である男性に姿を見せないということは、ヒジュラ暦三年に命じられました。イギリス人のスパイや、彼らの罠に落ちた無知な者たちは、覆うことを命じるクルアーンの言葉が下される前には覆っていなかったことを主張し、覆うことは、後に法学派によってでっちあげられたものであると言います。それに騙

されてはいけません。

繰り返しになりますが、子どもが知性を持ち、思春期に達すると、すなわち正と邪を識別し、また結婚できる年になると、すぐに信仰の六つの条件を学び、それから「**イスラームの規律**」、つまりファルド、ハラール、ハラームであることを学ぶこと、それらに従うことがファルドとなります。女児が九歳、男子が十二歳になると、知性を持ち、思春期に到達したと見なされます。これらを母、父、親戚、友達に聞き、学ぶことがファルドとなります。ムスリムとなった不信心者も、すぐに宗教者や宗教担当者を訪ね、これらを学ぶこと、また彼らも教えること、もしくは真の宗教書を贈り、それを読んで学ぶよう勧めることがファルドとなります。すごいね、えらいね、と言いうだけで教えなければ、もしくは本を与えなければ、ファルドを実行しなかったことになります。ファルドを行わなかった者は、地獄で焼かれるのです。宗教者や本を探し、見つけるまでは、学ばないことは許されます。

私たちが学んだ正しいイスラーム知識を若者に伝える為に、そして皆が現世で快適さと安らぎ、来世で無限の恵みに至ることができるよう奉仕する為に、スンナ派の学者たちの書物から選んだ、尊い文章を出版することを、インシャラー、続けていきます。

願いの実現に至る為に、「**サラータン・トゥンジナー**」を唱えるべきです。「アッラーフンマ　サッリー　アラー　サイーディナー　ムハンマディン　ワ　アラー　アリー　サイーディナ　ムハンマディン　サラータン　トゥンジーナ　ビハーミン　ジャミーイル　ワル　アファトゥ　ワ　タクディ　ラナー　ビハー　ジャミーアル　ハージャートゥ　ワ　トゥタッヒルーナ　ビハー　ミン　ジャミーサイヤートゥ　ワ　タルファウナ　ビハー　アラッダラジャートゥ　ワ　トゥベッリグナービハー　アクサルガヤートゥ　ミン　ジャミーイル　ハイラーティ　フィル　ハヤーティ　ワ　バダル　ママートゥ」

あらゆる種類の苦しみ、危険から守られること、シャイターンと敵の害悪、攻撃から救われる為に、「**アスタグフルッラー**」と唱えることは非常に効果的であることがハディースで記されています。

**私の寿命はやってきてはすぐに去った、風が吹いて去っていくように。**

**わたしには、瞬きの間のように感じられる。**

**この言葉に主はこの言葉の証人であり、命は肉体の客である。**

**いつか、そこから出て去っていく。鳥かごから鳥が飛び去るように。**

Bu Kitâb, Japonca Cennet Yolu İlmihâli kitâbıdır.